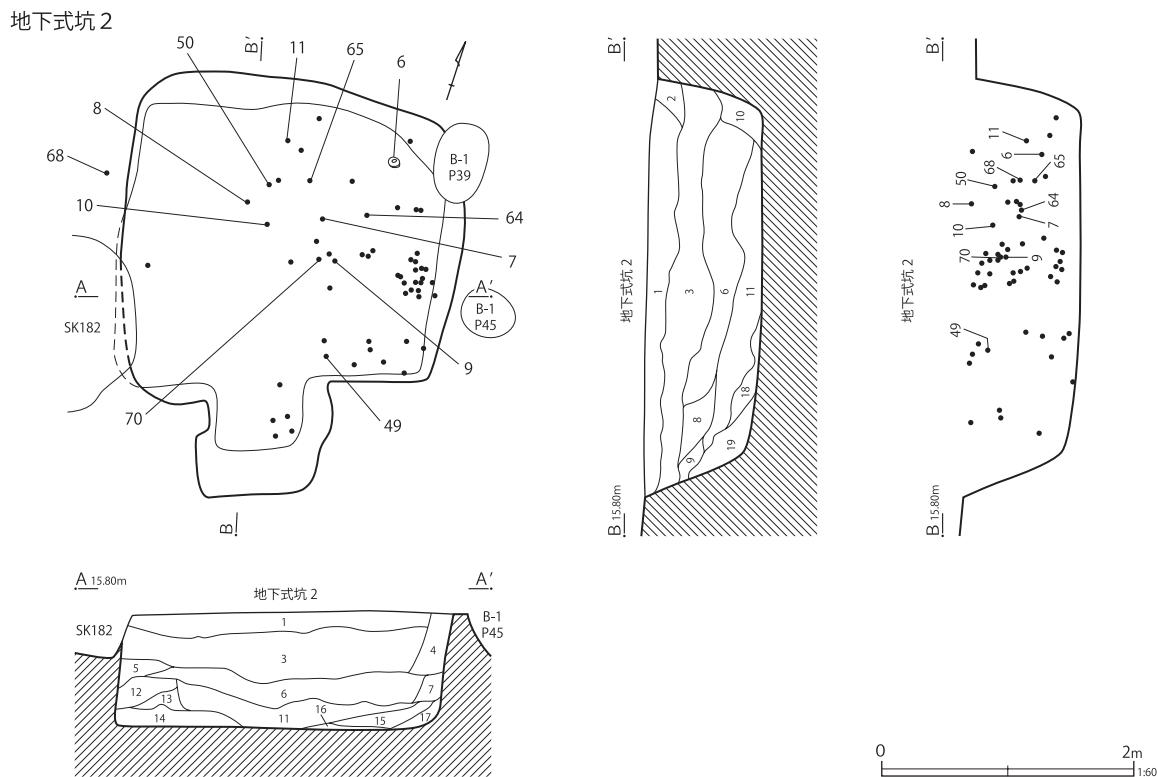


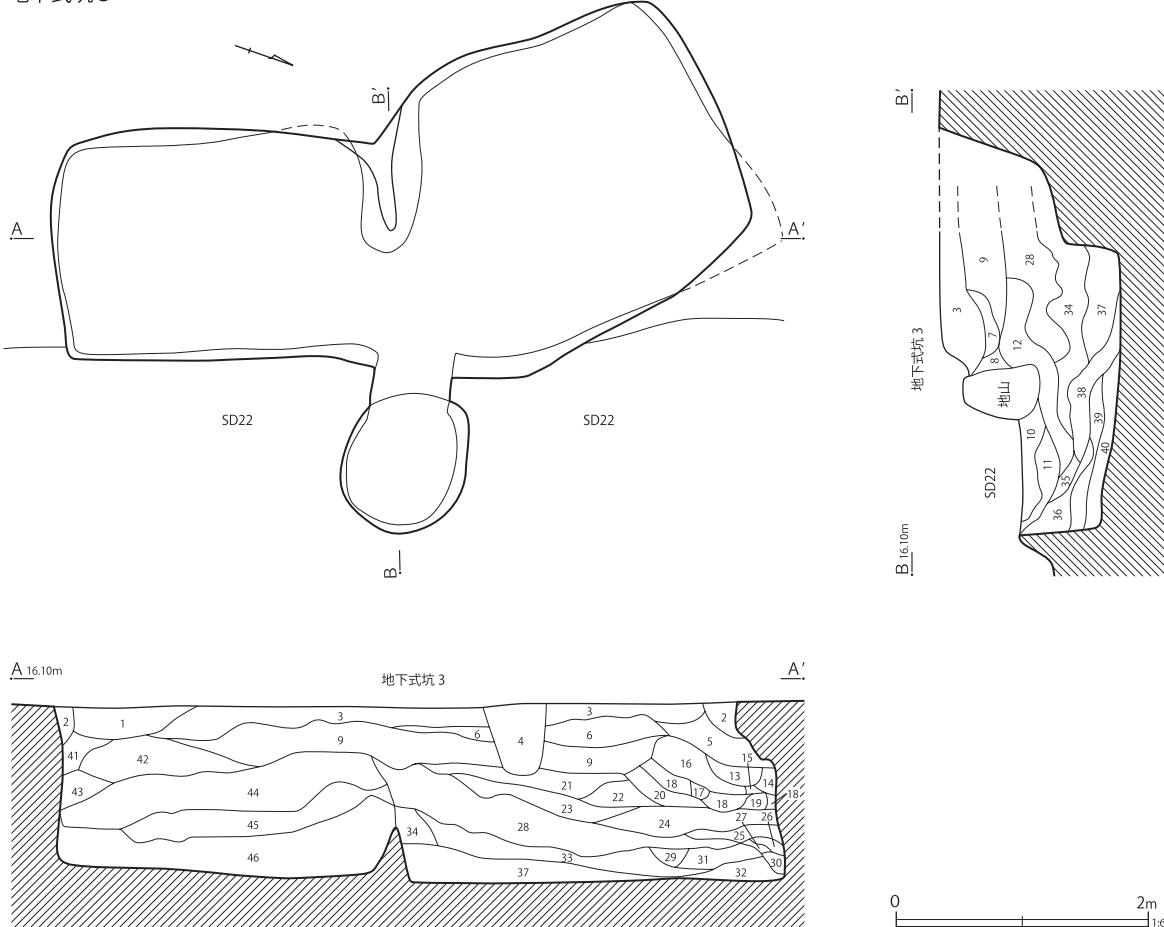
地下式坑 1	
1	にぶい黄褐色土 ローム粒子（～2 mm）微量 しまり・粘性弱い 埋め戻し土
2	暗褐色土 ローム粒子（～3 mm）微量 しまり・粘性弱い 埋め戻し土
3	暗褐色土 ロームブロック（～10 mm）微量 しまり強い 粘性弱い 埋め戻し土
4	暗褐色土 ローム粒子（～2 mm）微量 しまり強い 粘性弱い 埋め戻し土
5	暗褐色土 ローム粒子（～2 mm）微量 しまり・粘性弱い 埋め戻し土
6	黒褐色土 ローム粒子（～2 mm）微量 しまり・粘性強い（同色シルト質土をベースに細隙微量混じる）
7	黒褐色土 ローム土微量 しまり・粘性強い 堆積土 シルト質

地下式坑 2	
1	暗褐色土 ローム粒子（1～5 mm）・焼土粒子（1～3 mm）微量 しまり・粘性弱い
2	にぶい黄褐色土 ローム粒子（3～5 mm）多量 ロームブロック（20～30 mm）少量 崩落土 しまり・粘性弱い
3	暗褐色土 ローム粒子（1～3 mm）微量 ロームブロック（10～20 mm）しまり・粘性弱い
4	にぶい黄褐色土 ローム粒子（3～5 mm）・ロームブロック（5～10 mm）多量 崩落土 しまり・粘性弱い
5	暗褐色土 ローム粒子（3 mm）少量 しまり・粘性弱い
6	黒褐色土 ローム粒子（1～3 mm）・ロームブロック（20 mm）少量 しまり・粘性弱い
7	にぶい黄褐色土 ローム粒子（1～5 mm）・ロームブロック（10～20 mm）多量 崩落土 しまり・粘性弱い
8	暗褐色土 ローム粒子（3～5 mm）・ロームブロック（20 mm）少量 しまり・粘性弱い
9	にぶい黄褐色土 ロームブロック・ローム粒子多量 崩落土 しまり・粘性弱い
10	暗褐色土 ローム粒子（3～5 mm）・ロームブロック（30 mm）多量 崩落土 しまり・粘性弱い
11	暗褐色土 ローム粒子（1～3 mm）微量 ロームブロック（50 mm）少量 しまり・粘性弱い
12	暗褐色土 ローム粒子（1～3 mm）微量 崩落+埋土 しまり・粘性弱い
13	暗褐色土 ローム粒子（1～3 mm）微量 ロームブロック（30 mm前後）少量 しまり・粘性弱い
14	にぶい黄褐色土 ローム粒子（3～5 mm）・ロームブロック（10～20 mm）微量 しまり・粘性弱い
15	にぶい黄褐色土 ローム土主体 ロームブロック多量 崩落土 しまり・粘性弱い
16	黄褐色土 炭化物粒子（1 mm）微量 ローム土主体 しまり・粘性弱い
17	にぶい黄褐色土 ロームブロック（30～50 mm）微量 ローム粒子（1～5 mm）少量 崩落土 しまり・粘性弱い
18	暗褐色土 ロームブロック（50 mm）微量 ローム粒子（3～5 mm）少量 しまり・粘性弱い
19	黒褐色土 ローム粒子（1～5 mm）・ロームブロック微量 崩落土 しまり・粘性弱い



第 71 図 地下式坑（1）

地下式坑 3

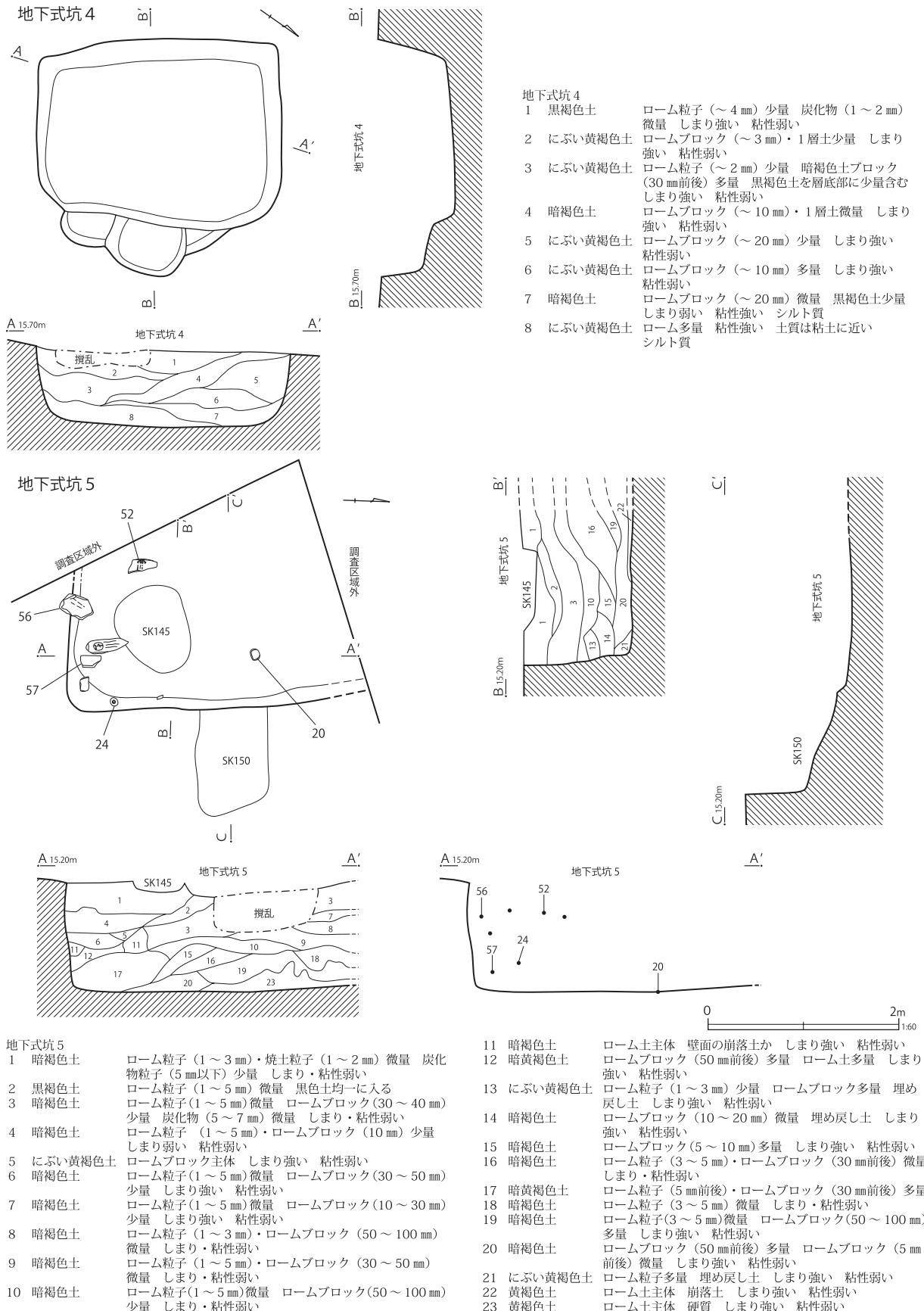


地下式坑 3

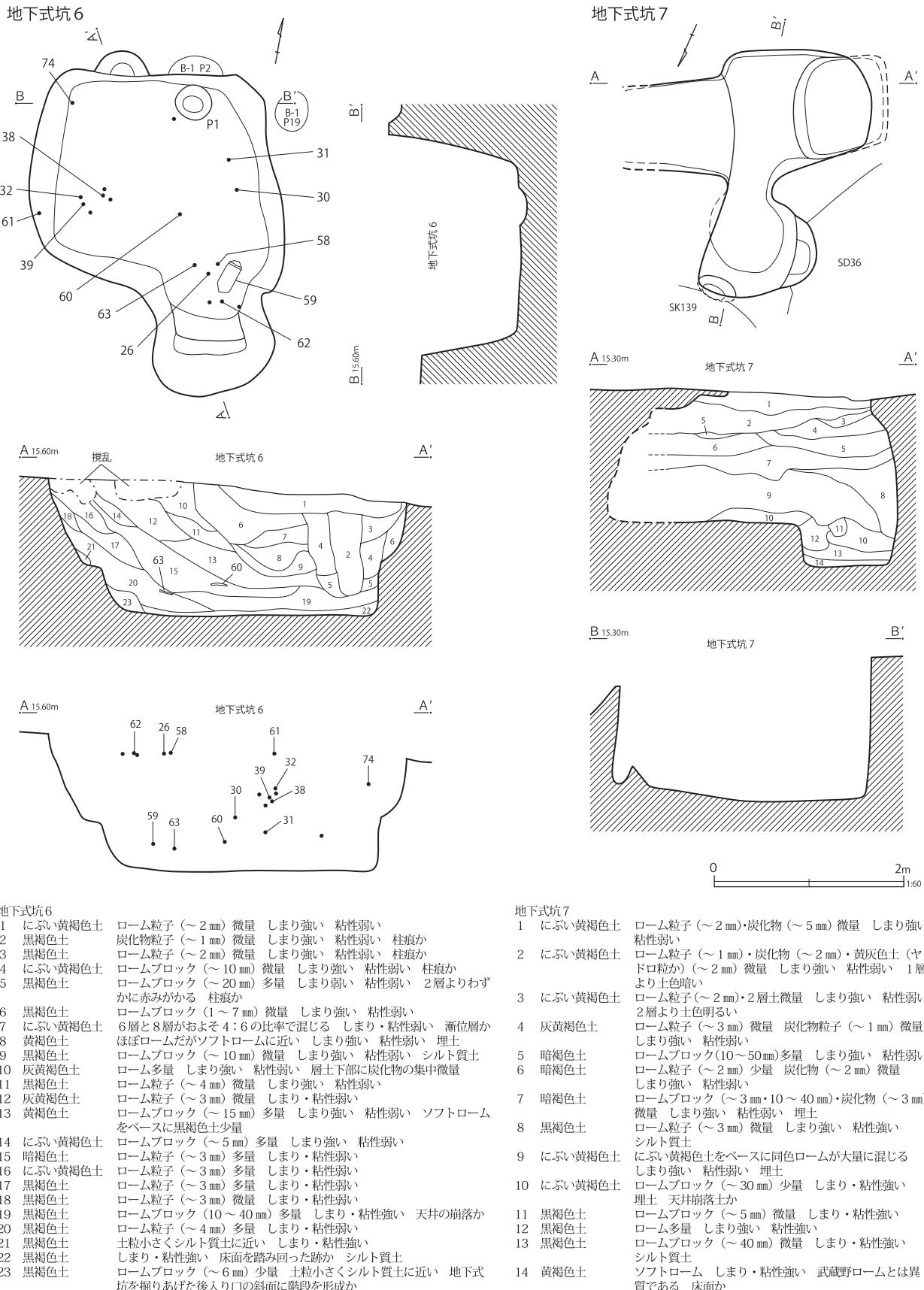
1	暗褐色土	しまり・粘性弱い
2	黄褐色土	ローム崩落土 しまり強い 粘性弱い
3	暗黄褐色土	ローム粒子（～3 mm）少量 しまり強い 粘性弱い
4	暗褐色土	ローム粒子（1～3 mm）多量
		ロームブロック（10～20 mm）少量 しまり・粘性弱い
5	暗褐色土	ローム粒子（1～5 mm）多量
		ロームブロック（30 mm前後）少量 しまり・粘性弱い
6	暗褐色土	ローム粒子（1～5 mm）多量
		ロームブロック（50 mm前後）少量 しまり・粘性弱い
7	暗黄褐色土	ローム粒子（～5 mm）少量 しまり強い 粘性弱い 3層よりわずかに土色暗い
8	暗黄褐色土	ロームブロック（～15 mm）微量 しまり・粘性弱い
9	暗黄褐色土	ローム粒子（～3 mm）少量 しまり・粘性弱い
10	黒褐色土	ローム粒子（～2 mm）少量 しまり・粘性弱い
11	にふい黄褐色土	ロームブロック（～20 mm）微量 しまりやや弱い 粘性弱い
12	暗黄褐色土	ローム粒子（～2 mm）微量 ロームブロック（10～120 mm）微量 8層・9層より土色暗い しまり・粘性弱い
13	にふい黄褐色土	ローム粒子（1～3 mm）まじりの暗黄褐色土 ロームブロック（30～50 mm）が底面に崩落土としてたまる 上層にローム粒子（1～3 mm）混じりの暗黄褐色土 しまり・粘性弱い
14	暗褐色土	ローム粒子（3 mm）少量 しまり・粘性弱い
15	暗褐色土	ローム粒子（3～5 mm）少量 しまり・粘性弱い
16	黒褐色土	ローム粒子（3～5 mm）微量 ロームブロック（50～150 mm）少量 根穴が入り込む しまり・粘性弱い
17	褐色土	ロームブロック 崩落土 しまり強い 粘性弱い
18	にふい黄褐色土	ローム粒子（3～5 mm）微量 黑色土少量 しまり・粘性弱い
19	黄褐色土	ロームブロック しまり強い 粘性弱い
20	黒褐色土	ローム粒子（3～5 mm）少量 しまり・粘性弱い
21	暗褐色土	ローム粒子（3 mm）微量 しまり・粘性弱い
22	黒褐色土	ローム粒子（3～5 mm）微量 しまり・粘性弱い
23	暗褐色土	ローム粒子（1～5 mm）微量 黑色土少量 しまり・粘性弱い
24	暗褐色土	ローム粒子（1～5 mm）微量 ロームブロック（30 mm）少量 しまり・粘性弱い

25	暗褐色土	ロームブロック (50 ~ 100 mm) 少量 ローム粒子 (5 mm) 微量 しまり・粘性弱い
26	黄褐色土	ローム粒子 (1 ~ 5 mm) ロームブロック (30 ~ 50 mm) 多量 崩落土 しまり・粘性弱い
27	にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1 ~ 5 mm) 微量 しまり・粘性弱い
28	黒褐色土	ローム粒子 (~ 2 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
29	黄褐色土	ロームブロック 多量 崩落土 しまり・粘性弱い
30	暗褐色土	ローム粒子 (1 ~ 3 mm) 微量 しまり・粘性弱い
31	にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1 ~ 5 mm) 少量 ロームブロック (30 ~ 50 mm) 微量 崩落土 しまり・粘性弱い
32	黄褐色土	ロームブロック 崩落土 暗褐色ローム粒子 (1 ~ 5 mm) 微量
33	黄褐色土	ロームブロック (50 ~ 100 mm) 微量 しまり・粘性弱い
34	にぶい黄褐色土	ロームブロック (30 mm ~ 130 mm) 多量 しまり・粘性弱い
35	にぶい黄褐色土	ローム粒子 (~ 3 mm) 少量 炭化物粒子 (~ 1 mm) 微量
36	黒褐色土	ローム粒子 (~ 2 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
37	黄褐色土	ロームブロックを主とする層 にぶい黄褐色土 (粘性・しまり弱い) + ローム粒子 (~ 2 mm) 微量
38	暗褐色土	ローム粒子 (~ 5 mm) • ロームブロック (~ 15 mm) 少量 しまり・粘性強い
39	黒褐色土	ロームブロック (~ 10 mm) 微量 土粒小さくシルト質土に近い しまり・粘性強い
40	にぶい黄褐色土	にぶい黄褐色土の堆積土にロームを 1 ~ 3 cm の厚さで敷いている シルト質土
41	黒褐色土	ローム粒子 (1 ~ 5 mm) 少量 ロームブロック (30 ~ 50 mm) 微量 黒色土 しまり・粘性弱い
42	暗褐色土	ローム粒子 (1 ~ 5 mm) 少量 しまり・粘性弱い
43	黒褐色土	ローム粒子 (1 ~ 3 mm) ロームブロック (10 ~ 20 mm) 少量 しまり・粘性弱い
44	暗褐色土	ローム粒子 (1 ~ 3 mm) 微量 ロームブロック (10 ~ 20 mm) 少量 しまり・粘性弱い
45	にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1 ~ 3 mm) 微量 しまり・粘性弱い
46	にぶい黄褐色土	ローム粒子 (3 ~ 5 mm) 多量 ロームブロック (10 ~ 20 mm) 少量 しまり・粘性弱い

第72図 地下式坑 (2)

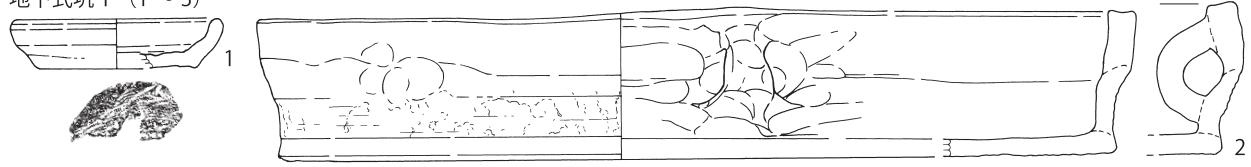


第 73 図 地下式坑 (3)



第 74 図 地下式坑 (4)

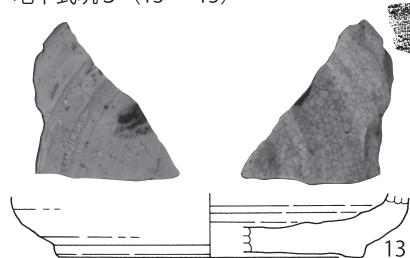
地下式坑 1 (1 ~ 3)



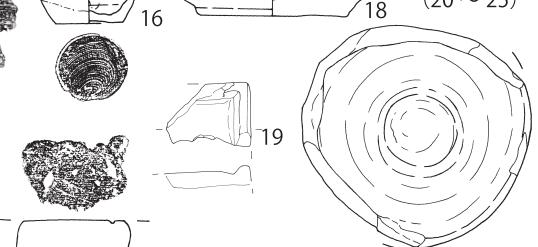
地下式坑 2 (4 ~ 12)



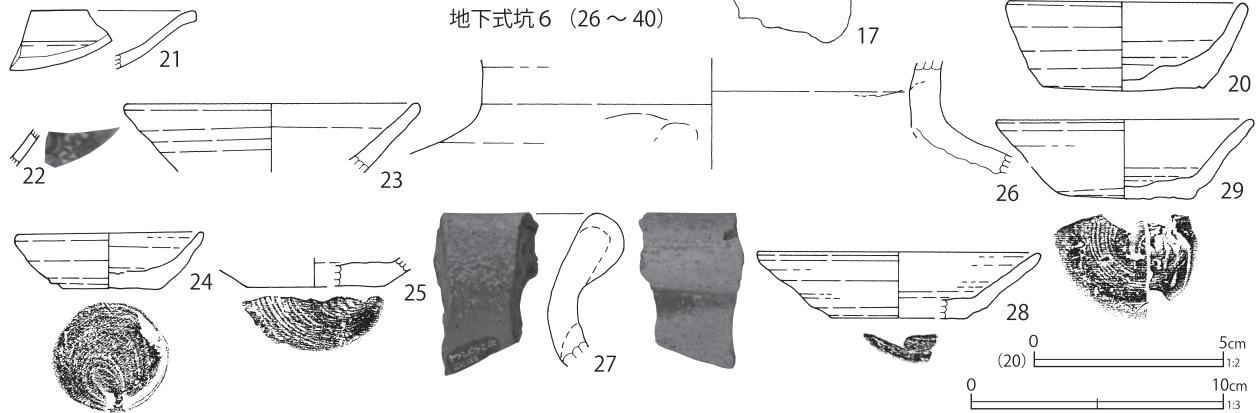
地下式坑 3 (13 ~ 15)



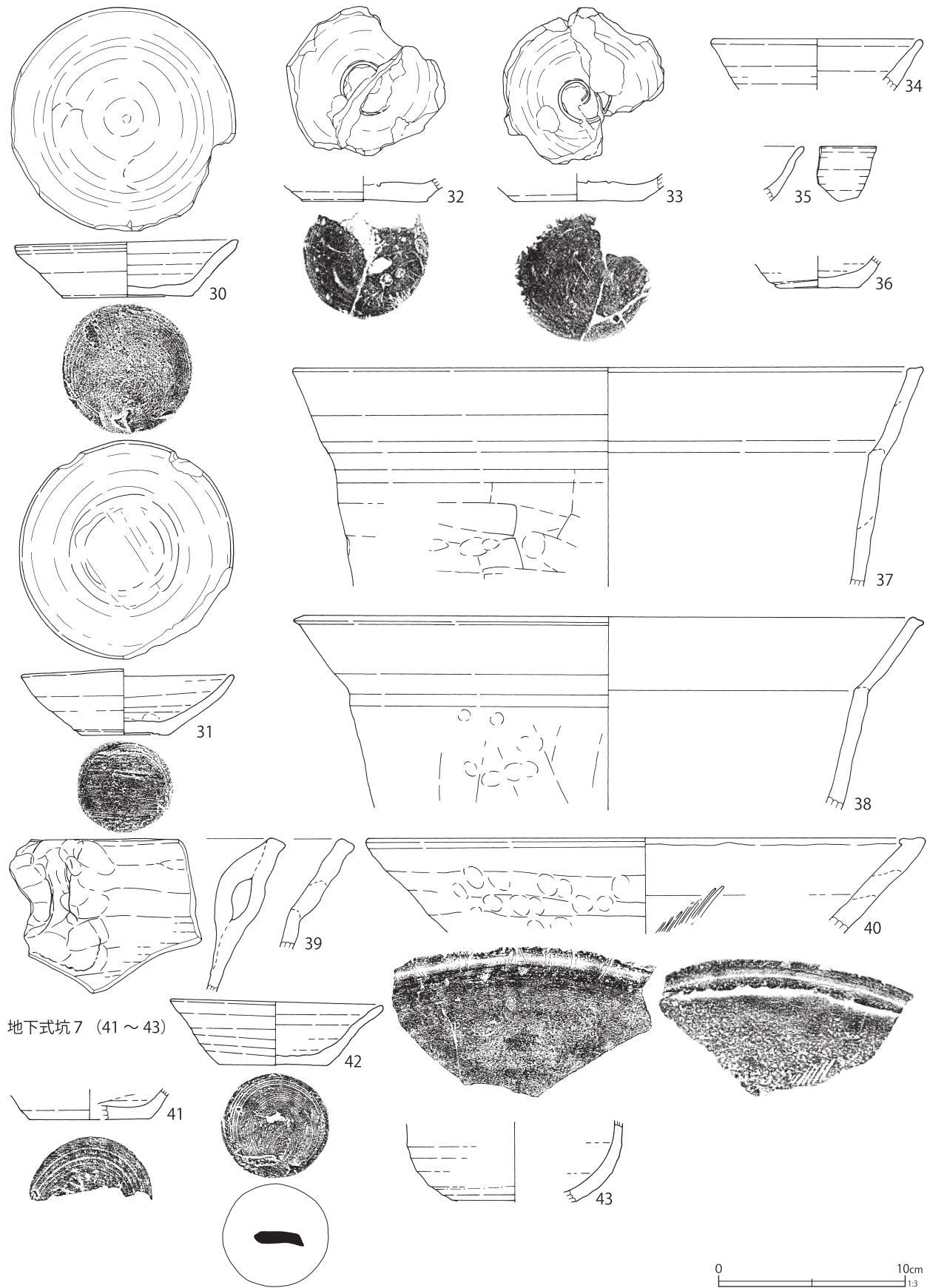
地下式坑 5 (20 ~ 25)



地下式坑 6 (26 ~ 40)

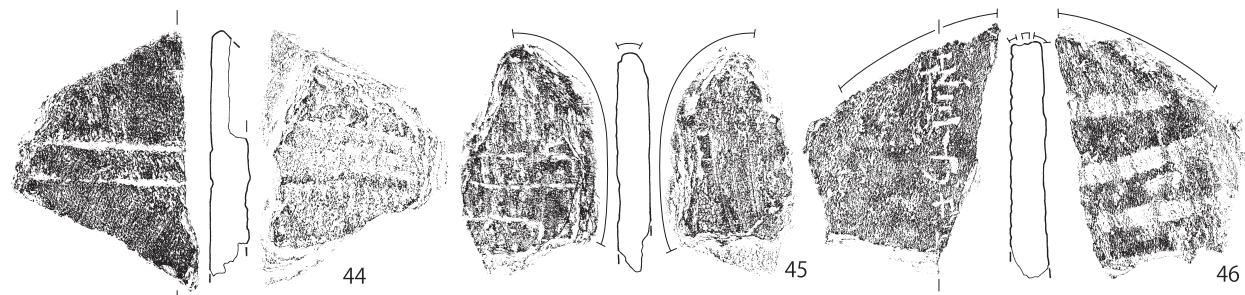


第 75 図 地下式坑出土遺物 (1)

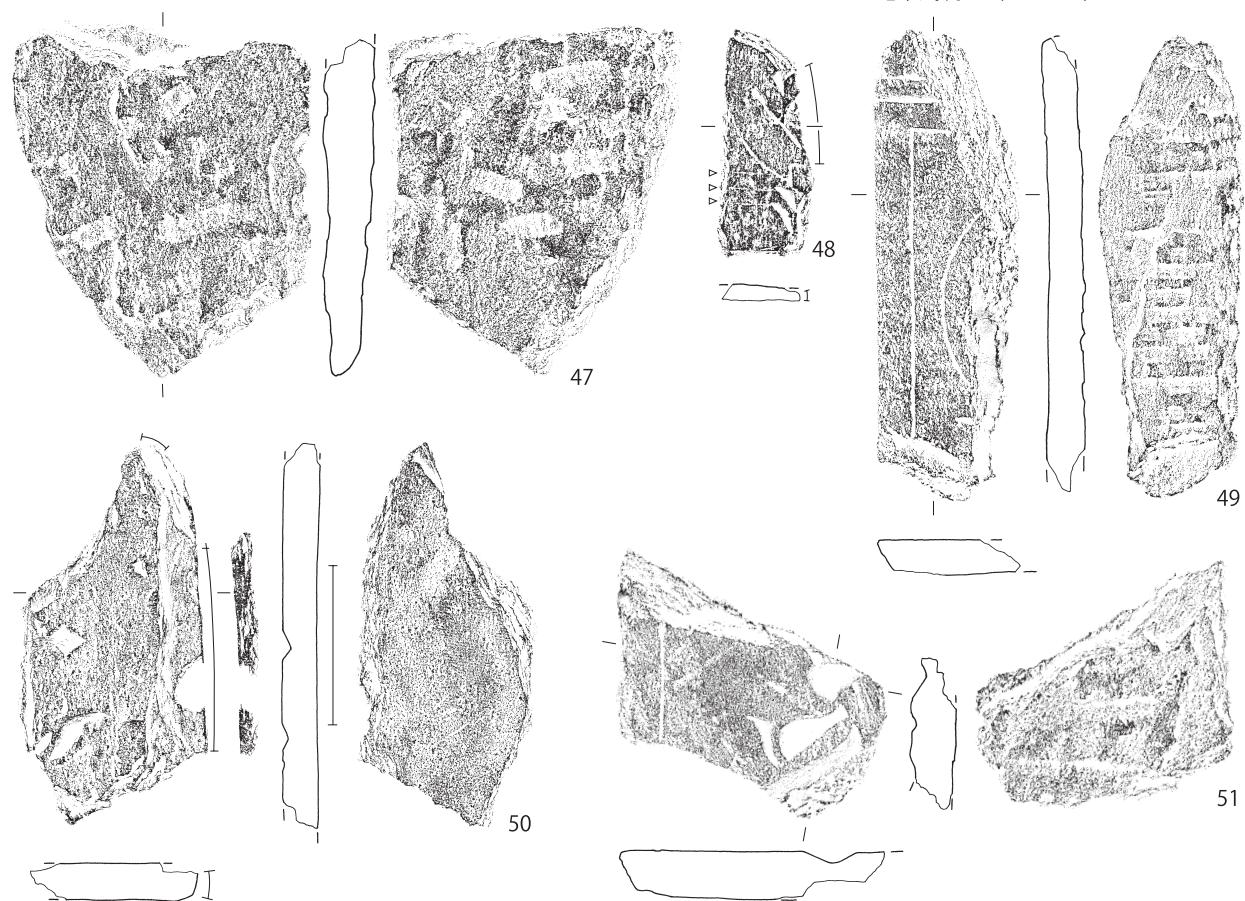


第 76 図 地下式坑出土遺物 (2)

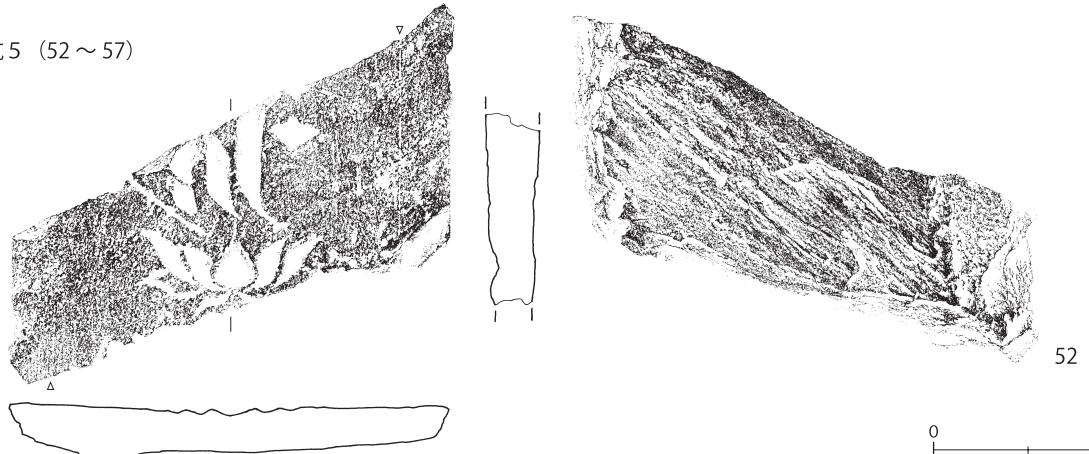
地下式坑 1 (44 ~ 48)



地下式坑 2 (49 ~ 51)

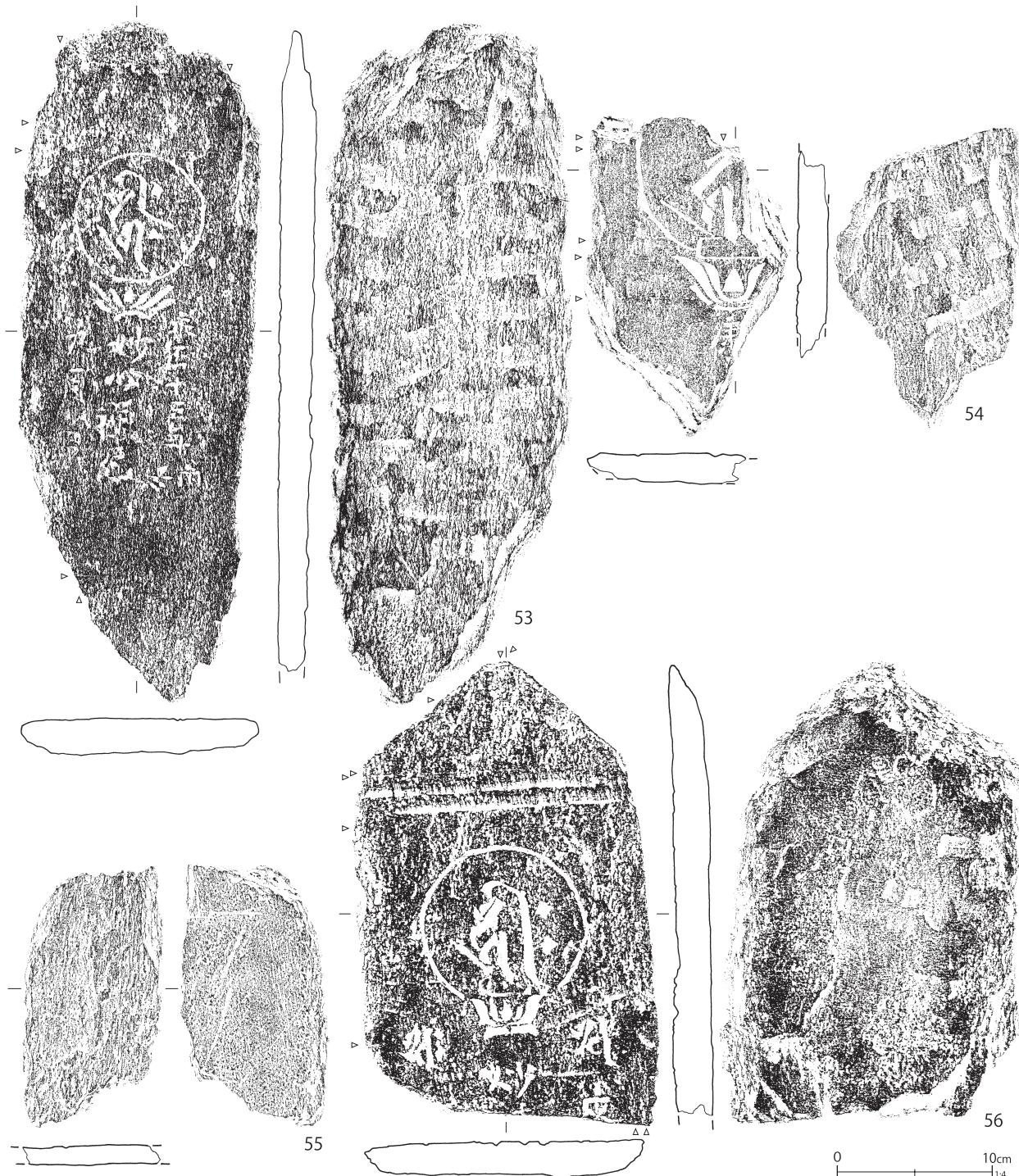


地下式坑 5 (52 ~ 57)



0 10cm 1:4

第 77 図 地下式坑出土遺物 (3)



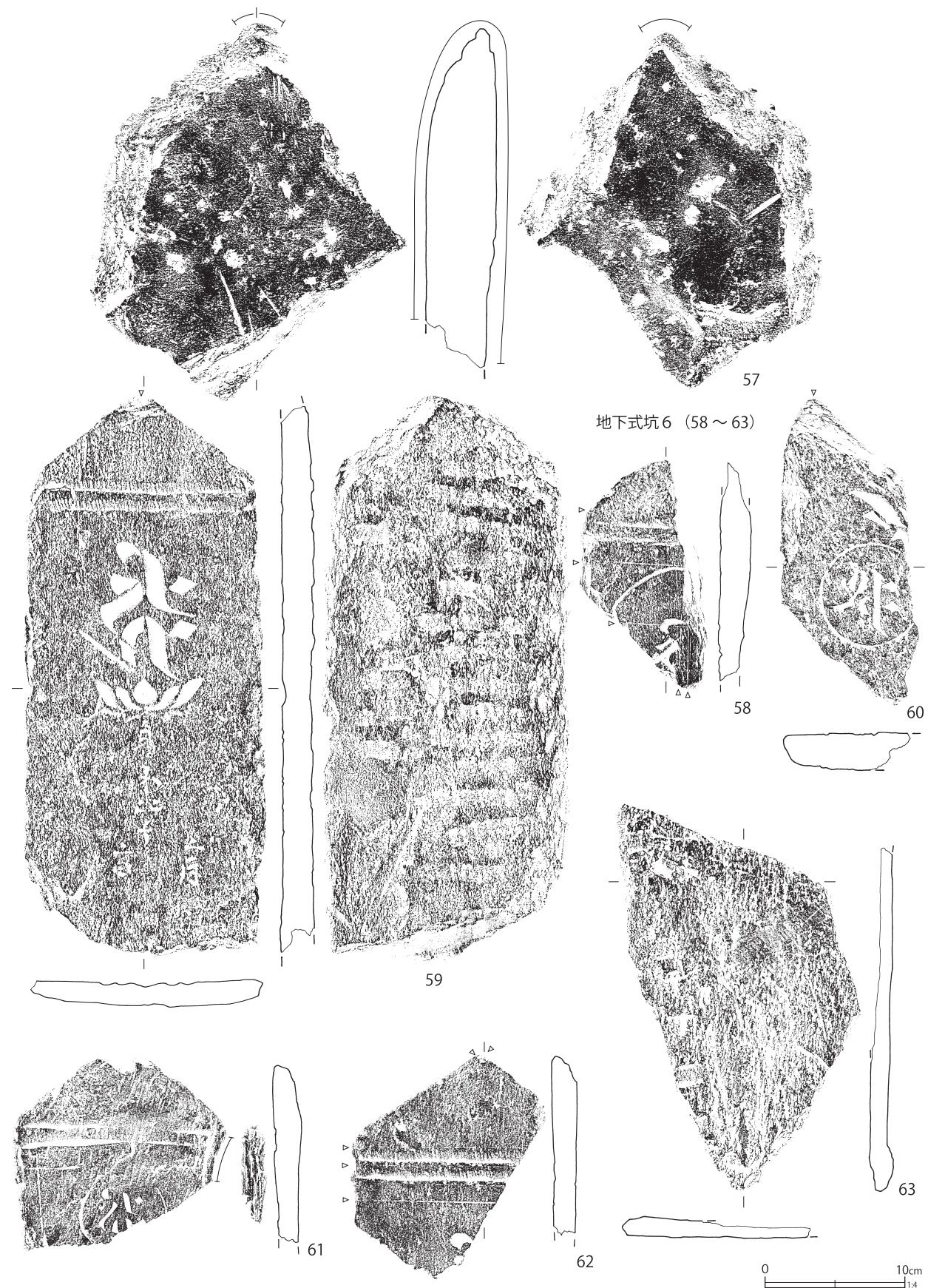
第78図 地下式坑出土遺物（4）

第6号地下式坑（第74図）

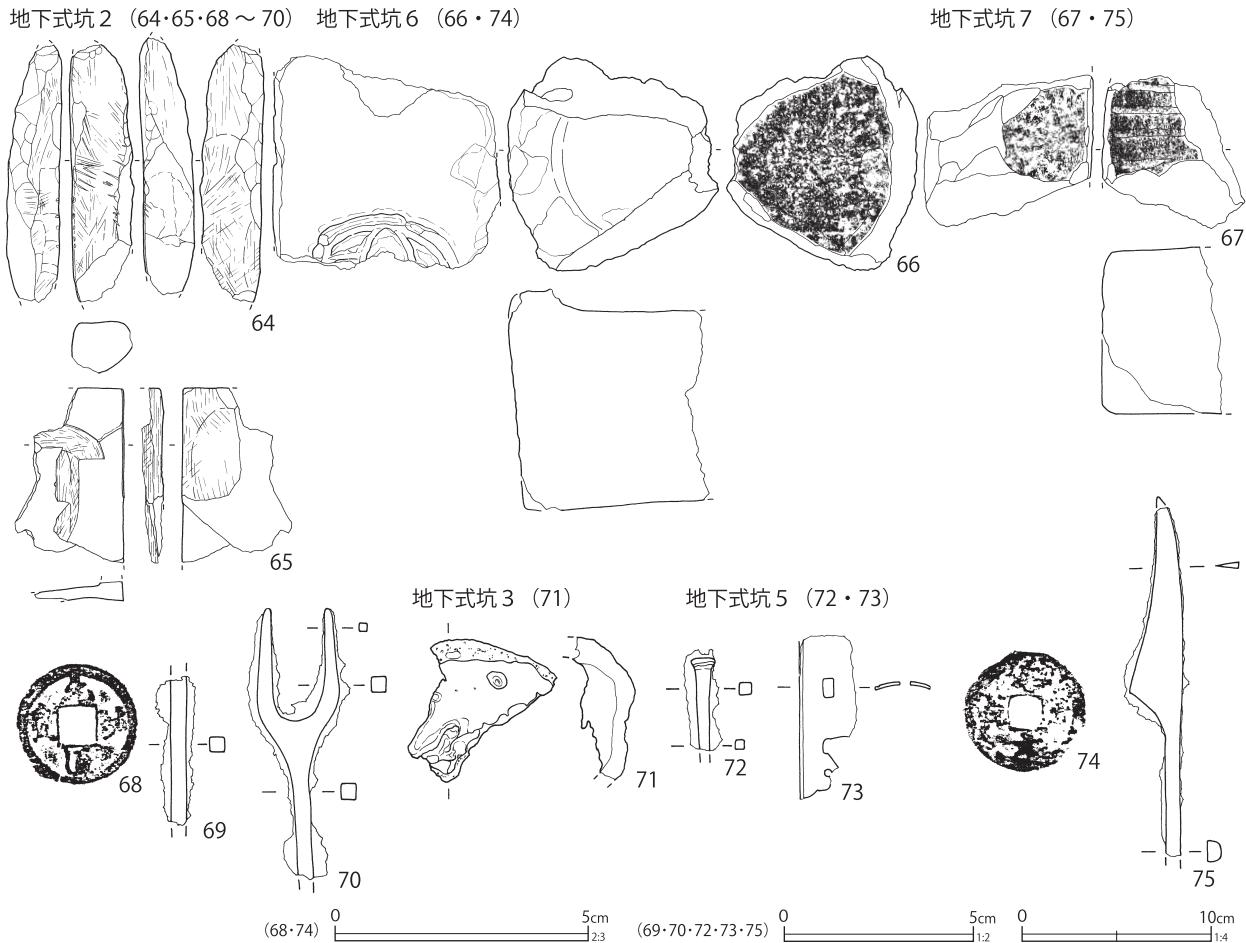
B-1グリッドに位置する。主室部は方形に掘り込まれ、南壁東寄りに竪坑が取り付く。主室部は主軸長2.25m、幅2.65m、深さ1.40m、竪坑は長さ1.05m、幅1.30mで階段部分は深さ0.90mを測る。主軸方位はN-16°-Wを指す。竪坑壁

面には段差が設けられ、緩やかに立ち上がる。覆土中から遺物が多く出土し、埋没途中に混入したものと考えられる。

第75図26～第76図40は出土した土器・陶磁器類である。27は備前産の甕と考えられるもので、胎土は炻器質である。土器類は個体差が



第79図 地下式坑出土遺物 (5)



第 80 図 地下式坑出土遺物 (6)

大きいが、15世紀後半頃と考えられる。28～36はかわらけである。30の内底面には、弱い指頭ナデが同心円状に施される。31の内底面には一方向からのナデが施される。32・33の見込みには「e」字状の沈線が伴う。34がこのタイプの口縁部破片と考えられる。37～39は瓦質土器鍋で、口縁部は比較的長く立ち上がる。37には微量の白色針状物質が含まれる。

第79図58～63は板碑である。このうち61は碑面調整や種子・月輪形態から15世紀後半～16世紀前半頃に降るものである。第80図66は茶臼の破片で、挽手孔周囲には文様が浮き彫りされている。

第7号地下式坑 (第74図)

A-2グリッドに位置する。方形の主室部の北

壁に橢円形の堅坑が設けられる。主軸長は2.57m、幅は3m以上と推定され、深さは1.40mを測り、主軸方位はN-28°-Wを指す。主室部の西側に深さ0.45m程の方形の掘り込みがある。堅坑は長径1.18m、短径1.10m、深さ1.10～1.35mを測り、底面は主室部から堅坑壁面に向かって少し高くなる。主室部の東側は天井部が残存し、主室内部は埋没しきらずに空洞部が残されていた。崩落の危険があり、完掘できなかった。幅は0.95mと推定され、奥行きは1m以上と考えられる。土層は第10層が天井の崩落土と考えられる。

第76図41～43は出土した土器・陶器類である。42は口縁部が外反するかわらけで、底部に「一」の墨書が認められる。43は鉄釉を施した瀬戸美濃系の丸碗で、17世紀代のものである。

第25表 地下式坑出土遺物観察表 (第75~80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構名	備考	図版
1	かわらけ	小皿	(8.0)	[1.9]	(6.2)	CHI	20	普通	灰白	地下式坑1	底部 板状圧痕 胎土砂質 口縁部内外面煤付着 内面下位ロクロナデ	37-2
2	瓦質土器	焙烙	(34.4)	6.0	(33.0)	CHI	15	普通	燈	地下式坑1	底部シワ状痕 外面煤付着 内耳1遺存	32-5
3	磁器(白磁)	四耳壺	—	[7.0]	(7.5)	I	10	良好	灰白	地下式坑1	中国産 内外面施釉 13~14C	32-6
4	陶器	天目茶碗	(9.8)	[3.6]	—	E	20	普通	褐灰	地下式坑2	B-1 2層 中国産 内外面 鉄釉	32-7
5	かわらけ	小皿	(10.3)	2.7	(6.6)	EHI	25	良好	燈	地下式坑2	底部糸切痕(左) 胎土粉質	37-2
6	かわらけ	小皿	11.1(最大11.4)	3.6	5.2	CEHI	100	良好	燈	地下式坑2	B-1 No.55 底部糸切痕(左) 板状圧痕 内外面煤付着	32-8
7	かわらけ	小皿	—	[2.3]	5.4	H	25	良好	燈	地下式坑2	No.11 底部糸切痕(右) 胎土粉質 内底面に傷状のケズリ痕	37-2
8	かわらけ	小皿	11.0	3.2	7.8	HI	85	良好	黃燈	地下式坑2	No.22 底部糸切痕(左)・板状圧痕 胎土粉質	32-9
9	かわらけ	小皿	—	[1.8]	5.5	EJ	20	良好	燈	地下式坑2	No.14 底部糸切痕 胎土粉質	37-2
10	土師質土器	鉢類	—	[6.8]	—	BEI	5	良好	にぶい燈	地下式坑2	No.17 外面煤付着	37-1
11	瓦質土器	片口鉢	—	[5.0]	(15.8)	DEH	5	良好	灰白	地下式坑2	No.57 底部静止糸切 煤付着	37-1
12	瓦質土器	擂鉢	—	[5.1]	13.0	I	10	良好	にぶい黃燈	地下式坑2	3層 内面摺目(一単位10本) 外面煤付着	37-1
13	陶器	水指か	—	[2.5]	(12.1)	I	5	良好	灰黃	地下式坑3	瀬戸美濃系 内外面灰釉・鉄釉(総釉) SE1-3と同一個体か	34-2
14	瓦質土器	片口鉢	—	[2.8]	—	HIK	5	良好	褐灰	地下式坑3	37-1	
15	土師質土器	鉢類か	—	[2.3]	(8.4)	EGI	10	普通	にぶい燈	地下式坑3	C-4 体部下位・底部ケズリ 整形 胎土粉質	37-2
16	陶器	茶入	—	[1.7]	2.7	I	20	良好	褐灰	地下式坑4	No.1 底部糸切痕(左) 外面 鉄釉	32-11
17	土製品	土壁材か	長さ [4.7] 幅 [3.8] 厚さ [3.9]					地下式坑4				
18	かわらけ	小皿	—	[1.6]	5.7	H	20	普通	褐灰	地下式坑4	No.2 胎土粉質 全体摩滅	37-2
20	かわらけ	小皿	(9.2)	3.6	6.5	CHI	70	良好	灰褐	地下式坑5	No.14 底部糸切痕(右) 胎土粉質 内外面煤頭著に付着	32-10
21	磁器(白磁)	皿	—	[2.2]	—	—	10	良好	淡黃	地下式坑5	A-0 中国邵武窯系 内外面 施釉	34-2
22	磁器(青花)	碗	—	[1.4]	—	—	5	良好	白	地下式坑5	A-0 中国景德鎮窯系 内外面施釉 外面染付 15C後半~16C	34-2
23	かわらけ	小皿	(11.4)	[2.7]	—	HIJ	10	普通	燈	地下式坑5	A-0 胎土粉質	37-2
24	かわらけ	小皿	(7.3)	2.2	4.3	HI	60	良好	にぶい燈	地下式坑5	A-0 No.8 底部糸切痕(右)	32-12
25	かわらけ	小皿	—	[1.1]	(5.3)	HIJ	5	普通	燈	地下式坑5	A-0 7層 底部糸切痕(右) 胎土粉質	37-2
26	陶器	甕	—	[4.5]	—	DEG	5	普通	灰白	地下式坑6	No.13 濡美か 備前系 外面~口縁部自然降灰	36-1
27	陶器	甕	—	[5.8]	—	DE	5	良好	褐灰	地下式坑6	底部糸切痕 胎土粉質	37-2
28	かわらけ	小皿	(11.0)	2.6	(5.1)	H	15	良好	にぶい黃燈	地下式坑6	底部糸切痕(右) 胎土粉質	37-2
29	かわらけ	小皿	(10.1)	3.1	5.0	HI	40	普通	にぶい燈	地下式坑6	No.16 底部糸切痕(左) 胎土砂質	37-2
30	かわらけ	小皿	11.9	3.0	7.0	BEGI	90	良好	燈	地下式坑6	No.15 底部糸切痕(左か) 板状圧痕 煤付着	32-13
31	かわらけ	小皿	11.3	3.6	4.8	CHI	90	良好	燈	地下式坑6	No.2 底部糸切痕(右) 内面 溝巻状沈線 胎土粉質	32-14
32	かわらけ	小皿	—	[1.3]	6.6	GHI	30	普通	燈	地下式坑6	底部糸切り痕(右) 内面溝巻状沈線 胎土粉質	32-15
33	かわらけ	小皿	—	[1.5]	6.8	CI	30	普通	燈	地下式坑6	胎土粉質	32-16
34	かわらけ	小皿	(11.1)	[2.8]	—	HI	10	普通	燈	地下式坑6	胎土粉質	37-2
35	かわらけ	小皿	—	[2.9]	—	EHIJ	5	普通	燈	地下式坑6	胎土粉質	37-2
36	かわらけ	小皿	—	[1.7]	4.3	I	40	良好	灰褐	地下式坑6	底部糸切痕(右) 全面炭化	37-2
37	瓦質土器	鍋	(33.5)	[11.8]	—	CDGHIJ	15	良好	にぶい黃燈	地下式坑6	37-1	
38	瓦質土器	鍋	(32.5)	[10.2]	—	CI	10	普通	にぶい褐	地下式坑6	No.5 内外面薰す 外面煤付着	37-1
39	瓦質土器	鍋	—	[8.1]	—	CI	5	普通	にぶい黃褐	地下式坑6	No.3 内外面薰す 内耳1遺存 外面煤付着	37-1
40	瓦質土器	擂鉢	(29.7)	[5.1]	—	CEH	15	普通	褐灰	地下式坑6	内面摺目(一単位7本) 外面煤付着	37-1
41	かわらけ	小皿	—	[1.7]	(6.5)	HIK	15	普通	にぶい燈	地下式坑7	底部糸切痕	37-2
42	かわらけ	小皿	(11.2)	3.5	5.6	EH	70	良好	にぶい黃燈	地下式坑7	底部糸切痕(左) 胎土粉質	33-1
43	陶器	碗	—	[4.3]	—	D	10	良好	灰白	地下式坑7	底部「一」墨書 瀬戸美濃系 内外面鉄釉(鉄釉丸碗)	35-3

番号	種別	器種	高さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版
44	石製品	板碑	[14.0]	[10.0]	2.05	324.0	緑泥片岩	地下式坑 1	二条線・種子 裏面ノミ痕(幅1.0cm) 石材に黄鉄鉱含む 裏面一部剥離	
45	石製品	板碑	[12.7]	[6.7]	1.25	227.1	緑泥片岩	地下式坑 1	二条線(点刻状の沈線)・梓線 側縁一部ケズリ 頭部側縁は転用(砥具)	
46	石製品	板碑	[14.7]	[10.5]	1.95	419.7	緑泥片岩	地下式坑 1	銘文「口徳三年十月」表裏面被熱 破損面二次利用(砥具) 裏面ノミ痕(幅0.9cm)	
47	石製品	板碑	[20.6]	[15.4]	2.65	1151.2	緑泥片岩	地下式坑 1	基部破片 両面ノミ痕(幅1.0cm) 側縁上部粗いケズリ 下部はミガキか	
48	石製品	板碑	[13.9]	[4.9]	0.8	79.7	緑泥片岩	地下式坑 1	種子(キリーグ)・月輪・蓮座 裏面剥離 全面被熱 ケガキ線 破損面転用(砥具)	
49	石製品	板碑	[24.6]	[7.6]	1.9	577.5	緑泥片岩	地下式坑 2	No.28 二条線・梓線・月輪 裏面ノミ痕(幅0.75cm) わずかに被熱 側面粗いミガキ、敲打、面取り	
50	石製品	板碑	[20.4]	[9.7]	1.9	580.4	緑泥片岩	地下式坑 2	No.18 種子(アク点)・連座 石材に長石含む 被熱 側面転用(砥具)	
51	石製品	板碑	[13.2]	[4.4]	2.5	620.4	緑泥片岩	地下式坑 2	種子(キリーグ)・梓線 裏面ノミ痕(幅1.1cm) 側縁ケズリ 裏面一部被熱(赤化)	
52	石製品	板碑	[23.0]	[23.1]	2.7	1400.6	緑泥片岩	地下式坑 5	No.5 種子・月輪・蓮座・ケガキ線 石材に黄鉄鉱含む 全面被熱 側縁敲打	39-5
53	石製品	板碑	[44.1]	上幅15.4 下幅14.9	2.2	25580.0	緑泥片岩	地下式坑 5	二条線(ケガキ状)・種子(キリーグ・異体字)・月輪・蓮座 一部ケズリ 被熱(赤化) 石材に長石粒・黄鉄鉱含む 裏面ノミ痕(幅1.1cm)	39-6
54	石製品	板碑	[20.2]	[12.5]	2.1	837.4	緑泥片岩	地下式坑 5	種子(キリーグ)・月輪・蓮座・ 銘文「口(康カ)口」・ケガキ線 側縁ケズリ 全面被熱 裏面ノミ痕(幅1.1cm)	39-7
55	石製品	板碑か 板碑	[17.4]	[9.4]	1.15	395.4	緑泥片岩	地下式坑 5	板碑転用か 傷状のケズリ痕 No.4 二条線・種子(キリーグ・正体字)・月輪・蓮座・ 脇待種子・銘文「文[]/妙[]」・ケガキ線	
56	石製品	板碑か 板碑	[29.7]	19.2	2.5	1665.6	緑泥片岩	地下式坑 5	石材に長石粒含む 全面被熱 裏面ノミ痕(幅1.15cm) No.7 表裏面ともに被損部二次利用(砥具) 表面に二次 利用時の削痕あり 全面被熱	39-8
57	石製品	板碑	[25.3]	[16.9]	5.0	3755.6	緑泥片岩	地下式坑 5		
58	石製品	板碑	[17.4]	[8.5]	2.1	353.8	緑泥片岩	地下式坑 6	No.14 二条線・種子(キリーグ)・月輪・ケガキ線(中軸 線) 側縁敲打、一部ケズリ 石材に長石粒含む 被熱	
59	石製品	板碑	[39.1]	上幅16.5 下幅17.2	2.45	2555.4	緑泥片岩	地下式坑 6	No.17 二条線・種子(キリーグ・異体字)・蓮座・銘文「口 口(貞和カ)〔二二〕年/二 月/二日」裏面ノミ痕(幅1.0cm) 側縁ケズリ	40-2
60	石製品	板碑	[21.4]	[10.0]	2.6	862.0	緑泥片岩	地下式坑 6	No.19 脇待種子(サク)・月輪・ 蓮座(主尊部のみ) 石材に長 石粒含む 側縁ケズリ後、ミ ガキ 裏面ノミ痕(幅1.0cm)	40-3
61	石製品	板碑	[18.2]	15.3	2.0	626.2	緑泥片岩	地下式坑 6	No.1 二条線・月輪・種子 側縁敲打のみ 絹雲母片岩質 破損部転用(砥具)	
62	石製品	板碑	[17.8]	[14.5]	1.7	572.8	緑泥片岩	地下式坑 6	No.10 二条線・種子(キリーグ)・ケガキ線 頭部側縁上 面面取り 側縁敲打のみ 裏 面転用	40-1
63	石製品	板碑	[28.3]	[18.8]	1.3	836.6	緑泥片岩	地下式坑 6	No.18 基部・梓線 表面ノ ミ痕(幅1.3cm)	34-2
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版
19	石製品	硯	[2.2]	[2.3]	[0.5]	2.0	粘板岩	地下式坑 4	表裏面剥離	
64	石製品	砥石	[13.5]	[3.4]	2.9	145.6	流紋岩	地下式坑 2	No.10 表面・側縁部整形あり 平面不整長方形 断面不 整台形 側縁部裏面V字状刃 物痕多数 4面使用 欠損あり 全面被熱 黒色化	38-4

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	遺構名	備考	図版
65	石製品	硯	[9.2]	[5.8]	1.1	42.6	粘板岩	地下式坑 2	No. 12 表面剥離多い 裏面は使用により凹む 平面長方形 断面長方形 欠損あり	38-4
66	石製品	茶臼(上臼)	[11.3]	10.1	12.0	1277.3	多孔質安山岩	地下式坑 6	挽手孔に文様あり 下面は摩耗(二次利用か)、一部摺目残る 欠損あり 一部被熱 黒色化 推定径(26.0)cm	38-4
67	石製品	石臼(下臼)	[8.0]	[7.6]	8.9	523.0	牛伏砂岩か	地下式坑 7	上面に摺目 側面叩き状工具痕(Φ7mmの突き痕) 黄褐色の砂岩を使用 欠損あり	38-4
番号	種別	器種	径	厚さ	重さ	銭貨名	遺構名	備考	図版	
68	銅製品	銭貨	23.0	1.3	1.8	元祐通寶(北宋 1086年)行書	地下式坑 2	No. 59 3片		38-7
74	銅製品	銭貨	23.0	1.5	2.2	祥符元寶(北宋 1009年)	地下式坑 6	No. 8		38-7
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構名	備考	図版	
69	鉄製品	棒状品 釘か	[3.9]		0.4	0.4	3.0	地下式坑 2	B-1 2層	37-3
70	鉄製品	不明品	[7.1]		0.4	0.4	9.6	地下式坑 2	No. 15	37-3
71	鉄製品	鋳造炉炉壁	[7.8]	[7.6]	2.8	83.8	地下式坑 3	一括 磁着ほとんどなし		38-6
72	鉄製品	釘	[2.4]		0.3	0.3	1.9	地下式坑 5	A-0 一括	37-3
73	鉄製品	不明銅製品	[4.2]		1.5	0.1	2.4	地下式坑 5	A-0 一括 沈線あり	37-3
75	鉄製品	和鉄	[9.2]		1.4	0.2	6.9	地下式坑 7		37-3

(4) 土壙

土壙は調査区全域から検出されているが、区画溝の第1・22号溝跡及び第13号溝跡を境にして配置が異なる。

区画の外側の調査区南東側では土壙が規則的に並ぶ。重複はしても長軸方向が乱れることは無く、平面形態も類似している。規模や平面形態から、土壙墓群と推定されるが、人骨や銭貨等は見つかっていない。特に、第1・22号溝跡の東側では、溝跡に沿って南北に土壙が並ぶことから、いずれも第1・22号溝跡を基準として配された土壙群と考えられる。

区画の内側の調査区の北西側では、土壙の配置に規則性がない。平面形態も長方形と円形が混在している。そのため、区画外の土壙群とは性格が異なることが想定される。

区画溝の第1・22号溝跡と第13号溝跡の間では土壙がわずか2基のみ検出されている。また他の遺構も同様で、屋敷林などの空間として利用されていた可能性が考えられる。

各土壙の詳細は第26表にまとめた。

第69号土壙(第83図)

第1次調査区の北壁際、C-2・3グリッドに

位置する南北に長い隅丸方形の土壙である。長軸2.40m、短軸1.10m、深さ0.37mを測り、長軸方位はN-23°-Wを指す。土壙の中央部には南北方向の皿状の掘り込みがあり、底面には炭化物が面的に検出された。炭化物の性格は不明であるが、設置されていた木材が炭化した可能性がある。

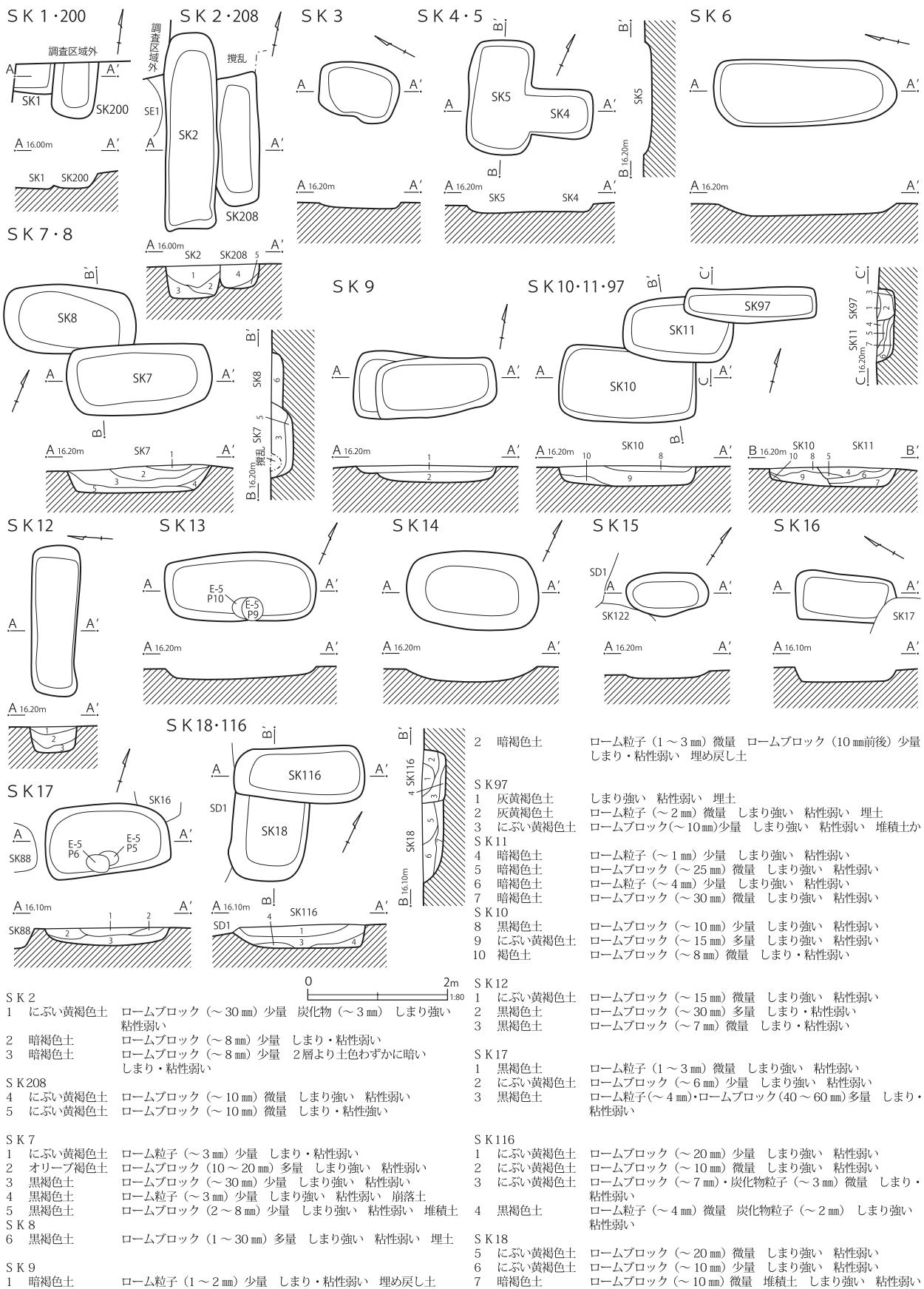
第93図42は板碑の基部である。銘文が僅かに残り、二行に分かれ書きされている。中央部上端にも彫刻の一部が残っている。花瓶が表現されていた可能性がある。14世紀後半～15世紀前半頃の板碑であろう。このほか、瓦質土器擂鉢・片口鉢・鍋・かわらけが出土しており、15世紀代と考えられる。

第128号土壙(第86図)

B-2グリッドに位置し、第2次調査区南側に集中している円形の土壙の1つである。規模は長径1.15m、短径1.10m、深さ0.33mを測る。土層から土壙の中央部に大型容器を埋置し、周囲に埋土を充填した様相が見られる。

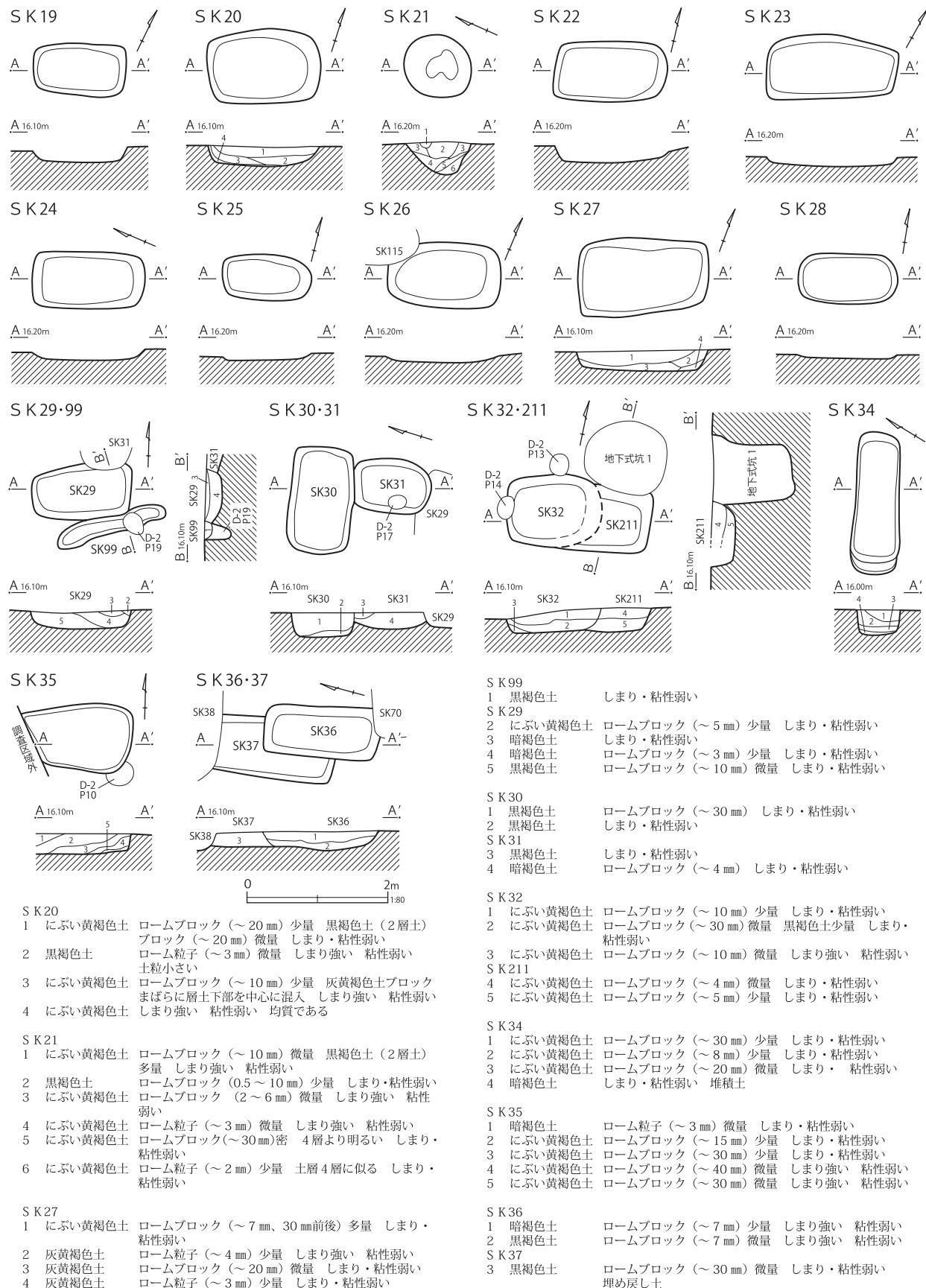
また寛永通寶が4点出土したことから座棺を埋設した土壙墓と考えられる。覆土にはヤドロが含まれ、近世以降の遺構と推定される。

第94図67～70は銭貨で、67～69は寛永通寶、

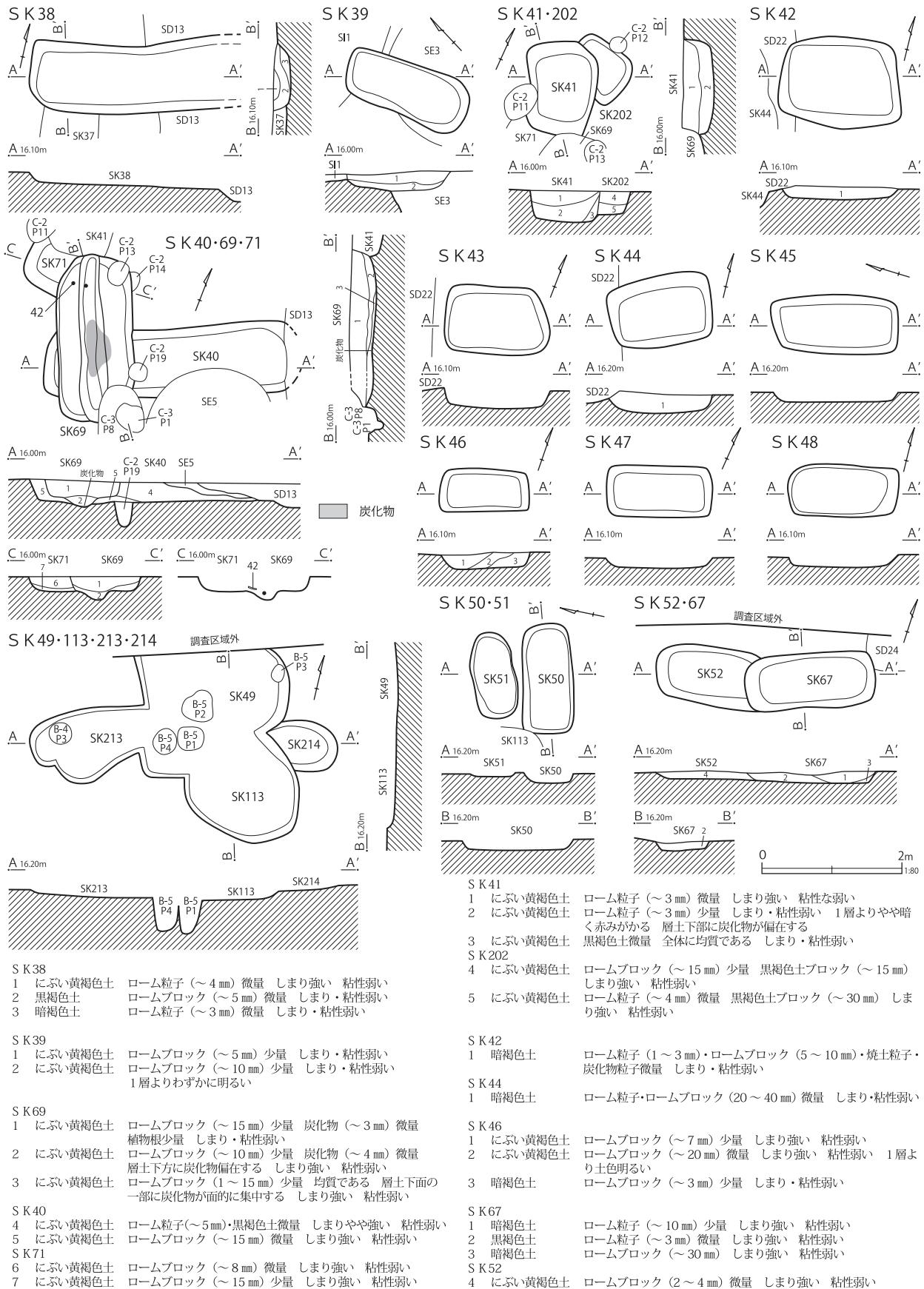


第81図 土壌(1)

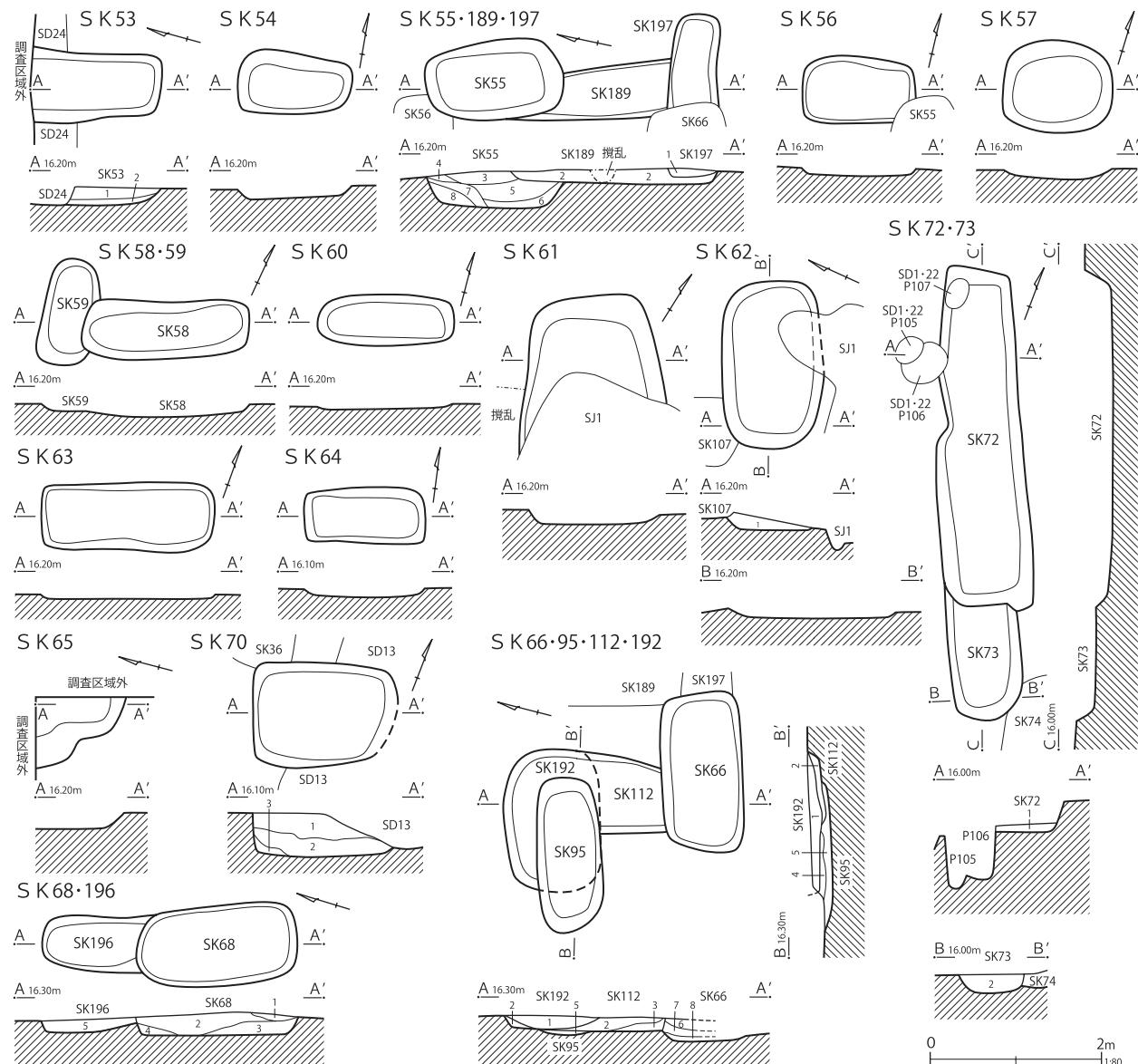
藥師堂遺跡



第82図 土壙(2)



第 83 図 土壌 (3)



SK 53

1 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 2 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
2 黒褐色土 ロームブロック (~ 30 mm) しまり強い 粘性弱い

SK 197

1 にぶい黄褐色土 ロームブロック ($2\sim 8$ mm) 少量 黒褐色土ブロック ($2\sim 8$ mm)
微量 しまり強い 粘性弱い

SK 189

2 にぶい黄褐色土 ローム粒子 ($2\sim 5$ mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

SK 55

3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 20 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

4 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 6 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い

5 黒褐色土 ロームブロック (~ 15 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い

6 暗褐色土 ロームブロック (~ 15 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

7 黒褐色土 ロームブロック (~ 6 mm) 少量 しまり・粘性弱い

8 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 25 mm) 微量 しまり・粘性弱い

SK 62

1 暗褐色土 ローム粒子 ($1\sim 3$ mm)・ロームブロック (10 mm前後) 微量
焼土粒子少量 しまり・粘性弱い

SK 192

1 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 15 mm) しまり強い 粘性弱い

SK 112

2 黒褐色土 しまり強い 粘性弱い

3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 30 mm) しまり強い 粘性弱い

SK 95

4 にぶい黄褐色土 ロームブロック ($2\sim 15$ mm) 微量 しまり強い 粘性弱い

5 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 2 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い

SK 66

6 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 4 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い

7 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~ 3 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

8 層下下面に炭化物の堆積あり

9 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 4 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

SK 68

1 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 15 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

2 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 25 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い

3 黒褐色土 ロームブロック (~ 8 mm) 少量 しまり強い 粘性なし

4 黒褐色土 ロームブロック (~ 8 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

5 暗褐色土 ロームブロック (~ 15 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い

SK 70

1 黒褐色土 ロームブロック (~ 7 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

2 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~ 30 mm) しまり強い 粘性弱い

3 暗褐色土 ロームブロック (~ 10 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

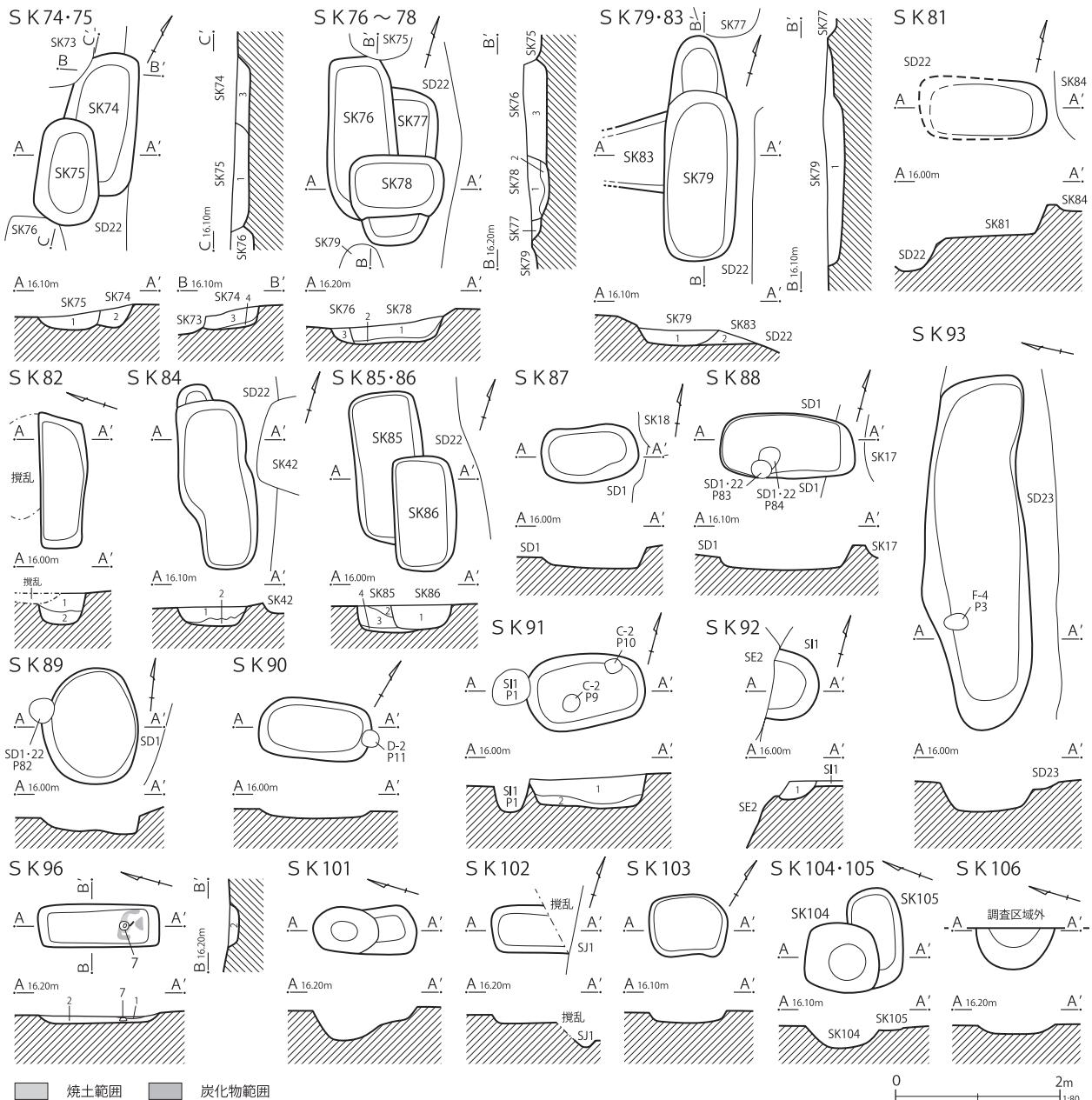
SK 72

1 暗褐色土 ローム粒子微量 埋め戻し土 しまり・粘性弱い

SK 73

2 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (10 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い

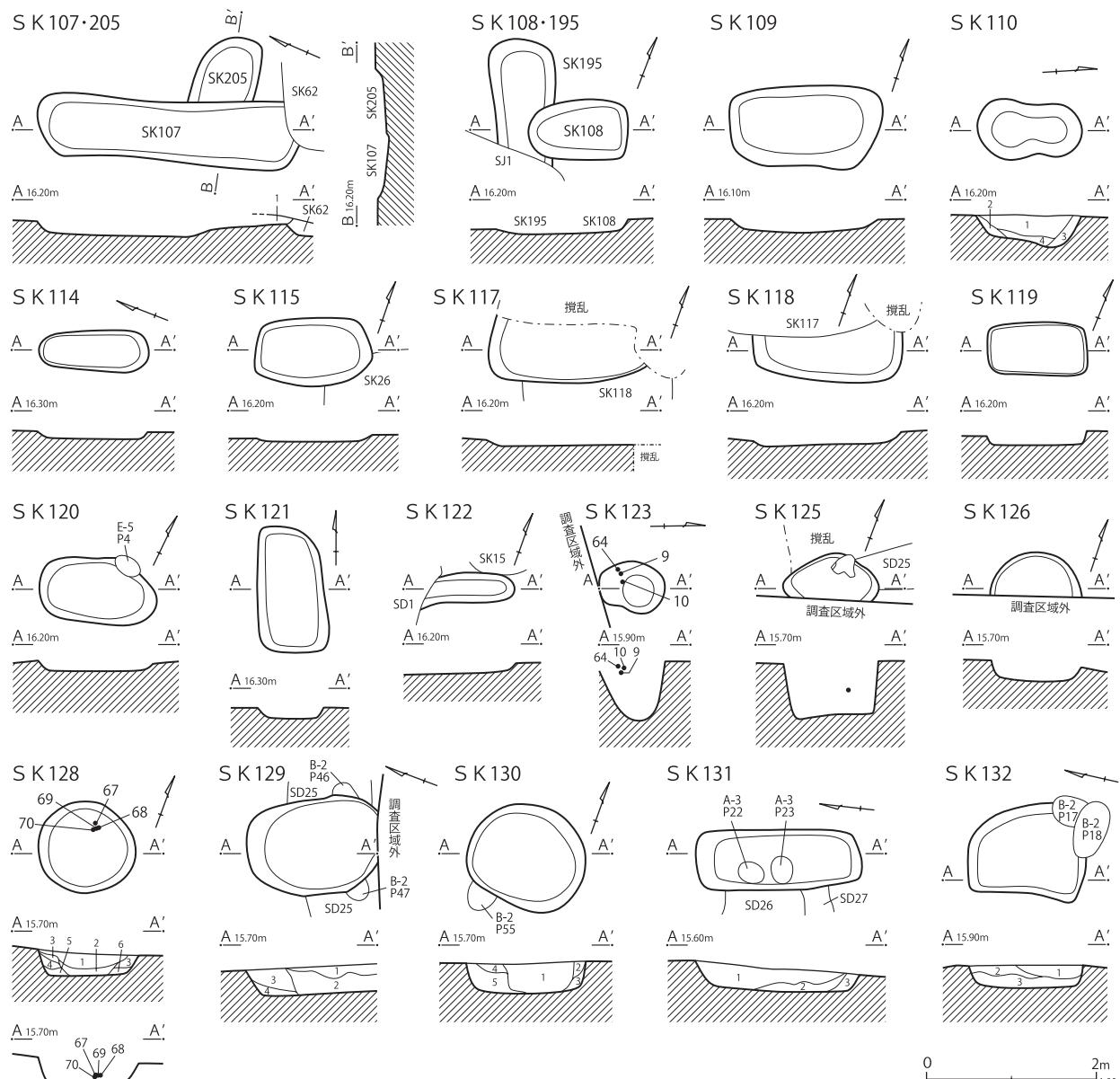
第 84 図 土壌 (4)



S K75	1 暗褐色土	ローム粒子微量	ロームブロック少量	しまり強い	粘性弱い
S K74	2 暗褐色土	ローム粒子 (1~3mm) 多量	しまり強い	粘性弱い	
3 暗褐色土	ローム粒子微量	しまり強い	粘性弱い		
4 暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック (10mm) 微量	しまり・粘性弱い			
S K78	1 にぶい黄褐色土	ロームブロック (10~20mm) 少量	ローム粒子微量	しまり・粘性弱い	
2 暗褐色土	ローム粒子微量	ロームブロック (30mm) 少量	しまり強い	粘性弱い	
S K76	3 暗黄褐色土	ローム粒子微量	しまり強い	粘性弱い	
S K79	1 暗褐色土	ローム粒子微量	しまり強い	粘性弱い	
S K83	2 暗褐色土	ローム粒子微量	ロームブロック (10mm) 少量	しまり・粘性弱い	
S K82	1 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (~4mm) 微量	炭化物 (~2mm) 微量	しまり強い	粘性弱い
2 にぶい黄褐色土	ロームブロック (~6mm) 少量	しまり強い	粘性弱い		

S K84	1 暗褐色土	ローム粒子 (1~3mm)・ロームブロック (5~10mm) 微量	埋め土	しまり・粘性弱い
2 暗褐色土	ローム粒子 (1~3mm)・ロームブロック (5~10mm) 少量	埋め土	しまり・粘性弱い	
S K86	1 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (~2mm) 少量	しまり強い	粘性弱い 埋土
S K85	2 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (~4mm) 多量	しまり・粘性弱い	埋土
3 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (~3mm) 微量	しまり・粘性弱い	埋土	
4 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (~2mm) 微量	しまり・粘性弱い	堆積土	
S K91	1 にぶい黄褐色土	ロームブロック (~3mm) 微量	植物根微量	しまり・粘性弱い
2 にぶい黄褐色土	ロームブロック (~2mm) 微量	しまり強い	粘性弱い	
S K92	1 暗褐色土	ロームブロック (~10mm)	植物根を少量含む	しまり・粘性弱い
S K96	1 黒褐色土	灰炭化物が密	焼土・骨粉 (1~2mm) 微量	
2 暗褐色土	ローム粒子 (1mm)・焼土粒子 (1~2mm) 少量	逆位のかわらけは、2層中に置かれ、その上に1層が堆積する		

第 85 図 土壌 (5)



SK 107
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~3 mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK 110
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~3 mm) 微量 堆積土 しまり・粘性弱い
2 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (1~2 mm) 多量 崩落土 しまり・粘性弱い
3 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (1~2 mm) 微量 崩落土 しまり・粘性弱い
4 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (1~3 mm) 少量 堆積土 しまり強い 粘性弱い

SK 128
1 にぶい黄褐色土 ローム微量 ヤドロブロック (~20 mm) 多量 しまり強い 粘性弱い
2 黄灰色土 ロームブロック (~10 mm) 少量 しまり・粘性強い
3 にぶい黄褐色土 ヤドロ微量 しまり強い 粘性弱い
4 にぶい黄褐色土 ヤドロ微量 しまり強い 粘性弱い
5 にぶい黄褐色土 ヤドロ多量 しまり強い 粘性弱い
6 にぶい黄褐色土 ヤドロ微量 しまり強い 粘性弱い

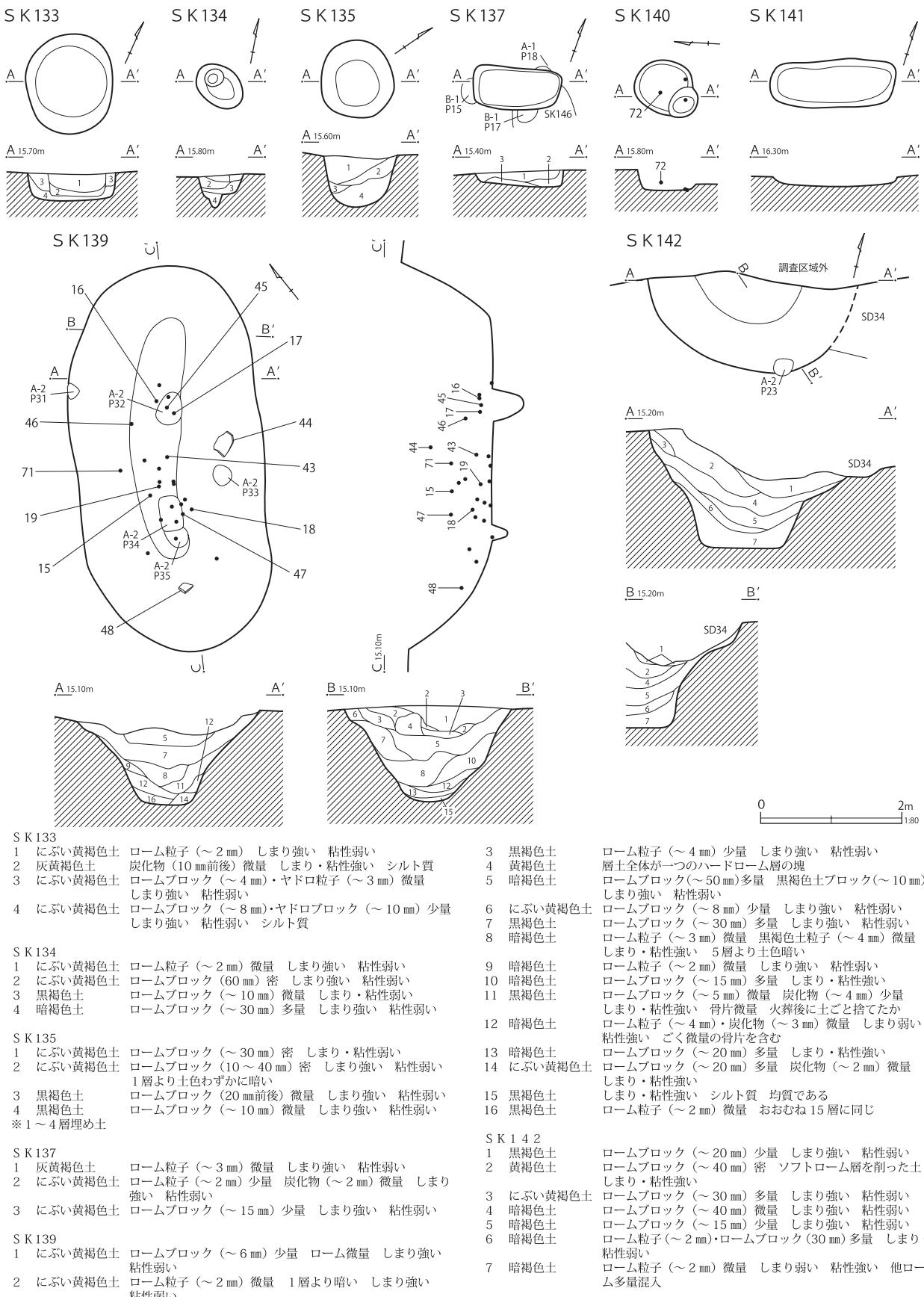
SK 129
1 にぶい黄褐色土 炭化物 (~3 mm) 微量 ヤドロ微量 しまり強い 粘性弱い
2 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~30 mm) 少量 炭化物 (~3 mm) 微量 ヤドロ密 しまり強い 粘性弱い
3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~15 mm) 少量 炭化物 (~2 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
4 暗褐色土 しまり強い 粘性弱い シルト質 ロームに植物根が影響したものか

SK 130
1 黄灰色粘土 ロームブロック (~3 mm)・炭化物 (~2 mm) 微量 ヤドロ しまり・粘性強い
2 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~10 mm) 多量 ヤドロ微量 しまり強い 粘性弱い
3 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~4 mm)・ヤドロ微量 しまり強い 粘性弱い
4 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (~3 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
5 オリーブ灰色土 ロームブロック (~10 mm) 少量 しまり・粘性強い ヤドロか

SK 131
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~3 mm) 微量 ロームブロック (10 mm前後) しまり・粘性弱い
2 暗褐色土 ローム粒子 (1~5 mm)・ロームブロック (20 mm前後) 微量 しまり・粘性弱い
3 暗褐色土 ローム粒子 (1 mm) 少量 しまり・粘性弱い

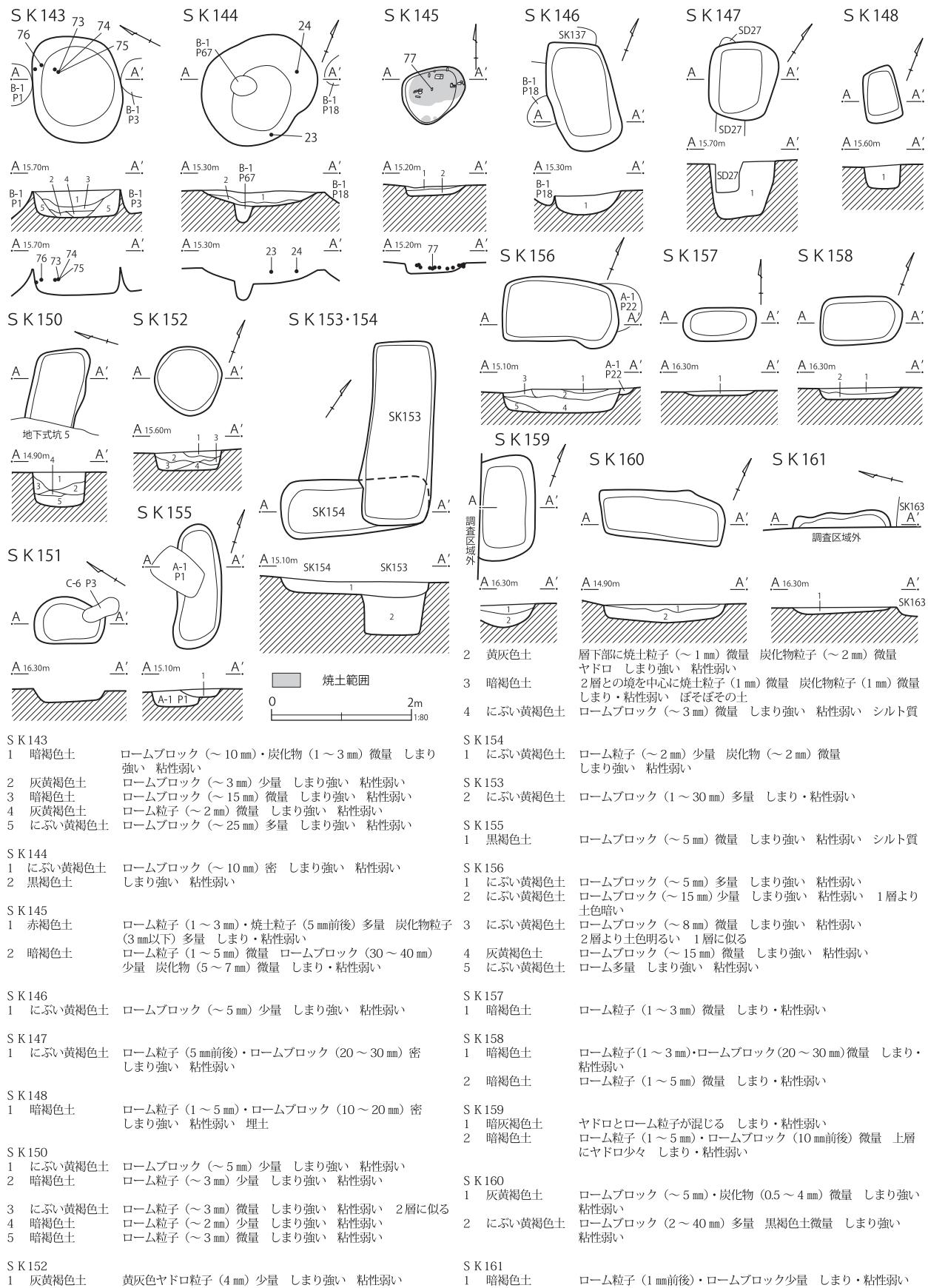
SK 132
1 にぶい黄褐色土 ローム多量 炭化物粒子 (~3 mm) 微量 ヤドロ少量 しまり強い 粘性弱い
2 にぶい黄褐色土 ローム多量 ヤドロ微量 しまり強い 粘性弱い 1層 より土色明るい
3 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~50 mm) 密 しまり強い 粘性弱い

第 86 図 土壌 (6)

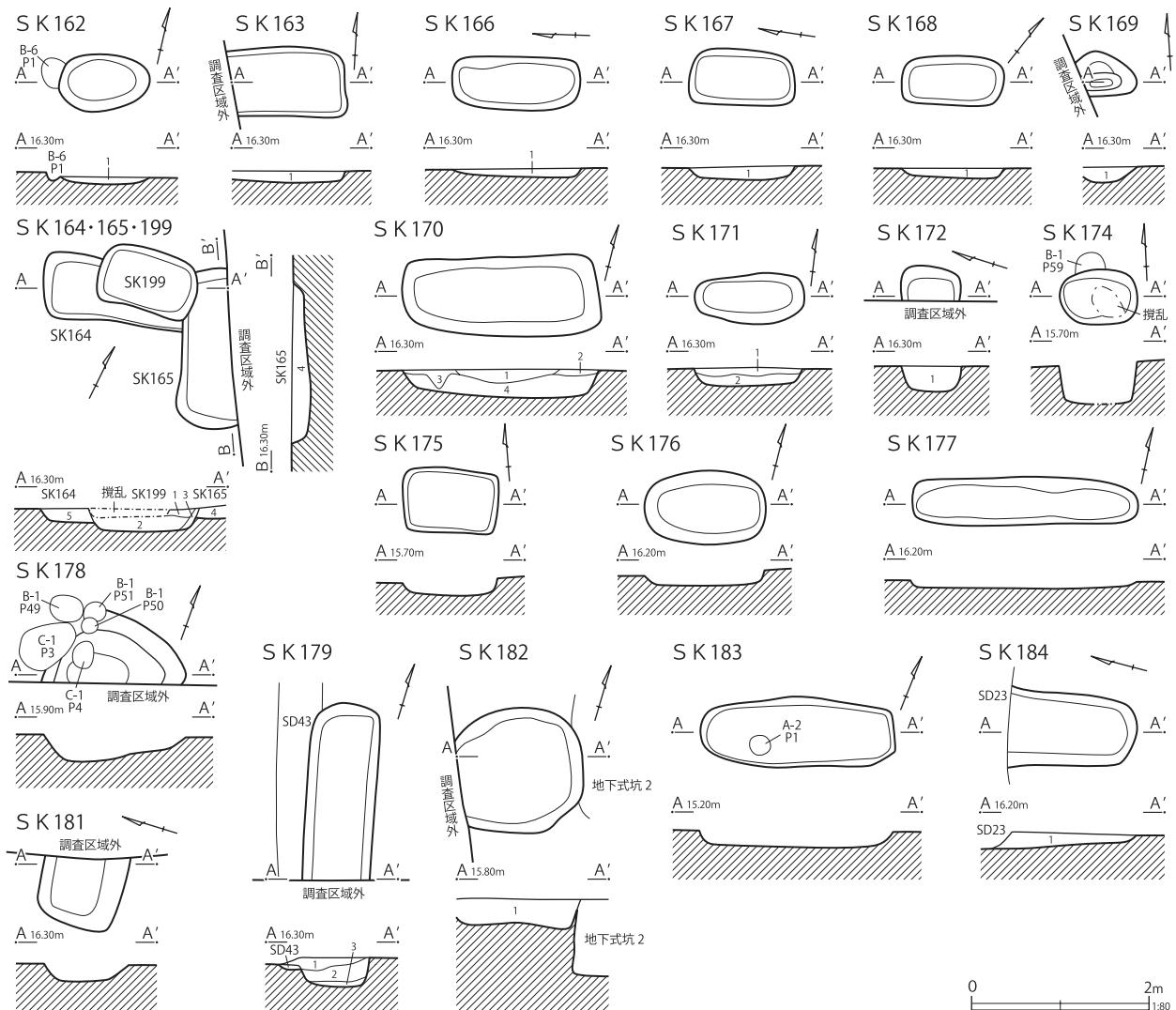


第 87 図 土壌 (7)

藥師堂遺跡



第88図 土壌(8)



SK 162
1 暗褐色土 ローム粒子 (3~5 mm)・ロームブロック (10 mm) 微量

SK 163
1 暗褐色土 ローム粒子 (3~5 mm)・ロームブロック (10 mm) 微量

SK 199
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~2 mm) 少量 しまり・粘性弱い
2 黒褐色土 ローム粒子 (1~5 mm) 微量 しまり・粘性弱い
3 黒褐色土 ローム粒子 (1~2 mm) ごく少量 4層の崩落土 しまり・粘性弱い

SK 165
4 黒褐色土 ローム粒子 (5 mm前後)・ロームブロック (3cm前後) 少量 しまり・粘性弱い

SK 164
5 黒褐色土 ローム粒子 (1~5 mm) 微量 ロームブロック (2~3cm) 少量 しまり・粘性弱い

SK 166
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~2 mm)・焼土粒子 (1 mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK 167
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~2 mm) 微量 ロームブロック (10 mm)・炭化物粒子 (1 mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK 168
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~2 mm) 微量 ロームブロック (10 mm)・焼土粒子 (1 mm)・炭化物粒子 (1 mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK 169
1 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック微量 しまり・粘性弱い

SK 170
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~5 mm) 微量 ロームブロック (10~30 mm) 少量 しまり・粘性弱い
2 にぶい黄褐色土 ローム粒子 (1~5 mm) 少量 しまり・粘性弱い
3 暗褐色土 ローム粒子 (1~3 mm) 多量 ロームブロック (30~50 mm) 密炭化物 (1~5 mm) 少量 しまり・粘性弱い
4 黒褐色土 ローム粒子 (1~3 mm) 多量 ロームブロック (3~5cm) 密炭化物 (1~5 mm) 少量 ※1層、3層は4層を掘り込んでいる。遺構ではない

SK 171
1 灰褐色土 ローム粒子・ロームブロック・ヤドロ乱れて混じる しまり 強い 粘性弱い
2 暗褐色土 ローム粒子 (1~5 mm)・ロームブロック (10~20 mm) 微量 しまり・粘性弱い

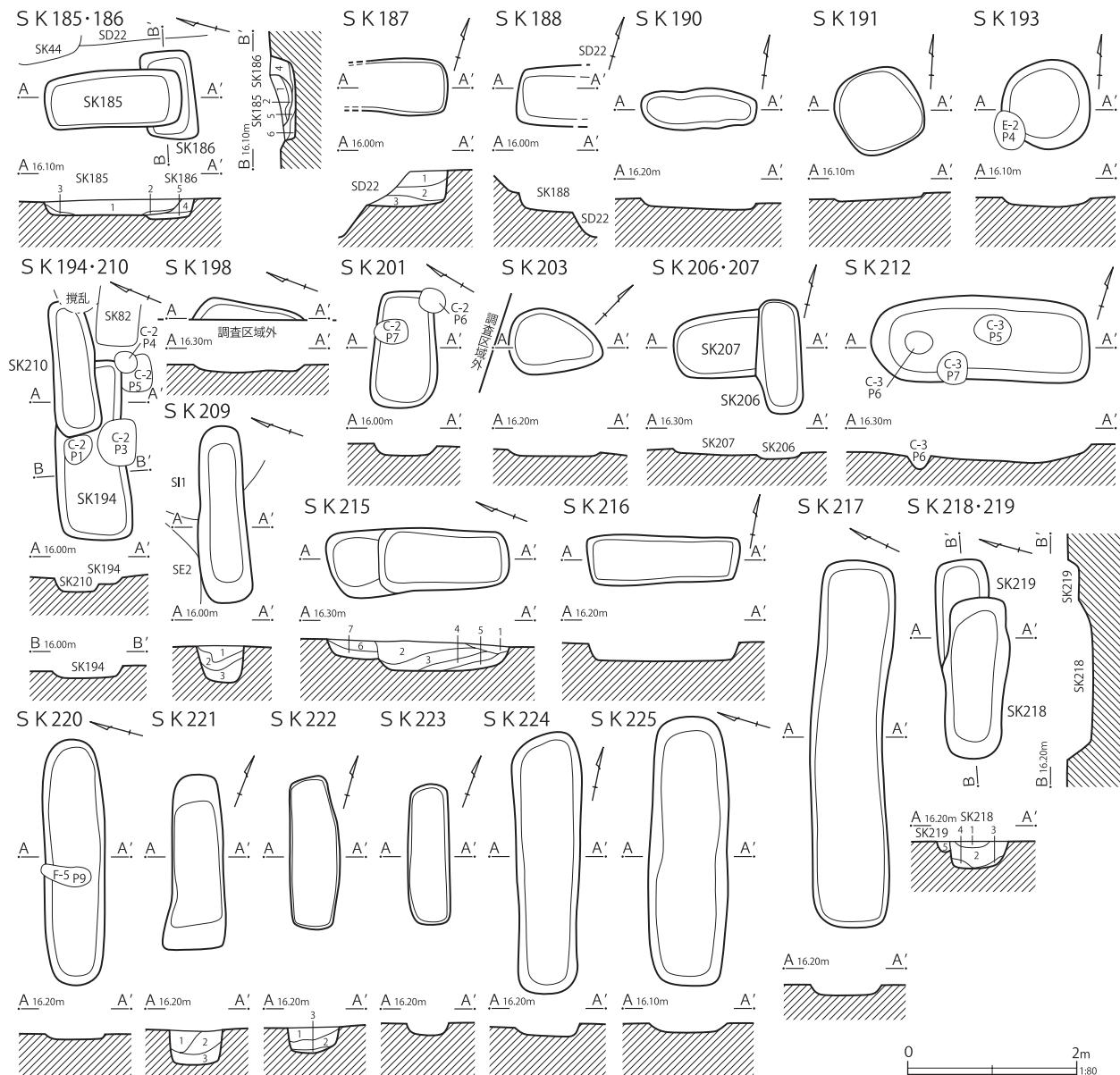
SK 172
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~5 mm) 微量 ロームブロック (10 mm) しまり・粘性弱い

SK 179
1 にぶい黄褐色土 ロームブロック (~6 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
2 暗褐色土 ロームブロック (1~10 mm) 微量 しまり強い 粘性弱い
3 暗褐色土 ローム粒子 (2~5 mm) 少量 しまり強い 粘性弱い

SK 182
1 灰褐色土 ロームブロック ヤドロ 埋め戻し土 しまり強い 粘性弱い

SK 184
1 暗黄褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (5 mm前後) 少量 しまり強い 粘性弱い

第 89 図 土壌 (9)



SK 185

- 1 にぶい黄褐色土 ローム粒子（～4 mm）少量 しまり強い 粘性弱い 空気を含みボソボソしている
- 2 黒褐色土 ローム粒子（～2 mm）微量 しまり強い 粘性弱い
- 3 暗褐色土 ローム粒子（～3 mm）少量 しまり強い 粘性弱い

SK 186

- 4 にぶい黄褐色土 ロームブロック（～10 mm）微量 しまり強い 粘性弱い 空気を含みボソボソしている
- 5 暗褐色土 ローム粒子（～4 mm）少量 しまり強い 粘性弱い 3層に似る
- 6 暗褐色土 ロームブロック（～20 mm）少量 しまり強い 粘性弱い

SK 187

- 1 暗褐色土 ロームブロック（2～6 mm）少量 しまり・粘性弱い ボソボソしており空気が多い
- 2 黒褐色土 ローム粒子（～3 mm）微量 しまり強い 粘性弱い
- 3 暗褐色土 ロームブロック（3～15 mm）微量 しまり強い（2層よりわずかに強い） 粘性弱い

SK 188

- 1 暗褐色土 ローム粒子（～2 mm）微量 しまり強い 粘性弱い 根跡の影響受ける
- 2 褐色土 ロームブロック（2～30 mm）まばら しまり強い 粘性弱い
- 3 にぶい黄褐色土 ロームブロック（3～10 mm）少量 しまり強い 粘性弱い

SK 189

- 1 黒褐色土 ロームブロック（～7 mm）微量 しまり強い 粘性弱い

SK 190

- 1 暗褐色土 ロームブロック（～10 mm）微量 しまり強い 粘性弱い

SK 191

- 1 暗褐色土 ロームブロック（～10 mm）微量 しまり強い 粘性弱い

SK 192

- 1 暗褐色土 ロームブロック（～10 mm）微量 しまり強い 粘性弱い

SK 193

- 1 暗褐色土 ロームブロック（～10 mm）微量 しまり強い 粘性弱い

SK 194・210

- 1 摂乱 SK82 C-2 P4 A 16.30m 調査区域外

SK 198

- 1 暗褐色土 A 16.00m

SK 201

- 1 暗褐色土 A 16.00m

SK 203

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 206・207

- 1 暗褐色土 A 16.30m

SK 212

- 1 暗褐色土 A 16.30m

SK 209

- 1 暗褐色土 A 16.00m

SK 215

- 1 暗褐色土 A 16.30m

SK 216

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 217

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 218・219

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 220

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 221

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 222

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 223

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 224

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 225

- 1 暗褐色土 A 16.10m

SK 218

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 219

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2218

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2219

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2220

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2221

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2222

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2223

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2224

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2225

- 1 暗褐色土 A 16.10m

SK 2226

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2227

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2228

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2229

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2230

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2231

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2232

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2233

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2234

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2235

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2236

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2237

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2238

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2239

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2240

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2241

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2242

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2243

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2244

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2245

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2246

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2247

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2248

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2249

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2250

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2251

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2252

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2253

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2254

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2255

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2256

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2257

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2258

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2259

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2260

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2261

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2262

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2263

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2264

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2265

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2266

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2267

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2268

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2269

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2270

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2271

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2272

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2273

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2274

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2275

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2276

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2277

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2278

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2279

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2280

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2281

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2282

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2283

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2284

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2285

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2286

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2287

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2288

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2289

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2290

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2291

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2292

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2293

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2294

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2295

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2296

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2297

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2298

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2299

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2300

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2301

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2302

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2303

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2304

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2305

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2306

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2307

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2308

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2309

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2310

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2311

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2312

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2313

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2314

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2315

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2316

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2317

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2318

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2319

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2320

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2321

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2322

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2323

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2324

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2325

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2326

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2327

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2328

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2329

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2330

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2331

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2332

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2333

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2334

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2335

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2336

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2337

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2338

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2339

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2340

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2341

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2342

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2343

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2344

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2345

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2346

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2347

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2348

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2349

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2350

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2351

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2352

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2353

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2354

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2355

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2356

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2357

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2358

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2359

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2360

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2361

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2362

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2363

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2364

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2365

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2366

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2367

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2368

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2369

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2370

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2371

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2372

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2373

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2374

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2375

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2376

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2377

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2378

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2379

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2380

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2381

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2382

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2383

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2384

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2385

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2386

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2387

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2388

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2389

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2390

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2391

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2392

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2393

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2394

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2395

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2396

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2397

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2398

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2399

- 1 暗褐色土 A 16.20m

SK 2400

- 1 暗褐色土 A 16.20m

第90図 土壌 (10)

第26表 土壙一覧表（第81～90図）

No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構	No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構
1	C-1	方形	N-82°-E	(0.60)	(0.45)	0.26	SK200	41	C-2	長方形	N-26°-W	1.35	1.00	0.45	SK69より古 SK71・202より新
2	C-1	長方形	N-11°-W	2.75	0.75	0.43	SK208より新	42	D-4・5	長方形	N-78°-E	1.70	1.30	0.17	SD22より古
3	F-5・6	長方形	N-20°-W	1.15	0.85	0.10		43	D-4・5	長方形	N-70°-E	1.50	1.00	0.29	
4	F-5	長方形	N-65°-E		0.70	0.12	SK5	44	D-4・5	長方形	N-70°-E	1.50	1.00	0.26	SD22より古
5	F-5	長方形	N-22°-W	1.60	0.90	0.11	SK4	45	C-4	長方形	N-16°-W	1.80	0.85	0.15	
6	E-5	隅丸方形	N-13°-W	2.60	1.00	0.18		46	C-4	長方形	N-70°-E	1.30	0.60	0.22	
7	E-6	長方形	N-68°-E	2.10	1.00	0.37	SK8より新	47	C-4	長方形	N-65°-E	1.50	0.70	0.17	
8	E-6	隅丸	N-78°-E	1.90	1.00	0.24	SK7より古	48	B-4	長方形	N-75°-E	1.55	0.75	0.17	
9	E-6	長方形	N-80°-E	2.00	1.00	0.23		49	B-5	不整形	N-75°-E	2.10	(1.20)	0.20	SK113・213・214
10	E-6	長方形	N-76°-E	2.00	1.10	0.28	SK11より古	50	B-5	長方形	N-73°-E	1.55	0.70	0.15	
11	E-6	長方形	N-80°-E	1.60	0.90	0.26	SK97より古 SK10より新	51	B-5	楕円形	N-66°-E	1.20	0.60	0.05	
12	E-5・6	長方形	N-86°-E	2.15	0.70	0.37		52	B-5	長方形	N-80°-E	(1.30)	0.85	0.11	SK67より古
13	E-5	長方形	N-69°-E	2.15	1.00	0.14		53	B-5	長方形	N-16°-W	(1.55)	0.80	0.19	SD24より古
14	F-6	楕円形	N-65°-E	1.90	1.10	0.20		54	B-5	長方形	N-80°-E	1.30	0.75	0.13	
15	E-5	楕円形	N-58°-E	1.20	0.60	0.10		55	B-5	隅丸	N-20°-W	1.60	0.90	0.42	SK189より古 SK56
16	D・E-5	長方形	N-25°-W	1.40	0.65	0.22	SK17	56	B-5	長方形	N-75°-E	1.30	0.80	0.10	SK55
17	E-5	長方形	N-75°-E	1.75	1.00	0.24	SK16	57	B-5	隅丸方形	—	1.25	1.05	0.11	
18	D・E-5	長方形	N-25°-W	(1.15)	1.10	0.30	SK116より古 SD1より新	58	B-5	長方形	N-64°-E	1.95	0.70	0.17	
19	D-5	長方形	N-62°-E	1.35	0.75	0.21		59	B-5	隅丸	N-12°-W	1.25	0.60	0.09	
20	D-5	隅丸	N-72°-E	1.60	1.00	0.28		60	C-5	楕円形	N-75°-E	1.60	0.60	0.12	
21	D-6	円形	—	0.95	0.90	0.43		61	C-5	長方形	N-28°-W	(1.70)	1.65	0.19	SJ1より新
22	D-5・6	長方形	N-78°-E	1.60	0.85	0.24		62	C-5	隅丸	N-66°-E	2.25	1.20	0.25	SK107より古 SJ1より新
23	D-5・6	長方形	N-60°-E	1.85	0.90	0.12		63	C-4・5	長方形	N-70°-E	2.00	0.80	0.08	
24	D-6	長方形	N-23°-W	1.60	0.80	0.15		64	C-5	長方形	N-82°-E	1.40	0.65	0.11	
25	D-5	隅丸	N-76°-E	1.30	0.65	0.09		65	B・C-5	不整形	—	(0.80)	0.18		
26	D-5	長方形	N-69°-E	1.60	0.90	0.09	SK115	66	B-5	長方形	N-72°-E	1.85	0.90	0.28	SK112より古 SK189・197
27	D-5	長方形	N-70°-E	1.85	1.10	0.30		67	B-5	長方形	N-67°-E	1.85	0.80	0.17	SK52より新
28	F-4・5	隅丸	N-80°-E	1.40	0.70	0.04		68	B-5	隅丸	N-18°-W	1.80	0.95	0.31	SK196より新
29	D-2	長方形	N-84°-E	1.40	0.80	0.25	SK99より古 SK31より新	69	C-2・3	隅丸	N-23°-W	2.40	1.10	0.37	SK40・41・71より新
30	D-2	長方形	N-75°-E	1.50	0.90	0.34	SK31より新	70	D-3	隅丸	N-70°-E	1.70	1.20	0.47	SD13より古 SK36
31	D-2	隅丸	N-10°-W	1.10	0.75	0.23	SK29・30より古	71	C-2	方形	N-90°-E	(0.60)	(0.60)	0.20	SK41・69より古
32	D-2	隅丸	N-76°-E		1.00	0.29	SK211より新	72	C-4	長方形	N-20°-W	4.00	1.05	0.40	SK73・SD22
33							地下式坑1に変更	73	C-4	隅丸	N-23°-W	(1.50)	0.80	0.22	SK72・SD22
34	D-2	長方形	N-63°-E	2.00	0.60	0.35		74	C-4	隅丸	N-16°-W	1.75	0.85	0.28	SK75・SD22より古
35	D-2	隅丸	N-86°-E	1.35	1.00	0.40		75	C-4	隅丸	N-20°-W	1.30	0.80	0.22	SD22より古 SK74・76より新
36	D-3	長方形	N-8°-W	1.65	0.75	0.26	SK37より新 SK70	76	C-4	長方形	N-18°-W	2.00	0.85	0.22	SK75・77・78・SD22より古
37	D-3	長方形	N-8°-W	(1.60)	0.85	0.27	SK36・38より古	77	C-4	長方形	N-13°-W	1.80	0.80	0.24	SK76・78・SD22より古
38	C・D-3	長方形	N-77°-E	(2.65)	1.00	0.26	SK37より新 SD13	78	C-4	長方形	N-17°-E	1.15	0.75	0.32	SD22より古 SK76・77より新
39	C-2	長方形	N-22°-W	1.85	0.75	0.27	SE3より新 SI1	79	C-4	隅丸	N-14°-W	2.70	0.90	0.30	SD22より古 SK83より新 欠番
40	C-3	隅丸	N-65°-E	(3.50)	1.00	0.25	SK69・SD13・SE5より古	80							

薬師堂遺跡

No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構	No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構
81	D-4	隅丸 長方形	N-78°-E	(1.10)	(0.70)	0.44	SD1	115	D-5	隅丸 長方形	N-72°-E	1.35	0.80	0.11	SK26
82	C-2	長方形	N-70°-E	1.65	0.60	0.39		116	D-5	長方形	N-65°-E	1.40	0.80	0.34	SD1・SK18より新
83	D-4	不整形	N-75°-E	1.00	(0.55)	0.18	SK79・SD22より古	117	E-5	長方形	N-70°-E	(1.70)	(0.70)	0.09	SK118
84	D-4	長方形	N-18°-W	2.25	0.90	0.29	SD22	118	E-5	長方形	N-73°-E	1.75	(0.85)	0.20	SK117
85	D-4・5	長方形	N-22°-W	1.80	0.85	0.31	SK86より古 SD22	119	E-5	長方形	N-68°-E	1.15	0.60	0.15	
86	D-4	長方形	N-22°-W	1.40	0.75	0.36	SK85より新 SD22	120	E-5	隅丸 長方形	N-70°-E	1.40	0.80	0.14	
87	E-5	隅丸 長方形	N-80°-E	1.20	0.65	0.27	SD1	121	E-6	長方形	N-0°	1.50	0.80	0.12	
88	E-5	隅丸 長方形	N-74°-E	1.65	0.80	0.14	SD1	122	E-5	長楕円形	N-70°-E		0.35	0.08	SD1
89	E-5	楕円形	N-5°-W	1.40	1.15	0.23	SD1	123	C-1	不整形	N-0°	0.75	0.60	0.62	
90	D-2	隅丸 長方形	N-62°-E	1.35	0.75	0.12		124							地下式坑2に変更
91	C-2	隅丸 長方形	N-68°-E	1.45	0.90	0.38	SI1より古	125	B-2	隅丸方形	N-40°-E	0.85	0.80	0.77	SD25
92	C-2	楕円形	N-83°-E	0.85	(0.55)	0.20	SE2より古 SI1より新	126	B-3	円形	—	1.10	(0.50)	0.25	SD25
93	F-4	隅丸 長方形	N-75°-E	4.30	1.20	0.39	SD23	127							地下式坑4に変更
94							地下式坑3に変更	128	B-2	円形	—	1.15	1.10	0.33	
95	B-5	隅丸 長方形	N-78°-E	1.80	0.80	0.25	SK112・192より古	129	B-2	楕円形	N-25°-W	(1.50)	(1.10)	0.43	SD25より新
96	E-6	長方形	N-16°-W	1.50	0.50	0.12		130	B-2	楕円形	N-72°-E	1.40	1.25	0.37	
97	E-6	隅丸 長方形	N-78°-E	1.90	0.50	0.24	SK11より新	131	A-3	長方形	N-7°-W	1.95	0.70	0.42	SD27より新
98							地下式坑3に変更	132	B-2	不整形	N-13°-W	1.40	1.10	0.19	
99	D-2	不整形	N-72°-E	1.60	0.30	0.11	SK29より新 欠番	133	B-2	円形	N-18°-W	1.45	1.20	0.44	
100								134	B-2	円形	N-58°-W	0.75	0.55	0.48	
101	D-6	楕円形	N-16°-W	1.25	0.50	0.40		135	B-1	円形	N-56°-W	1.10	1.00	0.99	
102	C-5	隅丸 長方形	N-73°-E	(0.90)	0.55	0.10	SJ1	136							地下式坑5に変更
103	B-4	隅丸 長方形	N-60°-E	0.95	0.70	0.16		137	A・B-1	隅丸 長方形	N-72°-E	1.25	0.60	0.22	SK146より新
104	B-5	隅丸方形	N-15°-W	0.90	0.85	0.28	SK105	138							地下式坑6に変更
105	B・C-5	隅丸 長方形	N-65°-E	1.20	0.65	0.08	SK104	139	A-2	楕円形	N-33°-E	5.40	2.70	1.42	
106	B-5	円形	—	0.95	(0.50)	0.09		140	B-2	円形	—	0.85	0.75	0.32	
107	B・C-5	隅丸 長方形	N-25°-W	3.00	0.80	0.17	SK62より新 SK205	141	F-5	隅丸 長方形	N-72°-E	1.75	0.70	0.13	
108	C-5	隅丸 長方形	N-70°-E	1.15	0.70	0.17	SK195	142	Z・A-2	円形	—	3.00	(1.30)	(1.65)	SD34より古
109	D-5	隅丸 長方形	N-73°-E	1.80	1.00	0.16		143	B-1	隅丸方形	N-58°-E	1.50	1.25	0.42	
110	F-6	不整形	N-5°-E	1.20	0.70	0.36		144	B-1	隅丸方形	N-3°-E	1.70	1.50	0.23	SK32より古 地下式坑1より新
108	C-5	隅丸 長方形	N-70°-E	1.15	0.70	0.17	SK195	145	A-0	不整形	N-60°-E	(0.90)	(0.75)	0.15	地下式坑5より新
109	D-5	隅丸 長方形	N-73°-E	1.80	1.00	0.16		146	A・B-1	長方形	N-30°-W	1.55	0.95	0.35	SK137より古
110	F-6	不整形	N-5°-E	1.20	0.70	0.36		147	A-2	方形	N-28°-W	1.10	0.95	1.33	SD27より古
111							欠番	148	A-2	長方形	N-26°-W	0.80	0.50	0.39	
112	B-5	長方形	N-15°-W	(1.00)	0.90	0.19	SK192より古 SK66・95より新	149							地下式坑7に変更
113	B-5	円形	—	(1.50)	1.50	0.18	SK49・213・214	150	A-0	長方形	N-87°-E	1.10	0.70	0.86	地下式坑5
114	E-5	隅丸 長方形	N-20°-W	1.30	0.50	0.08		151	B・C-5・6	楕円形	N-32°-W	1.00	0.70	0.18	

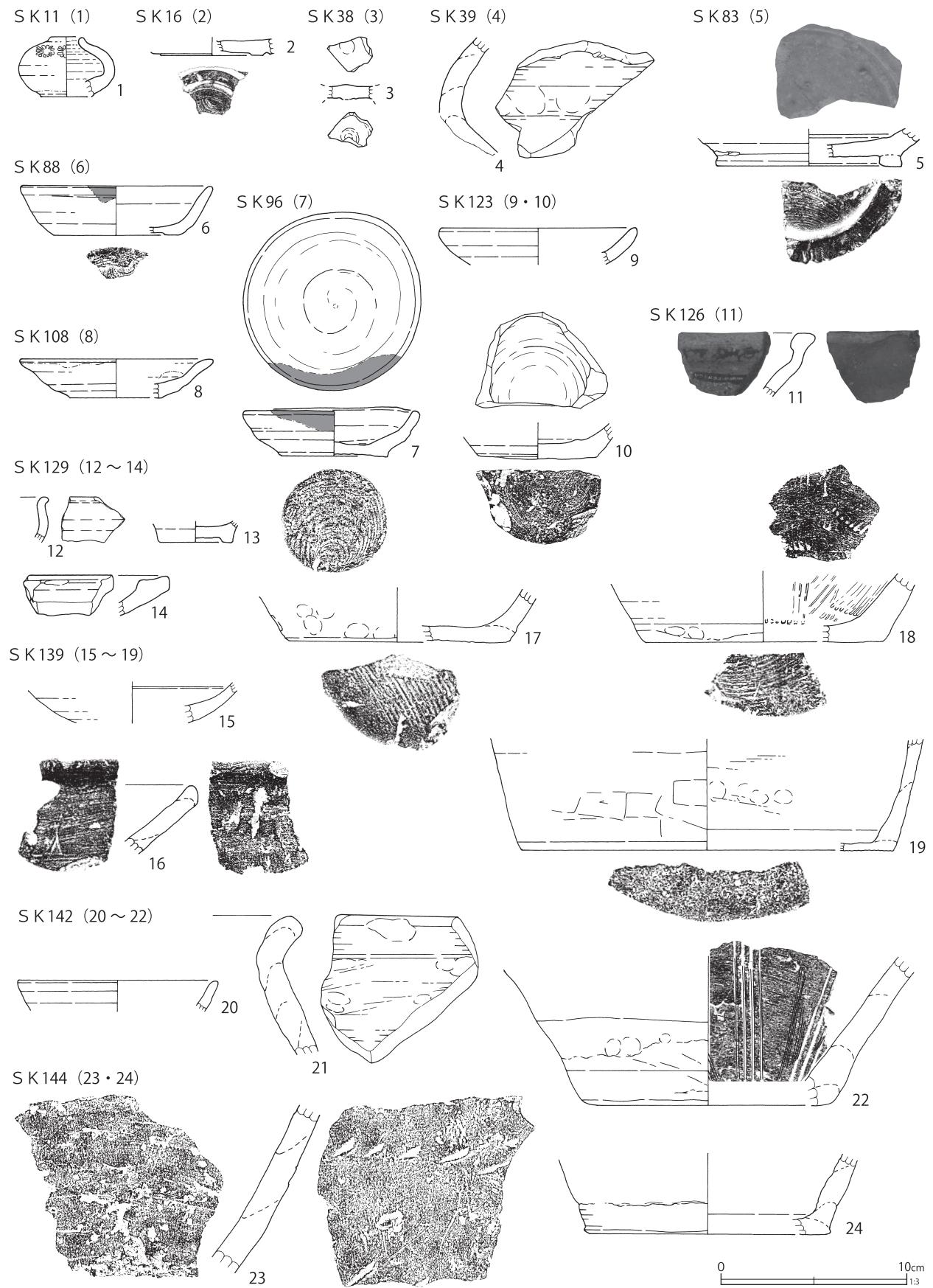
No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構	No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構
152	B-1	隅丸方形	N-19°-W	1.00	0.90	0.28		189	B-5	長方形	N-20°-W	(1.90)	0.65	0.16	SK197より古 SK55より新 SK189
153	A-1	長方形	N-30°-W	2.60	1.00	0.74		190	F-4	楕円形	N-80°-E	1.35	0.50	0.14	
154	A-1	長方形	N-57°-E	(1.55)	0.85	0.25		191	F-4	隅丸方形	N-86°-E			0.10	
155	A-1	楕円形	N-17°-W	1.53	0.65	0.11		192	B-5	隅丸 長方形	N-74°-E	1.65		0.15	SK95・112より 新
156	A-1	長方形	N-67°-E	1.65	0.90	0.35		193	E-2・3	隅丸方形	—	1.05	1.05	0.10	
157	E-7	隅丸長方形	N-89°-E	1.10	0.50	0.06		194	C・D-2	長方形	N-66°-E	2.10	0.85	0.16	SK210
158	D-7	隅丸長方形	N-70°-E	1.20	0.70	0.17		195	C-5	隅丸長方形	N-20°-E	(1.40)	0.75	0.04	SJ1・SK108
159	D-7	長方形	N-20°-W	1.50	(0.80)	0.30		196	B-5	隅丸長方形	N-18°-W	(1.10)	0.65	0.18	SK68より古
160	A-1	長方形	N-66°-E	1.75	0.70	0.42		197	B・C-5	長方形	N-85°-E	(1.05)	0.60	0.14	SK189より新 SK66
161	B-6	長方形	N-18°-W	1.35	(0.25)	0.06		198	B・C-6	隅丸長方形	N-10°-W	(1.30)	(0.30)	0.09	
162	B-6	楕円形	N-78°-E	1.00	(0.65)	0.12		199	B-6	長方形	N-83°-E	1.15	0.70	0.25	SK164・165より 新
163	B-6	長方形	N-85°-E	(1.25)	0.80	0.15		200	C-1	長方形	N-5°-W	(0.80)	0.63	0.18	SK1
164	B-6	長方形	N-74°-E	(1.60)	0.75	0.16	SK199より古 SK165	201	C-1・2	長方形	N-64°-E	1.40	0.75	0.16	
165	B-6	長方形	N-30°-W	1.80	(0.70)	0.20	SK199より古 SK164	202	C-2	方形	N-80°-W	0.90	0.75		SK41より古
166	B-6	長方形	N-2°-W	1.45	0.60	0.11		203	D-2	不整形	N-46°-E	1.10	0.80	0.08	
167	B-6	長方形	N-10°-W	1.20	0.60	0.15		204							欠番
168	B-6	長方形	N-51°-E	1.15	0.55	0.10		205	C-5	楕円形	N-84°-E	(0.80)	0.70	0.09	SK107
169	B-6	不整形	N-85°-W	(0.60)	0.50	0.17		206	E-6	隅丸 長方形	N-16°-W	1.35	0.50	0.14	SK207
170	C-7	長方形	N-77°-E	2.20	0.90	0.31		207	E-6	隅丸 長方形	N-72°-E	1.00	0.75	0.06	SK206
171	C-7	楕円形	N-83°-E	1.20	0.60	0.19		208	C-1	長方形	N-15°-W	1.85	0.60	0.35	SK2より古
172	D-7	隅丸方形	N-19°-W	0.70	0.25	0.25		209	C-2	隅丸 長方形	N-70°-E	2.10	0.60	0.41	SI1
173							SD37と同一	210	C-2	隅丸 長方形	N-59°-E	1.60	0.50	0.15	SK194
174	B-1	隅丸 長方形	N-86°-W	0.90	0.60	0.46		211	D-2	長方形	N-85°-E	(1.30)	1.00	0.34	SK32より古 地下式坑1より 新
175	B-1・2	長方形	N-82°-W	1.05	0.75	0.20		212	D-2	隅丸 長方形	N-74°-E	2.60	1.00	0.22	
176	F-5	隅丸 長方形	N-76°-E	1.35	0.85	0.17		213	B-4	不整形	N-64°-E	(1.80)	1.10	0.14	SK49・113
177	F-5	長楕円形	N-80°-E	2.50	0.55	0.12		214	B-5	楕円形	N-84°-E		0.70	0.08	SK49・113
178	B・C-1	隅丸方形	N-72°-E	1.60	(0.85)	0.30		215	C-5	隅丸長方形	N-22°-W	2.15	0.75	0.36	
179	G-5	長方形	N-13°-W	(2.00)	0.75	0.29	SD43より新 地下式坑3に変更	216	D-5	長方形	N-80°-E	1.75	0.60	0.22	
180								217	D-5・6	長方形	N-66°-E	4.30	0.90	0.15	
181	D・E-6	長方形	N-88°-E	(0.85)	0.90	0.24		218	E-6	長方形	N-76°-E	1.95	0.75	0.31	SK219
182	B-1	楕円形	N-68°-E	(1.40)	1.40	0.29	地下式坑2より 新	219	E-6	長方形	N-70°-E	1.30	0.65	0.15	SK218
183	A-0・1	隅丸 長方形	N-69°-E	2.15	0.80	0.18		220	F-4・5	隅丸長方形	N-75°-E	2.90	0.70	0.06	
184	F-4	長方形	N-16°-W	(1.40)	0.80	0.11	SD23より古	221	E・F-5	長方形	N-24°-W	2.00	0.60	0.41	
185	D-4	長方形	N-14°-W	1.60	0.65	0.27	SD22より古 SK186より新	222	E-5	長方形	N-18°-W	1.80	0.60	0.30	
186	D-4	長方形	N-73°-E	1.05	0.60	0.24	SK185・SD22より古	223	E-5	長方形	N-20°-W	1.65	0.50	0.17	
187	D-4	長方形	N-73°-E		0.70	0.42	SD22より古	224	F-5	長方形	N-14°-W	3.05	0.80	0.15	
188	D-4	隅丸 長方形	N-73°-E	(0.60)	0.60	0.25	SD1	225	C-5	長方形	N-15°-W	3.20	0.95	0.10	

70 も「永」の字画が認められるため寛永通寶と考えられる。新寛永が含まれることから、時期は17世紀末葉以降である。

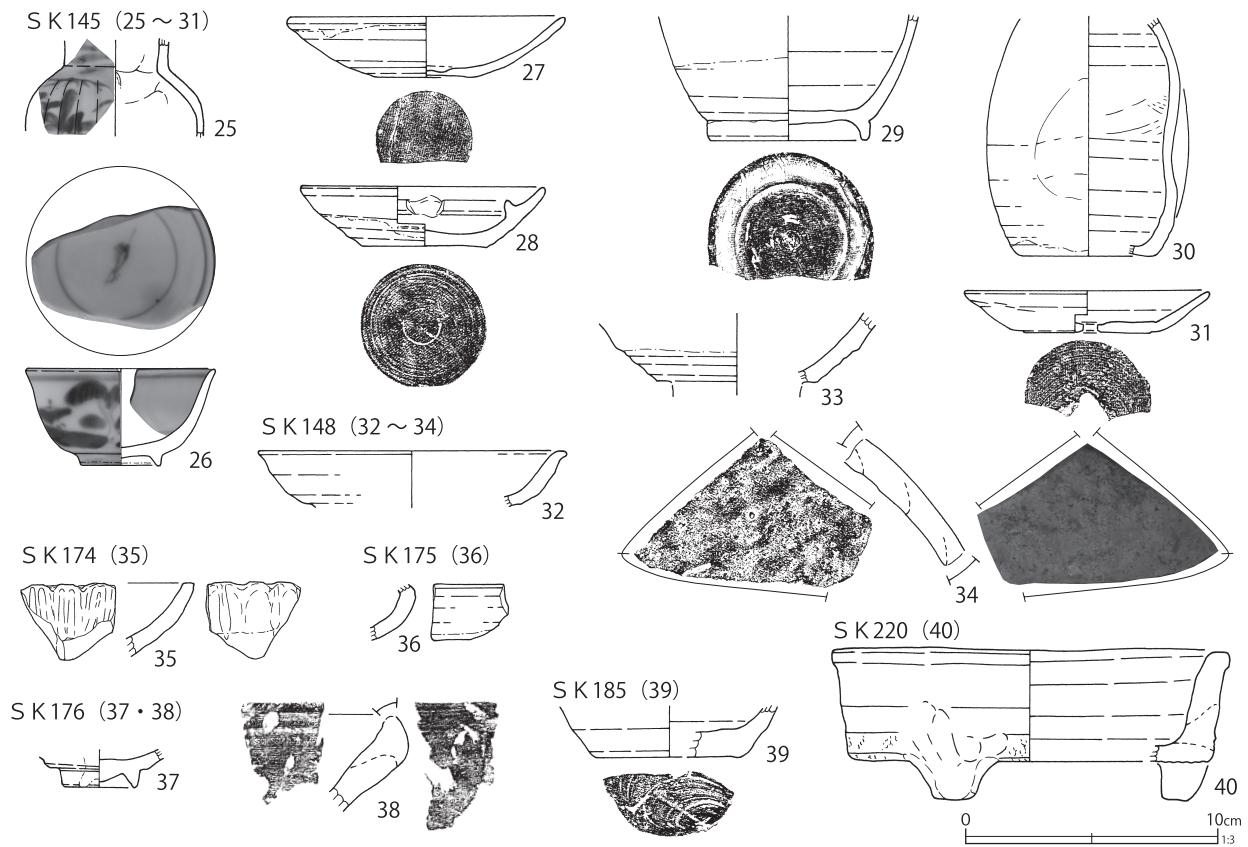
第139号土壙(第87図)

第2次調査区の北壁際、A-2グリッドに位置する楕円形の土壙である。規模は長径5.40m、短

薬師堂遺跡



第91図 土壌出土遺物 (1)



第92図 土壌出土遺物（2）

径2.70m、深さ1.42mと、薬師堂遺跡の中で最も規模の大きい土壌である。長軸方位はN-33°-Eを指し、第35号溝跡に沿う。遺物が多く、板碑も出土している。

第91図15～19は、出土した土器・陶磁器類である。15は青磁碗で、明代のものと推定される。内面に沈線が廻る。18は陶器の擂鉢で、内面に摺目が認められる。胎土の特徴から常滑焼片口鉢と考えられるが、底部に糸切痕が認められる等、やや異質である。色調は赤色味を帯びる。16・17・19は瓦質土器の片口鉢と内耳鍋である。掲載し得なかった遺物もかわらけ・瓦質土器が主体で、15世紀代の遺構と考えられる。

第93図43～第94図50は出土した板碑である。このうち44には応永二十年（1414）の銘文が認められる。裏面・側面が顕著に磨耗しており、砥石として転用されている。他の板碑も概ね14世紀半ばから15世紀前半の時期のものである。46

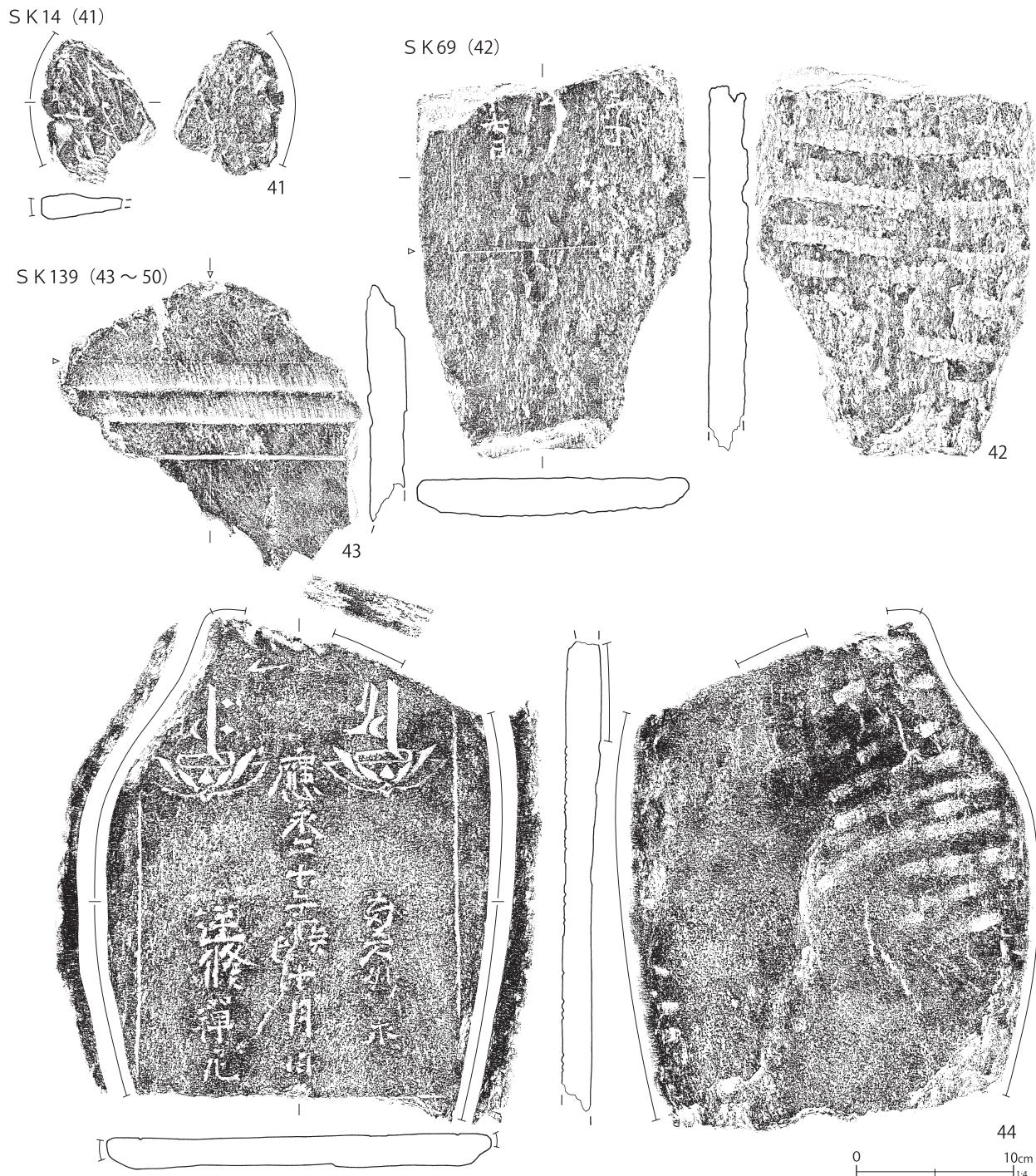
は板碑の台石片と考えられる。今回の調査で出土した唯一の台石である。

第94図56～59は砥石である。56は自然礫の割面を利用したものであるが、他は流紋岩製の定型化した砥石である。58の側面には平ノミ状工具痕が残る。また、57・59の側面にも僅かに工具痕が遺存している。

第142号土壌（第87図）

第2次調査区の北壁際、A-2グリッドに位置し、北側は調査区域外へと続く。平面形は円形と推定される。残存径で長径3.00m、短径1.30m、深さ1.65mを測る。

第91図20～22は、出土した土器・陶磁器である。20はかわらけの口縁部である。21は瓦質土器の甕と考えられる。内外面は丁寧なヨコナデで仕上げられる。胎土は軟質で粉っぽい印象を持つ。胎土に石英・長石の角礫を含んでいる。22は瓦質土器の擂鉢である。内面は斜位のナデを施



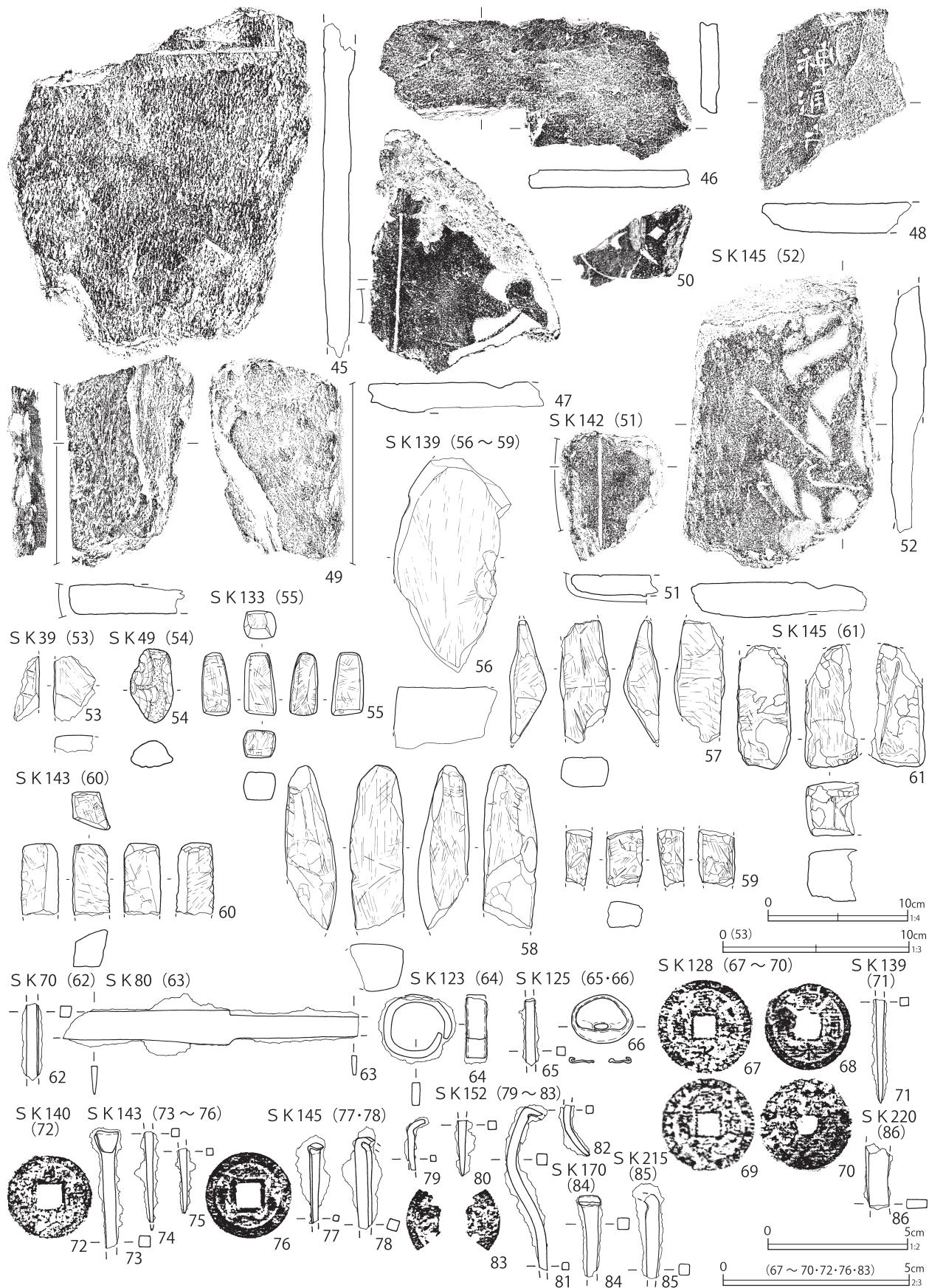
第93図 土壤出土遺物（3）

した後に摺目を刻む。外面の器面調整は粗く、下位のみ斜位のナデが認められる。第94図51は板碑破片で、側面が砥石に転用される。遺物は少ないが、15世紀頃の遺構である可能性が高い。

第145号土壤（第88図）

第2次調査区の北西隅、A-Oグリッドに位置する不整形の土壤である。規模は長径0.90m、短

径0.75m、深さ0.15mを測る。小規模で浅い土壤であるが、覆土には焼土や炭化物を多く含み、遺物も多く出土した。遺物は煤の付着や被熱による変色が見られるものが多い。その一方で、土壤自体には火を焚いた痕跡や、焼土化面等は検出されていない。そこで火災によって発生した廃棄物を一括埋設した遺構と考えられる。



第94図 土壌出土遺物 (4)

第27表 土壌出土遺物観察表 (第91~94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構名	備考	図版
1	陶器	小壺	(1.7)	3.1	(2.8)	HI	20	良好	灰	SK11	古瀬戸 外面灰釉 菊花印花文	33-2
2	陶器	縁釉小皿	—	[0.9]	(5.4)	HI	5	普通	灰白	SK16	古瀬戸 高台内糸切痕 高台灰釉付着 後IV期	35-3
3	磁器(白磁)	皿か	—	[0.8]	—	K	5	良好	白	SK38	中国邵武窯系 底部中央の破片 内外面施釉 15C	34-2
4	陶器	甕	—	[6.0]	—	EGI	5	普通	灰	SK39	上層 湿美系 外面若干の自然降灰 12~13C	36-1
5	陶器	鉢か	—	[2.0]	(9.9)	DK	10	良好	淡黄	SK83	古瀬戸 内面灰釉 見込み部に沈線巡る	35-3
6	かわらけ	小皿	(10.1)	2.6	(6.7)	CHI	15	良好	褐灰	SK88	底部糸切痕(左) 内外面上位煤付着	37-2
7	かわらけ	小皿	9.2	2.6	5.7	CHI	100	良好	暗灰黄	SK96	No.1 底部糸切痕(左) 胎土砂質 口縁部煤付着	33-3
8	陶器	縁釉小皿	(10.1)	2.0	(4.9)	EI	15	普通	灰白	SK108	古瀬戸 口縁部内外面灰釉施釉 底部糸切痕 後IV新期	35-3
9	かわらけ	小皿	(10.2)	[1.9]	—	CHI	10	良好	にぶい黄燈	SK123	No.2 胎土砂質	37-2
10	かわらけ	小皿	—	[2.0]	6.3	I	20	良好	燈	SK123	底部糸切痕(右) 胎土粉質 混入鉱物極めて少量	37-2
11	陶器	擂鉢か	—	[3.4]	—	DE	5	良好	褐灰	SK126	丹波系か 炙器質 内外面とも露胎	33-4
12	陶器	天目茶碗	—	[2.4]	—	IK	5	普通	にぶい黄燈	SK129	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 17C前	35-3
13	陶器	天目茶碗	—	[1.1]	(4.0)	D	15	良好	灰黄褐	SK129	古瀬戸 内面鉄釉 外面鉄化粧 後IV新期	35-3
14	陶器	擂鉢	—	[2.1]	—	EH	5	普通	にぶい燈	SK129	瀬戸美濃系 内外面錫釉	36-1
15	磁器(青磁)	碗	—	[2.2]	—	I	10	良好	明褐灰	SK139	No.7 中国龍泉窯系 内外面青磁釉 15C	34-1
16	瓦質土器	片口鉢	—	[3.7]	—	BDE	5	不良	明褐灰	SK139	No.26 内外面薰す	36-3
17	瓦質土器	片口鉢	—	[2.9]	(11.4)	DE	10	不良	にぶい黄燈	SK139	No.24 底部静止糸切痕 内面使用により摩耗	36-3
18	陶器	擂鉢	—	[3.6]	(12.7)	EGI	10	良好	燈	SK139	No.21 常滑 底部糸切痕(静止か) 内面摺目(一单位7本)	36-1
19	瓦質土器	鍋	—	[5.9]	(19.9)	BEGI	10	普通	褐灰	SK139	No.16 底部シワ状痕(砂目に近い) 外面煤付着	36-3
20	かわらけ	小皿	(10.6)	[1.6]	—	CHI	5	良好	浅黄燈	SK142		37-2
21	瓦質土器	甕	—	[7.4]	—	BCDEHI	5	不良	にぶい黄燈	SK142	下層 内外面薰す	36-3
22	瓦質土器	擂鉢	—	[7.9]	(13.4)	EHIK	10	不良	灰褐	SK142	下層 内面摺目	36-3
23	陶器	甕	—	[7.0]	—	DGI	5	普通	燈	SK144	No.2 常滑	36-1
24	瓦質土器	甕か	—	[4.3]	(13.2)	CHI	10	良好	褐灰	SK144	No.1 底部ナデ 器面虫食い状剥離激しい	36-3
25	磁器	小壺か	—	[3.6]	—	—	15	良好	白	SK145	上層 肥前系 外面施釉 染付 体部に縦鎬を入れ瓜形とする 内面指頭状痕	35-2
26	磁器		(7.3)	3.8	3.1	—	70	良好	白	SK145	上層 瀬戸美濃系 内外面施釉 染付 19C中	33-5
27	陶器	灯明皿	(10.9)	2.4	(3.9)	—	55	良好	灰白	SK145	上層 京都信楽系 内面~外面口縁灰釉 煤付着 19C前	35-2
28	陶器	灯明皿	9.6	2.3	5.0	D	100	普通	灰黄褐	SK145	上層 瀬戸美濃系 内外面鉄釉 煤付着 体部中位重ね焼き痕 19C前	33-6
29	陶器	瓶類か	—	[4.9]	6.0	EH	15	普通	浅黄燈	SK145	上層 瀬戸美濃系か 外面上位灰釉施釉	33-7
30	陶器	徳利	—	[9.3]	(5.2)	DI	30	普通	にぶい黄燈	SK145	上層 瀬戸美濃系 外面柿釉 19C前	35-2
31	かわらけ	小皿	(9.5)	1.6	4.9	HI	30	良好	にぶい燈	SK145	上層 底部糸切痕 中央部焼成後穿孔 外面わずかに煤付着	37-2
32	陶器	皿	(12.0)	[2.2]	—	D	15	普通	浅黄燈	SK148	瀬戸美濃系 内外面長石施釉 17C初(志野丸皿)	35-3
33	陶器	天目茶碗	—	[2.3]	—	K	10	普通	浅黄燈	SK148	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 大窯第4段階	35-3
34	陶器	壺甕類	—	[5.0]	—	DE	5	良好	明褐灰	SK148	常滑 外面自然釉 16C 二次利用(転用砥具)	36-1
35	陶器	皿	—	[2.9]	—	HI	5	普通	灰褐	SK174	瀬戸美濃系 内外面灰釉 17C後~18C初(菊花皿)	35-2
36	陶器	香炉	—	[2.2]	—	GK	5	良好	灰黄	SK175	古瀬戸 外面灰釉 後III~IV期	35-3
37	陶器	小壺	—	[1.4]	3.0	GHK	20	良好	にぶい黄燈	SK176	肥前系 内外面鉄釉 17C前	35-2
38	瓦質土器	片口鉢	—	[3.8]	—	DEI	5	普通	にぶい黄燈	SK176	口縁端部を研磨(転用砥具)	36-3

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構名	備考	図版
39	かわらけ	小皿	—	[2.0]	(5.7)	IJ	30	不良	にぶい燈	SK185	底部糸切痕(右) F-5 内外面ヨコナデ 外面下位シワ状痕をヨコナデ 外底面シワ状痕 脚部貼付	37-2
40	土師質土器	香炉	(15.6)	6.0	(14.4)	CEI	10	普通	褐灰	SK220		33-8
番号	種別	器種	高さ	幅	厚さ	重さ	岩石種		遺構名	備考	図版	
41	石製品	板碑か	[12.7]	[11.6]	1.4	98.3	緑泥片岩		SK14	No.3 転用砥具か 一部被熱 表面に傷状の削り痕あり 側面研磨		
42	石製品	板碑	[24.4]	[17.4]	2.4	1595.5	緑泥片岩		SK69	No.1 銘文「[] 三年 / [] 六日」・梓線・ケガキ線 基部破片 石材に長石粒含む 側縁一部ケズリ 裏面ノミ痕(幅0.95cm)		
43	石製品	板碑	21.8	19.9	2.4	1069.7	緑泥片岩		SK139	No.2 二条線・梓線・種子(キリーグ)・ケガキ線(中軸線) 側縁敲打のみ		
44	石製品	板碑	[32.5]	24.5	2.2	2304.8	緑泥片岩		SK139	No.1 種子(脇待、サ・サク)・蓮座・銘文「南無妙永 / 應永二十年 癸巳 十月日 / 逆修禅尼」裏面ノミ痕(幅0.8cm)一部被熱 側縁転用(砥具)	40-4	
45	石製品	板碑	[25.0]	[22.1]	2.2	1435.3	緑泥片岩		SK139	No.23 梓線 基部破片 側縁は表面側にケズリ 石材に長石含む		
46	石製品	板碑	7.4	22.4	1.2	487.3	緑泥片岩		SK139	No.3 台石 石材に長石含む 側縁敲打のみ		
47	石製品	板碑	19.2	13.8	2.0	556.6	緑泥片岩		SK139	No.9 種子(キリーグ)・梓線 羽刻み 側縁ケズリ、転用(刃ならし痕あり)		
48	石製品	板碑	14.1	11.1	2.15	533.6	緑泥片岩		SK139	No.14 銘文「神通[]」・梓線 側縁ケズリ 上面側縁部面取り		
49	石製品	板碑	[14.5]	[9.3]	2.1	461.7	緑泥片岩		SK139	上層 背面ノミ痕(幅1.0cm)側面転用、研磨(砥具)被熱		
50	石製品	板碑	[0.9]	[0.5]	[0.6]	37.3	緑泥片岩		SK139	上層 種子・月輪 裏面剥離		
51	石製品	板碑	[8.6]	[5.6]	1.5	132.0	緑泥片岩		SK142	梓線・種子(キリーグ) 裏面と側面は転用(砥具)		
52	石製品	板碑	[20.7]	[13.3]	2.5	1082.0	緑泥片岩		SK145	上層 種子(キリーグ・サク)・蓮座 一部ケズリ		
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	岩石種		遺構名	備考	図版	
53	石製品	砥石	[4.6]	[3.0]	[1.9]	18.1	流紋岩		SK39	平ノミ痕 平面形不明 断面形不明 2面遺存 欠損あり(一部残存) 一部被熱 黒色化	38-4	
54	石製品	火打石	3.9	2.2	1.5	13.7	石英		SK49	完形	38-4	
55	石製品	砥石	4.5	2.3	2.0	28.8	流紋岩		SK133	平面長方形 断面隅丸長方形 6面使用 完形	38-4	
56	石製品	砥石	[13.5]	[7.4]	4.75	726.1	—		SK139	No.10 平面不整橢円形 断面形不明 1面使用 欠損あり 自然礫の破面を利用	38-4	
57	石製品	砥石	[8.8]	3.6	2.1	81.5	流紋岩		SK139	上層 平ノミ痕か 平面長方形 断面長方形 表面V字状刃物痕数条 4面使用 一部欠損あり 一部被熱 黒色化	38-4	
58	石製品	砥石	[11.7]	3.9	3.9	172.7	流紋岩		SK139	側縁部平ノミ痕 平面不整長方形 断面台形 側縁部V字状刃物痕数条 3面使用 欠損あり	38-4	
59	石製品	砥石	[4.1]	2.7	1.9	27.7	流紋岩		SK139	下層 側縁部工具痕 平面長方形 断面長方形 表裏面・側縁部V字状刃物痕多数 4面使用 欠損あり	38-4	
60	石製品	砥石	[5.1]	2.7	2.7	50.3	流紋岩		SK143	B-1 平ノミ痕 平面長方形 断面台形 5面使用 欠損あり	38-4	
61	石製品	砥石	8.8	[3.8]	3.9	160.7	流紋岩		SK145	上層 端面平ノミ痕 平面長方形か 断面長方形か 裏面V字状刃物痕1条 3面使用 欠損あり 一部被熱 黒色化	38-4	
番号	種別	器種	径	厚さ	重さ	銭貨名			遺構名	備考	図版	
67	銅製品	銭貨	25.0	2.1	3.2	寛永通寶(新・文錢)			SK128	No.2		38-7
68	銅製品	銭貨	23.0	0.9	1.3	寛永通寶(新)			SK128	No.3		38-7
69	銅製品	銭貨	25.0	2.0	3.4	寛永通寶(新)			SK128	No.4		38-7
70	銅製品	銭貨	24.0	1.4	2.6	寛永通寶か			SK128	No.1		38-7
72	銅製品	銭貨	22.0	1.6	2.1	寛永通寶(新)			SK140	No.1		38-7

番号	種別	器種	径	厚さ	重さ	銭貨名	遺構名	備考	図版
76	銅製品	銭貨	22.0	1.7	2.2	寛永通寶(新)	SK143	No.3	38-7
83	銅製品	銭貨	—	1.4	0.63	—	SK152	破片のみ(2片)	38-7
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構名	備考	図版
62	鉄製品	棒状品	[2.7]	0.4	0.4	2.4	SK70		37-3
63	鉄製品	刀子	[10.6]	刃長 [6.0] 背幅 0.2	刃幅 1.2	13.2	SK80		37-3
64	鉄製品	環状 鉄製品	径 2.5 × 2.1		0.8	5.1	SK123	No.1	37-3
65	鉄製品	棒状品 釘か	[2.4]	0.3	0.3	1.2	SK125		37-3
66	鉄製品	雁首銭	径 2.2 × 1.7		0.1	2.1	SK125		37-3
71	鉄製品	釘か	[3.7]	0.3	0.3	1.1	SK139	No.5	37-3
73	鉄製品	釘	[4.2]	0.4	0.4	3.4	SK143	No.4	37-3
74	鉄製品	釘	[3.2]	0.3	0.3	1.0	SK143	No.4	37-3
75	鉄製品	釘	[2.3]	0.25	0.25	0.5	SK143	No.4	
77	鉄製品	釘	[2.9]	0.2	0.2	2.0	SK145	No.10	37-3
78	鉄製品	釘	[3.3]	0.35	0.35	4.2	SK145	上層	37-3
79	鉄製品	釘	[1.8]	0.2	0.2	0.6	SK152		37-3
80	鉄製品	釘	[2.0]	0.3	0.3	0.5	SK152		37-3
81	鉄製品	釘	[5.8]	0.4	0.4	3.8	SK152		37-3
82	鉄製品	釘	[1.9]	0.25	0.25	0.2	SK152		
84	鉄製品	釘	[2.9]	0.4	0.4	3.1	SK170	C-7	37-3
85	鉄製品	釘か	[3.0]	0.4	0.4	3.0	SK215		37-3
86	鉄製品	棒状品	[2.3]	0.7	0.3	2.1	SK220	F-5	37-3

第92図25～31は出土した土器・陶磁器類である。25は体部を瓜型に成形する磁器である。内面は露胎であり、小型の壺類と考えられる。26は瀬戸美濃系磁器で、口縁部が端反りになる。27は京都信楽系、28は瀬戸美濃系の灯明皿である。29は瀬戸美濃系の瓶類と思われる。外面に黄瀬戸釉に似た灰釉が薄く掛けられる。30は所謂べこかん徳利である。陶磁器の時期は19世紀中葉を下限とするものであり、土壌もこの頃と考えられる。31はかわらけで、やはり近世の所産である。第94図52は板碑片で、14世紀のものである。61は砥石で、小口面に平ノミ状工具痕が残る。

(5) 竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構(第95図)

第1次調査区の北端、C-2グリッドに位置する。第2号井戸跡、第39・91・92・209号土壌よりも古い。他の遺構との重複が激しい。平面形態は不整形もしくは隅丸方形であったと推測される。長径4.00m、短径3.80m、深さ0.17mを測る。

床面はほぼ平坦で、硬化面等は検出されなかった。遺構の中央やや北西寄りにピットが1基掘り込まれていた。規模は長径0.50m、短径0.40m、深さ0.30mを測る。その東側には直径0.60m程の焼土集中箇所が検出された。ピットと重複することから、ピットの埋没後に堆積したものと思われる。

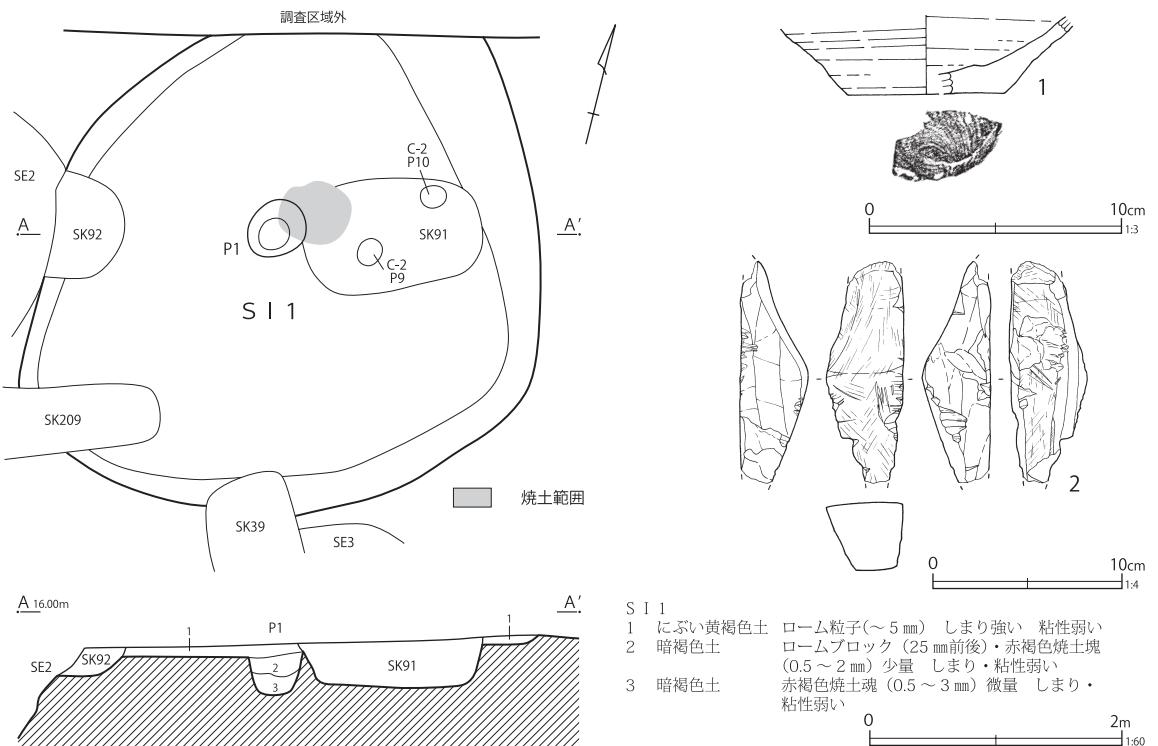
遺物はかわらけと砥石が出土した(第95図)。1はかわらけの小皿である。底部には右回転の糸切痕が残り、胎土は粉質で白色針状物質が含まれる。

2は砥石である。平面は長方形、断面は台形で、長さ11.7cm、幅4.2m、厚さ3.6m、重さ152.6gである。石材には流紋岩が使用され、側縁部には「V」字状の刃物痕が多数残る。被熱により一部黒色化している。

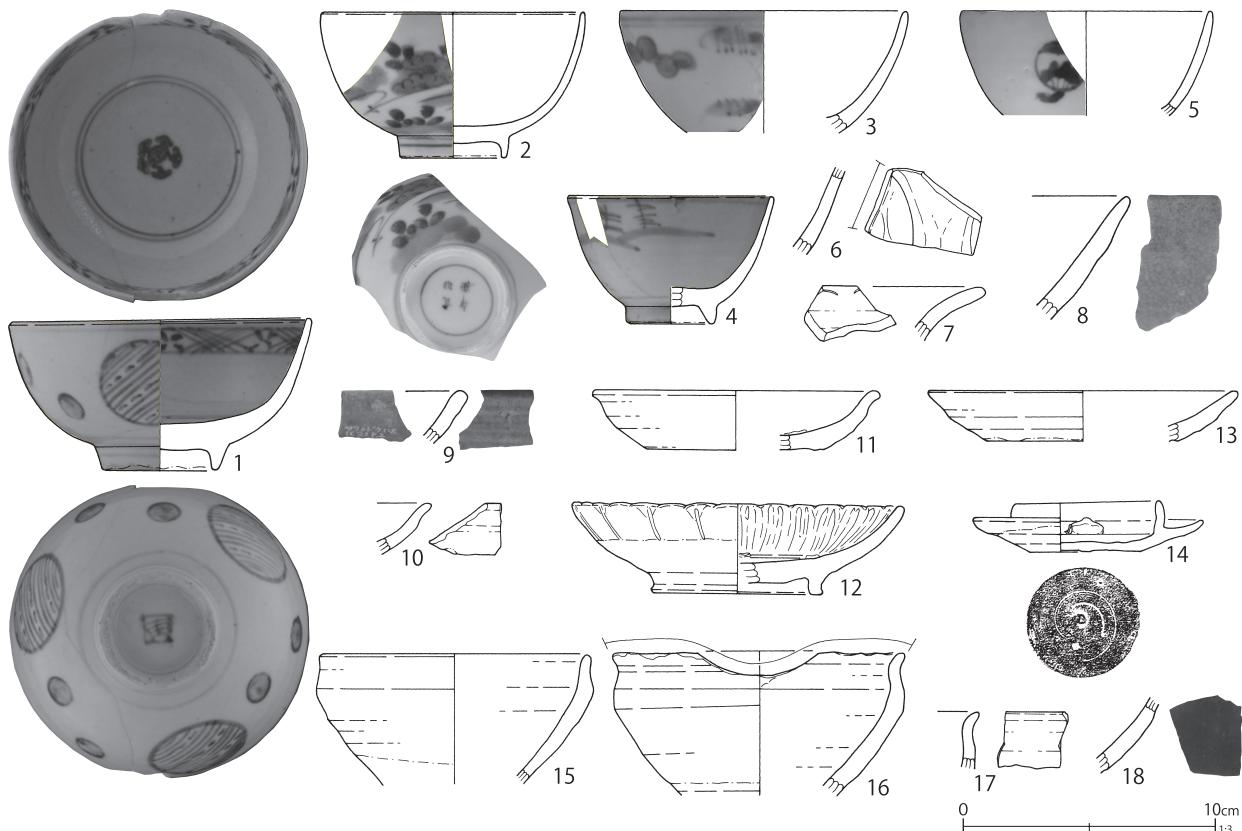
(6) グリッド出土遺物

グリッドから検出した遺物を第96～99図に示した。

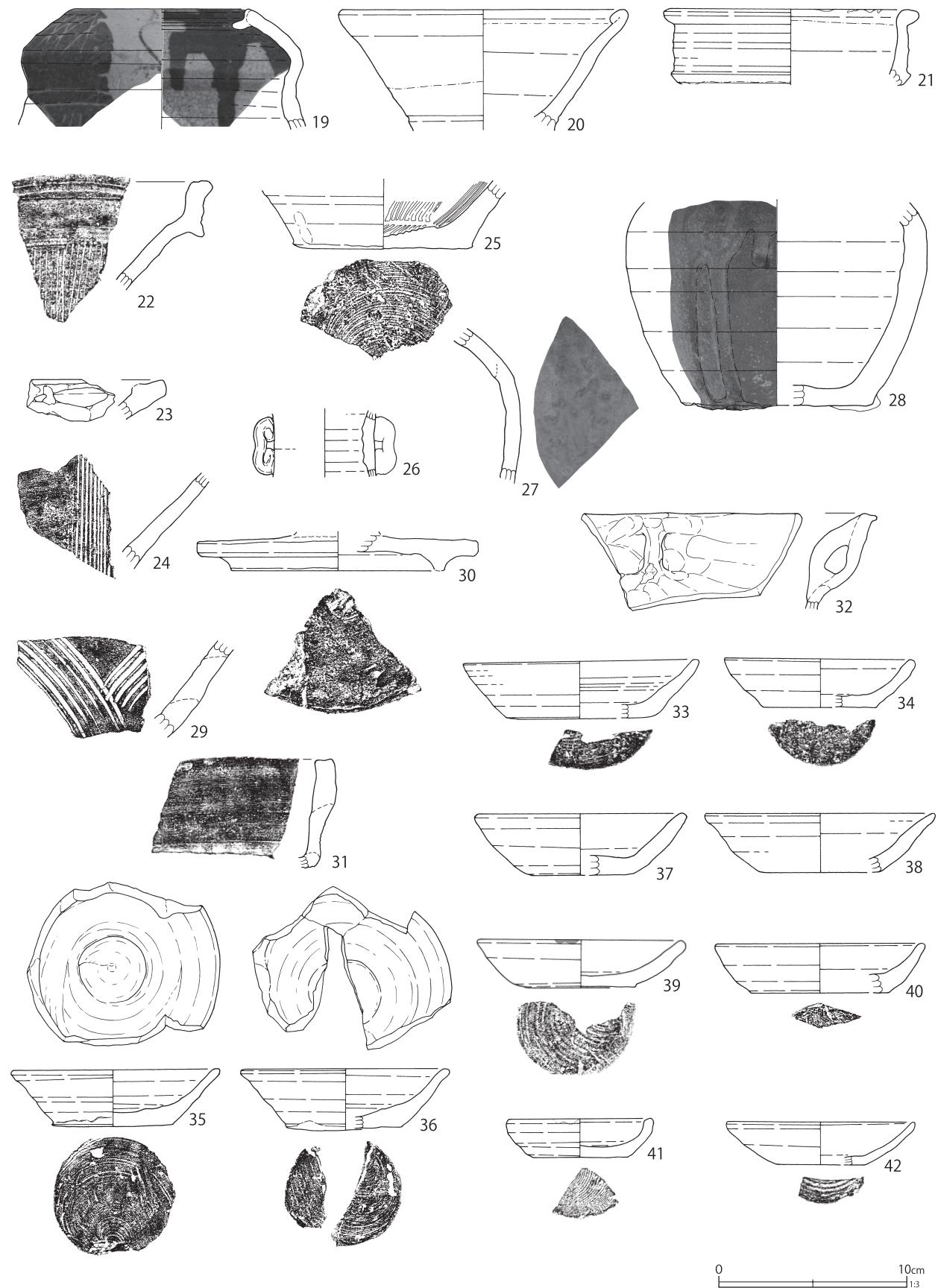
第96・97図は、土器・陶磁器類である。



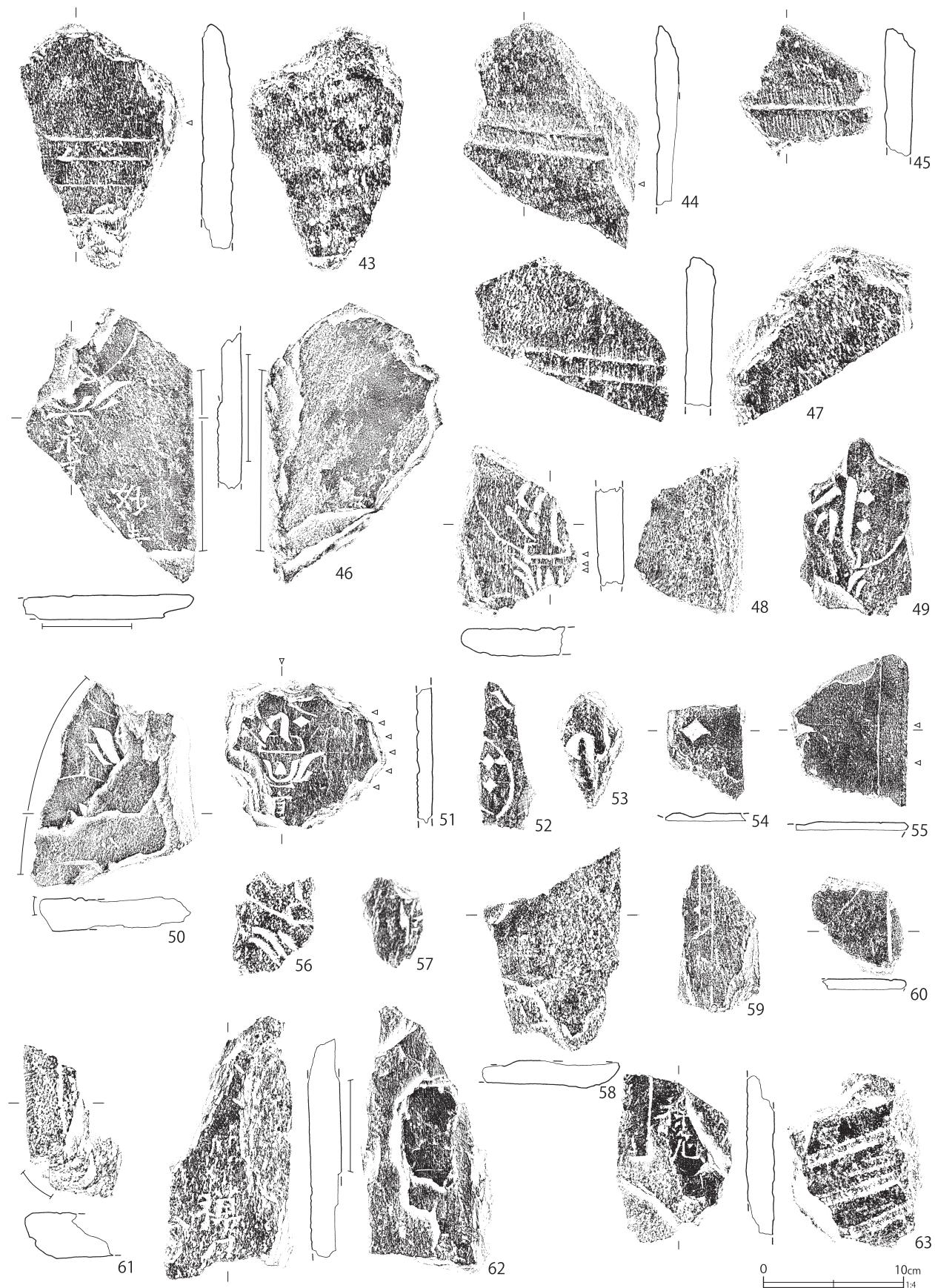
第95図 堅穴状遺構・出土遺物



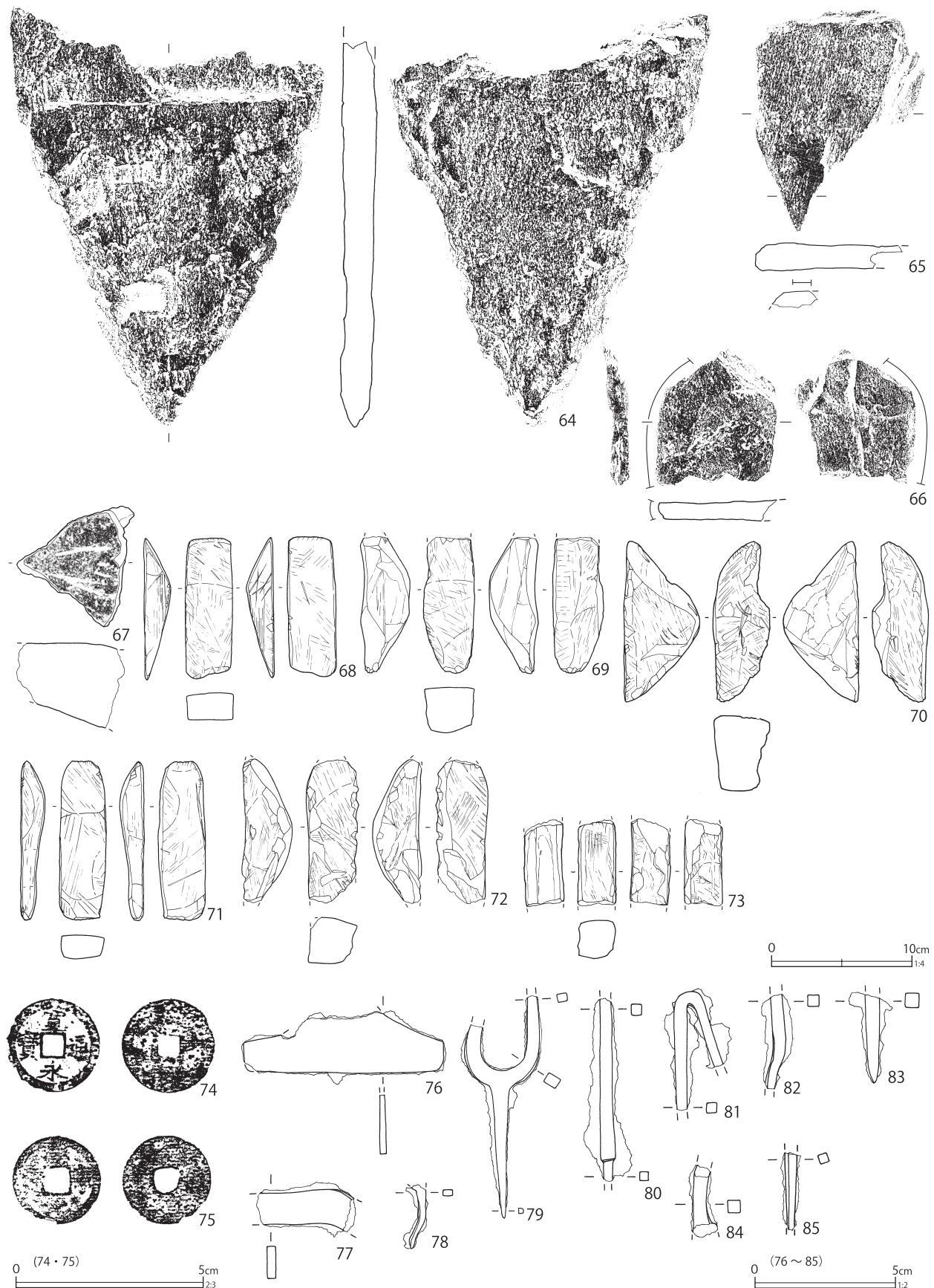
第96図 グリッド出土遺物 (1)



第97図 グリッド出土遺物（2）



第98図 グリッド出土遺物（3）



第99図 グリッド出土遺物 (4)

第28表 グリッド出土遺物観察表（第96～99図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	グリッド	備考		図版
											肥前系 内外面施釉 外面染付 18C中～後	肥前系 内外面施釉 外面染付 高台内「太明年製」17C後	
1	磁器	碗	11.8	5.0	4.5	K	100	良好	灰白	B-2	肥前系 内外面施釉 外面染付 18C中～後	肥前系 内外面施釉 外面染付 高台内「太明年製」17C後	33-10
2	磁器	碗	(10.2)	5.7	4.2	HK	45	良好	白	表採	肥前系 内外面施釉 外面染付 高台内「太明年製」17C後	肥前系 内外面施釉 外面染付 高台内「太明年製」17C後	35-2
3	磁器	碗	(11.3)	[4.8]	—	—	15	良好	白	表採	肥前系 内外面施釉 外面染付 17C後	肥前系 内外面施釉 外面染付 17C後	35-2
4	磁器	碗	(8.1)	5.0	(4.4)	HIK	50	良好	灰白	C-1	肥前系 内外面施釉 外面染付 17C中	肥前系 内外面施釉 外面染付 17C中	33-11
5	陶器	碗	(9.8)	[4.1]	—	—	15	良好	白	A-2	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 19C前	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 19C前	35-2
6	磁器(青磁)	碗	—	[3.5]	—	—	5	良好	灰白	E-4	中国龍泉窯系 内外面青磁釉 13C 破損後底具転用(青磁蓮弁文碗)	中国龍泉窯系 内外面青磁釉 13C 破損後底具転用(青磁蓮弁文碗)	34-1
7	磁器(青磁)	皿	—	[2.1]	—	I	5	良好	灰オリーブ	表採	中国龍泉窯系 内外面青磁釉 14C後～15C(青磁稜花皿)	中国龍泉窯系 内外面青磁釉 14C後～15C(青磁稜花皿)	34-1
8	陶器	平碗	—	[4.9]	—	HI	5	良好	灰白	表採	古瀬戸 内外面施釉 被熱 後III	古瀬戸 内外面施釉 被熱 後III	35-3
9	陶器	平碗	—	[2.1]	—	K	5	良好	灰白	C-2	P2 古瀬戸 内外面灰釉 後期様式	P2 古瀬戸 内外面灰釉 後期様式	35-3
10	陶器	端反皿	—	[2.0]	—	HI	5	普通	淡黄	表採	瀬戸美濃系 内外面灰釉 大窯第1段階	瀬戸美濃系 内外面灰釉 大窯第1段階	35-3
11	陶器	皿	(11.1)	2.3	(7.0)	D	30	普通	明黄褐	B-1	P10 瀬戸美濃系 内外面長石釉 施釉 17C前(志野小皿)	P10 瀬戸美濃系 内外面長石釉 施釉 17C前(志野小皿)	35-3
12	陶器	皿	(12.8)	3.5	(6.5)	H	35	普通	淡黄	B-1	P2 瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C前(菊花皿)	P2 瀬戸美濃系 内外面灰釉 18C前(菊花皿)	35-2
13	陶器	皿	(12.0)	[2.0]	—	I	15	良好	灰白	B-1	P10 肥前系 内外面灰釉施釉 高台部鉄化粧 17C前	P10 肥前系 内外面灰釉施釉 高台部鉄化粧 17C前	35-2
14	陶器	灯明皿	5.8	2.0	4.4	I	90	良好	にぶい燈	B-2	P28 志戸呂系 内外面鉄釉 口 縁部煤付着	P28 志戸呂系 内外面鉄釉 口 縁部煤付着	33-12
15	陶器	天目茶碗	(10.5)	[5.1]	—	EI	15	良好	灰白	B-1	P5 瀬戸美濃系 内外面鉄釉 16C末～17C初	P5 瀬戸美濃系 内外面鉄釉 16C末～17C初	35-3
16	陶器	天目茶碗	(11.4)	[5.7]	—	E	20	普通	にぶい黄燈	表土	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 口縁部 二次利用(転用底具)大窯第4段階	瀬戸美濃系 内外面鉄釉 口縁部 二次利用(転用底具)大窯第4段階	35-3
17	陶器	天目茶碗	—	[2.2]	—	K	5	良好	灰白	表採	瀬戸美濃系 内外面長石釉 17C 前～中(白天目)	瀬戸美濃系 内外面長石釉 17C 前～中(白天目)	33-13
18	陶器	天目茶碗	—	[3.0]	—	—	5	良好	灰白	B-1	P10 古瀬戸 内外面鉄釉 後期 様式	P10 古瀬戸 内外面鉄釉 後期 様式	35-3
19	陶器	水指	(9.0)	[6.3]	—	D	15	良好	灰白	表採	内外面長石釉、鉄釉掛け分け 17C 初～前(志野水指)	内外面長石釉、鉄釉掛け分け 17C 初～前(志野水指)	34-3
20	陶器	煙硝壺	(15.0)	[6.4]	—	EIK	20	良好	浅黄	表採	瀬戸美濃系 外面鉄釉	瀬戸美濃系 外面鉄釉	35-2
21	陶器	香炉	(12.6)	[3.9]	—	GI	10	普通	灰黄	B-4	瀬戸美濃系 内外面鉄釉	瀬戸美濃系 内外面鉄釉	35-2
22	陶器	擂鉢	—	[5.6]	—	DEK	5	良好	褐灰	表採	丹波系 内面摺目(一单位7本以上) 17C後～18C前	丹波系 内面摺目(一单位7本以上) 17C後～18C前	36-1
23	陶器	擂鉢	—	[2.1]	—	DGK	5	普通	にぶい黄燈	表採	古瀬戸系 内外面鉄釉 後IV古期 15C中	古瀬戸系 内外面鉄釉 後IV古期 15C中	36-1
24	陶器	擂鉢	—	[5.0]	—	EI	5	良好	淡黄	表採	古瀬戸 内外面鉄釉 内面摺目 (一单位12本以上)	古瀬戸 内外面鉄釉 内面摺目 (一单位12本以上)	36-1
25	陶器	擂鉢	—	[3.6]	(9.5)	EG	5	普通	にぶい黄燈	A-2	瀬戸美濃系 底部糸切痕 内外面 鉄釉 内面摺目(一单位9本)	瀬戸美濃系 底部糸切痕 内外面 鉄釉 内面摺目(一单位9本)	36-1
26	陶器	花瓶	—	[3.5]	—	GI	5	普通	淡黄	表採	瀬戸美濃系 内外面鉄釉	瀬戸美濃系 内外面鉄釉	35-2
27	陶器	瓶子	—	[8.1]	—	I	5	良好	灰白	表採	古瀬戸 外面灰釉 前期様式	古瀬戸 外面灰釉 前期様式	35-3
28	陶器	壺	—	[10.7]	(10.0)	EIK	40	良好	黄灰	表採	常滑 外面自然釉	常滑 外面自然釉	33-14
29	瓦質土器	擂鉢	—	[5.1]	—	CEI	5	普通	灰白	A-3	還元 内面摺目(一单位5本と7 本以上)	還元 内面摺目(一单位5本と7 本以上)	36-3
30	瓦質土器	蓋	(14.9)	[2.3]	(11.2)	DEHK	20	不良	にぶい燈	B-6	土釜蓋か 酸化焼成 外縁煤付着 上面中央つまみ部が剥離か	土釜蓋か 酸化焼成 外縁煤付着 上面中央つまみ部が剥離か	36-3
31	瓦質土器	焙烙	—	[5.7]	—	CEHI	5	良好	黒褐	表採	底部シワ状痕 外面上位煤付着	底部シワ状痕 外面上位煤付着	36-3
32	瓦質土器	鍋	—	[5.1]	—	BCI	5	普通	にぶい燈	A-3	内耳1遺存	内耳1遺存	36-3
33	かわらけ	小皿	(12.4)	3.1	(8.0)	CHI	20	良好	にぶい燈	A-3	底部糸切痕 胎土粉質 口縁ゆが みあり	底部糸切痕 胎土粉質 口縁ゆが みあり	37-2
34	かわらけ	小皿	(9.8)	2.5	(6.0)	CHI	30	良好	にぶい燈	表採	底部糸切痕後、板状圧痕 胎土砂 質	底部糸切痕後、板状圧痕 胎土砂 質	37-2
35	かわらけ	小皿	(10.8)	3.0	6.5	CDGHJ	70	良好	燈	表採	底部糸切痕(右)、板状圧痕をナ デ消し	底部糸切痕(右)、板状圧痕をナ デ消し	33-15
36	かわらけ	小皿	(10.8)	3.3	6.2	IJ	70	良好	燈	表採	底部糸切痕(右) 胎土粉質	底部糸切痕(右) 胎土粉質	33-16
37	かわらけ	小皿	(10.8)	3.3	(5.0)	HI	20	普通	浅黄燈	B-1	底部糸切痕(摩耗) 胎土粉質	底部糸切痕(摩耗) 胎土粉質	37-2
38	かわらけ	小皿	(12.0)	3.1	(6.4)	HI	10	普通	燈	A-1	胎土粉質	胎土粉質	37-2
39	かわらけ	小皿	10.7	2.6	5.8	CHI	45	良好	浅黄燈	A-1	底部糸切痕 胎土砂質	底部糸切痕 胎土砂質	33-17
40	かわらけ	小皿	(10.9)	2.6 (～ 2.9)	(7.4)	CHIK	10	普通	にぶい黄燈	表採	底部糸切痕(右) 胎土砂質 口	底部糸切痕(右) 胎土砂質 口	37-2
41	かわらけ	小皿	(7.6)	2.0	(5.0)	CEHI	25	良好	にぶい燈	表採	縁部ゆがみあり 煤付着	縁部ゆがみあり 煤付着	37-2
42	かわらけ	小皿	(9.9)	2.2	(4.7)	EHI	20	普通	にぶい燈	B-1	底部糸切痕 内面煤付着	底部糸切痕 内面煤付着	37-2

番号	種別	器種	高さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	グリッド	備考	図版
43	石製品	板碑	[18.3]	[11.2]	2.2	627.0	緑泥片岩	表採	二条線・枠線・ケガキ線 裏面ノミ痕(幅0.9cm) 全面被熱(煤付着) 側縁一部ケズリ	
44	石製品	板碑	[17.5]	[12.4]	1.6	455.8	緑泥片岩	表採	二条線・ケガキ線 全面被熱(煤付着) 側縁ケズリ 裏面被熱により大きく剥離	
45	石製品	板碑	[10.2]	[9.1]	2.0	259.4	緑泥片岩	表採	一括 二条線 側縁部敲打 一部ケズリ 面取りあり	
46	石製品	板碑	[22.0]	[12.2]	1.7	670.7	緑泥片岩	表採	月輪・蓮座・銘文「妙口/永享[]」 側縁ケズリ後ミガキ(転用時の研磨の可能性あり) 裏面転用(砥具)	40-8
47	石製品	板碑	[13.1]	[13.6]	1.9	434.3	緑泥片岩	表採	二条線 側縁ケズリ 石材に長石含む 裏面ノミ痕あり(幅1.1cm)	
48	石製品	板碑	[18.0]	[8.6]	1.95	314.3	緑泥片岩	B-3	P19 種子(キリーグ)・月輪・蓮座・ケガキ 石材に長石粒含む 破損部転用・削痕(砥具)	
49	石製品	板碑	[12.8]	[8.0]	[0.9]	118.9	緑泥片岩	A-1	種子(キリーグ)・月輪・連座	40-5
50	石製品	板碑	[15.3]	[11.7]	2.25	607.0	緑泥片岩	A-3	一括 月輪・蓮座・種子(脇侍) 石材に磁鉄鉱含む 表面被熱 破損部転用(砥具)	
51	石製品	板碑	[15.4]	[11.3]	1.0	209.3	緑泥片岩	表採	一括 種子(キリーグ・異体字)・蓮座・銘文「享[]」・ケガキ線 裏面剥離	40-6
52	石製品	板碑	[11.0]	[4.2]	[0.8]	53.5	緑泥片岩	B-3	種子(脇侍)・連座・月輪 裏面剥離	
53	石製品	板碑	[8.3]	[4.6]	[1.0]	46.7	緑泥片岩	表採	種子の一部か 裏面剥離	
54	石製品	板碑	[8.2]	[5.8]	0.6	41.3	緑泥片岩	表採	種子 表面被熱 石材に黄鉄鉱含む 裏面剥離	
55	石製品	板碑	[11.9]	[8.3]	0.5	93.0	緑泥片岩	表採	一括 蓮座・枠線・ケガキ線 裏面剥離 表面被熱 側縁面取り、ケズリ	40-7
56	石製品	板碑	[7.6]	[6.0]	[6.7]	42.3	緑泥片岩	表採	種子・蓮座 裏面剥離	
57	石製品	板碑	[6.8]	[4.5]	[0.8]	30.5	緑泥片岩	表採	銘文の一部か 裏面剥離	
58	石製品	板碑	[16.6]	[9.7]	1.65	362.7	緑泥片岩	表採	蓮座 石材に黄鉄鉱含む 側縁敲打 一部ケズリ	
59	石製品	板碑	[10.7]	[5.9]	[1.4]	129.0	緑泥片岩	B-3	No.1 枠線(二重) 裏面剥離	
60	石製品	板碑	[8.6]	[6.9]	[0.7]	62.1	緑泥片岩	表採	枠線・月輪 側縁ケズリ 裏面剥離	
61	石製品	板碑	[11.8]	[6.4]	3.2	173.3	緑泥片岩	表採	枠線 石材に長石粒含む 破損部転用(砥具) 側縁面取り、敲打、ケズリ	
62	石製品	板碑	[19.4]	[9.8]	2.2	558.4	緑泥片岩	表採	銘文「[] 禅口(尼カ)」の一部 石材に黄鉄鉱含む 側縁敲打、一部ケズリ 裏面転用・削痕(砥具) 全面被熱(煤付着)	
63	石製品	板碑	[13.5]	[8.8]	1.9	322.7	緑泥片岩	表採	銘文「禅尼」・枠線 石材に磁鉄鉱含む 一部被熱(赤化) 裏面ノミ痕(幅0.9cm)	
64	石製品	板碑	[30.0]	22.2	2.5	2020.8	緑泥片岩	A-0	基部・枠線 石材に長石含む 表裏面ノミ痕(幅1.2cm) 表面被熱 側面敲打 ヤアナ状痕3ヶ所	
65	石製品	板碑	[16.5]	[11.8]	1.95	443.0	緑泥片岩	A-3	一括 基部 全面被熱(煤付着) 転用(砥具) 二次的な打ち割りあり 側縁ケズリ	
66	石製品	板碑	[9.5]	[8.6]	1.35	211.7	緑泥片岩	表採	一括 側縁一部ケズリ 転用砥具	
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	岩石種	グリッド	備考	図版
67	石製品	石臼 (下臼か) 砥石	[8.6]	[8.3]	6.1	224.3	多孔質安山岩	表採	上面摺目、使用により摩耗 下面摩耗(二次利用か) 欠損あり	38-5
68	石製品	砥石	9.9	3.4	1.9	84.7	流紋岩	表採	調査区北壁 ノコギリ痕か 平面長方形 断面長方形 裏面V字状 刃物痕1条 5面使用 完形	38-5
69	石製品	砥石	[9.6]	3.6	3.5	143.6	流紋岩	B-1	P10 平ノミ痕 平面長方形 断面長方形 裏面V字状刃物痕2条 2面使用 一部欠損	38-5
70	石製品	砥石	11.4	4.0	5.4	215.4	流紋岩	B-1	一括 側縁部平ノミ痕 平面長方形 断面長方形 表面V字状刃物痕数 条4面使用 完形	38-5
71	石製品	砥石	[11.3]	3.4	1.7	85.5	流紋岩	B-1	P3 側縁部平ノミ痕 平面長方形 断面長方形 裏面V字状刃物痕数 条4面使用 ほぼ完形	38-5
72	石製品	砥石	[10.2]	3.8	3.5	136.7	流紋岩	E-5	P1 平面不整長方形 断面不整台 形5面使用 一部欠損 一部被 熱 黒色化	38-5
73	石製品	砥石	[6.1]	2.2	2.8	72.2	流紋岩	表採	一括 丸ノミ痕 平面長方形 断 面方形 裏面V字状刃物痕1条 3面使用 欠損あり	38-5

番号	種別	器種	径	厚さ	重さ	銭貨名	グリッド	備考	図版
74	銭貨	銅銭	24.0	1.7	3.15	寛永通寶(古)	B-1	P12 No.1	38-7
75	銭貨	銅銭	23.0	1.5	3.05	熙寧元寶(北宋 1068年)真書	表土	一括	38-7
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	グリッド	備考	図版
76	鉄製品	火打金か	7.1	[2.1]	0.2	15.6	C-1	P1	37-3
77	鉄製品	不明品	[3.5]	1.1	0.3	6.8	B-1	P4	37-3
78	鉄製品	釘	[2.3]	0.35	0.2	0.7	G-5	P2	37-3
79	鉄製品	不明品	[7.8]	0.5	0.4	9.6	C-5		37-3
80	鉄製品	不明品	[6.4]	0.4	0.4	6.8	B-1	一括	37-3
81	鉄製品	不明品	[4.2]	0.35	0.35	6.3	B-2	P2	37-3
82	鉄製品	釘か	[3.4]	0.4	0.4	3.8	表土	調査区西壁	37-3
83	鉄製品	釘か	[3.1]	0.5	0.5	2.9	表土	調査区西壁	37-3
84	鉄製品	釘か	[2.5]	0.45	0.45	2.4	表土	調査区西壁	37-3
85	鉄製品	釘	[2.7]	0.3	0.3	1.6	表土		37-3

1～4は肥前磁器である。1は肥前波佐見系の粗製碗である。2は梅樹文碗で、高台はシャープに作られている。18世紀前葉に比定される。3はやや厚手の碗で体部には淡い水色の呉須で絵付けが施される。4は小型の碗であり、青色の呉須で山水文が描かれる。いずれも17世紀後半の所産である。

6・7は龍泉窯系青磁で、6が連弁文碗、7が稜花皿である。

8～28は陶器である。8・9は古瀬戸系陶器平碗である。8は被熱により釉薬が発泡している。10は大窯期の瀬戸美濃系陶器である。大窯1段階の端反皿と考えられる。調査区における大窯段階の陶器は極めて少なく、小皿類はほとんど出土しなかった。11は志野皿である。長石釉が厚く施釉され、高台もほとんど突出しない。12は瀬戸美濃系陶器の菊皿である。13は肥前系陶器の皿類である。内外面に濁った白色の釉が施される。14は志戸呂系陶器の灯明皿である。15～18は瀬戸美濃系陶器の天目茶碗である。16は口縁部が砥具に転用される。17は光沢の強い平滑な長石釉を施釉する。19は志野水指と考えられ、長石釉と鉄釉を掛け分ける。水指としたが、水注の可能性もある。第1号井戸跡(第54図3)と第3号地下式坑(第75図13)から出土した底部破片は、これと同一個体である可能性が高い。20・21・26

は近世の瀬戸美濃系陶器である。22～25は擂鉢で、22が丹波系、他は瀬戸美濃系陶器である。27は古瀬戸瓶子の肩部、28は常滑焼の小型壺である。

29～42は在地系土器である。30は瓦質土器釜形土器の蓋と考えられ、つまみが剥がれたような痕跡も認められる。33～42はかわらけである。

第98・99図43～66は板碑の破片である。43～46は頭部の山形と二条線が残る。45は側縁部の表面側に面取りがみられる。46・48～56は種子・蓮座の一部が遺存する資料である。46は銘文「永」と、続く文字の残画から永享(1429～41)の紀年銘を持つものと考えられる。51は「享」の残画と思われ、享徳(1452～54)ないしは享禄(1528～31)の紀年銘の一部と考えられる。62・63は銘文の一部、「禅尼」が認められる。64は基部の破片である。65・66は板碑以外の石製品の可能性もある。65は表面に砥面としての使用痕がある。側面の一部は斜めに切断されている。66は側縁部を砥石として利用したものである。

第99図67は安山岩製の石臼である。下臼と思われるが、下面が大きく抉れており、別の用途に転用された可能性もある。

第99図68～73は砥石である。流紋岩製であり、大部分は砥沢産と考えられる。

第99図74～85は金属製品である。74・75は銅錢で、寛永通寶と熙寧元寶である。

VII 石神遺跡の調査

1. 調査の概要

石神遺跡は上尾市と桶川市の境を流れる江川左岸に位置し、標高約 15～16m の台地上平坦面に立地する。

石神遺跡の調査では縄文時代の土壙 3 基、奈良・平安時代の住居跡 6 軒、掘立柱建物跡 1 棟、中・近世の井戸跡 5 基、溝跡 15 条、火葬遺構 2 基、土壙 109 基、柵列跡 1 列を検出した（第 101 図）。

縄文時代の土壙から、前期の土器が出土している。グリッドからも前期の土器を多く検出しているため、周辺に同時期の遺跡が存在すると考えられる。

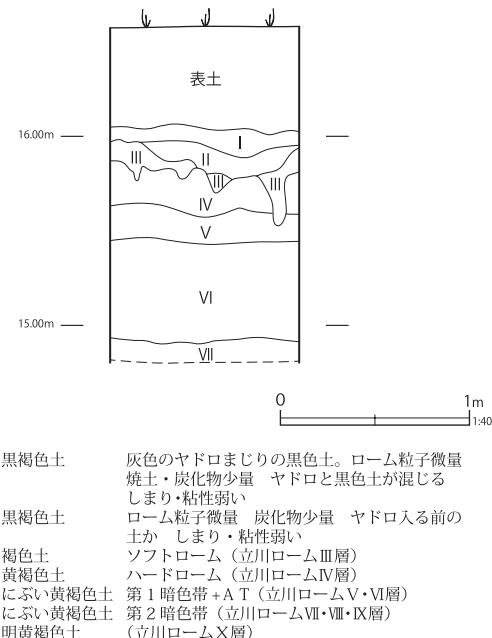
奈良・平安時代の遺構は調査区全域に分布する。住居跡には平面形態が方形で小型のものと、長方形で大型のものがあり、カマドは基本的に北壁に設けられる。8世紀後半～末の「物」や「口部壊」と判読できる墨書き土器と、コップ形土器が出土している。

近接する石神 III 遺跡では 8 世紀中頃、中井遺跡は 8 世紀後半の住居跡が検出されているが、両遺跡に挟まれた石神遺跡では 8 世紀後半の住居跡が主体となっている。1 棟検出された掘立柱建物跡は、出土遺物はないが、隣接する住居跡と建物の方向を揃えていることから、同時期と考えられる。

中・近世の遺構は、調査区の北側に分布する。特に北西部に集中し、方向を揃えていることから同時期と考えられる。中・近世の遺構方向は、現

在のものとは異なり、中・近世の地割は西に振れていた。土壙の集中箇所には方形で底面に壁溝状の溝が廻る土壙があり、耕作に伴うムロと考えられる。これらの土壙の南北は溝跡によって区画されている。

基本土層は第 100 図に示した。表層には近世以降の耕作客土の「ヤドロ」が厚く堆積する。遺構はローム層の上面から検出された。第 I ・ II 層が近世の耕作土、第 III 層がソフトローム、第 IV 層がハードローム、第 V 層が第 1 暗色帯、第 VI 層が第 2 暗色帯、第 VII 層がハードロームで、武蔵野台地標準層位（III～X 層）に概ね相当する。



第 100 図 基本層序

2. 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構は、土壙が 3 基検出された。点在し、分布に規則性は認められない。

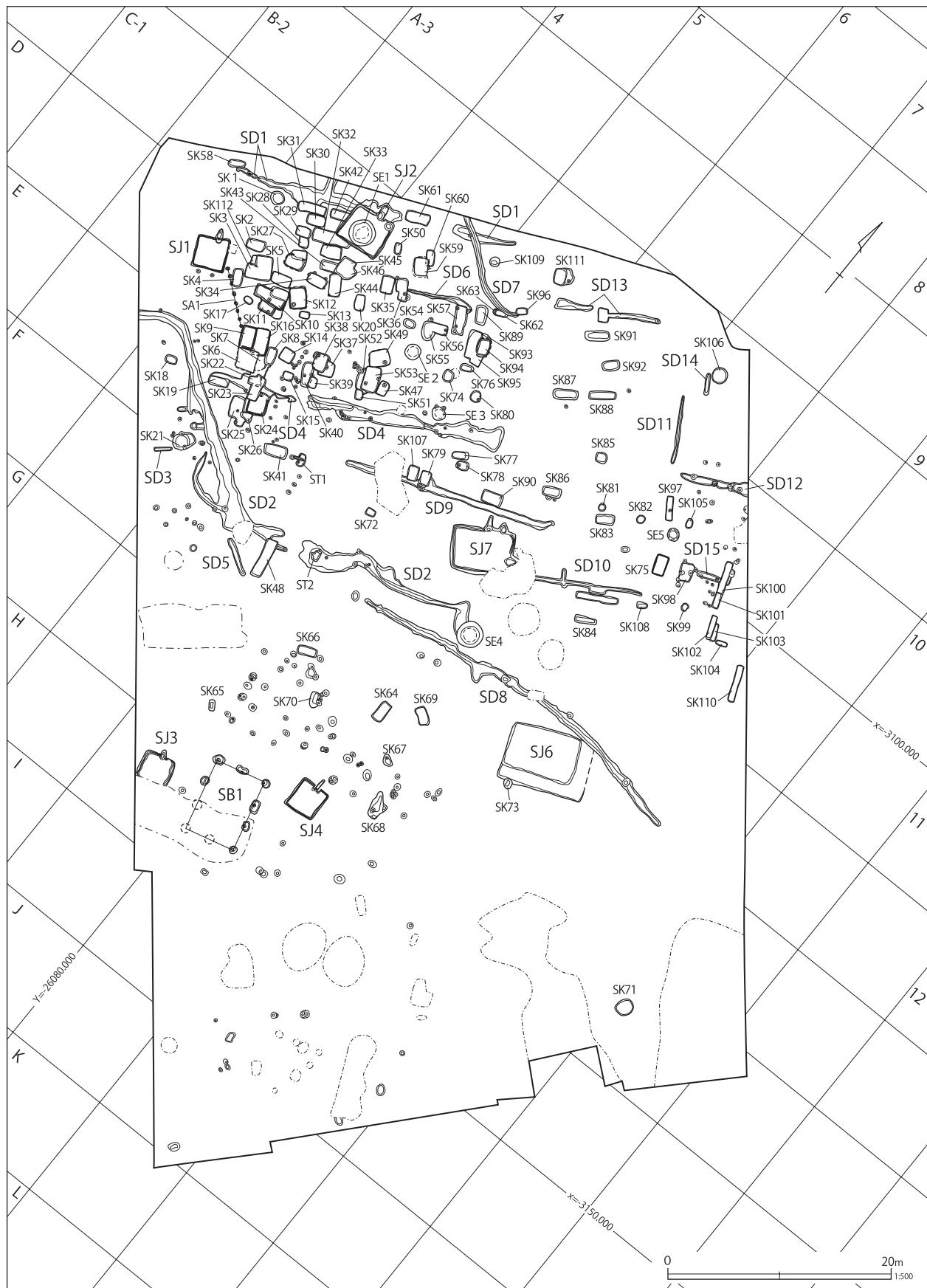
（1）土壙

第 1 号土壙（第 102 図）

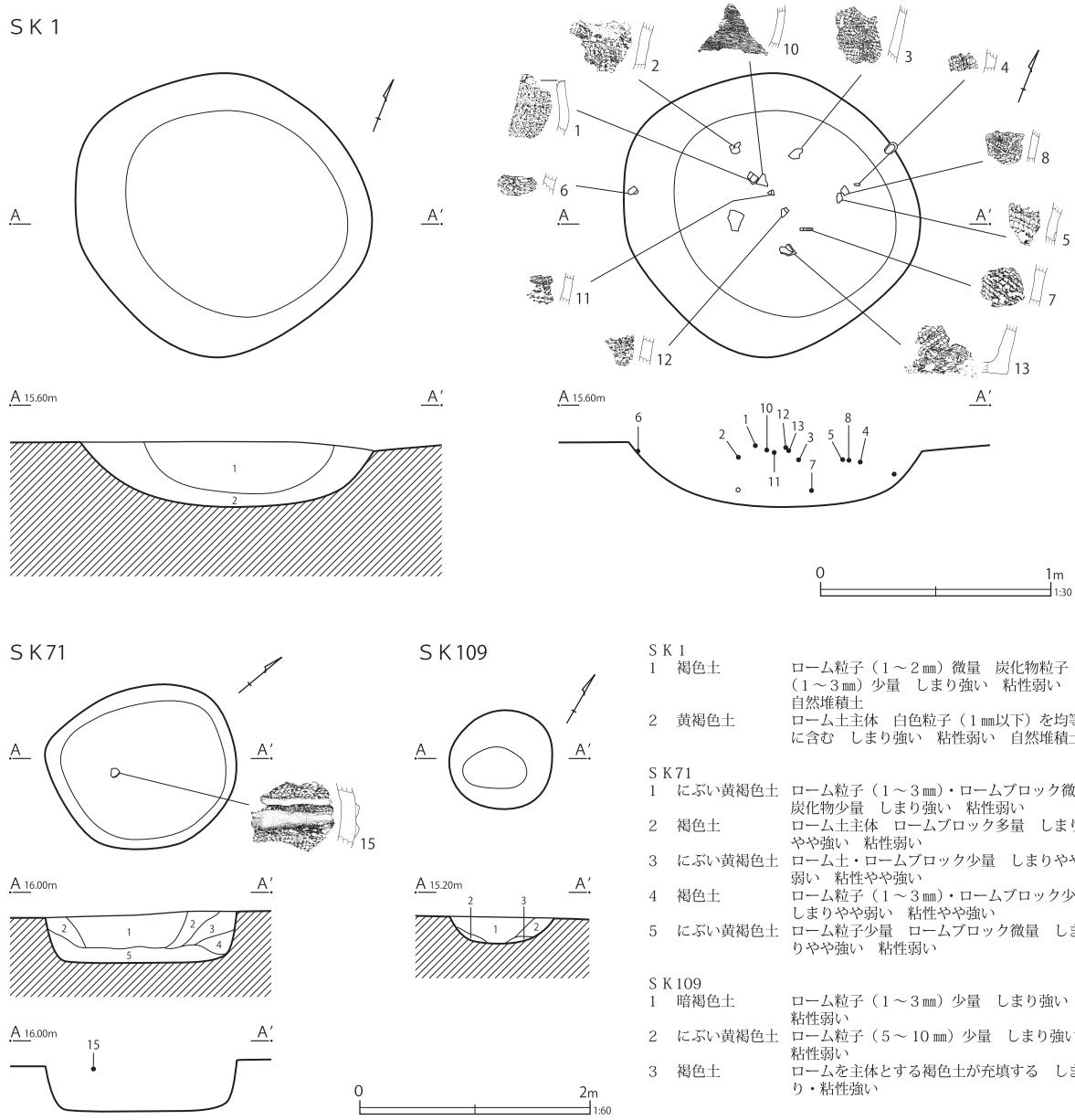
C-3 グリッドに位置する。縄文時代前期の土

器が出土している。平面形態は橢円形で、規模は長径 1.21m、短径 1.19m、深さ 0.29m を測る。

出土した遺物は、纖維を含む黒浜式土器と思われる（第 103 図 1～13）。1 は口縁部破片、13 は底部破片、他は胴部破片である。2～4 は貝殻背压痕文、5～7・11・12 は斜縄文、8 は無節



第101図 全体図



縄文、9は撚糸文、10は無文土器である。

第 71 号土壌 (第 102 図)

G-10 グリッドに位置する。平面形態は橢円形で、規模は長径 1.60m、短径 1.42m、深さ 0.44m を測る。

遺物は前期の黒浜式土器 (第 103 図 14) と、中期の加曾利 E III 式土器の口縁部破片 (15) が出土している。

第 109 号土壌 (第 102 図)

B-4・5 グリッドに位置する。縄文時代前期

の土器が出土している。平面形態は円形で、規模は長径 0.89m、短径 0.85m、深さ 0.22m を測る。

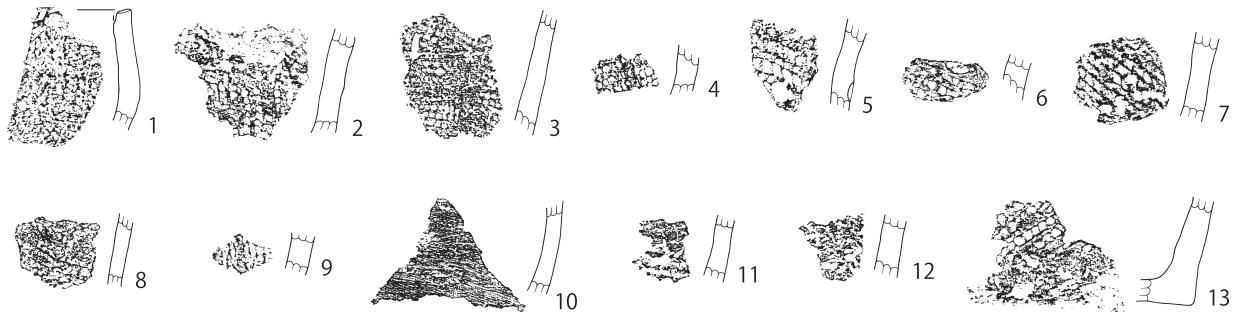
出土遺物の第 103 図 16・17 は黒浜式土器で、16 は口縁部、17 は胴部破片である。いずれも異段の反撚、若しくは付加条の縄が施文される。

(2) グリッド出土遺物 (第 104 ~ 107 図)

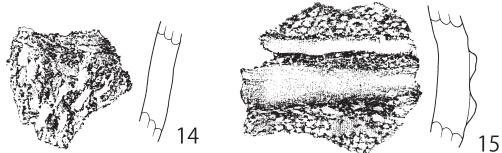
第 I 群土器 (1 ~ 42)

縄文時代前期の土器群を一括する。1 ~ 39 は繊維を含む黒浜式土器で、1 ~ 7 は併行する平行

SK 1 (1 ~ 13)



SK 71 (14・15)



SK 109 (16・17)



0 10cm 1:3

第 103 図 土壤出土遺物

沈線でモチーフが描かれ、8は幾何学文、9は鋸歯状文が描かれる。18は爪形文で区画文が描かれる。10～14は無文の口縁部破片で、16・17・19～36は単節や無節の斜縄文や羽状縄文が施されるもので、34は付加条羽状縄文、37は貝殻背圧痕文が施文される。38・39は底部破片である。

40は無纖維土器の諸磯a式土器の口縁部破片である。

41・42は前期終末の十三菩提式土器で、41は波状口縁を呈し、42は集合沈線文土器で部分的に小さな三角印刻が施される。

第Ⅱ群土器 (43～64)

縄文時代中期の土器群を一括する。43は隆帯脇に平行結節沈線を施す勝坂式である。

44～64は中期後半の加曾利E式土器である。44・45・48はキャリパー系土器の口縁部破片で、49～51は胴部破片ある。加曾利E II式～III式に比定されよう。47～60は磨消縄文で渦巻文や懸垂文が施文される土器である。64は微隆起線で磨消懸垂文が描かれる胴部破片である。61～63は縄文・条線文が施されるのみの破片である。

第Ⅲ群土器 (65～67)

後期の土器群を一括する、65は称名寺II式の把手の破片である。66は堀之内I式の胴部破片と思われる。67は加曾利B II式の鉢形土器の口縁部破片と思われる。

石器 (第 105～107 図)

68は原石である。黒曜石の角礫である。

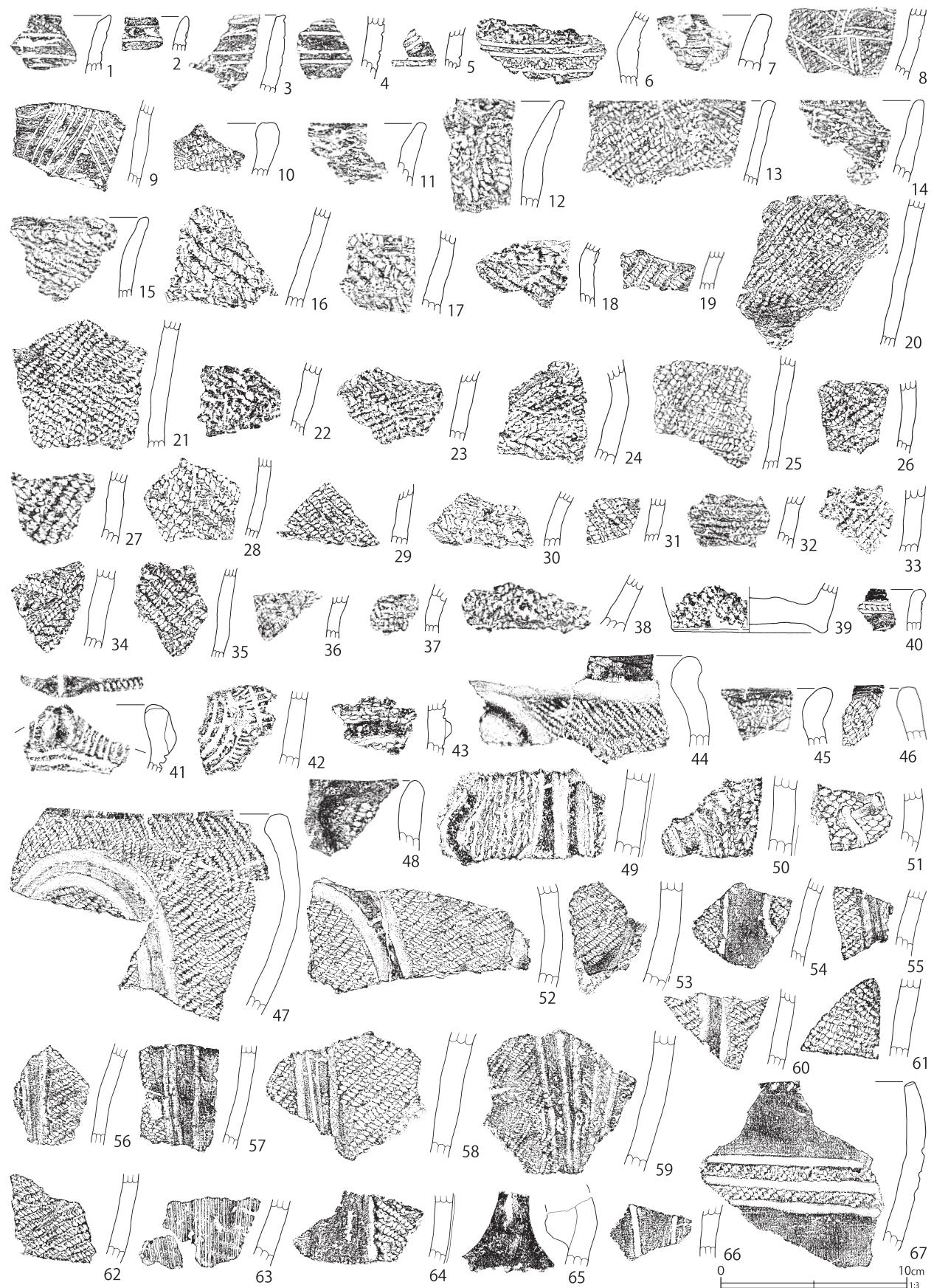
69は磨製石斧である。上半部を欠損する。両側縁には側面を有しない。横断面はレンズ状を呈す。

70・71は打製石斧である。70は偏平の礫を素材に、周辺に剥離加工が施されている。刃部は急傾斜の細かい剥離によって直刃状に整形されている。71は上半部と右側縁の一部を欠損する。現状から分銅形に近い形状になると思われる。正面は原石面、裏面に分割面が大きく残される。調整加工は周縁から施されている。

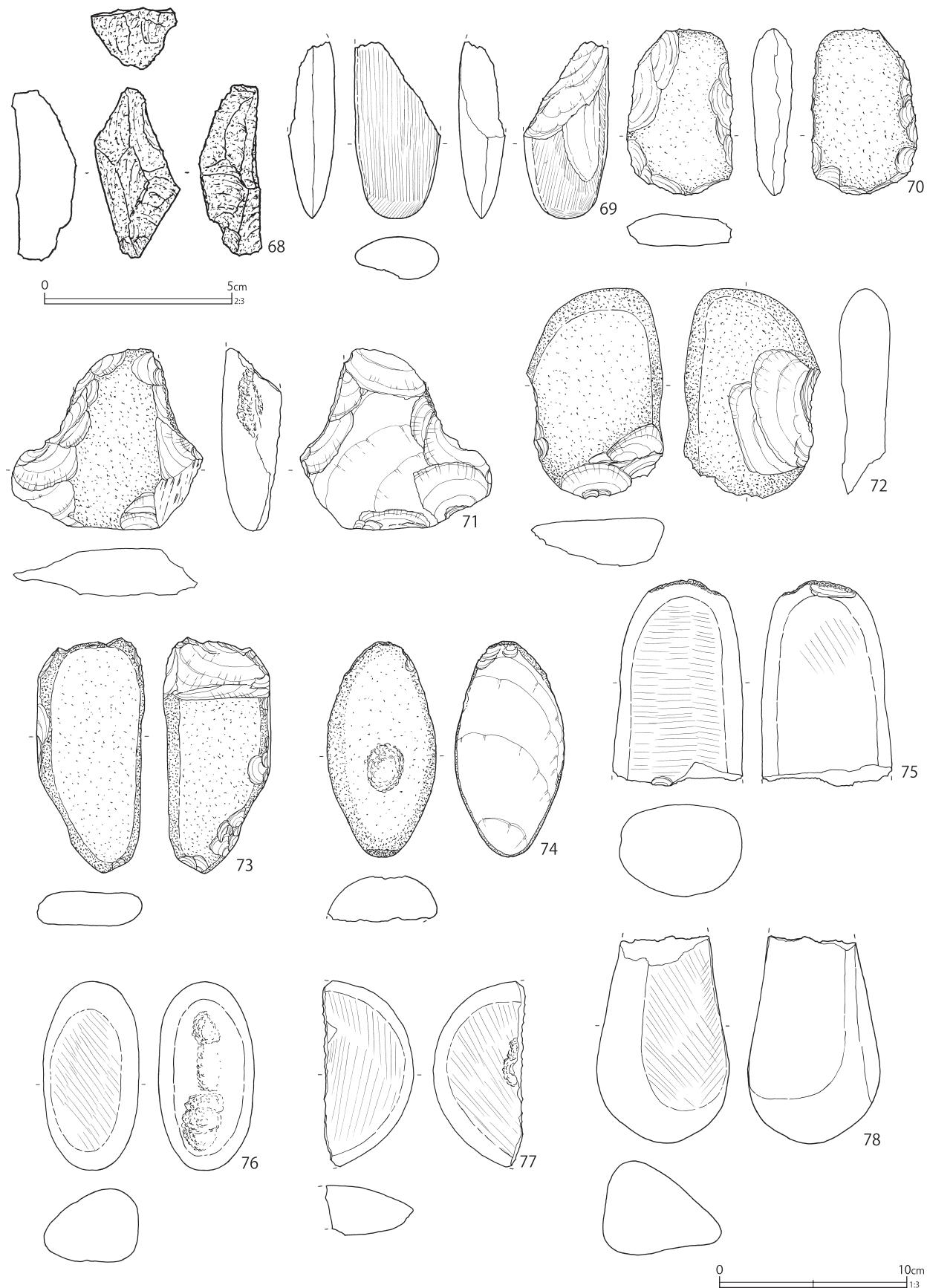
72・73は礫器である。74・75は敲石である。

76～86は磨石である。

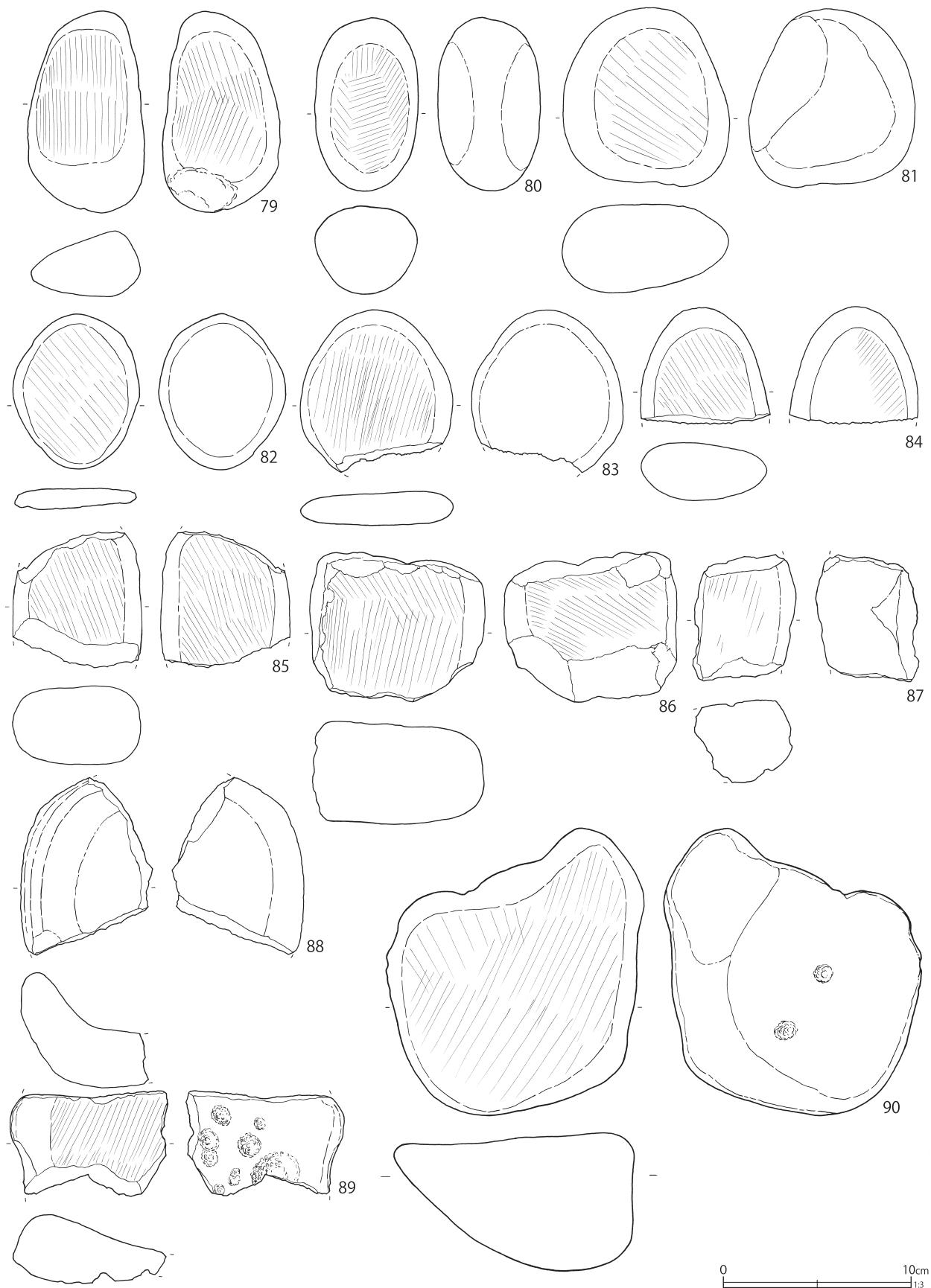
87～92は石皿である。88は皿部が深く、石皿より石製の容器のように思われる。89・90・92は裏面に凹部がみられる。



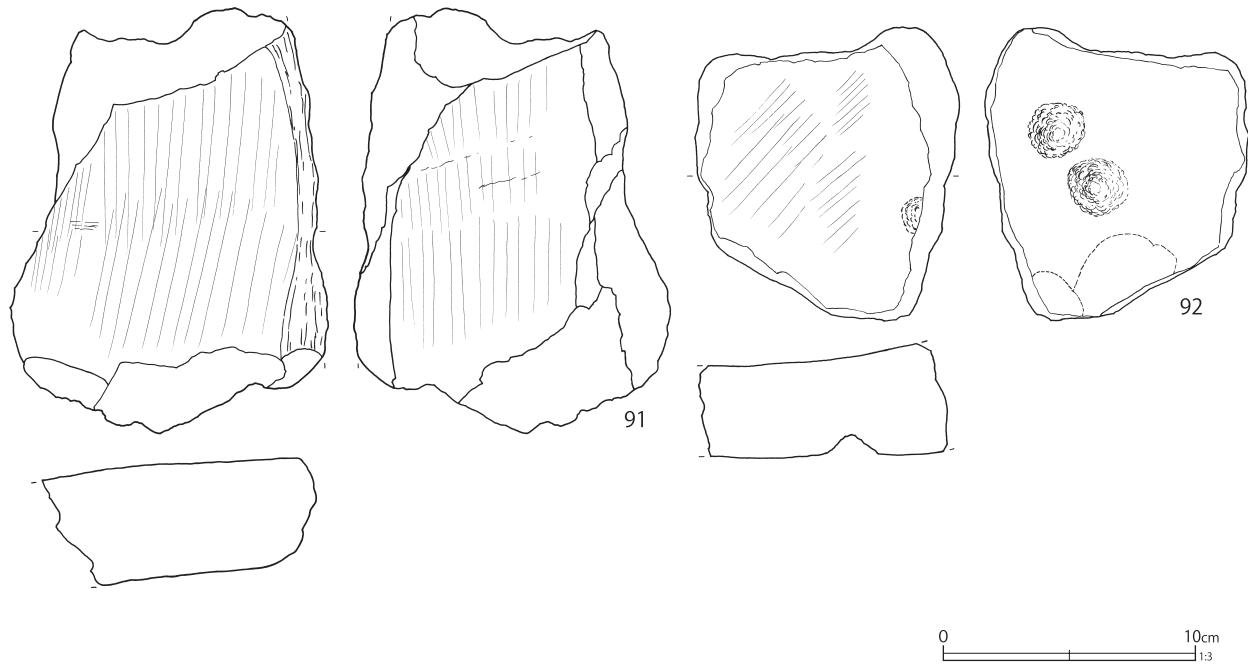
第104図 グリッド出土遺物 (1)



第105図 グリッド出土遺物（2）



第106図 グリッド出土遺物（3）



第107図 グリッド出土遺物(4)

第29表 グリッド出土石器観察表(第105~107図)

番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	図版
68	原石	黒曜石	4.5	2.3	1.6	12.8	SD2 E-6	51-2
69	磨製石斧	緑色岩	[9.4]	4.6	2.5	117.5	SE1 2区 欠損あり (一部残存)	51-2
70	打製石斧	ホルンフェルス	8.9	5.7	2.2	146.8	SK105 No.1	51-2
71	打製石斧	砂岩	9.7	10.2	3.2	291.1	SE1 3区	51-2
72	礫器	ホルンフェルス	11.3	7.3	2.7	299.5	SE1	51-2
73	礫器	砂岩	[12.5]	[5.7]	2.3	193.8	SK105 No.2 欠損あり (一部残存)	51-2
74	敲石	緑色岩	11.5	5.8	[2.7]	241.0	SE1 2区 平面楕円形 欠損あり (一部残存)	51-2
75	敲石	閃緑岩	11.0	7.0	5.8	599.4	SD7 No.1	51-2
76	磨石	安山岩	10.1	5.1	4.0	260.9	SE1 4区 平面棒状 完形	51-2
77	磨石	安山岩	9.9	[4.9]	2.2	137.7	SE13	51-2
78	磨石	安山岩	[11.1]	7.1	5.1	532.1	C-6	51-2
79	磨石	安山岩	10.7	6.2	4.0	356.2	SE1 2区	52-1
80	磨石	安山岩	9.2	5.6	4.7	344.5	SE1 平面楕円形 完形	52-1
81	磨石	安山岩	9.5	8.9	5.0	543.8	SE1 3区 平面円形 断面楕円形 完形	52-1
82	磨石	安山岩	8.3	6.8	1.2	90.8	SE1 4区 扁平 平面楕円形 断面楕円形 完形	52-1
83	磨石	緑色岩	[8.7]	8.1	1.9	192.2	SE4	52-1
84	磨石	砂岩	[6.2]	6.9	3.2	175.9	SE1 2区	52-1
85	磨石	閃緑岩	[7.2]	[6.9]	[5.0]	342.2	SE1 3区 断面楕円形 欠損あり (一部残存)	52-1
86	磨石	安山岩	[8.0]	9.4	5.5	655.9	SE1 4区	52-1
87	石皿	安山岩	[6.7]	[5.4]	[4.5]	195.0	SE1 欠損あり (一部残存)	52-1
88	石皿	安山岩	[9.4]	[7.0]	6.2	344.6	SE1 欠損あり (一部残存)	52-1
89	石皿	安山岩	[5.6]	[8.4]	[3.8]	187.5	SE1 欠損あり (一部残存)	52-1
90	石皿	安山岩	15.3	13.8	8.0	1837.0	D-5 GP1	52-1
91	石皿	緑泥片岩	[16.9]	[12.6]	[6.7]	1411.2	SE1 欠損あり (一部残存)	52-1
92	石皿	安山岩	[11.7]	[10.5]	[4.8]	758.6	SE1 3区 欠損あり (一部残存)	52-1

3. 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、住居跡6軒と掘立柱建物跡1棟が検出された。

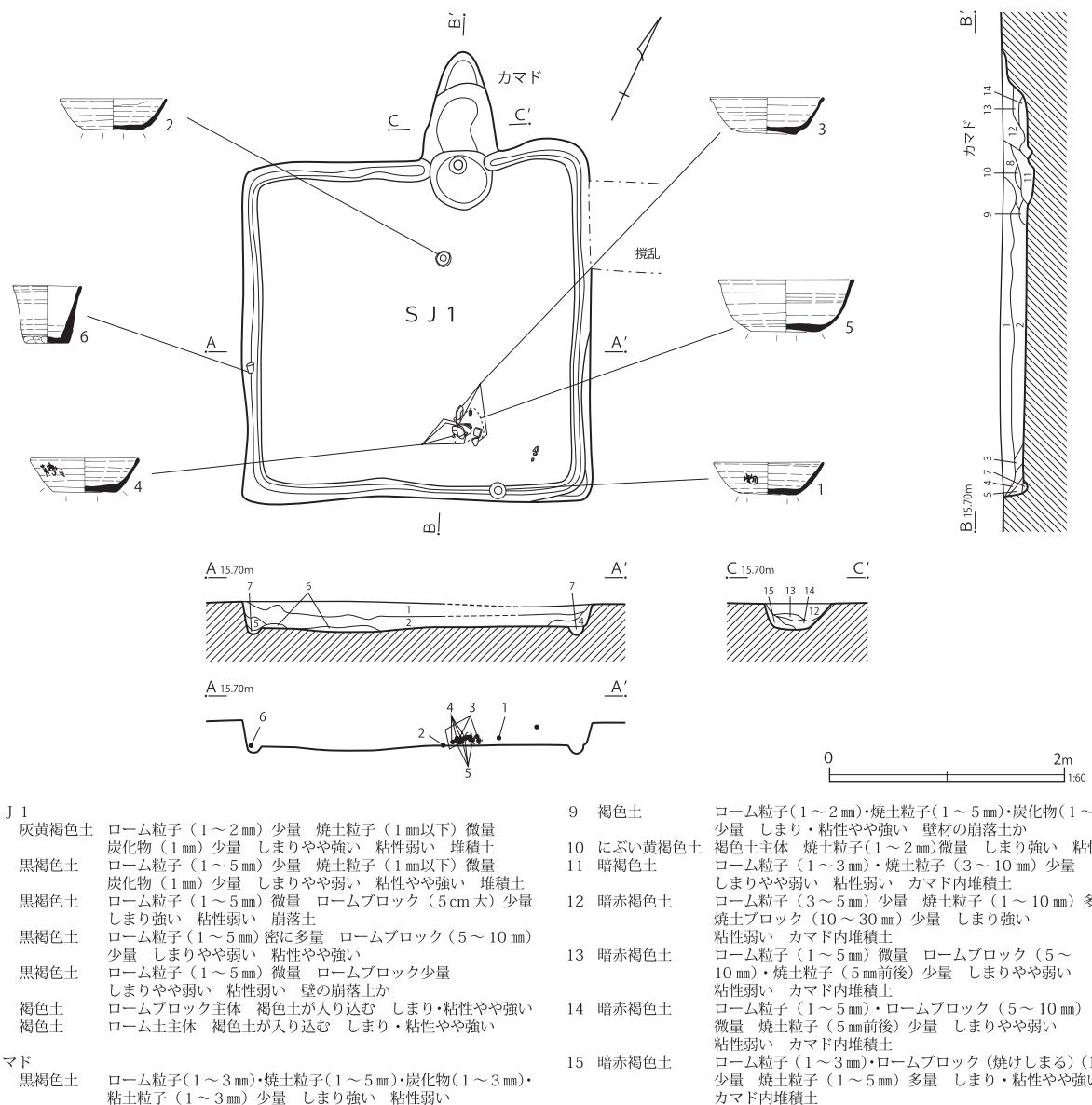
住居跡は調査区全域に2軒ずつ3群に分かれて分布する。住居跡の主軸方位は、真北に近い一群（第2・4号住居跡）と、北西を指す一群（第1・6・7号住居跡）、北北西を指す一群（第3号住居跡）に分類される。主軸方位と分布は一致していない。カマドは北壁に設けられ、第7号住居跡は北壁と東壁に計3基のカマドが付設される。

掘立柱建物跡は調査区の南西に位置する。第3号住居跡と第4号住居跡に挟まれ、建物の方向を第3号住居跡と揃えている。しかし、建物の間隔が3mと近接しているため、同時に存在していたかは不明である。

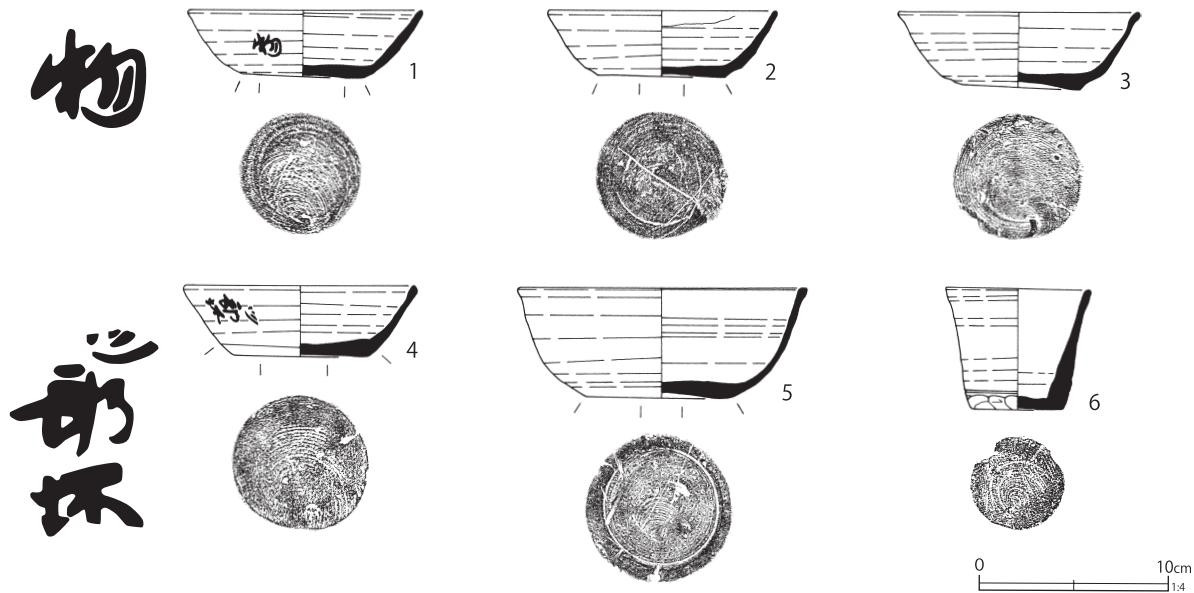
（1）住居跡

第1号住居跡（第108図）

D-2・3グリッドに位置する。平面形態は方



第108図 第1号住居跡



第 109 図 第 1 号住居跡出土遺物

第 30 表 第 1 号住居跡出土遺物観察表 (第 109 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	壺	12.3	3.5	6.2	E I J K	100	良好	灰黄	No. 1 南比企産 墨書「物」 ヘラ記号あり	53-1
2	須恵器	壺	12.0	3.5	6.8	E I J K	100	良好	灰黄	No. 2 南比企産 ヘラ記号あり	52-2
3	須恵器	壺	12.7	4.2	6.6	D E H I J K	100	普通	灰	No. 4・8・9 南比企産	52-3
4	須恵器	壺	12.0	3.7	7.1	E I J K	85	良好	灰白	No. 5・6・10・11 南比企産 墨書「口部壺」	53-2
5	須恵器	壺	14.9	5.8	7.7	D I J K	90	良好	灰	No. 7・12～18 南比企産 外面自然釉	52-4
6	須恵器	コップ形	7.6	6.4	4.7	E I J K	100	良好	灰黄	No. 3 南比企産	53-3

形でカマドは北壁の中央東寄りに設けられる。住居の規模は、主軸長 3.10m、東西長 2.96m、深さ 0.25m を測り、主軸方位は N - 22° - W を指す。カマド内の堆積土が住居内に流入していないことから、カマドは住居廃絶時に壊されたと考えられる。覆土は、住居の壁側から堆積した状況が観察される。

カマドは掛け口が広く、煙道部に向かって弾頭型に窄まる。規模は全長 1.35m、燃焼部最大幅 0.65m、煙道部最大幅 0.35m を測る。燃焼部は壁を大きく切り込んで構築される。燃焼部の奥壁は 0.10m 程度の段差をもって立ち上がり、煙道部が 0.25m 程延伸する。袖部は検出されていないが、壁溝が袖位置を掘り込んで燃焼部まで達していることから、袖の無い構造であった可能性がある。

カマド壁面は被熱していないが、燃焼部の火床面は赤く焼けていた。掛け口の中央には低い柱状

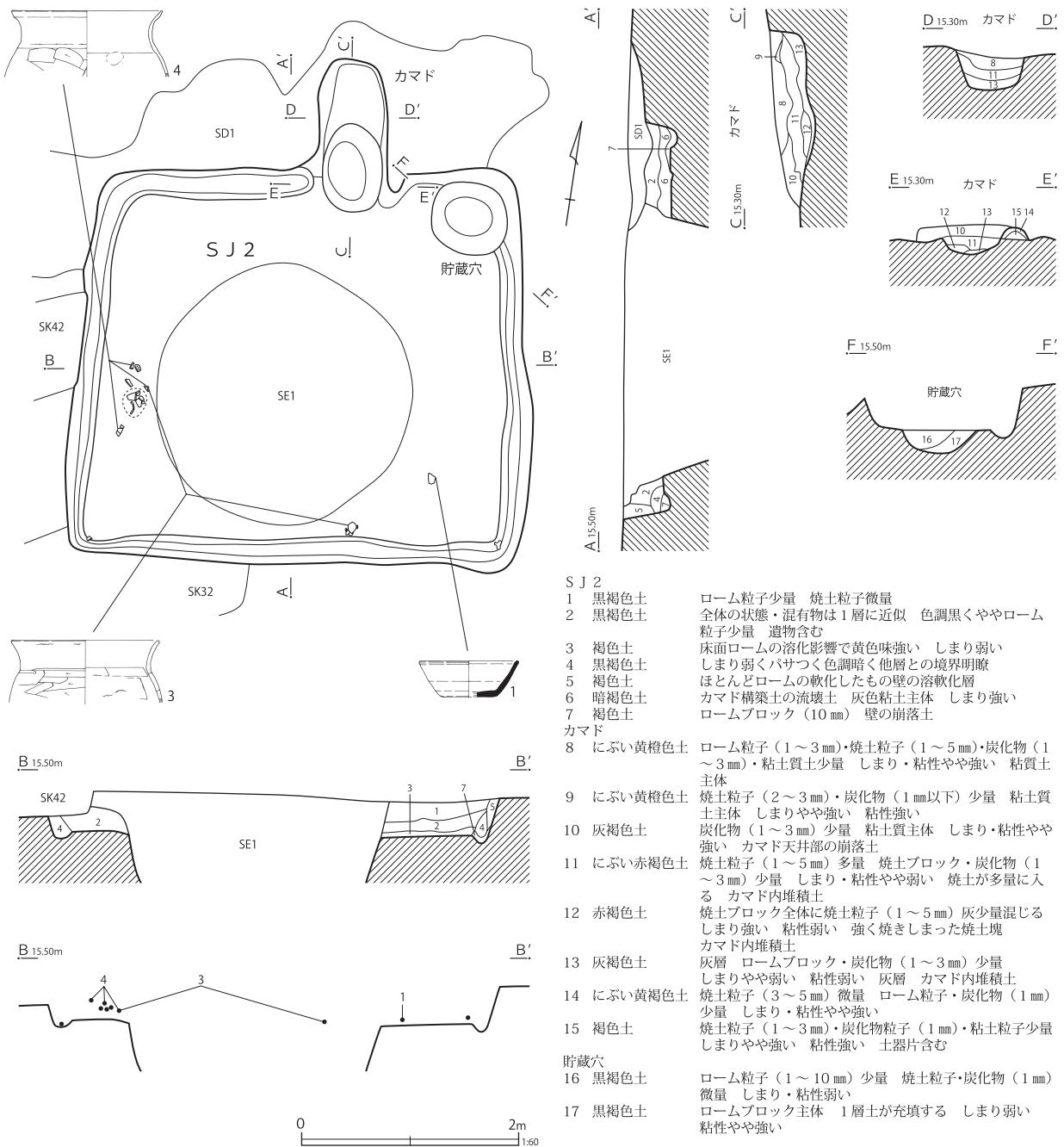
の高まりがあり、支脚を据えた痕跡の可能性が高い。

壁溝は全周し、幅 0.11～0.17m、深さ 0.06m を測る。柱穴と貯蔵穴は、検出されなかった。

遺物は床面付近から出土した。しかし、出土量が少なく、土師器は小破片のため、須恵器のみが図示し得た (第 109 図)。須恵器はいずれも南比企産であり、2 はカマドの前面から正位で出土した。3～5 は伏せた状態で、下から 5→4→3 の順に重なっていた。

1～4 は壺である。底部調整は、回転糸切り離し後に周辺を回転ヘラケズリした 1・2・4 と、回転糸切り無調整の 3 が混在する。1 と 4 は墨書き土器である。1 は体部外面に正位で「物」、4 は体部外面に横書きで「口部壺」と記されている。

5 は壺である。底部調整は、回転糸切り離し後に周辺回転ヘラケズリが施されている。



第 110 図 第 2 号住居跡

6 はコップ形土器である。底部は回転糸切離し
後に周辺部の一部に手持ちヘラケズリ調整が行わ
れている。外面は体部下半に沈線が廻り、下部は
手持ちヘラケズリが行われている。内面は体部下
端に回転ヘラケズリが施され、その際、底部にヘ
ラの尖端が当たった痕跡が明瞭に残る。

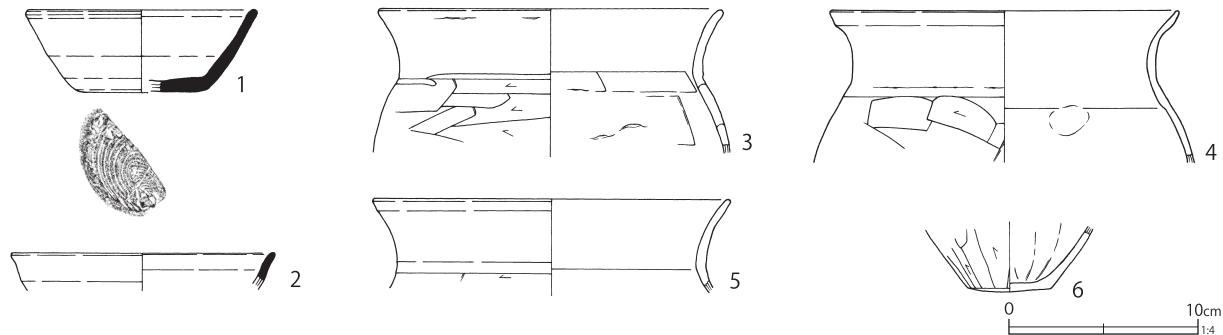
出土した遺物は、須恵器の底部調整に回転糸切
り無調整のものが含まれることから、8世紀後半

～末頃のものと考えられる。

第2号住居跡（第110図）

調査区の北西隅、C-3・4グリッドに位置す
る。重複する第1号井戸跡、第1号溝跡、第32・
42号土壙よりも古い。

住居跡の平面形態は方形で、北壁の中央やや東
寄りにカマドが設けられる。住居跡の規模は主軸
長3.65m、東西長4.30m、深さ20cmを測り、主



第111図 第2号住居跡出土遺物

第31表 第2号住居跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	壺	(11.6)	3.8	(7.0)	D E H I J K	25	良好	灰	No. 2 南比企産 ヘラ記号あり	
2	須恵器	壺	(14.0)	[2.0]	—	H I K	10	良好	灰白	南比企産	
3	土師器	甕	(18.2)	[7.5]	—	A H I K	15	普通	褐	No. 3・8	
4	土師器	甕	(18.2)	[8.1]	—	C E I K	20	普通	にぶい褐	No. 5・8・11 内面指頭痕あり	
5	土師器	甕	(18.6)	[4.9]	—	A C H I K	15	普通	にぶい赤褐	カマド	
6	土師器	甕	—	[3.5]	4.4	A C H I K	75	普通	にぶい褐	外面煤付着	

軸方位はN-8°-Wを指す。住居の中央部が井戸跡によって大きく壊されているが、覆土は壁際から堆積した様子が見られる。

カマドの平面形態は隅丸長方形で、東側の右袖が検出された。燃焼部から煙道部先端まで幅が変化せず、底面は平らで奥壁からほぼ垂直に立ち上がる。規模は全長1.4m、幅0.65mである。第8・10層が天井部崩落層で、直下には焼土層・灰層が堆積し、間層が見られないことから、住居廃絶時に壊されたようである。

貯蔵穴は、カマド右側の住居北東隅にある。長径0.80m、短径0.70mの円形で、深さは0.20mを測る。

壁溝は全周し、幅は0.15~0.30mを測る。柱穴は検出されなかった。

井戸跡によって中央部を大きく壊されているため遺物の出土量は少ないが、土師器甕と須恵器壺が出土した。どちらも細片であるが、土師器が主体を占め、須恵器は少なかった（第111図）。

1・2は須恵器の壺である。1の底部は回転糸切り離し後無調整で、器壁が厚く径が小さい。

3~6は土師器の甕である。口縁部では、3と5が外反し、4は「コ」の字甕への過渡期的な要

素を持つ。

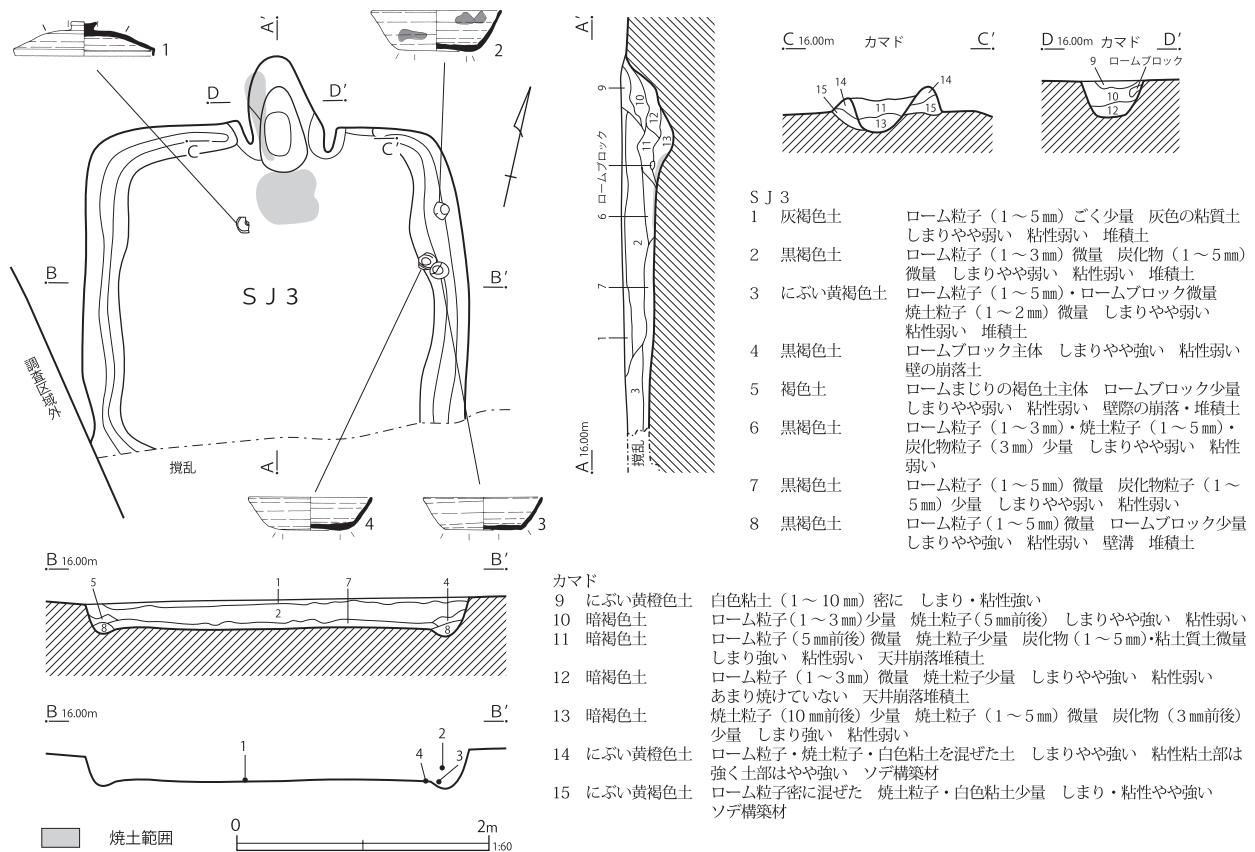
出土遺物は少ないが、底部糸切り無調整の須恵器があることなどから、8世紀末頃のものと考えられる。

第3号住居跡（第112図）

調査区の南側、H-5グリッドに位置し、南壁は搅乱によって壊されている。

住居の平面形態は方形で、北壁中央部にカマドが設けられる。住居の規模は主軸長2.55m以上、東西長3.06m、深さ0.28mを測り、主軸方位はN-12°-Wを指す。覆土は壁際から埋没した状況が観察できる。

カマドは掛け口が大きく開き、燃焼部から煙道部に向かって窄まる。燃焼部から煙道部にかけてやや歪みがあり、カマドの主軸は西側に寄る。規模は全長0.92m、燃焼部最大幅0.55m、煙道部幅0.30m、袖が0.25m程住居内に張り出す。底面は燃焼部を深く掘り込み、煙道部にかけてなだらかに立ち上がる。壁面は被熱により赤く焼けていた。天井の崩落土の第11層と第12層の間で土層が途切れることから、住居の内側が廃絶時に壊されたものと推察される。カマドの正面には焼土がまとまって検出され、カマドの焼土が搔き出されて



第112図 第3号住居跡

堆積したものと思われる。

壁溝は全周し、幅 0.30 ~ 0.40m を測る。柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。

遺物の出土量は少ないが、東壁際から須恵器壺 3点、カマドの前面から須恵器蓋 1点が出土した（第113図）。

1は蓋である。ボタン状のつまみが付き、口縁部の一部に降灰が認められる。

2~4は壺である。いずれも回転糸切り後周辺部回転ヘラケズリが施される。2は内面に油煙の付着があるため灯明具として利用されたと考えられる。外面にも油煙が指で擦り付けられたように付着している。

出土遺物は須恵器壺から、8世紀中頃～後半と考えられる。

第4号住居跡（第114図）

G-6グリッドに位置する。住居跡の平面形態は方形で、北壁中央部にカマドが設けられる。

住居の規模は、主軸長 3.03m、東西長 2.87m、深さは 0.26m を測り、主軸方位は N-2°-W を指す。

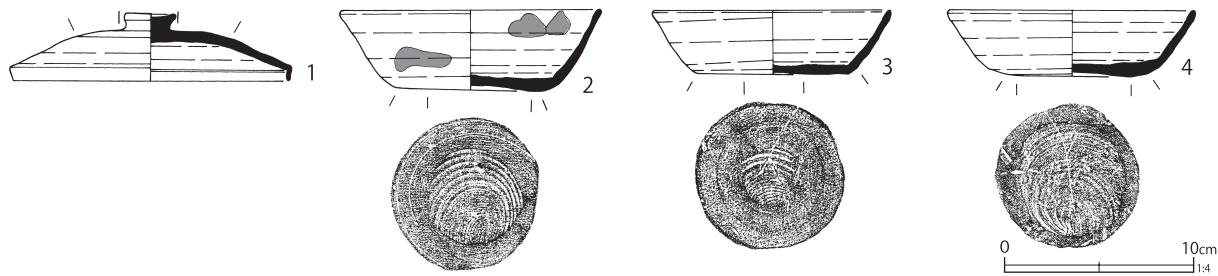
カマドの平面形態は燃焼部から煙道部まで幅が変わらず、細長い形を呈している。規模は全長 1.40m、幅 0.25m、造り付けられた袖が 0.50m 程住居内に張り出す。燃焼部は北壁の内側に收まり、底面が丸く掘り込まれている。煙道部の底面は平坦に外方へ延び、奥壁で急に立ち上がる。壁面は燃焼部から 0.70m 程の範囲まで被熱により赤く焼けている。

壁溝は全周し、壁溝の幅は 0.25m を測る。柱穴・貯蔵穴は確認されなかった。

遺物は土師器甕の細片が少量出土したのみで、時期は不詳である。住居構造など他の住居跡との比較から、8世紀代と考えられる。

第6号住居跡（第115図）

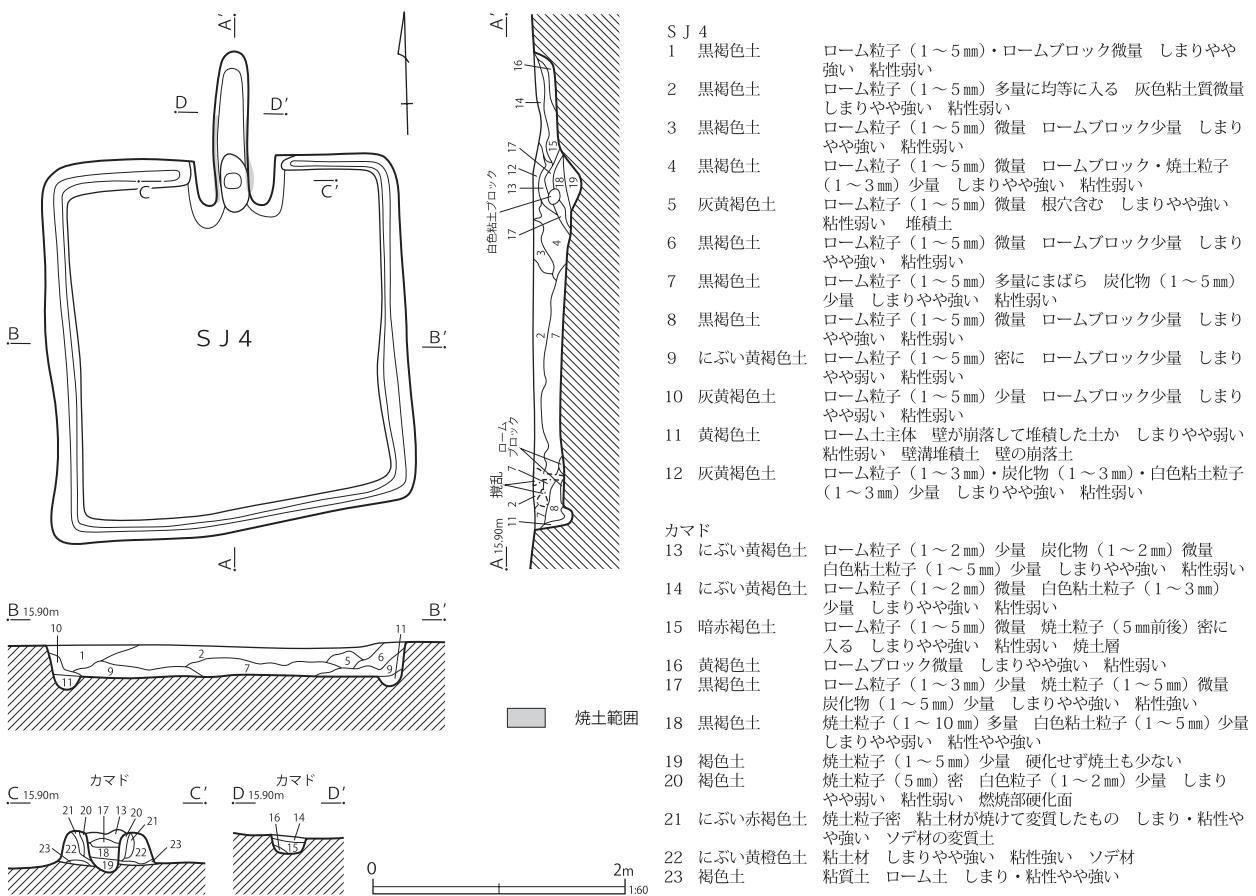
E-F-7-8グリッドに位置する。重複する



第113図 第3号住居跡出土遺物

第32表 第3号住居跡出土遺物観察表（第113図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	14.6	3.5	—	D I J K	50	普通	灰	No. 4 南北企産 自然釉付着	54-4
2	須恵器	壺	13.6	4.3	7.6	E I J K	100	良好	灰黄	No. 3 南北企産 油煙付着 火だしき痕あり	54-1
3	須恵器	壺	12.4	3.4	7.8	E I J K	100	良好	黄灰	No. 1 南北企産	54-2
4	須恵器	壺	13.0	3.5	6.1	E H I K	70	良好	灰	No. 2 ヘラ記号あり	54-3

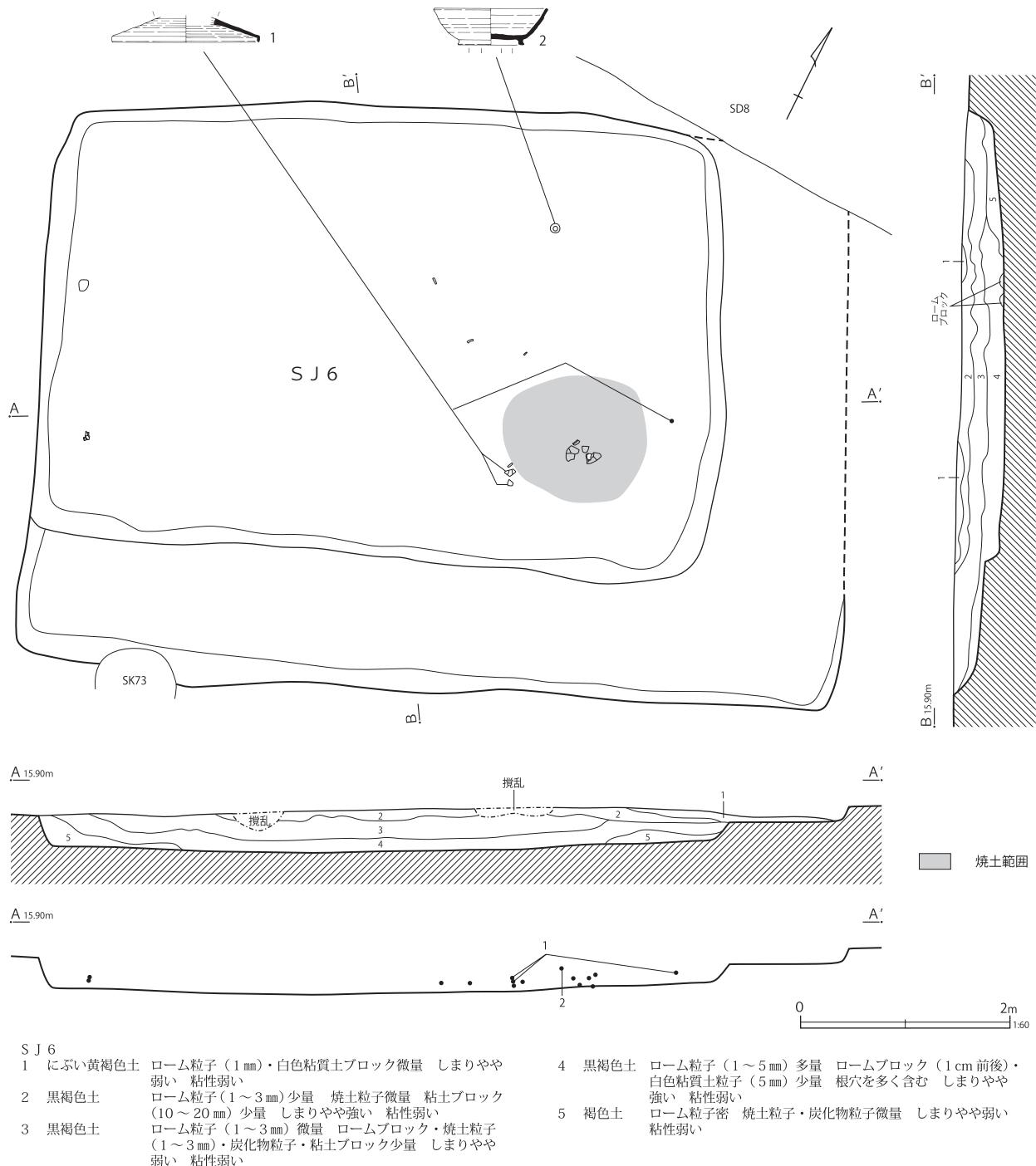


第114図 第4号住居跡

第8号溝跡、第73号土壙よりも古い。調査の段階では3軒の住居跡が重複すると認識されていたが、土層の堆積状況や出土遺物等を再検討した結果、1軒の住居跡として報告する。

平面形態は長方形の住居跡で、東壁と南壁に沿

ってテラス部が付設されている。テラス部の覆土の堆積状況に、深い竪穴掘り方を埋戻した痕跡は見られないことから、住居跡を拡張したものではない。カマドは確認されていない。規模は身舎部分が長軸 6.50m、短軸 4.18m、深さ 0.45m。テラ



第 115 図 第 6 号住居跡

ス部分を含めると長軸 7.90m、短軸 5.55m、深さ 0.21 ~ 0.25m を測る。南北の方位は N - 22° - W を指す。

第 3 層から焼土が塊で検出され、埋没途中に投げ込まれたことが考えられる。

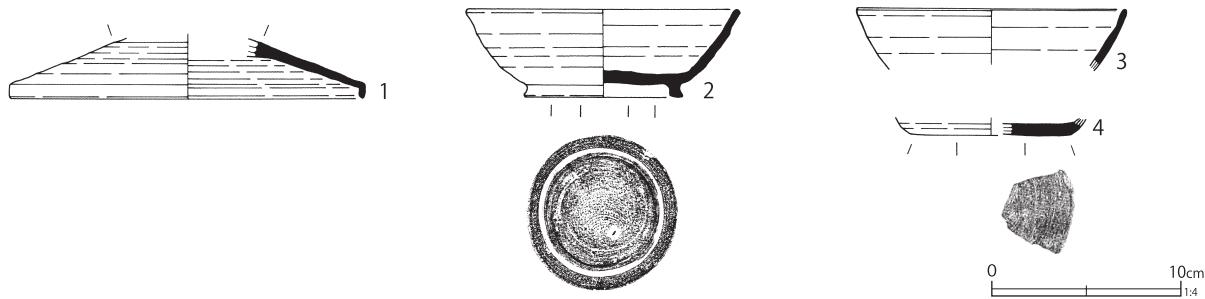
住居跡の北半は削平され、テラス部分東壁北半

は検出されていない。

柱穴・壁溝・貯蔵穴は、検出されなかった。

遺物は床面付近からの出土は少ない。須恵器壺・土師器壺・甕が見つかっている。細片が多く、図示し得るものは少なかった（第 116 図）。

1 は蓋である。内外面に、重ね焼きの影響によ



第116図 第6号住居跡出土遺物

第33表 第6号住居跡出土遺物観察表（第116図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	(18.6)	[3.2]	—	E I J K	25	良好	灰黄褐	No. 7・25 SJ6-No. 8 南北企産	54-5
2	須恵器	高台付坏	(14.3)	4.7	8.1	E H I J K	30	良好	灰	No. 40 南北企産	
3	須恵器	坏	(14.2)	[3.2]	—	E H I J K	10	普通	灰	南北企産	
4	須恵器	坏	—	[0.9]	(8.4)	H I J K	10	不良	にぶい橙	南北企産	

る色調の変化が認められる。

2は高台付坏である。底部は回転糸切り離し後周辺部回転ヘラケズリが施され、その後高台が貼り付けられる。

3・4は坏である。3は内面に僅かだが降灰が確認できる。4の底部調整は回転糸切離し後周辺回転ヘラケズリで、焼成が不良なため褐色化している。

遺物は8世紀中頃に比定される。

第7号住居跡（第117図）

D・E-6グリッドに位置する。南東隅は搅乱により壊される。

平面形態は、やや東西に長軸を向ける長方形である。北壁に2基、東壁に1基、計3基のカマドが設けられる。住居の規模は南北4.25m、東西5.64m、深さ0.55mを測り、南北軸の方位はN-32°-Wを指す。覆土は、壁から堆積した状況が観察される。

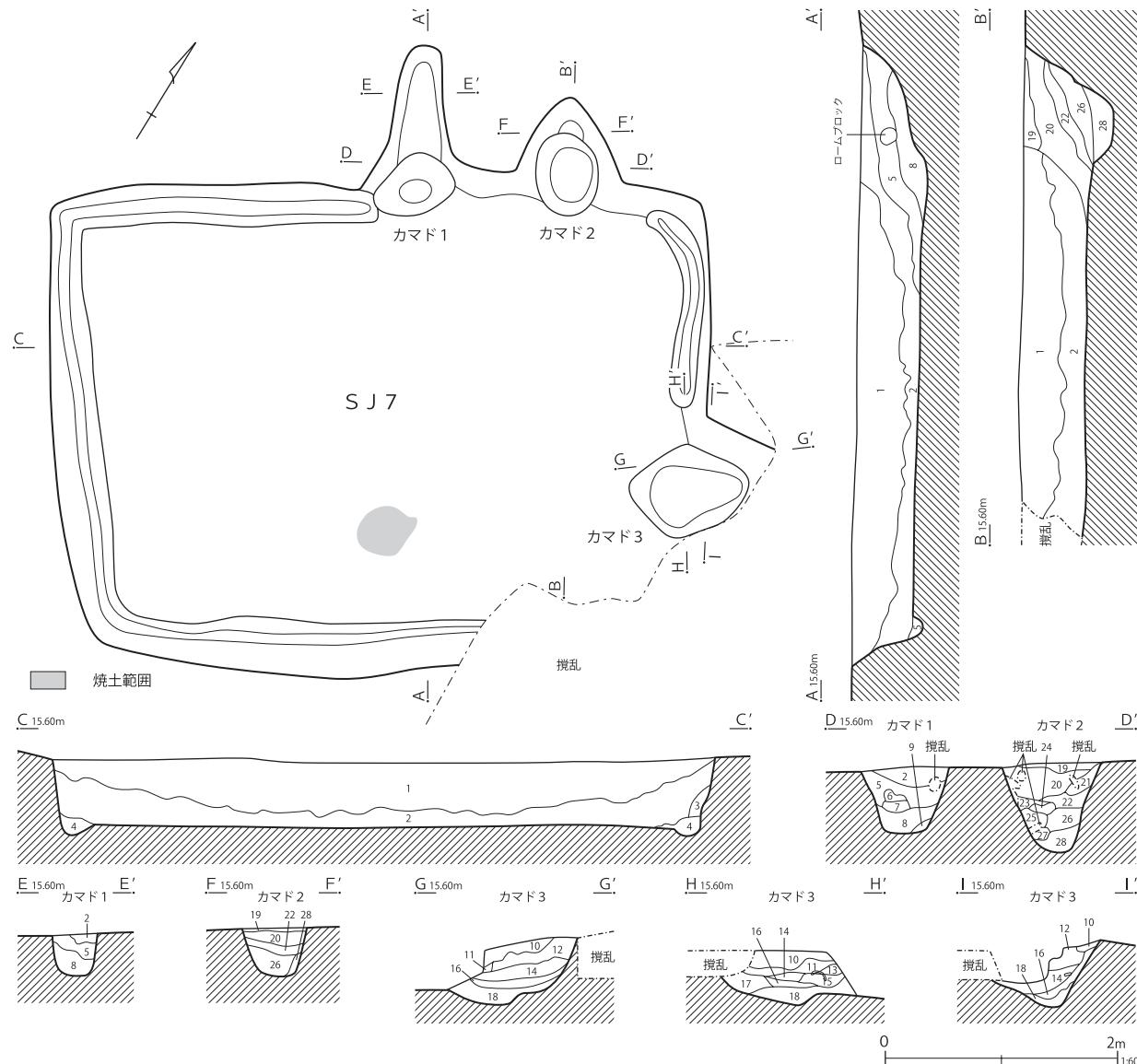
カマド1は掛け口が広く、燃焼部から煙道部に向かってほぼ同じ幅で延びる。底面は緩やかな傾斜を持って燃焼部から煙道部に向かって立ち上がっていく。袖は検出されていない。全長1.48m、燃焼部最大幅0.60m、煙道部幅0.33mを測る。

カマド2はほとんどが壁外に張り出し、燃焼部

が広く煙道部が尖る。底面は燃焼部の掘り込みから急な傾斜で立ち上がる。袖は検出されていない。全長1.03m、燃焼部最大幅0.85m、煙道部幅0.50mを測る。

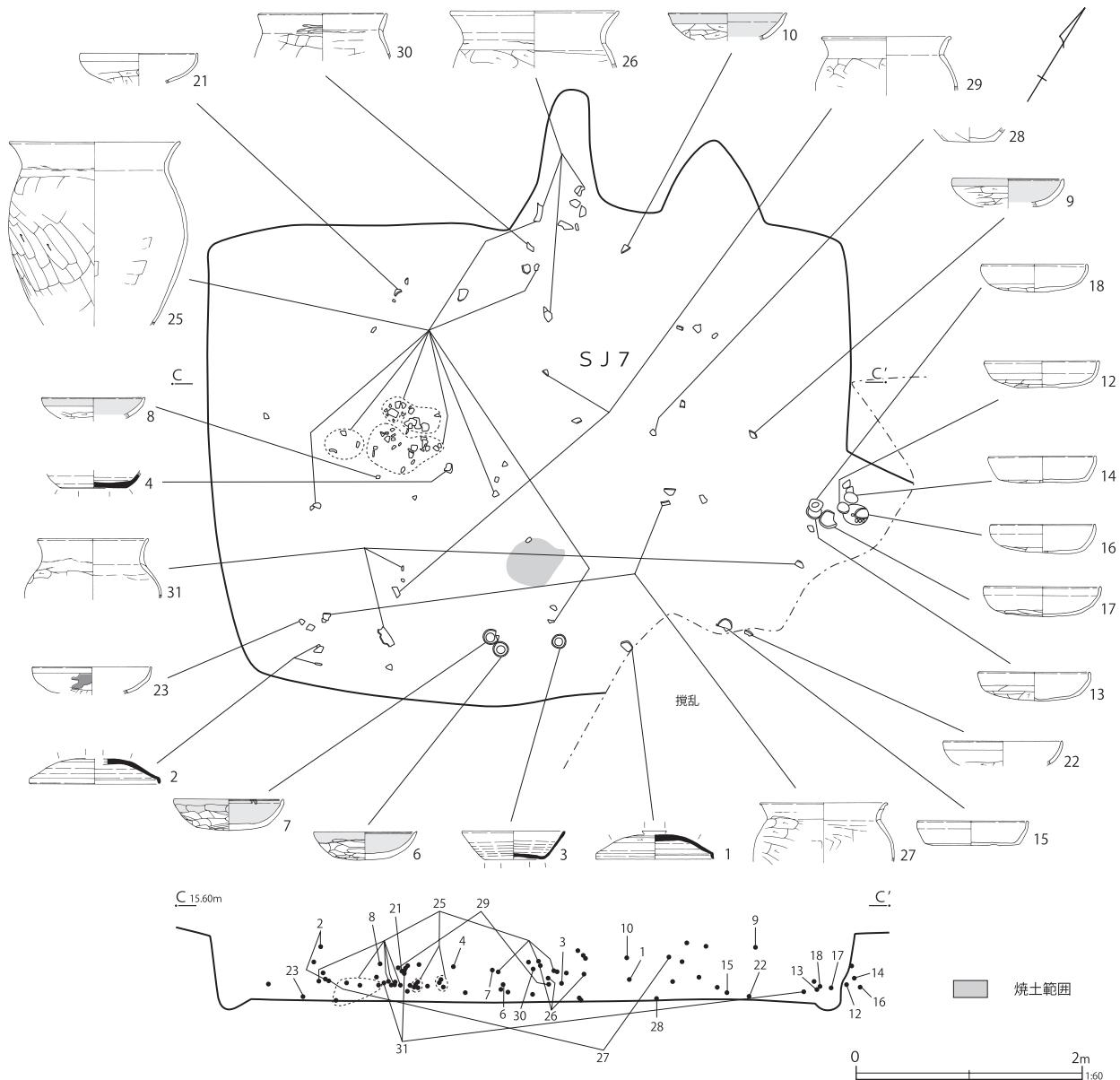
カマド3は南半部が搅乱によって壊されている。焚口が広く、煙道部に向かって窄まり、袖は検出されていない。規模は残存部分で全長1.20m、燃焼部最大幅0.90mを測る。

3基のカマドの構築順序は、カマド2は前面が断層され、住居跡の内側には覆土が堆積しているため、住居廃絶時に使用されていたカマドではない。一方、カマド1は堆積土が住居内まで流れ込んでいることから、住居廃絶時まで使われたものと考えられる。カマド3は当初搅乱と想定したため、断面情報が無い。カマド燃焼部の天井崩落の層直上には土器が伏せて重ねられている。よってカマド2・カマド3→カマド1の順に造られたものと推定される。また他の住居跡よりも規模が大きいことから、カマドの造り替えと運動して拡張された可能性がある。さらに北壁のカマド2とカマド1の位置関係から、西側へ拡げられたことが想定される。しかし住居跡には痕跡が見られず、埋め戻し行為を伴わない。掘削基調の拡張と想像される。



SJ 7		14 橙色土		13 層が被熱した層 焼土粒子 (1~5mm) 含む 被熱によりホロホロした層 しまり弱い 粘性強い	
1 黒褐色土	ローム粒子 (1~3mm) 微量 白色粘土粒子 (5mm前後) ごく少量 黒色土主体の土 しまりやや弱い 粘性弱い 堆積土	15 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1~3mm)・炭化物 (1~2mm) 少量 粘土 (1~5mm) 含む しまり弱い 粘性やや強い		
2 暗褐色土	ロームブロック微量 (底面に多い) ローム粒子 (1~3mm)・焼土粒子 (1~3mm) 微量 暗褐色土主体の土 しまりやや弱い 粘性やや強い 堆積土	16 暗褐色土	焼土粒子 (1~2mm) 多量 炭化物 (1mm) 微量 しまり・粘性弱い		
3 暗褐色土	ローム粒子 (1~3mm) 少量 焼土粒子 (1~2mm) 微量 しまりやや弱い 粘性やや強い 堆積土	17 褐色土	ローム粒子 (1~3mm) 密 しまりやや弱い 粘性やや強い		
4 黒褐色土	ローム粒子 (3~5mm) 微量 しまりやや弱い 粘性やや弱い 堆積土	18 暗褐色土	崩落 堆積土 焼土粒子 (1~2mm)・炭化物 (1~2mm) 少量 しまり・粘性弱い 灰を含む層		
カマド 1	ローム粒子 (1~3mm)・焼土粒子 (1~2mm) 微量 炭化物 (1mm前後) 少量 白色粘土粒子 (1~3mm) 微量 しまりやや弱い 粘性やや強い	カマド 2	19 黒褐色土 ローム粒子 (1~2mm) 少量 焼土粒子 (1mm) 微量 しまりやや弱い 粘性弱い 堆積土		
5 黒褐色土	ロームブロック しまり強い 粘性弱い	20 灰黄褐色土	ローム粒子 (1~2mm)・焼土粒子 (1~5mm) 少量 白色粘土粒子 (1~2mm) 微量 しまりやや弱い 粘性弱い 堆積土		
6 にぶい黄褐色土	白色粘土が密に入り焼土粒子・炭化物粒子が混じる しまり・粘性やや強い	21 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (1~3mm) 微量 焼土粒子 (1~3mm) 少量 白色粘土粒子 多量 しまりやや弱い 粘性やや強い、天井部崩落土		
7 黄褐色土	ロームブロック しまり強い 粘性弱い	22 にぶい黄褐色土	ローム粒子 (3mm)・焼土粒子 (2~3mm)・白色粘土粒子 (1~2mm) 微量 しまりやや弱い 粘性弱い 堆積土		
8 暗褐色土	ローム粒子 (1~3mm)・焼土粒子 (1~2mm)・白色粘土粒子 (1~2mm) 少量 しまり・粘性やや強い 堆積土	23 黒褐色土	ローム粒子 (1~3mm)・ロームブロック 少量 焼土粒子 (1~5mm) 微量 白色粘土粒子 (1~3mm) 少量 しまりやや弱い 粘性弱い 堆積土		
9 にぶい黄褐色土	ロームブロック 多量 白色粘土粒子 (1~3mm) 少量 しまり・粘性やや強い 崩落土	24 にぶい黄褐色土	白色粘土が密に入る 焼土粒子・ローム粒子 少量 しまり・粘性やや強い 天井部崩落土		
カマド 3		25 赤褐色土	焼土が密に入る しまりやや強い 粘性弱い 焼土塊		
10 黒褐色土	ローム粒子 (3mm前後)・白色粘土粒子 (1~3mm) 少量 しまりやや弱い 粘性弱い 堆積土	26 にぶい赤褐色土	焼土粒子 (3~5mm) 密 炭化物粒子 (1~3mm) 少量 しまりやや弱い 粘性弱い 焼きしまった燃焼土		
11 にぶい黄褐色土	ロームブロック (1~2mm)・焼土粒子 (5~10mm) 少量 白色粘土粒子 (1~3mm) 多量 しまりやや弱い 粘性やや強い 堆積土・崩落土	27 にぶい黄褐色土	ローム粒子 少量 焼土粒子 白色粘土が密に入る しまりやや強い 粘性やや強い 支脚か		
12 明黄褐色土	粘土層 カマド天井部の崩落土 しまり・粘性強い	28 黄褐色土	ロームブロック (3cm) 密 灰を少量 しまりやや弱い 粘性弱い 崩落土か		
13 にぶい黄褐色土	ロームブロック 多量 白色粘土粒子 (1~3mm) 少量 しまり・粘性やや強い 堆積土				

第 117 図 第 7 号住居跡



第118図 第7号住居跡遺物出土状況

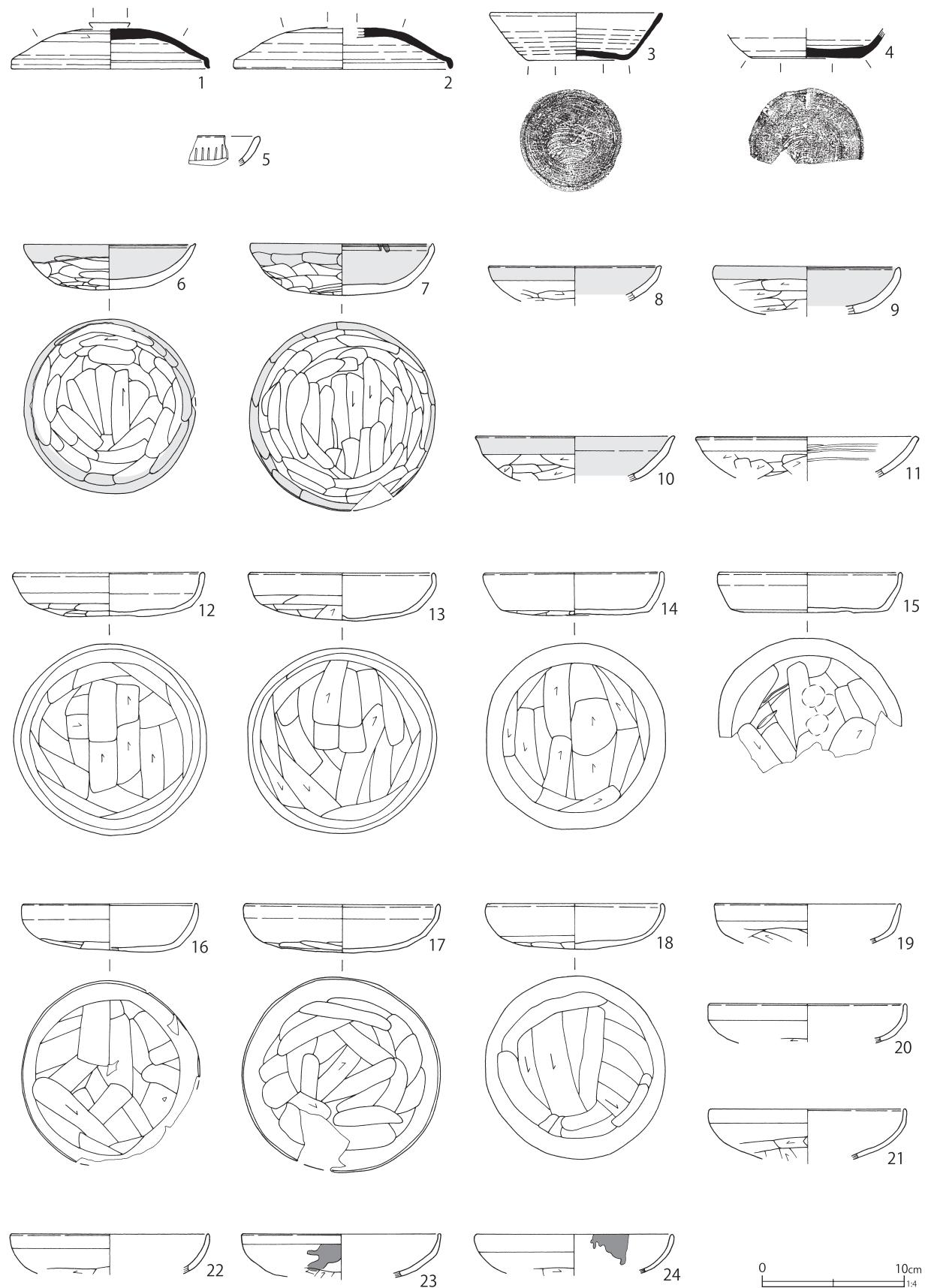
壁溝は全周し、幅は0.30~0.40mを測る。柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。住居の中央南寄りの床面直上に焼土の集中が検出されたが、性格等は不明である。

床面付近から出土した遺物は少なく、主に覆土中から検出された、須恵器蓋・壺、土師器壺・甕などがある（第119・120図）。

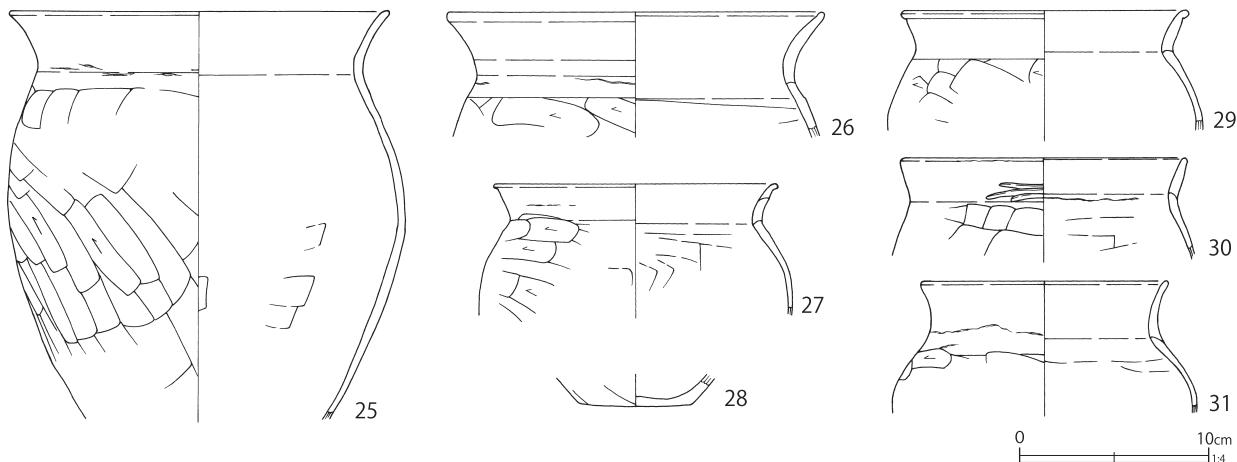
1~4は須恵器である。1・2は蓋で、どちらも径が小さい。1はツマミが外れており、ツマミ部分には螺旋状の刻みが見られる。また外面に重

ね焼きの痕跡が認められる。3・4は壺で、底部調整はいずれも回転糸切離し後周回転ヘラケズリが施される。4は内面体部に降灰が認められる。

5~9・12~24は土師器壺である。5は暗文壺で、放射状暗文が施文される。6~9は比企系の壺である。6・7・9は口縁部に沈線が廻り、外面に細かいケズリが施され、丸みが強い。7は内面に油煙が付着し、灯明具として利用されたと考えられる。10・11は皿である。10は内面と口唇部外縁に赤彩が施される。11は内面に数条の



第 119 図 第 7 号住居跡出土遺物 (1)



第120図 第7号住居跡出土遺物(2)

第34表 第7号住居跡出土遺物観察表(第119・120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	(14.0)	[2.8]	—	C D I J K	40	良好	灰	No. 38 南比企産	54-7
2	須恵器	蓋	(15.1)	[2.9]	—	E I J K	25	良好	灰	No. 75・78 南比企産	
3	須恵器	壺	12.0	3.3	7.0	E I J K	100	良好	灰	No. 41 南比企産	54-6
4	須恵器	壺	—	[2.1]	(7.6)	C D E H I J K	40	良好	灰赤	No. 49 南比企産 体部内面に自然釉付着	
5	土師器	壺	—	[2.0]	—	C H I K	5	普通	明褐	暗文壺	56-4
6	土師器	壺	11.9	3.2	—	A D H I J K	99	普通	明赤褐	No. 47 内外面赤彩	55-1
7	土師器	壺	12.8	3.6	—	C E H I J K	90	普通	明赤褐	No. 46 内外面赤彩 口唇部内縁に油煙付着 内外面底部に黒斑あり	54-8
8	土師器	壺	(12.0)	[2.4]	—	E I J K	15	普通	赤褐	No. 63 内外面赤彩	
9	土師器	壺	(12.9)	[3.3]	—	I J K	15	普通	にぶい赤褐	No. 25 内外面赤彩	
10	土師器	皿	(13.8)	[3.1]	—	C H I J K	20	普通	赤褐	No. 19 内外面赤彩	
11	土師器	皿	(15.4)	[2.8]	—	A I J K	15	普通	褐		
12	土師器	壺	13.3	3.1	—	C E H I K	100	普通	橙	No. 33 北武藏型壺	55-2
13	土師器	壺	13.0	3.3	—	C E H I K	100	普通	橙	No. 30 北武藏型壺	55-3
14	土師器	壺	12.5	3.0	10.3	C E H I K	100	普通	橙	No. 34 北武藏型壺 内面体部に煤か、付着	55-4
15	土師器	壺	12.7	2.8	(11.0)	C E H I K	60	普通	明赤褐	No. 37 指頭痕あり	55-5
16	土師器	壺	12.3	3.3	—	C D H I K	80	普通	橙	No. 35	55-6
17	土師器	壺	13.7	3.4	—	E I K	90	普通	にぶい橙	No. 32 内面底部中央に煤か、付着	55-7
18	土師器	壺	12.5	3.2	—	C D E I K	100	普通	橙	No. 31 外面底部に煤か、付着	55-8
19	土師器	壺	(12.9)	[2.7]	—	A C H I K	20	普通	にぶい褐		
20	土師器	壺	(13.8)	[2.7]	—	A I K	10	普通	にぶい褐	掘り方	
21	土師器	壺	(13.8)	[3.5]	—	A C I K	20	普通	橙	No. 15	
22	土師器	壺	(13.9)	[2.8]	—	A C I K	15	普通	明褐	No. 82 内面全体に煤かタール様のもの付着	
23	土師器	壺	(13.8)	[3.0]	—	A C I K	10	普通	橙	No. 81 外面油煙付着	
24	土師器	壺	(13.8)	[2.7]	—	A C H I K	10	普通	にぶい褐	内面油煙付着	56-5
25	土師器	甕	20.0	[21.5]	—	C E H I K	70	普通	にぶい橙	No. 5・9・40・45・46・48・51～54・56・58～62・64～66・68・80 外面煤付着	55-9
26	土師器	甕	(20.0)	[6.6]	—	C D H I K	60	普通	赤褐	No. 3・5・11 内面体部・口縁部付近煤付着	56-1
27	土師器	小型甕	(14.9)	[6.9]	—	C E H I K	30	普通	にぶい橙	No. 27・74	56-2
28	土師器	甕	—	[1.8]	(6.0)	C D H I K	10	普通	橙	No. 24	
29	土師器	小型甕	(14.9)	[6.4]	—	C D H I J K	20	普通	にぶい橙	No. 12・71 外面煤付着	
30	土師器	小型甕	(15.0)	[5.3]	—	C E H I K	10	普通	にぶい赤褐	No. 6	
31	土師器	小型甕	(13.0)	[6.9]	—	C E H I K	80	普通	にぶい黄橙	No. 36・69・72 外面煤付着	56-3

ミガキが施される。12～24は北武藏型壺である。14・15は平底化している。23は外面体部、24は内面口縁部に油煙の付着が認められ、灯明具として用いられたと考えられる。

25～31は土師器甕である。25～27・31は武藏型甕である。25は口縁部が外反し、胴部に最大径を持つ。27・29～31は小型甕である。29・31は口縁部付近まで煤が付着する。

遺物は須恵器壺の底部調整や土師器甕の形状などから8世紀中頃～後半のものと考えられる。

(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第121図)

G・H-5・6グリッドに位置する。桁行3間、梁行2間南北棟の側柱建物である。南側は搅乱の影響を受け、南西のピット7～9は消滅しているが、ピット5・6は掘込みが搅乱よりも深かつたため検出できた。

規模は心々距離で桁行6.60m、梁行4.65m、柱

間寸法は2.15m～2.50mと均等ではないが2.20mが多い傾向にある。長軸方位はN-13°-Wを指す。柱穴は、直径0.72～1.20m、深さ0.23～0.51mを測る。

柱痕はピット4・5・6・10の4本の柱穴で確認できた。

出土遺物はないが、隣接する第3号住居跡と建物の方向を揃えていることから、同時期のものである可能性が高い。ただし、空間距離が3mと接近しているため、同時並存したかは不明である。

(3) グリッド出土遺物

遺構外からの遺物は少なかった (第122図)。

1・2は須恵器である。どちらも南比企産と考えられる。1は壺である。底部調整は全面回転ヘラケズリである。8世紀中頃と考えられる。2は甕である。口縁部が少し内湾する。

3は雁股鏡である。時期は不明だが、奈良・平安時代のものであろう。

4. 中・近世の遺構と遺物

中・近世の遺構は井戸跡5基、溝跡15条、火葬遺構2基、土壙109基、柵列跡1列を検出した。調査区の北半部に集中し、南半部は密度が薄い。

(1) 井戸跡

井戸跡は、調査区北半の、東西40m、南北20mの範囲に分布する。直径が2mを超えるもの(第1・4号井戸跡)と、1m前後のもの(第2・3・5号井戸跡)がある。

第1号井戸跡 (第123図)

調査区の北西部C-3・4グリッドに位置する。重複する第2号住居跡より新しく、第42号土壙より古い。平面形態は円形で、断面形態は上部が漏斗状に開く。規模は長径2.42m、短径2.35mを測る。

遺物は古瀬戸の花瓶や常滑の甕・瓦質土器が出

土し (第124図1～7)、15世紀前半頃と考えられる。

第2号井戸跡 (第123図)

C・D-4・5グリッドに位置する。

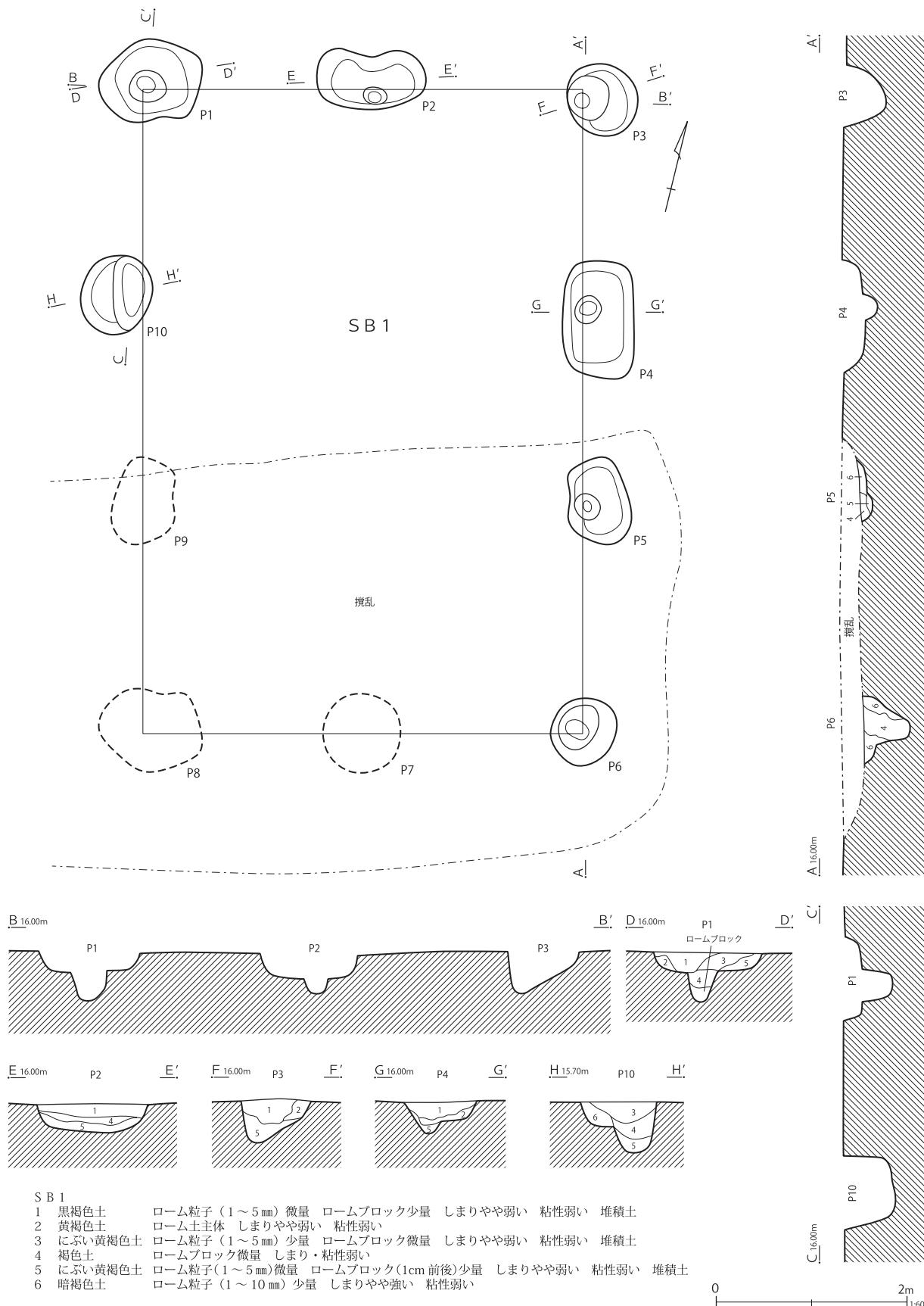
平面形態は円形で、断面形態は垂直気味に立ち上がる。規模は長径1.40m、短径1.25mを測る。厚く堆積された第3層から、短期間で埋め戻されたことが推定される。

遺物は出土しなかった。

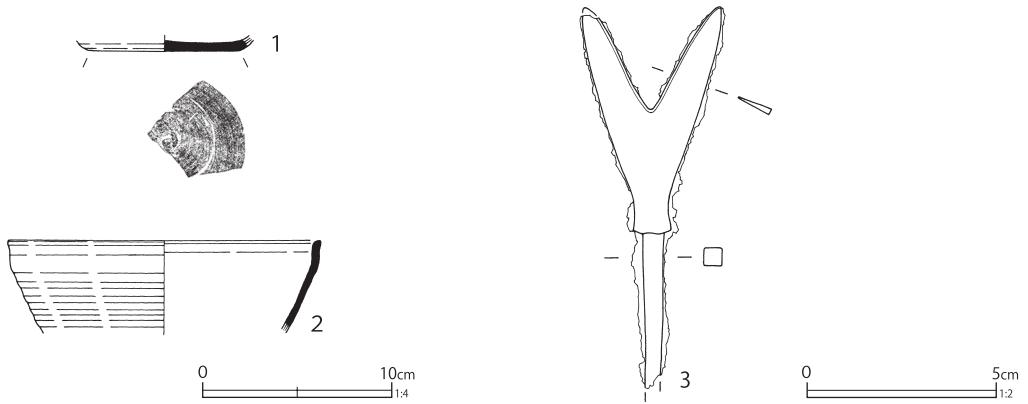
第3号井戸跡 (第123図)

D-5グリッドに位置する。平面形態は橢円形で、断面形態は垂直気味に立ち上がる。規模は長径1.33m、短径1.15mを測る。厚く堆積した第3層から、短期間で埋め戻されたと推定される。

遺物は常滑焼の甕片やかわらけの細片が出土し、15～16世紀頃と考えられる。



第 121 図 第 1 号掘立柱建物跡



第122図 グリッド出土遺物

第35表 グリッド出土遺物観察表（第122図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	壺	—	[0.8]	(8.0)	D I J K	20	良好	灰	F-7 P5 南比企産	
2	須恵器	壺	(16.4)	[4.9]	—	E J K	40	普通	青灰	F-6 P5 南比企産	
3	鉄製品	鉄鎌	茎闊長 5.9	茎長 [4.15]	重さ 24.6					C-5 No. 1 雁股鎌	56-8

第4号井戸跡（第123図）

E-6・7グリッドに位置する。平面形態は円形を呈する。規模は長径3.37m、短径2.33mを測る。

遺物は出土しなかった。

第5号井戸跡（第123図）

C-7グリッドに位置する。

平面形態は円形で、断面形態は下部がオーバーハングし、下膨れ気味になる。規模は長径1.10m、短径1.05mを測る。覆土が厚く堆積する状況から、短期間で埋め戻されたと考えられる。覆土中からは擂鉢や焰烙が出土した（第124図8・9）。

遺物の時期は17世紀前半～18世紀前半と考えられ、井戸跡の埋没も同じ頃と思われる。

（2）溝跡

溝跡は調査区の北半部から検出された。東西方向に走るものが多いが、性格がわかる遺構は無かった。溝跡は方向性から4群に分けることができ、1群が第1・4・12号溝跡、2群が第6・13号溝跡、3群が第9・15号溝跡、4群が第7・8・2号に分類される。各溝跡の詳細は、第37表に示した。

第1・4号溝跡（第125・126図）

第1号溝跡と第4号溝跡は走行方位や規模から関連する遺構と考えられる。

第1号溝跡は調査区の北壁に沿って検出された。B-4・5、C-2～4グリッドに位置する東西方向の溝跡である。長さ14m、幅0.35～2.00m、深さ0.02～0.10cmを測る。

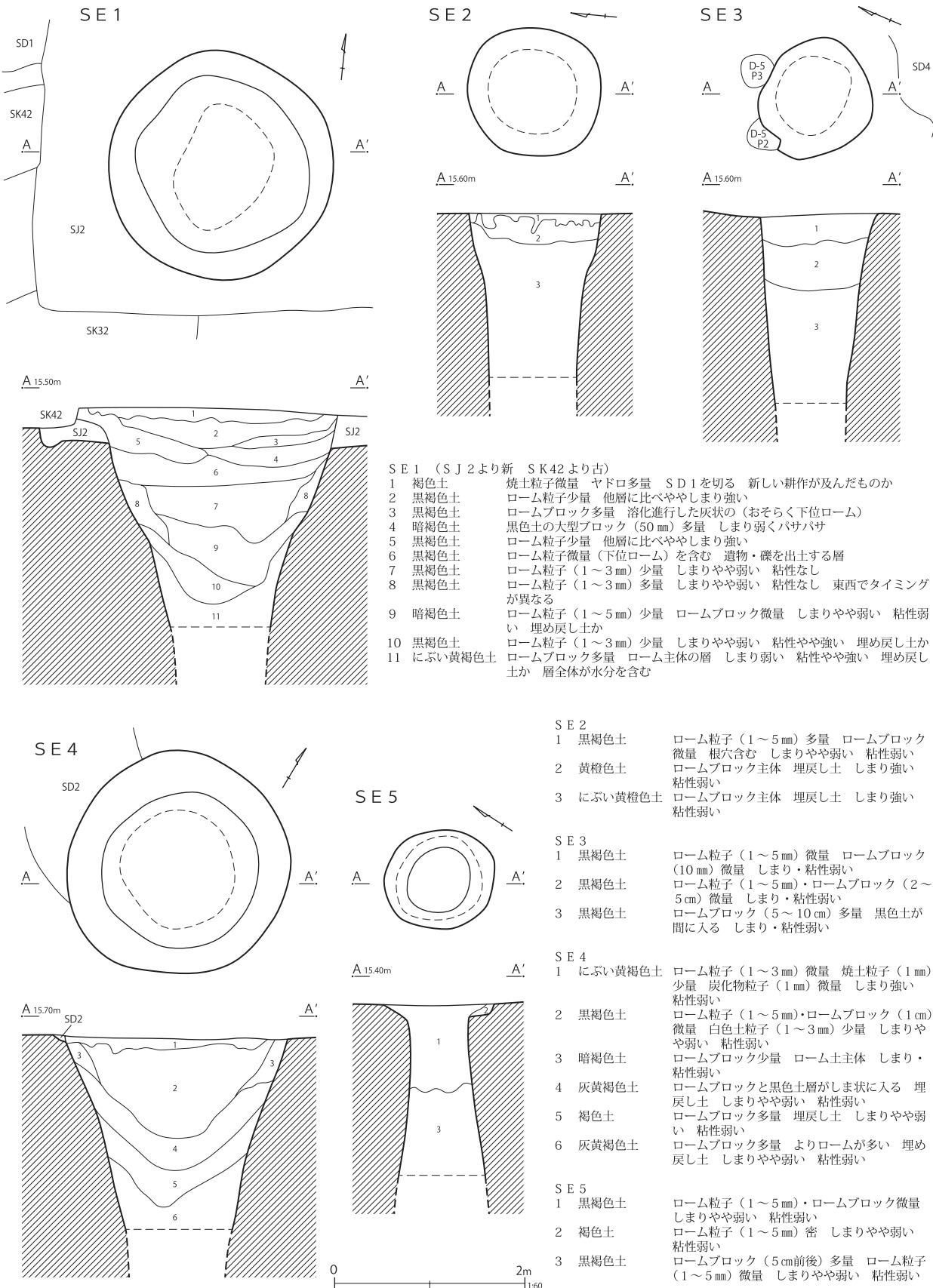
第4号溝跡はD-4・5・6グリッドに位置する。C-1グリッドで一度途切れ、0.50m程間隔を置いて再び延伸する。長さは西側で15.4m、東側で5.80m、幅0.50～2.40m、深さ0.14～0.46mを測る。幅の変化が激しい。

遺物は、第4号溝跡から片口鉢（第127図）と肥前系陶器碗が1点ずつ出土している。17世紀後半～18世紀初頭と思われる。

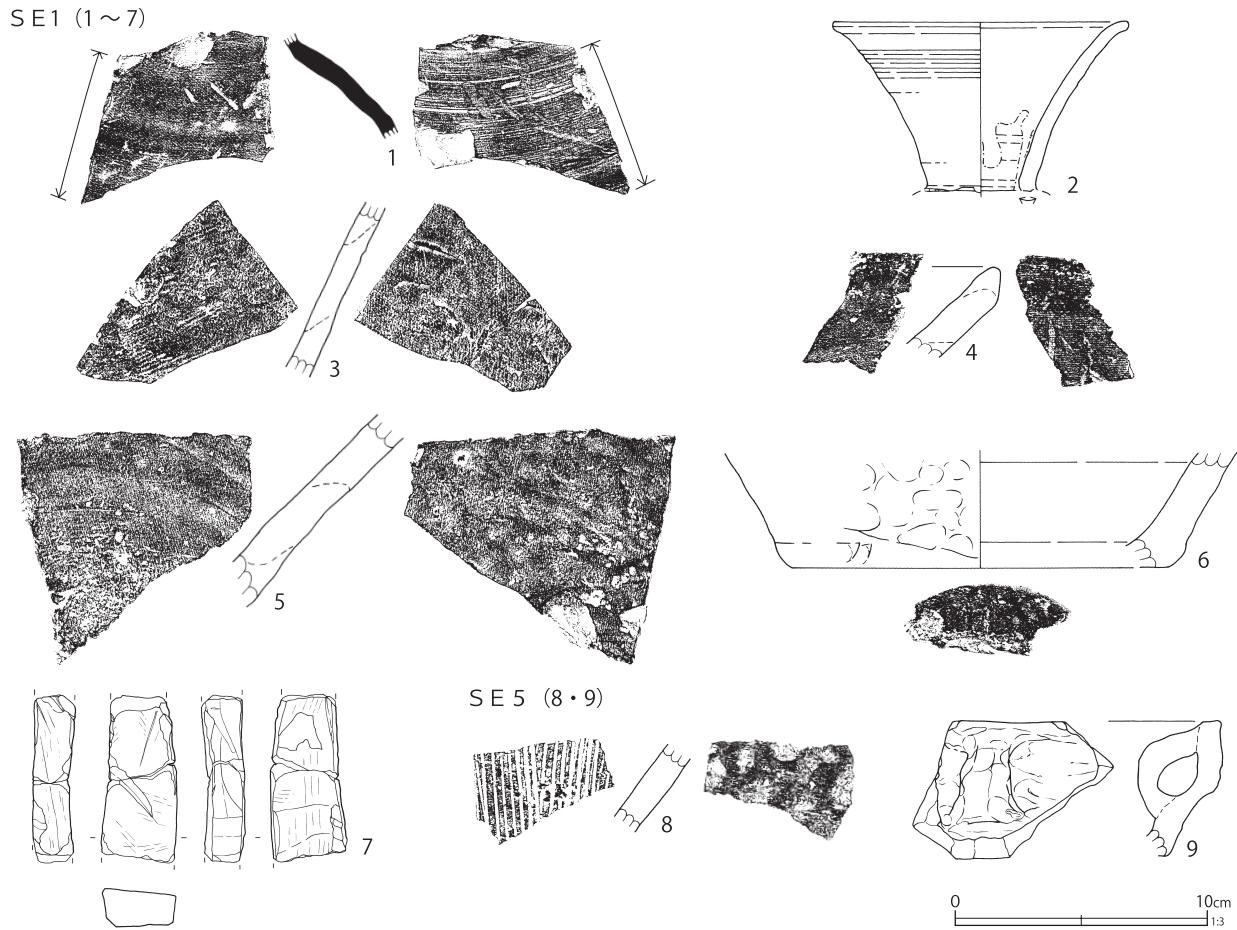
第2号溝跡（第125・126図）

E-2～6、F-4・5グリッドに位置する。調査区の中央部から西側調査区域外へ延びる溝跡である。

E-3グリッド、F-4グリッドで屈曲して方向を変え、F-5グリッドで途切れる。長さ46.5m、幅0.2～3.0m、深さ0.04～0.2mを測る。屈曲する浅い溝跡で、第7号溝跡と並走する。



第123図 井戸跡



第124図 井戸跡出土遺物

第36表 井戸跡出土遺物観察表(第124図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	壺甕類	—	[6.0]	—	E I K	5	普通	灰黄	SE1 側縁二次利用(転用砥具)	56-7
2	陶器	花瓶	(11.5)	[6.6]	—	D	15	良好	灰白	SE1 古瀬戸 内外面灰釉 後II期 (尊式花瓶) 二次利用(砥具)	56-7
3	陶器	甕	—	[7.1]	—	D E I K	5	良好	にぶい赤褐	SE1 常滑 内面指頭圧痕 15C頃か	56-7
4	瓦質土器	片口鉢	—	[3.6]	—	C G I M	5	不良	灰黄褐	SE1	56-7
5	瓦質土器	片口鉢	—	[7.7]	—	D E	5	良好	灰白	SE1 外面に一部煤付着	56-7
6	瓦質土器	片口鉢	—	[4.5]	(14.8)	B D E	5	普通	にぶい黄褐	SE1 内面煤付着	56-7
7	石製品	砥石	長さ 9.8 幅 2.0 厚さ 2.0 重さ 67.5 岩石種 流紋岩						SE1 丸ノミ痕か		
8	陶器	擂鉢	—	[3.5]	—	D E I	5	良好	灰褐	SE5 備前系か 内面擂目	56-7
9	瓦質土器	焰烙	—	[5.2]	—	C E H I	5	普通	橙	SE5 体部外面下位～底面しわ状痕 体部外面煤付着	56-7

出土遺物がなく、用途等は不明である。

第7号溝跡(第125・126図)

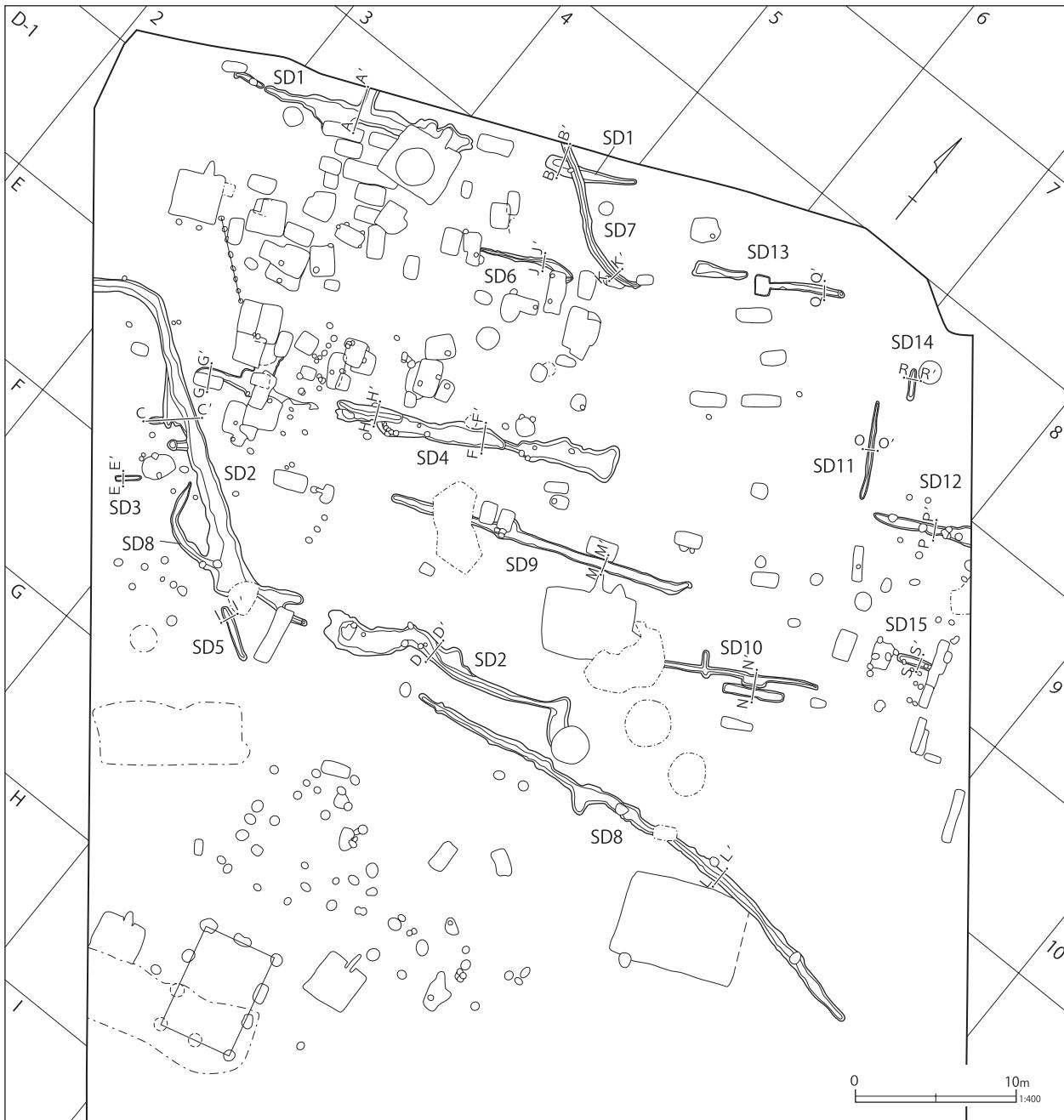
B-4、C-4・5グリッドに位置する北西～南東方向の溝跡である。北西側は調査区域外へと続く。規模は長さ7.50m、幅0.30～0.50m、深さ0.16～0.33mを測る。C-5グリッドで緩やかに曲がり、方向を変える。幅は異なるが、同じ

方向に走る第2号溝跡と関連する可能性がある。

遺物は焰烙の破片が出土し、時期は17世紀後半から18世紀初頭と考えられる。

第8号溝跡(第125・126図)

E-6～9、F-6グリッドに位置する東西方の溝跡である。第2号溝跡を東側に延長したような位置関係にある。規模は長さ33.80m、幅



第125図 溝跡（1）

0.40～2.00m、深さ0.04～0.10mを測る。E-8グリッドで屈曲し、方向を北に変える。
遺物は出土しなかった。

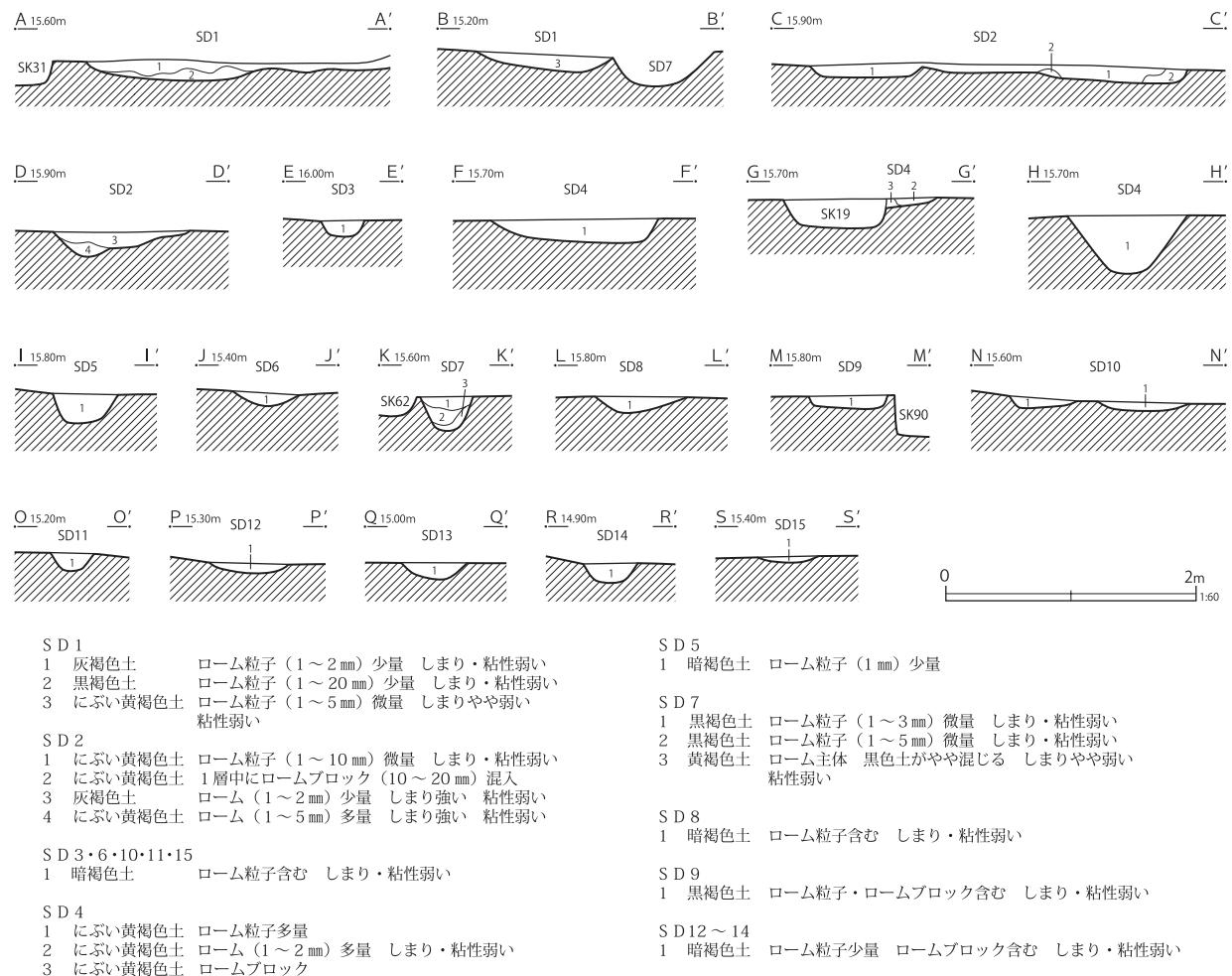
（3）火葬遺構

火葬遺構は調査区中央西寄りから検出された。平面形態は「T」字形を呈し、張り出し部は西側に設けられる。

第1号火葬遺構（第128図）

E-4グリッドに位置し、軸方位はN-17°-Wを指す。平面形態は「T」字形を呈する。張り出し部は一段深く掘り込まれ、底面が先端に向かって徐々に高くなる。主体部は長軸1.15m、短軸0.7m、深さ0.28mで、張り出し部は長さ0.45m、幅0.25cmを測る。張り出し部を挟んだ北西・南西隅にピットが位置するが、用途は不明である。

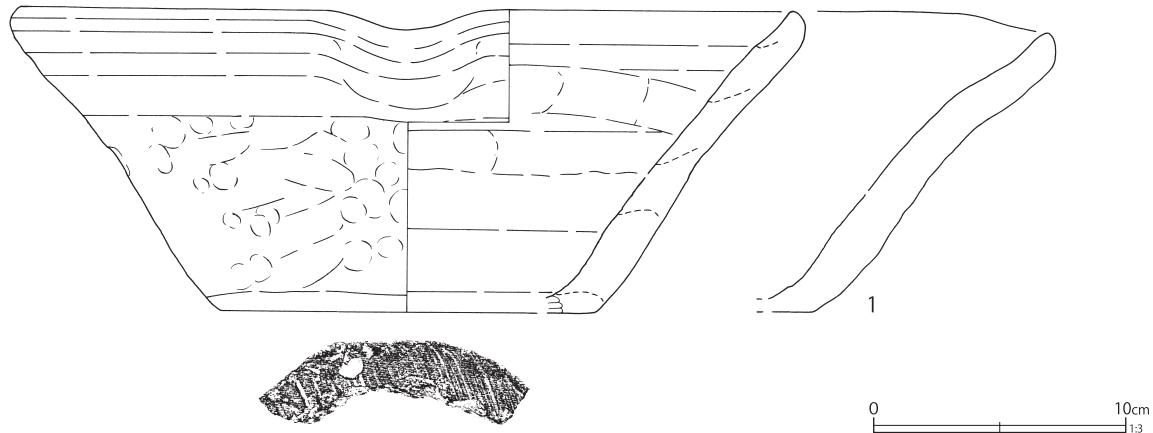
石神遺跡



第 126 図 溝跡 (2)

第 37 表 溝跡一覧表 (第 125・126 図)

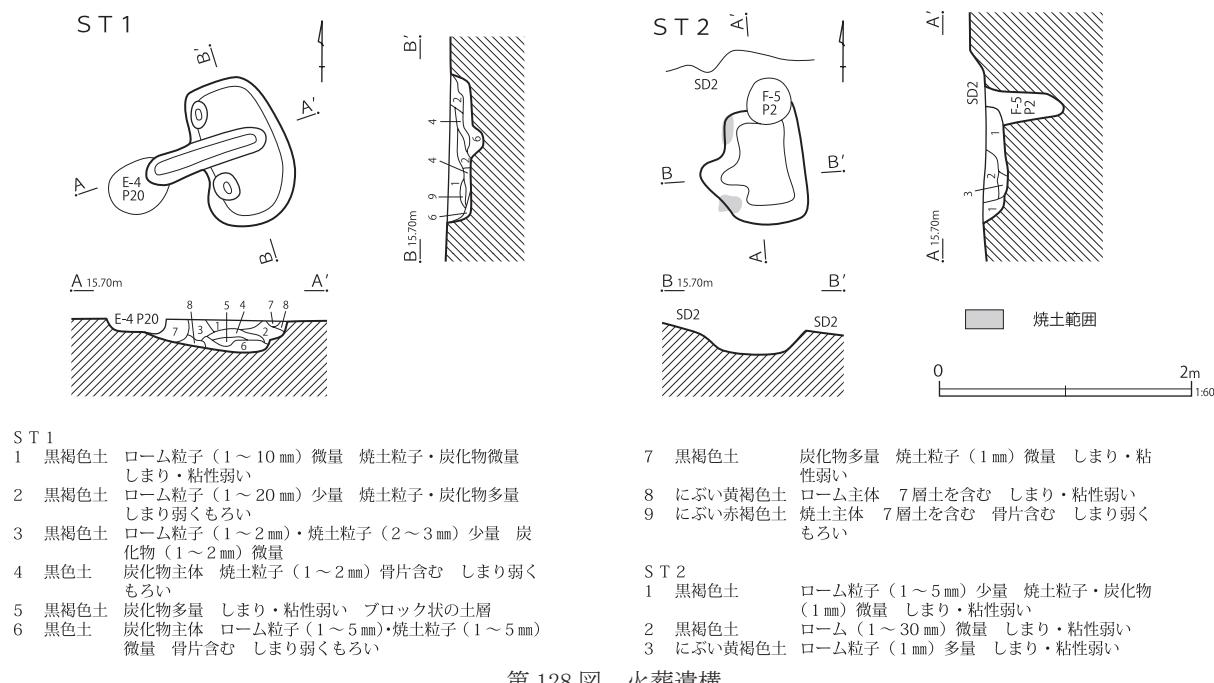
No.	グリッド	方位	方位	長さ	幅		深さ		重複遺構
					最大	最小	最大	最小	
1	B-4・5 C-2・3・4	N-64°-E		14.00	2.00	0.35	0.10	0.02	SK31・SD7 より古 SJ2 より新 SK58
2	E-2・3・4・5・6 F-4・5	N-55°-W	N-72°-E	46.50	3.00	0.20	0.20	0.04	SE4・SK48 より古 ST2 より新
3	F-3	N-50°-E		1.60	0.35	0.20	0.12	0.05	
4	D-4・5・6	N-61°-E		17.70	2.40	0.50	0.46	0.14	
5	F-4・5	N-60°-W		3.50	0.60	0.40	0.20	0.09	
6	C-4・5	N-64°-E	N-90°-E	6.10	0.80	0.20	0.14	0.04	SK36・57 より古
7	B-4 C-4・5	N-52°-W	N-80°-E	7.50	0.50	0.30	0.33	0.16	SD1・SK62・96
8	E-6・7・8・9 F-6	N-80°-E	N-78°-W	33.80	2.00	0.40	0.10	0.04	
9	D-5・6 E-5	N-70°-E		19.50	1.30	0.40	0.13	0.03	SK79・107
10	D-7	N-58°-E		9.60	0.80	0.30	0.08	0.03	
11	B・C-7	N-30°-W		6.10	0.35	0.20	0.10	0.02	
12	C-7・8	N-64°-E		6.00	1.20	0.30	0.07	0.02	
13	B-6	N-56°-E	N-60°-E	8.90	1.30	0.40	0.12	0.03	
14	B-7	N-32°-W		2.00	0.45	0.40	0.18	0.07	
15	C-8	N-68°-E		2.20	0.55	0.45	0.05	0.01	SK100



第127図 第4号溝跡出土遺物

第38表 第4号溝跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	瓦質土器	片口鉢	(30.4)	11.9	(14.7)	D E	30	普通	灰黄	No.1 体部外面煤付着	56-6



第128図 火葬遺構

遺物はないが、覆土には骨粉が含まれていた。

第2号火葬遺構（第128図）

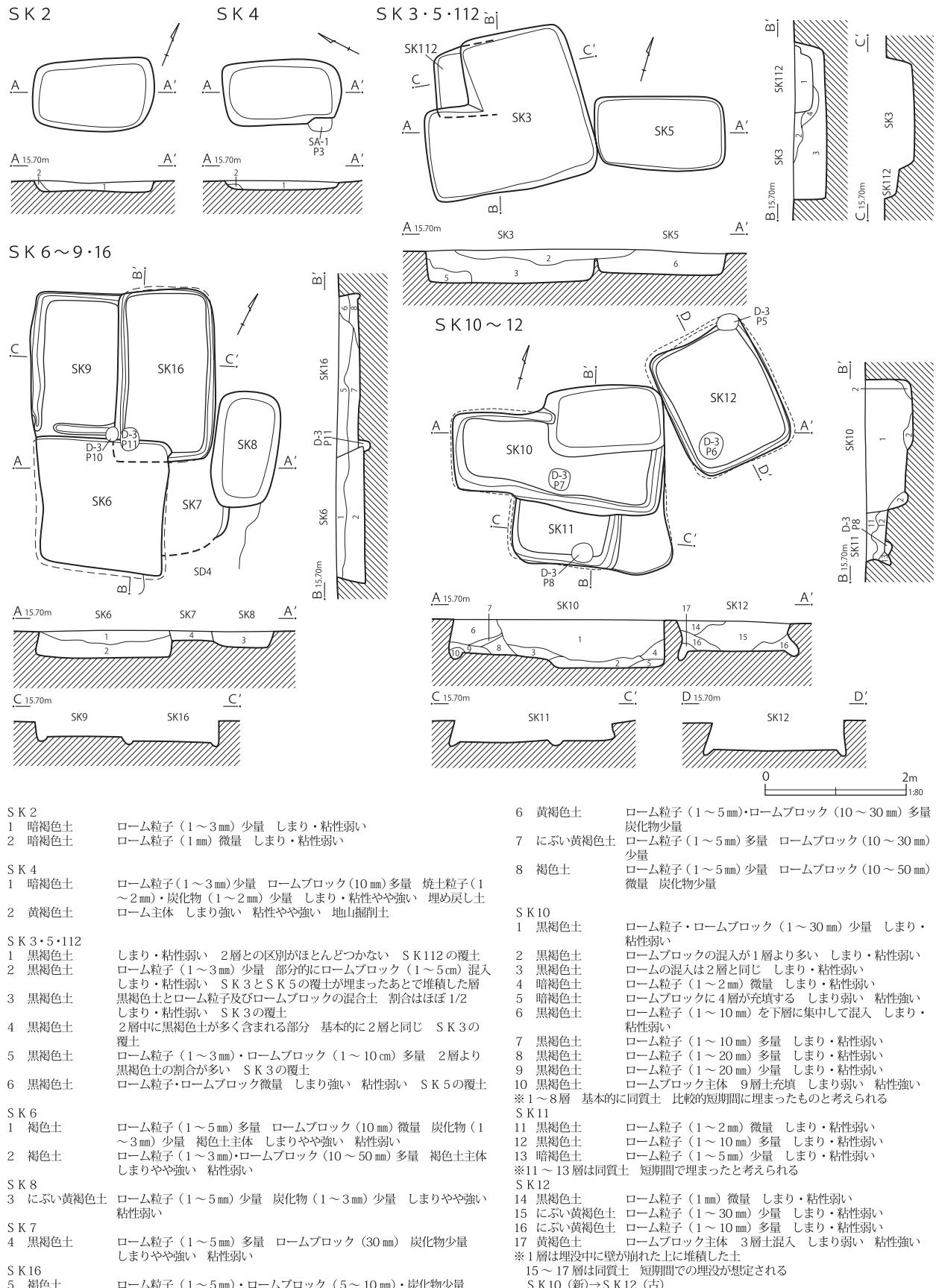
E・F-5グリッドに位置し、軸方位はN-6°-Wを指す。平面形態は「T」字形を呈し、張り出し部の壁面が被熱により赤く焼けている。主体部は長軸0.90m、短軸0.84m、深さ0.18mで、張り出し部は長さ0.2m、幅0.25mを測る。

遺物は出土しなかった。

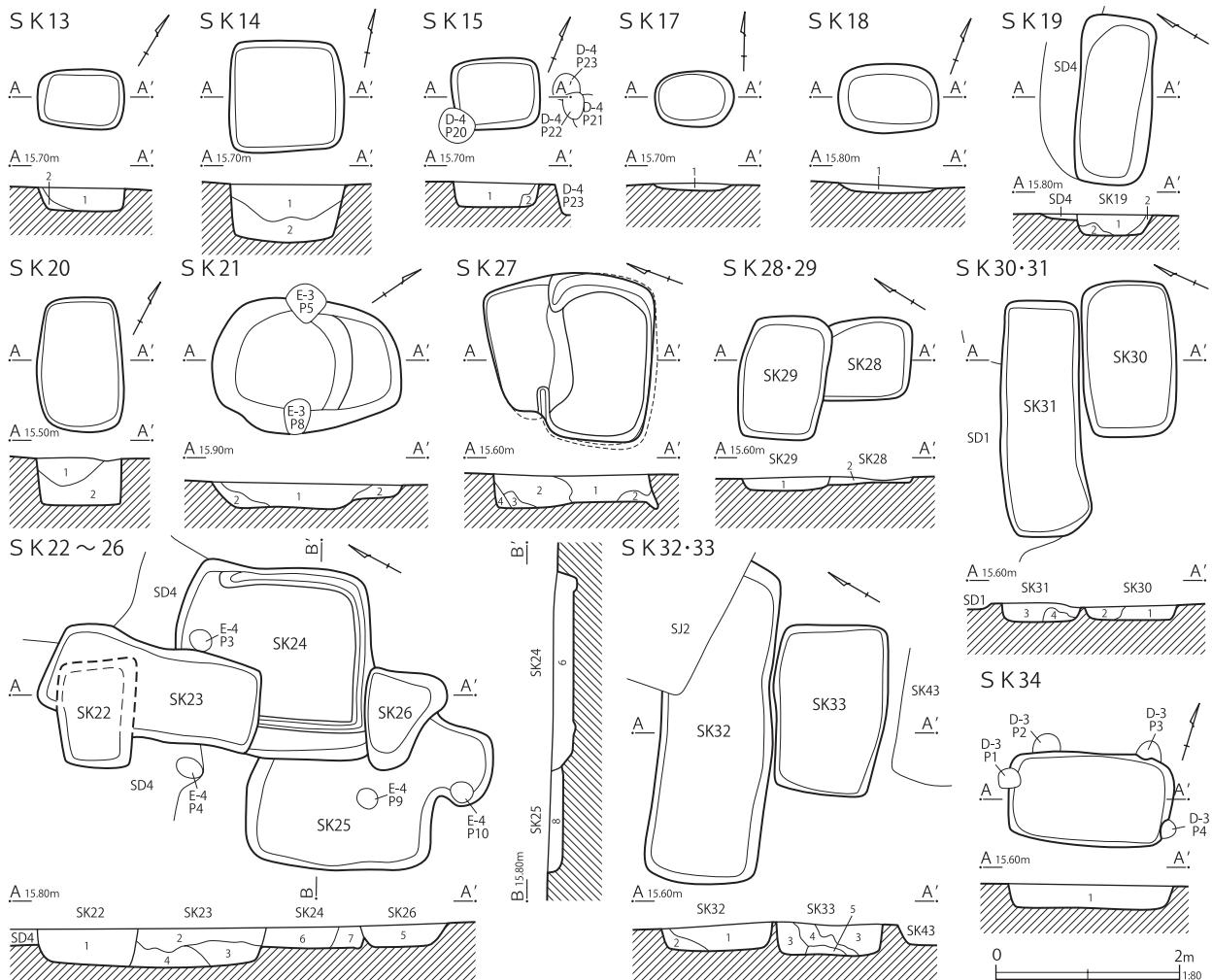
(4) 土壌

土壌は調査区の北部に分布し、平面形態が長方形を呈するものが多い。長軸方位は25°前後西へ振れ、溝跡なども近似した方位を指すことから、近世の地割に基づいて配置されたものと考えられる。

特に調査区北西部の一角に密集しており、第1・4号溝跡に挟まれた東西約30m、南北約20mの範



第129図 土壌 (1)



SK13
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~20mm) 微量 黒褐色土をブロック状に少量 しまり・粘性弱い
2 暗褐色土 ローム粒子 (1~2mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK14
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~20mm) 少量 しまり・粘性弱い
2 暗褐色土 ロームブロックの混入が1層より多い しまり・粘性弱い
※1・2層は基本的に同質土 一度に埋まったものと考える

SK15
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~5mm) 均等に含む しまり・粘性弱い
2 暗褐色土 1層中にロームブロック (10~20mm) 混入 しまり・粘性弱い
※1・2層はほぼ同じ土層 一度に埋まったもの

SK17
1 暗褐色土 ローム粒子含む しまり・粘性弱い

SK18
1 暗褐色土 ローム粒子含む しまり・粘性弱い

SK19
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~2mm) 少量 焼土粒子 (1~2mm) 微量 しまり・粘性弱い
2 暗褐色土 1層よりロームの混入が多い

SK20
1 灰褐色土 ローム粒子 (1~2mm) 多量 しまり・粘性弱い
2 黒褐色土 ローム粒子 (1~5mm) 多量 しまり・粘性弱い

SK21
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~20mm) 微量 しまり・粘性弱い ポソボソした土
2 暗褐色土 ローム粒子 (1~2mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK22
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~20mm)・黒色土 (1~5mm) 少量 しまり・粘性弱い
SK23
2 黒褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK24
3 黒褐色土 ローム粒子 (1~30mm) 1層より多く含む しまり・粘性弱い
4 黒褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 多量 しまり・粘性弱い

SK26
5 暗褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK27
6 暗褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 少量 しまり・粘性弱い

7 黒褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 少量 根のあとか

SK25
8 黒褐色土 ローム粒子 (1~50mm) 多量 しまり・粘性弱い

SK27
1 暗褐色土 ロームブロック (1~50mm) を多くまだらに含む しまり・粘性弱い
2 暗褐色土 ロームブロック (1~30mm) 微量 しまり・粘性弱い
3 暗褐色土 ロームブロックを主体として2層土充填
4 暗褐色土 ローム粒子 (1~2mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK29
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~10mm)・焼土粒子 (1mm) 微量 しまり・粘性弱い
SK28
2 暗褐色土 ローム粒子 (1~2mm) しまり・粘性弱い

SK30
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~50mm) 多量 しまり・粘性弱い
2 暗褐色土 ローム粒子 (1~5mm) 少量 しまり・粘性弱い

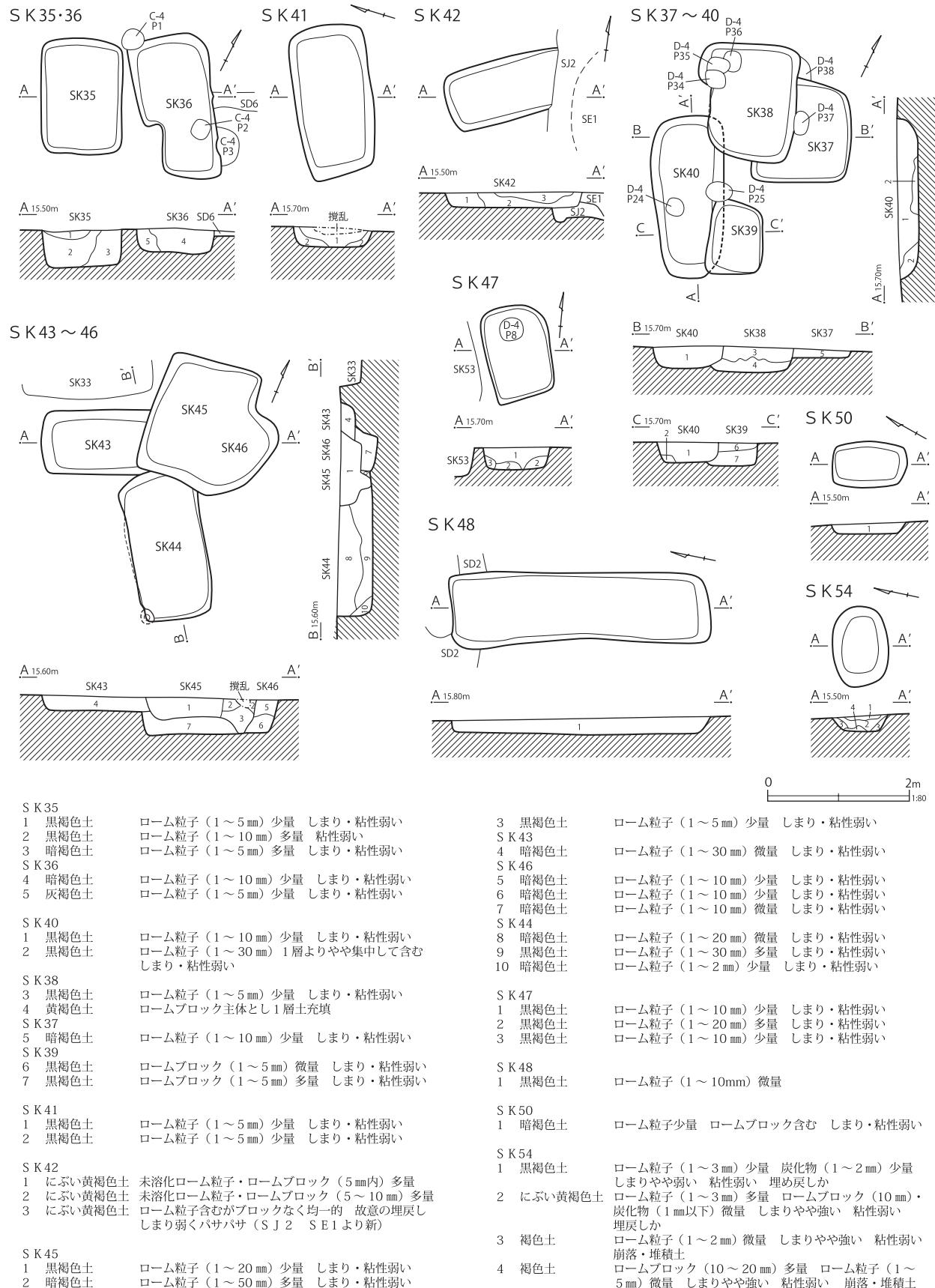
SK31
3 黒褐色土 ローム粒子 (1~5mm) 少量 しまり・粘性弱い
4 黒褐色土 ローム粒子 (1~30mm) 少量 しまり・粘性弱い

SK32
1 黒褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 多量 しまり・粘性弱い
2 黒褐色土 ローム粒子 (1~5mm) 少量 同質土 SJ 2を切る

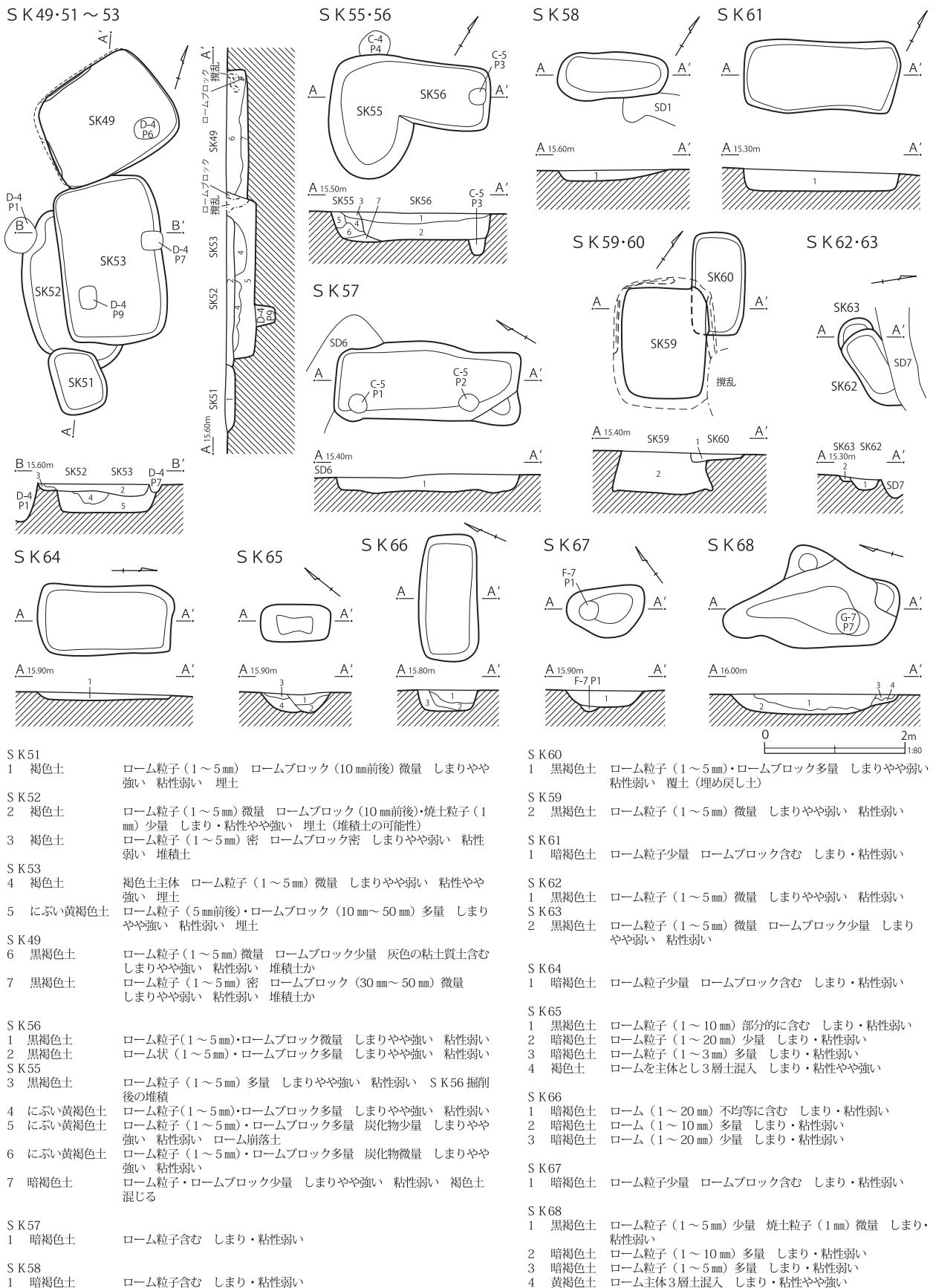
SK33
3 黒褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 均等に多量
4 黑褐色土 ローム粒子 (1~5mm) 微量 黒色土ブロック混入 根による搅乱か
5 黑褐色土 ロームブロック (1~80mm) 微量

SK34
1 暗褐色土 ローム粒子 (1~10mm) 均等に含む しまり・粘性弱い

第130図 土壌 (2)

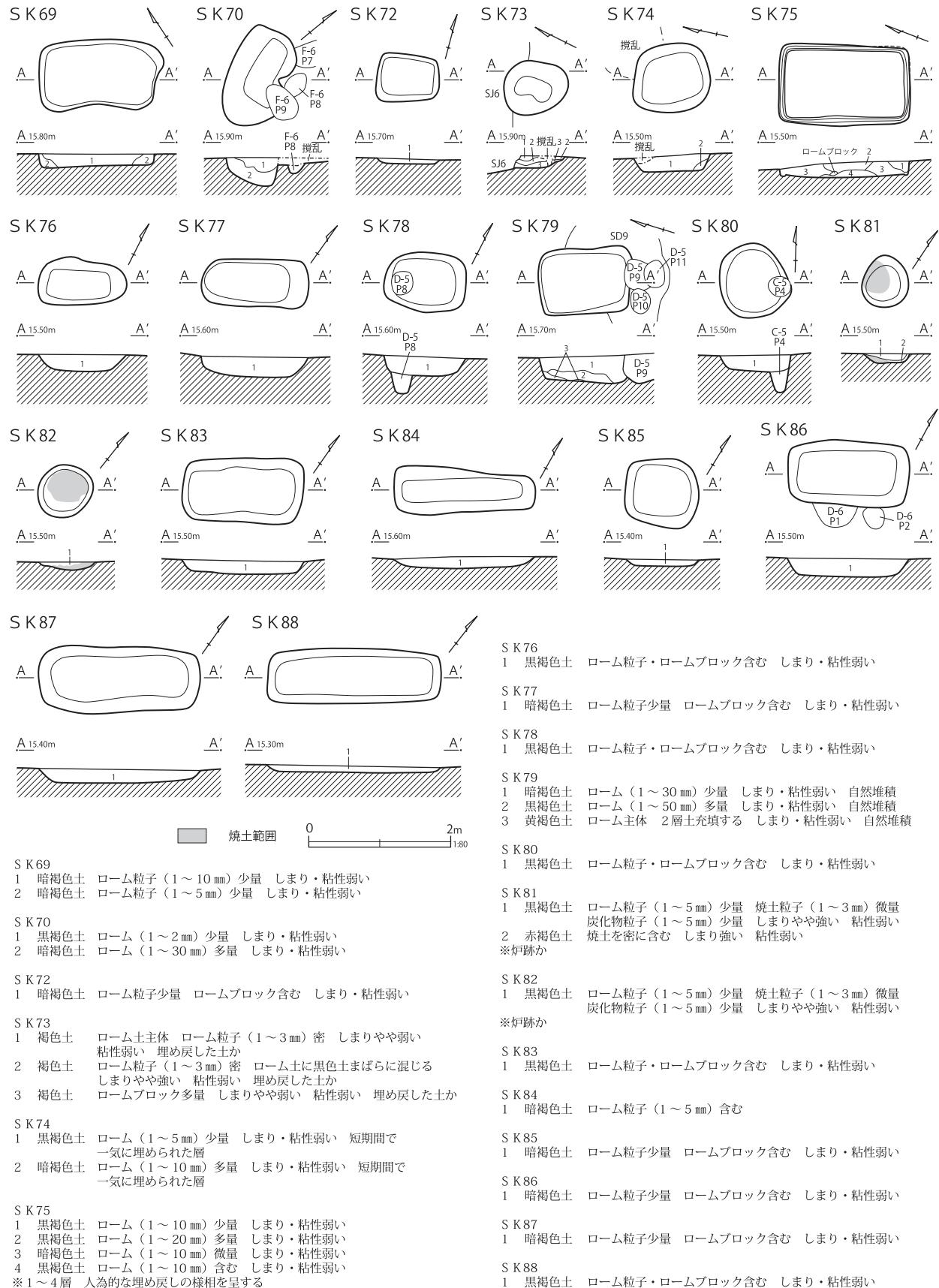


第131図 土壌 (3)

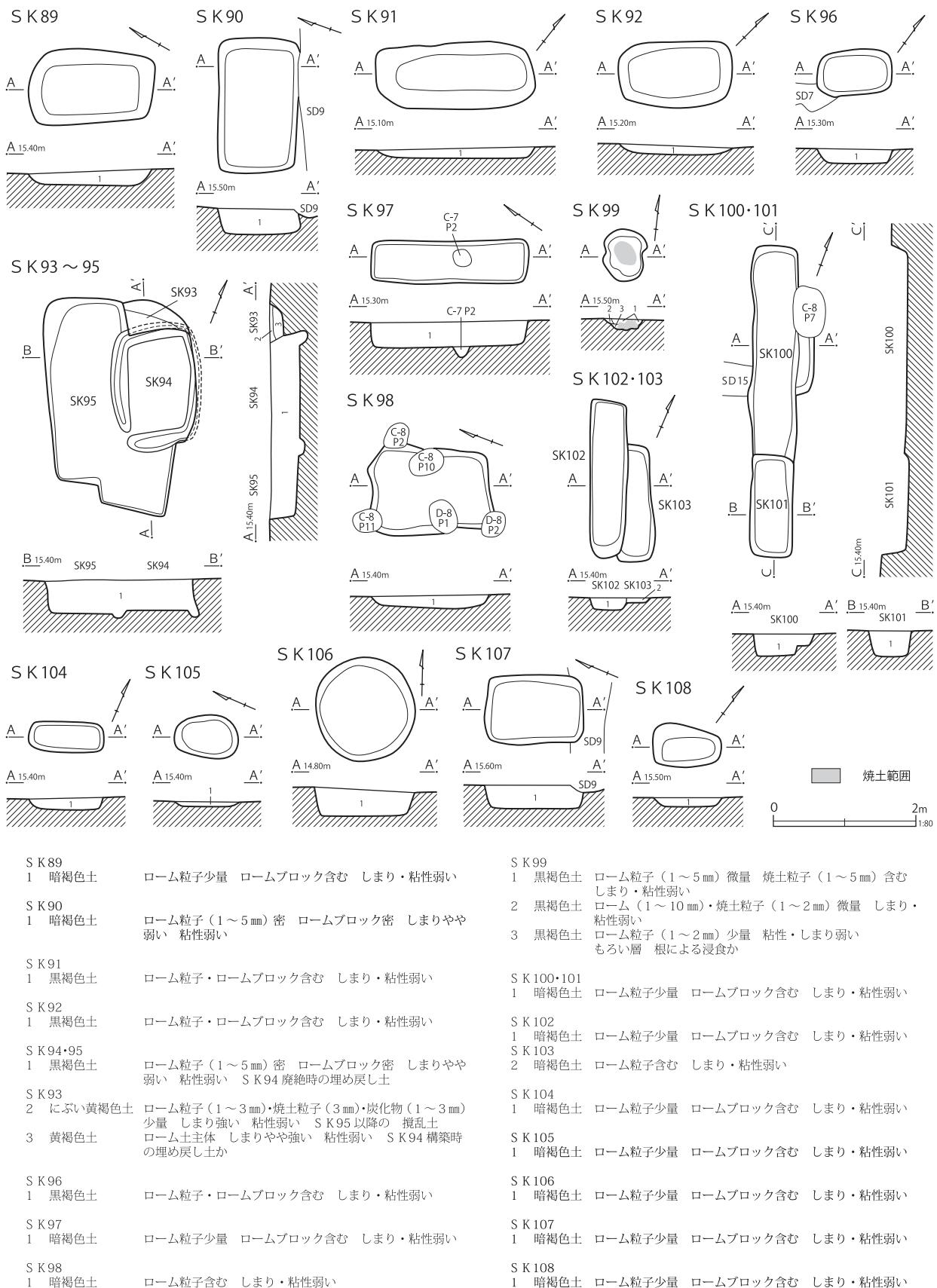


第132図 土壌(4)

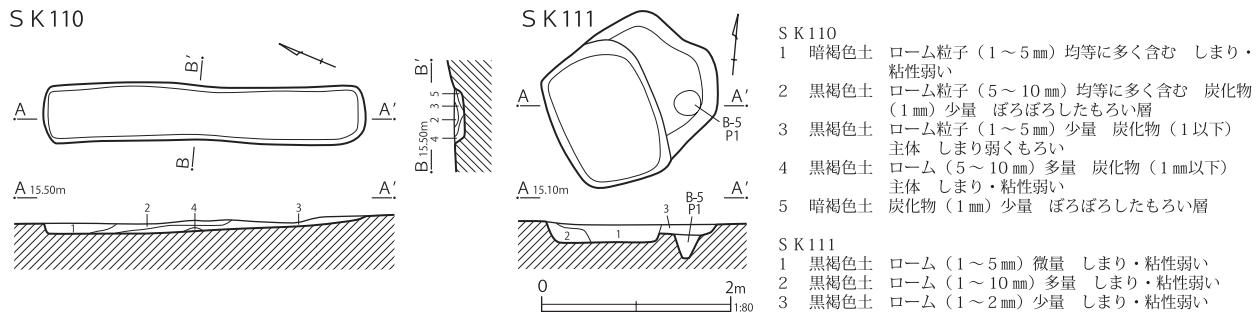
石神遺跡



第133図 土壌 (5)



第134図 土壌 (6)



第 135 図 土壌 (7)

囲に密集する。この西側には底面に壁溝状の溝を持つ土壌（第 9・12・16・24・27 号土壌）が集中する。このような土壌は茗荷栽培用のムロとされている調査例がある。他の土壌の性格は不明だが、壁溝をもつ土壌が多く集中していることから、農耕に関連する遺構群の可能性がある。各遺構の詳細は第 39 表に示した。

第 3 号土壌（第 129 図）

土壌集中箇所の西側にあたる D-3 グリッドに位置する。第 112 号土壌と重複する。長軸方向が異なる 2 基の長方形土壌が重複している可能性がある。東側が長軸 2.35m、短軸 1.60m、西側が長軸 2.33m、短軸 1.25m、深さは 0.48m を測る。遺物は釘と椀型滓が出土した（第 136 図 1・2）。遺物の時期は特定できないが、周辺の土壌との関係から近世のものと考えられる。

第 21 号土壌（第 130 図）

調査区の西部端、E・F-3 グリッドに位置する。平面形態は不整橢円形を呈し、南側部分が径 1.62m 程の円形状に一段掘り込まれている。規模は長径 2.05m、短径 1.45m、深さ 0.30m を測り、長軸方位は N-35°-E を指す。

遺物は折縁皿と砥石が出土し（第 136 図 3・4）、16 世紀末～17 世紀初頭頃と考えられる。

第 24 号土壌（第 130 図）

土壌集中箇所の南西隅、E-4 グリッドに位置し、第 23・25・26 号土壌と重複し、第 23・26 号土壌より古く、第 25 号土壌より新しい。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸 2.15m、短

軸 2.05m、深さ 0.22m を測る。底面に幅 0.10～0.15m 程の壁溝が東・南・西辺を廻る。西辺は壁から 0.20m 程離れた位置を廻り、北壁では検出されなかった。

壁溝を持つ土壌は、他に第 9～12・16・24・27・49・59・75・94 号土壌がある。壁溝は土壌内を全周するものと一部切れるものがある。耕作等に伴うムロ状遺構の可能性がある。また、これらの土壌は壁が垂直に立ち上がるところから、壁板もしくは壁の補強材を埋設した溝の可能性もある。

第 38 号土壌（第 131 図）

土壌集中箇所の西寄り、D-4 グリッドに位置する。重複する第 40 号土壌より古く、第 37 号土壌より新しい。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸 1.65m、短軸 1.40m、深さ 0.38m を測る。長軸方位は N-20°-W を指す。

遺物は古銭が 5 点出土した（第 136 図 6～10）。土坑墓の可能性が考えられるが、人骨等は検出されていない。

第 47 号土壌（第 131 図）

土壌集中箇所の南側、D-4 グリッドに位置する。平面形態は長方形で、規模は長軸 1.3m、短軸 0.9m、深さ 0.32m を測り、長軸方位は N-20°-W を指す。古銭が出土した（第 136 図 11）。

第 49 号土壌（第 132 図）

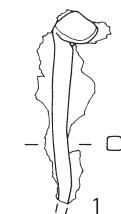
土壌集中箇所の南寄り、D-4 グリッドに位置する。平面形態は隅丸長方形で、規模は長軸 1.85m、短軸 1.50m、深さ 0.33m を測り、長軸方位は N-42°-W を指す。

第39表 土壌一覧表（第129～135図）

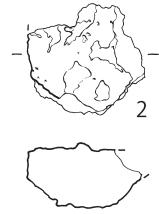
No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構	No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構
1							縄文に移行	38	D-4	長方形	N-20°-W	1.65	1.40	0.38	SK40より古 SK37より新
2	D-3	長方形	N-69°-E	1.72	1.00	0.16		39	D-4	長方形	N-23°-W	1.00	0.80	0.32	SK40より古
3	D-3	長方形	N-61°-E	2.35	2.25	0.48	SK112より古	40	D-4	隅丸長方形	N-27°-W	2.30	1.00	0.33	SK38・39より新
4	D-3	長方形	N-29°-W	1.65	0.90	0.14		41	E-4	長方形	N-65°-E	2.10	1.10	0.33	
5	D-3	長方形	N-74°-E	1.85	1.10	0.36		42	C-3	長方形	N-65°-E	(1.70)	0.90	0.24	SJ2より新
6	D・E-3	方形	N-23°-W	1.85	1.70	0.44	SK9・16より古 SK7より新	43	C-3	長方形	N-69°-E	(1.50)	0.90	0.24	SK45より古 SK44・46より新
7	D・E-3	方形	N-23°-W	(1.25)	(0.90)	0.08	SK6・8より古 SD4より新	44	C-3・4 D-4	長方形	N-33°-W	2.10	1.10	0.54	SK43・45・46 より古
8	D-3・4	隅丸長方形	N-21°-W	1.60	0.90	0.22	SK7・SD4より新	45	C-3・4	長方形	N-0°	1.70	1.80	0.51	SK43・44・46 より新
9	D-3	長方形	N-23°-W	(2.05)	(1.20)	0.20	SK6・16より新	46	C-3・4	不整形	N-0°	1.70	1.80	0.51	SK43・45より古 SK44より新
10	D-3	長方形	N-75°-E	3.00	1.82	0.67	SK11より新	47	D-4	長方形	N-20°-W	1.30	0.90	0.32	
11	D-3	方形	N-80°-E	(2.25)	(0.70)	0.34	SK10より古	48	F-4・5	長方形	N-10°-W	3.60	0.90	0.26	SD2より新
12	D-3	長方形	N-42°-W	1.88	1.50	0.44		49	D-4	隅丸長方形	N-42°-E	1.85	1.50	0.33	SK53より古
13	D-3・4	長方形	N-59°-E	0.95	0.65	0.26		50	C-4	長方形	N-30°-W	1.05	0.65	0.18	
14	D-4	方形	N-80°-E	1.25	1.20	0.66		51	D-4	長方形	N-25°-W	0.95	0.75	0.15	SK52より新
15	D-4	長方形	N-70°-E	0.95	0.75	0.27		52	D-4	楕円形	N-22°-W	(2.00)	1.20	0.16	SK51より古 SK53より新
16	D-3	長方形	N-24°-W	2.40	0.90	0.32	SK9より古 SK6より新	53	D-4	長方形	N-18°-W	2.35	1.45	0.44	SK52より古 SK49より新
17	D-3	楕円形	N-85°-E	0.85	0.60	0.07		54	C-4	隅丸長方形	N-78°-E	1.15	0.80	0.25	
18	E-3	隅丸長方形	N-70°-E	1.10	0.75	0.10		55	C-4	楕円形	N-23°-W	1.80	1.20	0.43	SK56より古
19	E-3	長方形	N-65°-E	1.80	0.80	0.24	SD4より新	56	C-4・5	長方形	N-67°-E	(1.80)	0.90	0.37	SK55より新
20	C・D-4	長方形	N-25°-W	1.45	0.95	0.55		57	C-4・5	長方形	N-30°-W	2.60	1.10	0.26	SD6より新
21	E・F-3	不整形楕円形	N-35°-E	2.05	1.45	0.30		58	C-2	楕円形	N-60°-E	1.55	0.65	0.15	SD1
22	E-3・4	長方形	N-65°-E	(1.15)	(0.85)	0.23	SD4・SK23より新	59	C-4	長方形	N-35°-W	1.55	1.20	0.60	SK60より古
23	E-3・4	長方形	N-12°-W	2.30	1.00	0.43	SK24・SD4より新 SK22より古	60	C-4	長方形	N-32°-W	1.45	0.75	0.08	SK59より新
24	E-4	長方形	N-26°-W	2.15	2.05	0.22	SK25より新 SK23・26より古	61	B・C-4	長方形	N-63°-E	2.20	1.00	0.27	
25	E-3・4	方形	N-25°-W	2.60	(1.70)	0.20	SK24・26より古	62	C-5	隅丸長方形	N-68°-E	1.20	0.60	0.22	SK63より新
26	E-4	不整形	N-83°-W	1.20	0.70	0.22	SK24・25より新	63	C-5	円形	—	0.55	0.20	0.09	SK62より古
27	C・D-3	不整形	N-20°-W	1.80	1.80	0.36		64	F-6	長方形	N-0°	1.90	1.00	0.13	
28	C-3	長方形	N-29°-W	(0.90)	0.90	0.11	SK29より古	65	G-5	長方形	N-38°-W	1.00	0.55	0.31	
29	C-3	長方形	N-67°-E	1.35	0.95	0.20	SK28より新	66	F-5	長方形	N-66°-E	1.80	0.85	0.28	
30	C-3	長方形	N-66°-E	1.70	1.00	0.24		67	F・G-7	不整形	N-53°-W	1.10	0.70	0.27	
31	C-3	長方形	N-66°-E	2.50	0.80	0.29	SD1	68	G-7	不整形	N-18°-W	2.50	1.50	0.30	
32	C-3	長方形	N-65°-E	3.50	1.20	0.37	SJ2より新	69	F-6・7	不整形	N-55°-W	1.75	0.90	0.22	
33	C-3	長方形	N-65°-E	1.85	1.25	0.37		70	F・G-6	不整形	N-19°-W	1.40	0.80	0.45	
34	D-3	長方形	N-73°-E	1.80	1.00	0.26		71							縄文に移行
35	C-4	長方形	N-25°-W	1.60	1.15	0.53		72	E-5	方形	N-75°-E	0.85	0.70	0.09	
36	C-4	長方形	N-35°-W	2.05	1.10	0.34	SD6より新	73	F-8	楕円形	N-25°-W	0.90	0.75	0.30	SJ6より古
37	D-4	方形	N-23°-W	1.45	1.40	0.15	SK38より古	74	C・D-5	隅丸方形	N-12°-W	1.05	1.00	0.27	

No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構	No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構
75	C・D-7	長方形	N-20°-W	1.85	1.10	0.23		94	C-5	長方形	N-23°-W	1.25	0.85	0.43	SK93・95より新
76	C-5	隅丸方形	N-62°-E	1.25	0.60	0.25		95	C-5	長方形	N-23°-W	2.90	1.70	0.52	SK94より古 SK93より新
77	D-5	隅丸方形	N-55°-E	1.50	0.65	0.31		96	C-5	隅丸 長方形	N-53°-E	1.05	0.65	0.22	SD7
78	D-5	隅丸方形	N-63°-E	1.15	0.80	0.30		97	C-7	長方形	N-35°-W	2.20	0.60	0.41	
79	D-5	長方形	N-17°-W	1.30	0.90	0.39		98	C・D-8	長方形	N-20°-W	1.70	1.20	0.30	
80	C・D-5	円形	—	1.05	1.00	0.25		99	D-8	不整形	N-15°-W	0.70	0.55	0.14	
81	C・D-7	円形	—	0.75	0.65	0.16		100	C-8	長方形	N-20°-W	(2.90)	0.85	0.32	SK101
82	C-7	円形	—	0.80	0.75	0.09		101	C・D-8	長方形	N-20°-W	1.40	0.60	0.40	SK100
83	D-7	長方形	N-56°-E	1.70	0.90	0.22		102	D-8	長方形	N-22°-W	2.20	0.55	0.23	SK103より新
84	D-7	長方形	N-60°-E	2.00	0.60	0.18		103	D-8	長方形	N-22°-W	1.60	0.50	0.09	SK102より古
85	C-6	方形	N-60°-E	1.05	1.00	0.12		104	D-8	長方形	N-68°-E	1.05	0.45	0.18	
86	D-6	長方形	N-63°-E	1.70	0.90	0.26		105	C-7	楕円形	N-23°-W	0.90	0.60	0.06	
87	C-6	隅丸 長方形	N-54°-E	2.30	0.95	0.21		106	B-7	円形	—	1.45	1.40	0.44	
88	C-6	長方形	N-52°-E	2.40	0.80	0.12		107	D-5	長方形	N-22°-W	1.40	0.95	0.33	SD9より古
89	C-5	長方形	N-28°-W	1.75	1.00	0.24	SD9より古	108	D-7・8	楕円形	N-54°-E	0.95	0.55	0.14	
90	D-6	長方形	N-79°-E	1.90	1.10	0.40		109							縄文に移行
91	B-6	隅丸 長方形	N-52°-E	2.20	0.95	0.15		110	D-8・9	長方形	N-23°-W	3.40	0.60	0.18	
92	B・C-6	隅丸 長方形	N-46°-E	1.60	0.90	0.18		111	B-5	長方形	N-10°-E	2.00	1.90	0.22	
93	C-5	不整形	N-23°-W	(0.80)	(0.45)	0.14	SK94・95より古	112	D-3	方形	N-20°-W	(0.80)	(0.45)	0.26	SK3より新

SK3 (1・2)

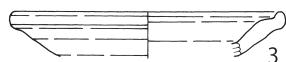


0 5cm 1:2

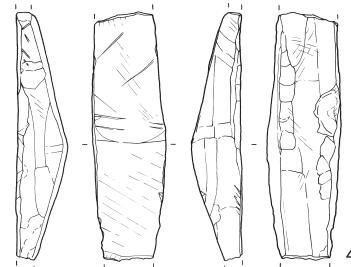


0 10cm 1:4

SK21 (3・4)



3



4 0 10cm 1:3

SK24 (5)



SK38 (6～10)



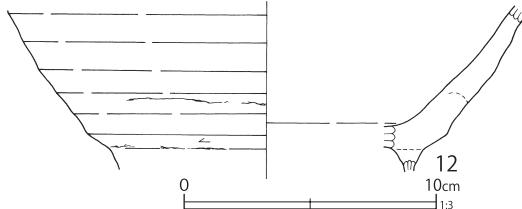
SK47 (11)



10

11

SK49 (12)



0 10cm 1:3

SK100 (13～15)



13



14



15

第136図 土壙出土遺物

出土した片口鉢（第136図12）は13世紀頃のものである。

遺構の年代は、周囲の土壙との関係から近世に下るものと考えられる。

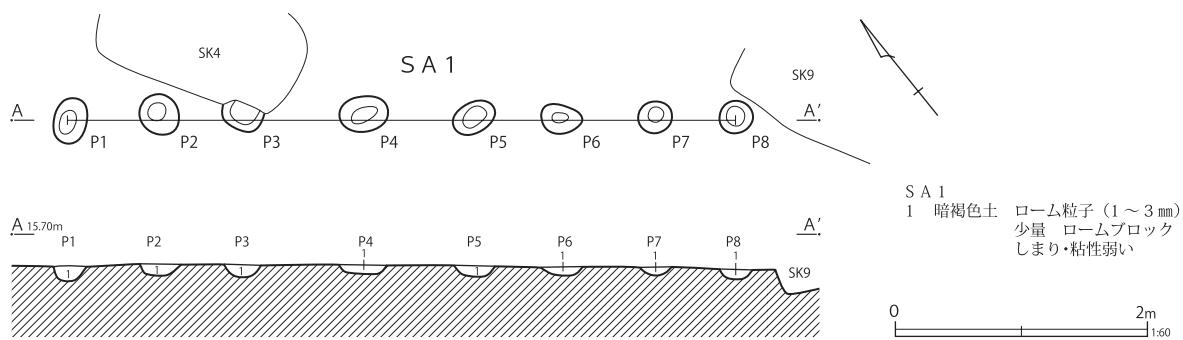
第81号土壙（第133図）

C・D-7グリッドに位置する。平面形態は円形で、規模は長径0.75m、短径0.65m、深さ0.16mを測る。内部から焼土がまとまって検出された。

第40表 土壙出土遺物観察表（第136図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ [5.1]	幅 0.35	厚さ 0.35	重さ 6.5				SK3	56-8
2		碗形鍛冶津	長さ [5.85]	幅 [6.2]	厚さ 3.4	重さ 174.4				SK3 磁着あり(強)	56-8
3	陶器	折縁皿	(10.5)	[1.7]	—	E	5	普通	灰白	SK21 濑戸美濃系 内外面灰釉	
4	石製品	砥石	長さ 6.6	幅 2.9	厚さ 1.7	重さ 43.7	岩石種 流紋岩か			SK21 丸ノミ痕 全面被熱 黒色化	
12	陶器	片口鉢	—	[6.6]	—	D E	15	良好	灰黄褐	SK49 山茶碗系(瀬戸か) 内面自然降灰 13C	

番号	種別	器種	径	厚さ	重さ	錢貨名	遺構名	備考	図版
5	銅製品	錢貨	23.0	1.60	2.30	聖宋元寶	SK24	No. 1	56-9
6	銅製品	錢貨	23.0	1.10	2.03	開元通寶	SK38	No. 3	56-9
7	銅製品	錢貨	24.0	1.50	3.06	景德元寶	SK38		56-9
8	銅製品	錢貨	24.0	1.50	2.60	皇宋通寶	SK38	No. 1	56-9
9	銅製品	錢貨	24.0	1.40	2.57	元豐通寶	SK38	No. 2	56-9
10	銅製品	錢貨	24.0	1.40	1.50		SK38	破片	56-9
11	銅製品	錢貨	22.0	1.40	2.55		SK47		56-9
13	銅製品	錢貨	24.0	1.30	2.98	開元通寶	SK100	No. 3	56-9
14	銅製品	錢貨	24.0	1.40	2.70		SK100	No. 2	56-9
15	銅製品	錢貨	24.0	1.40	3.13	永樂通寶	SK100	No. 1	56-9



第137図 第1号柵列跡

第82・99号土壙でも同様に焼土が検出されている。これらの土壙はC-7、D-7・8グリッドと近接し、平面形態や規模も類似することから、同様の機能が考えられる。

第100号土壙（第134図）

調査区東壁際にあたるC-8グリッドに位置し、第101号土壙と重複する。平面形態は南北に長い長方形で、長軸2.90m、短軸0.85m、深さ0.32mを測り、長軸方位N-20°-Wを指す。

遺物は古錢が3点出土した（第136図13～15）。土壙墓の可能性があるが、長軸方向が長く、断定できない。

第100号土壙の周囲には、第101～103・110号土壙など、近似した軸方位を持つ土壙が集中す

る。北西で検出された土壙とは、方位や平面形態が相違する。時期・目的の異なる土壙群と推定される。

（5）柵列跡

柵列跡は1列検出した。第2号溝跡と近似した方位を示すことから、付随する柵列跡の可能性がある。

第1号柵列跡（第137図）

調査区の北西部、D-3グリッドに位置する。北西-南東方向の柵列跡である。総延長は5.30mで8本の柱穴から構成され、規模は直径0.25～0.25m、深さ0.07～0.10mで、柱間は0.70～0.90mを測る。

VIII 石神III遺跡の調査

1. 調査の概要

石神III遺跡は上尾市と桶川市の境を流れる江川の南側にあたる標高約15～16mの台地上平坦面に立地し、石神遺跡と同じ台地上に位置する。

石神III遺跡の調査では、奈良時代の住居跡5軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、中・近世の溝跡13条、土壌15基を検出した（第139図）。

奈良時代の住居跡は調査区の全域に点在する。カマドを北壁に設ける2軒と東壁に設ける3軒がある。住居跡の平面形態は、方形の住居跡、長辺が短辺の2倍を超える長方形の住居跡、一辺が7mを超える大型の住居跡などがある。出土遺物から、8世紀前半から中頃と考えられる。

石神III遺跡では東カマドが半数以上を占め、北カマドを基本とした石神遺跡と相違する。近接した同一の台地上に造られた集落跡であるが、正面観が異なっていた可能性がある。立地や時期差などに要因が考えられるが、明らかではない。

一辺が7mを超える大型住居跡は、地域最大規模である。佐波理模倣焼や鉄製品が多く出土し、特殊な住居跡と考えられる。

掘立柱建物跡は住居跡と建物の方向を揃えて建てられ、同時期の遺構と推定される。柱掘り方は小規模で、掘り込みも浅いことから、簡易な建物であったと考えられる。

中・近世の溝跡は、調査区の中央部を南北に縦断する溝跡を基準として網目状に配されることから、何等かの区画を意図したものと推定される。

2. 縄文時代の遺物

(1) グリッド出土遺物

縄文土器（第140図1～19）

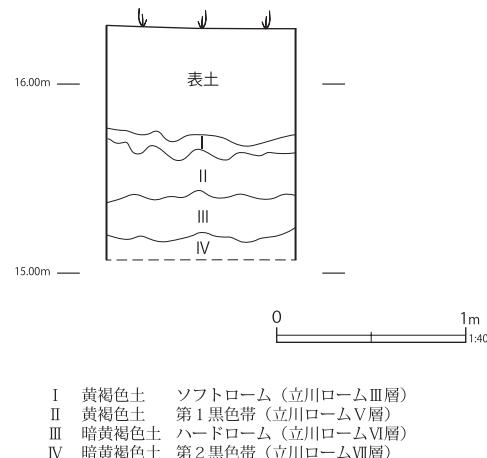
1・2は早期の撚糸文系土器で、縦走縄文RLが施文される。稻荷台式に比定される。

3は早期の条痕文系土器で、細隆起線で文様が

建物遺構が確認されておらず、掘り込みが浅いことから、耕地を画していたと想定される。出土した遺物は少ないが、17～18世紀頃のものと思われる。

調査区全域に点在する土壌には、規則性等は認められなかった。遺物がないため時期は不明だが、覆土にヤドロを含むことや、近世の堆積土と考えられる黒色土が堆積することから、中・近世以降のものと考えられる。

基本土層を第138図に示した。表土層には近世の耕作客土である「ヤドロ」が厚く堆積する。第I層が近世の耕作土、第II層が第1黒色帶、第III層がハードローム、第IV層が第2黒色帶で、武蔵野台地標準層位（III～X層）に概ね相当する。遺構はソフトロームの面から検出される。

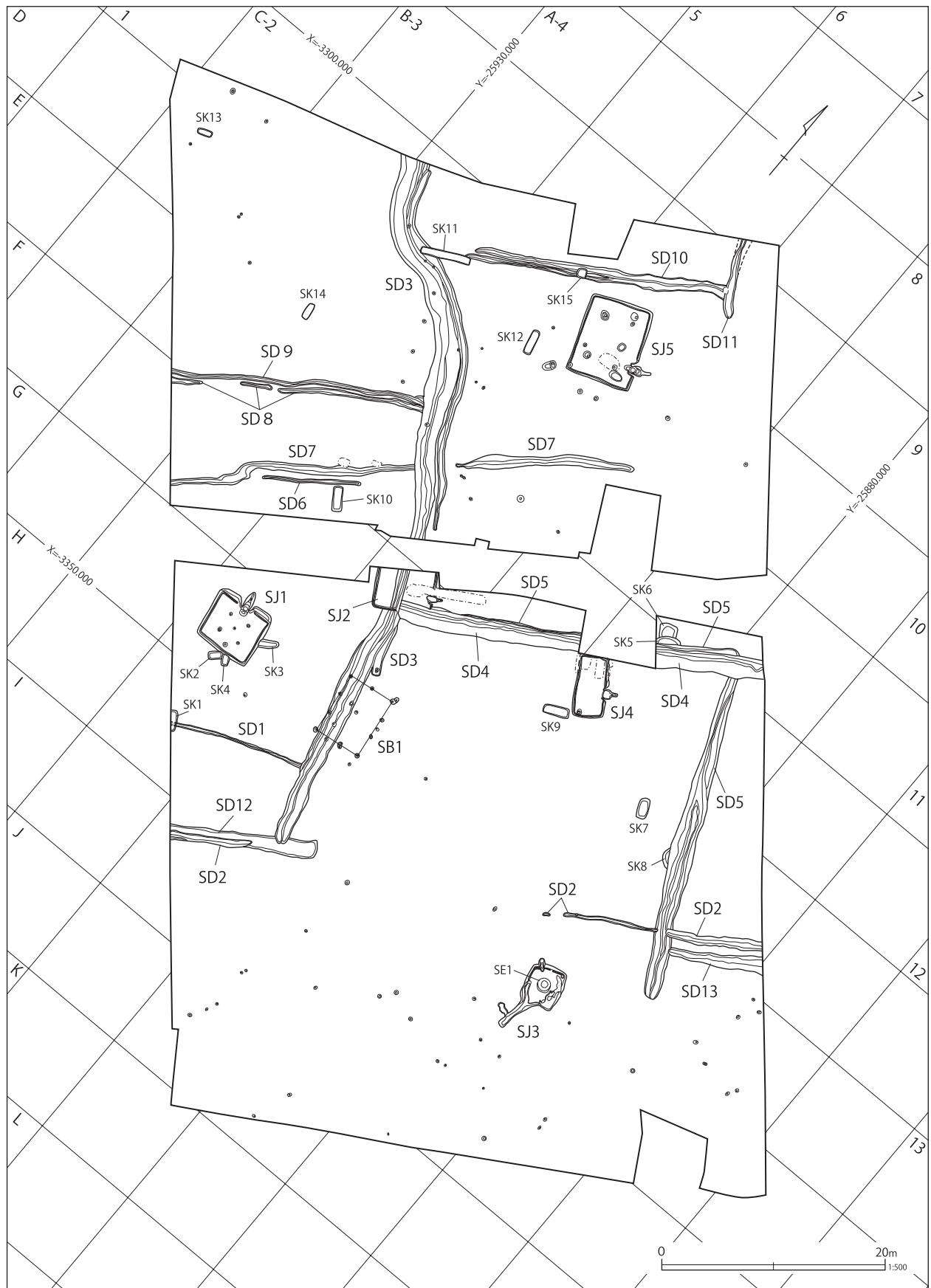


第138図 基本層序

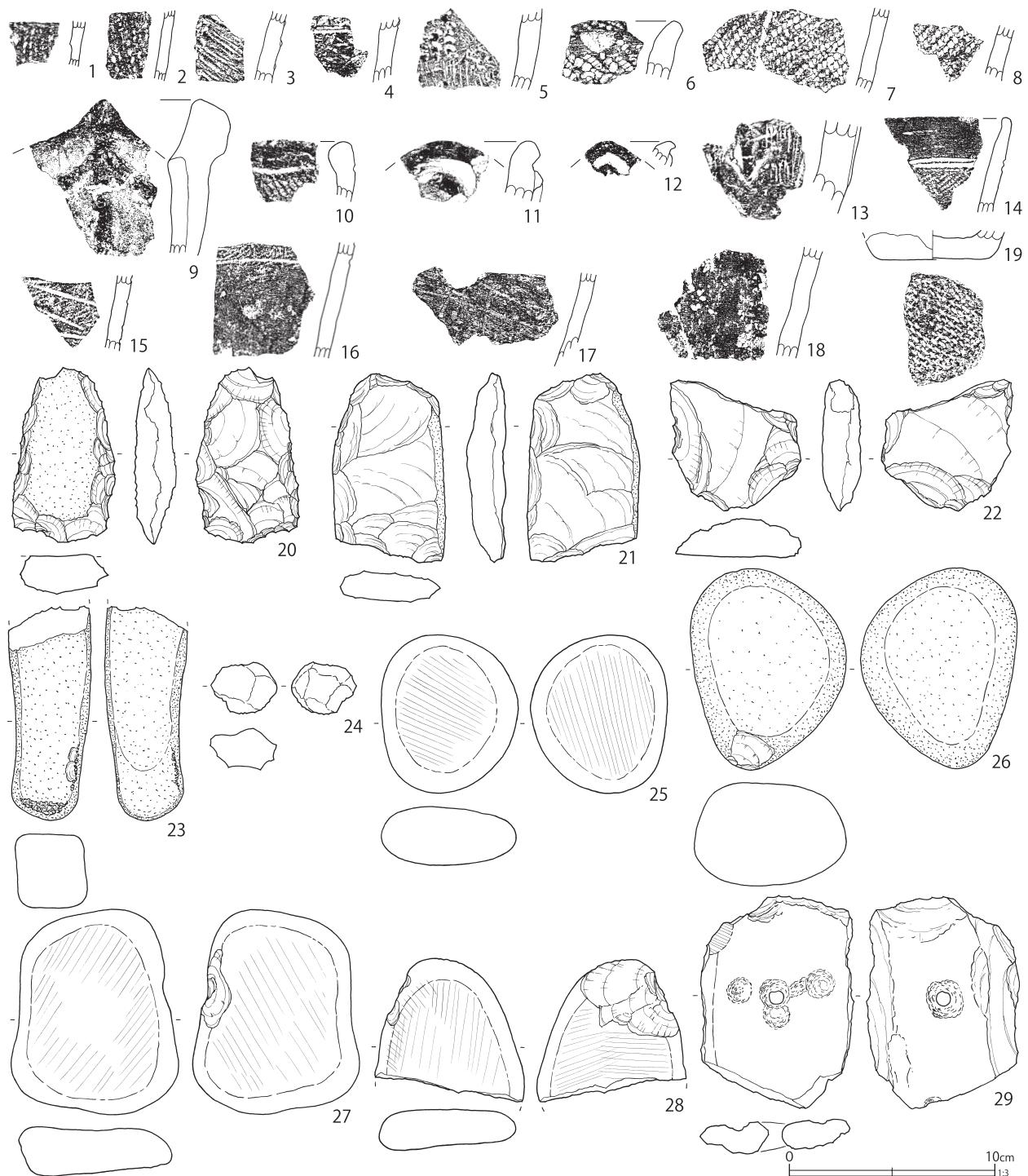
描かれる野島式である。

4～8は前期の土器群で、4は諸磯a式、5は諸磯c式、6～8は縄文のみ施文される破片で、6は口唇上にも縄文が施される。

9～13は中期の土器群で、9は阿玉台式土器、



第139図 全体図



第140図 グリッド出土遺物

10～12は加曾利E式土器の口縁部破片である。

13は条線が施文される胴部破片である。

14～19は後期の土器群で、磨消縄文が施文される堀之内II式土器である。19は底部に網代痕が残る。

石器 (第140図 20～29)

20～22は打製石斧である。20は正面に原石面を大きく残す。裏面は、周辺からの剥離が基部中央部で交差している。正面は周縁からの剥離によって平面形が整えられている。刃部は直刃である。21は下半部を欠損する。正面は風化が進ん

であり、加工の細部は不明である。22は上半部を大きく欠損する。

23は敲石である。棒状の礫が素材となってい。上半部を欠損する。敲打部は端部に観察できる。

25・27・28は磨石である。

29は石皿である。周辺を欠損するため大きさは不明である。左上に皿部の縫みの一部がみられる。凹部は一箇所で貫通している。

第41表 グリッド出土石器観察表（第140図）

番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	図版
20	打製石斧	ホルンフェルス	8.5	4.9	2	92.1	SD3	62-2
21	打製石斧	ホルンフェルス	9.1	5.5	1.9	115.8	I-7 平面短冊形 完形 表面の風化が激しく細部不明	62-2
22	打製石斧	緑泥片岩	6.3	6.3	1.9	89.6	G-10 欠損あり（一部残存）	62-2
23	敲石	砂岩	10.4	4.0	3.8	248.0	SJ1 No.12 欠損あり（一部残存）	62-2
24	軽石類	多孔質軽石	2.5	3.2	2.1	3.4	SJ1 3区	62-2
25	磨石	砂岩	7.7	6.7	2.9	208.5	G-10 平面円形 断面橢円形 完形	62-2
26	敲石	安山岩	9.7	7.6	5.4	476.9	D-3	62-2
27	磨石	砂岩	9.9	8.1	2.9	303.1	H-6 完形	62-2
28	磨石	砂岩	[6.8]	7.3	2.0	115.4	C-7 一括	62-2
29	石皿	緑泥片岩	[10.2]	[7.4]	[2.0]	186.6	F-6 欠損あり（一部残存） 凹石 中央部貫通孔あり	62-2

3. 奈良時代の遺構と遺物

検出された奈良時代の遺構は、住居跡5軒と掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基である。住居跡は10～20mの間隔をあけながら遺跡全体に点在する。カマドを北壁に設けられる2軒と、東壁に設けられる3軒がある。

遺跡の南側は浅い谷地形となり、緩やかに傾斜する。第3号住居跡は谷地形に沿って構築され、住居の廃絶後、中央部に井戸が掘削されていた。井戸跡の南側に、Y字に走行する溝跡が付設され、これらの施設は第3号住居跡が利用されて造られている。

掘立柱建物跡は第1号住居跡の東側に方向を揃えて建てられている。出土遺物はないが、第1号住居跡と同時期である可能性が高い。

（1）住居跡

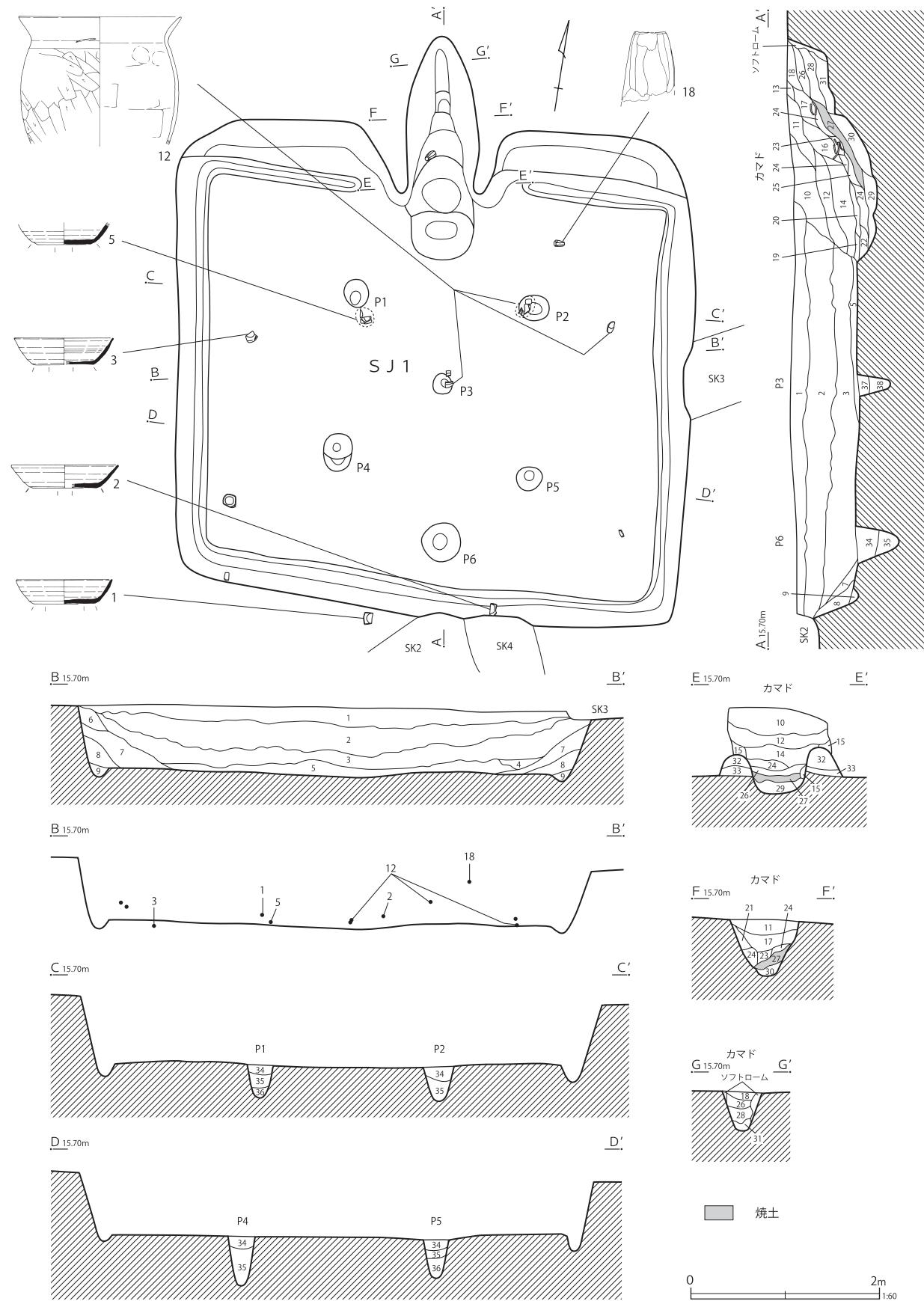
第1号住居跡（第141図）

調査区の中央西壁際G-5グリッドに位置する。平面形態は方形で、カマドは北壁に設けられる。住居跡の規模は主軸長5.05m、東西長5.47m、深さ0.75mを測り、主軸方位はN-9°-Wを指す。

カマドは北壁の中央に構築される。平面形態は砲弾形を呈し、燃焼部はやや胴が張り、煙道部奥壁は窄まる。規模は全長2.38m、燃焼部最大幅0.75m、煙道部幅0.40mを測る。鶏卵形の燃焼部は複数の土壙が連続したような形状で、底面には段差が生じている。煙道部は途中に段を設けて0.60m程緩やかに延伸し、奥壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマド内からは残存率の高い甕が3個体出土し、その下からは土製支脚が立った状態のまま出土した（第142図）。甕は燃焼部から煙道部にかけて検出されていることから、カマド天井部の構築材として使用されていたものが天井の崩落と共に破損し、堆積したものと考えられる。

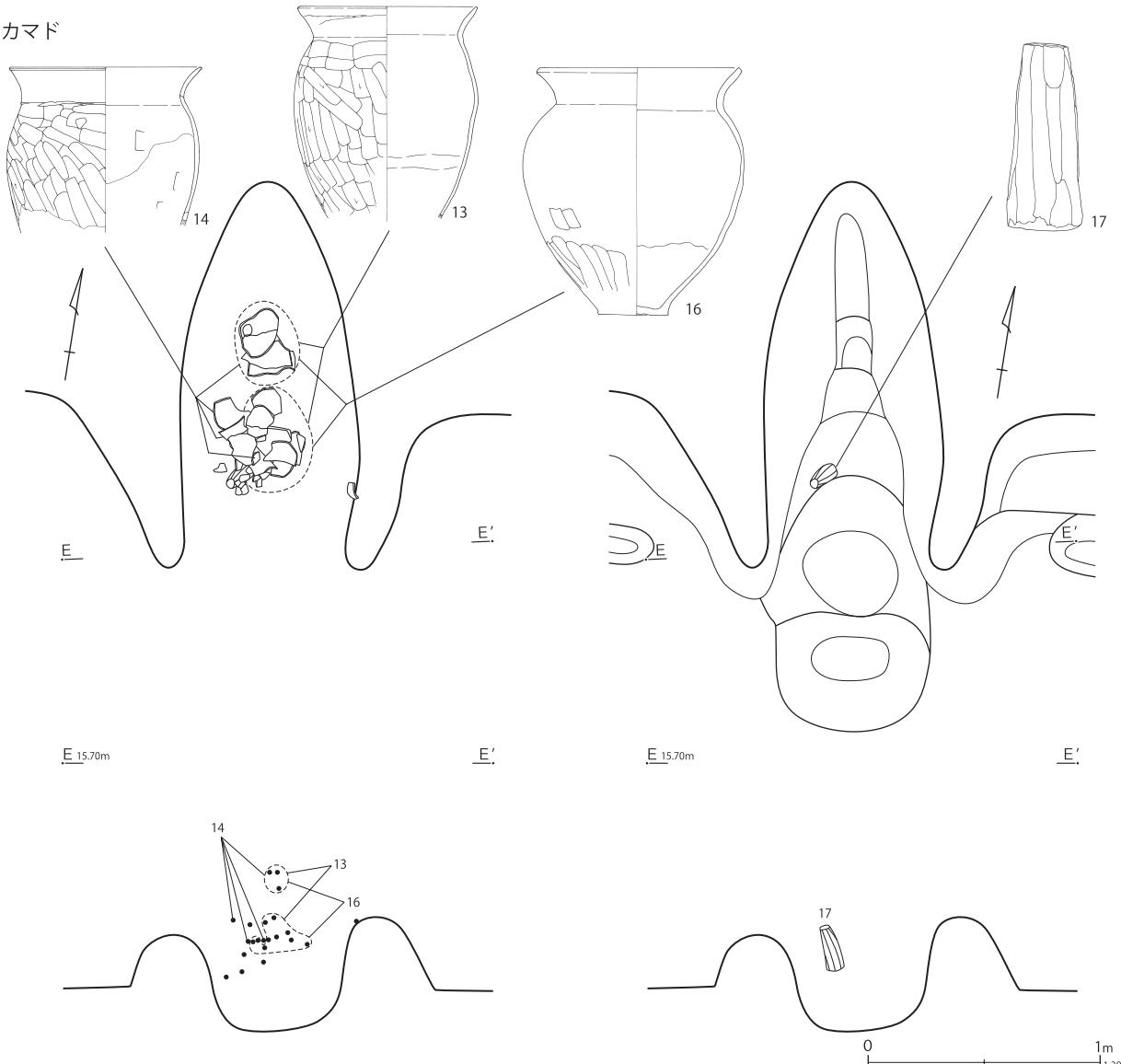
支脚はカマド西壁に寄った位置に据えられていること、また住居北東部からも支脚が出土していることから、二連架け口のカマドであった可能性がある。

壁溝は全周し、幅は0.30～0.40mを測る。カマドの東側壁面には段差が設けられており、棚状施設と推察される。また西側は壁から離れた内側を廻っていることから、住居跡が拡張された可能性



第141図 第1号住居跡 (1)

カマド



S J 1

1 黒褐色土 ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量
 2 黒褐色土 ローム粒子少量 炭化物・焼土粒子微量
 3 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック（1～2cm大）・焼土粒子微量 炭化物少量
 4 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック（1～2cm大）少量 烧土粒子・炭化物微量
 5 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）・ロームブロック（1～2cm大）多量 烧土粒子少量 炭化物微量
 6 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック（1～2cm大）少量 ソフトローム混入
 7 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
 8 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）少量 ロームブロック（1cm大）微量 7層に比べ色調暗い
 9 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック（1～2cm大）少量
 壁周溝

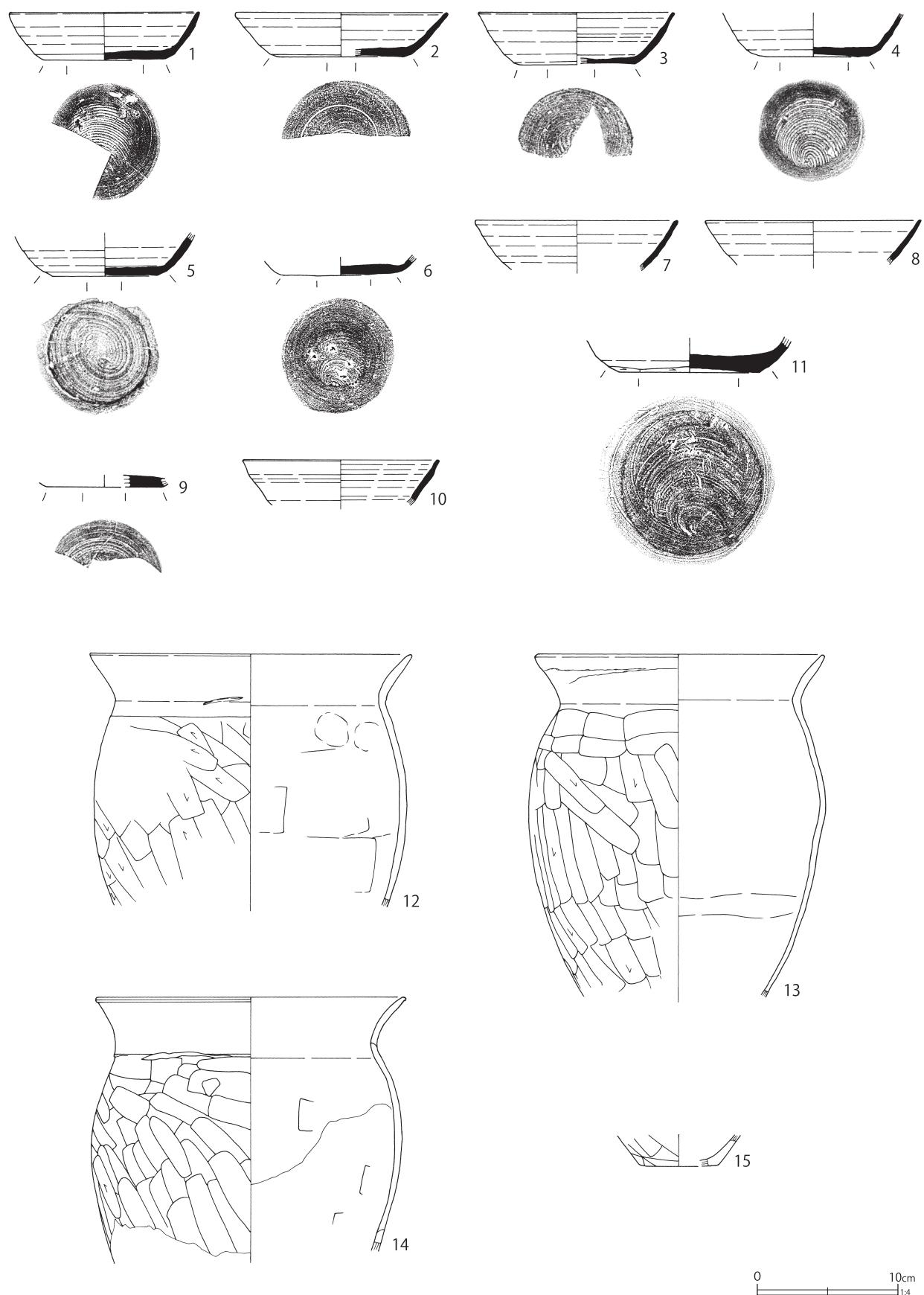
カマド

10 黒褐色土 ローム粒子少量 炭化物・焼土粒子微量
 11 黒褐色土 ローム粒子少量 烧土粒子微量 炭化物少量 10層より色調明るい
 12 暗褐色土 ローム粒子多量 烧土粒子少量 炭化物微量 黒褐色土混入
 13 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）・ロームブロック多量
 14 暗褐色土 ローム粒子多量 烧土粒子少量 烧土ブロック微量 炭化物少量
 15 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム多量に混入
 16 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 烧土粒子・焼土ブロック微量 炭化物少量
 17 暗褐色土 ローム粒子少量 ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
 18 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量 灰多量

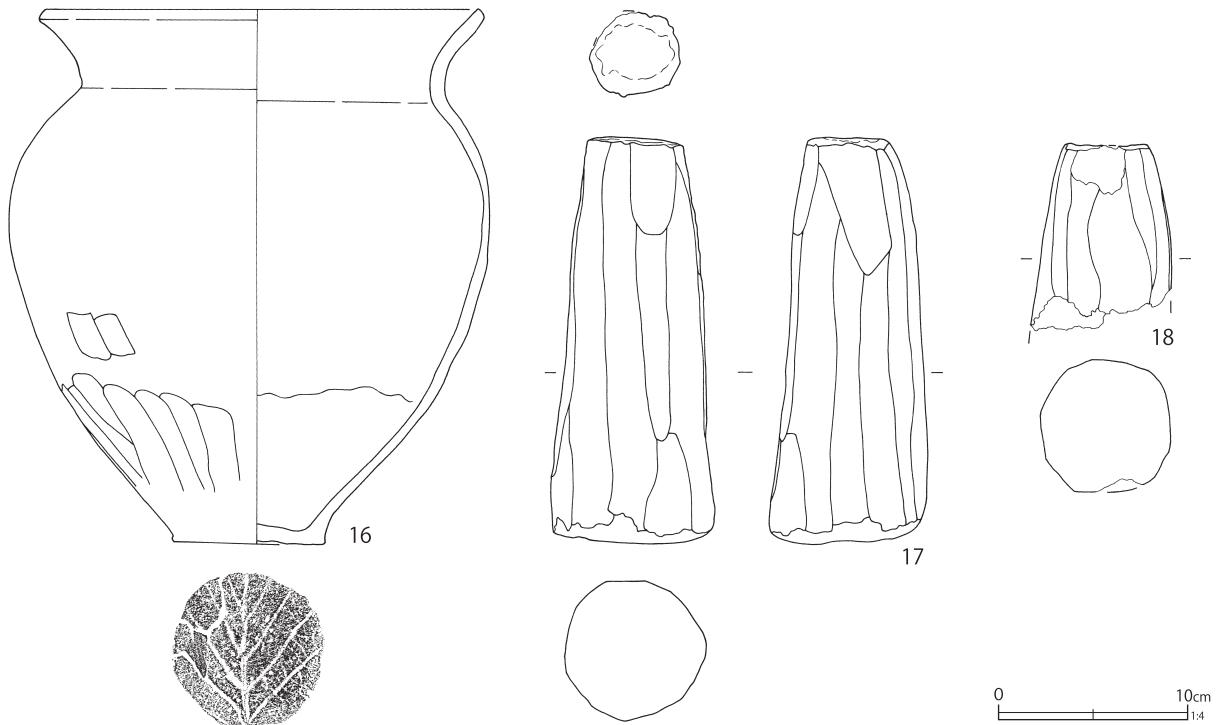
19 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子多量
 20 黒褐色土 ローム粒子少量 烧土粒子多量
 21 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 烧土粒子・炭化物少量
 22 暗褐色土 ローム粒子多量 烧土粒子微量
 23 暗褐色土 ローム粒子少量 烧土粒子・炭化物微量
 24 暗褐色土 ローム粒子多量 烧土粒子少量 灰白色粘土ブロック多量
 天井の崩落土 下面に焼土ブロック化
 25 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・焼土ブロック多量
 26 暗褐色土 ローム粒子少量 烧土粒子・焼土ブロック・灰多量
 27 赤褐色土 烧土層
 28 暗褐色土 ローム粒子少量 烧土粒子多量 烧土ブロック少量
 29 暗褐色土 ローム粒子多量 烧土粒子・焼土ブロック少量
 30 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 烧土粒子・炭化物少量
 31 暗褐色土 ローム粒子多量 烧土粒子少量
 32 暗灰褐色土 灰白色粘土ブロック カマドの芯材 内側は焼けて焼土ブロック化（カマド袖）
 33 暗黄褐色土 ロームブロック多量 烧土ブロック・炭化物少量 灰白色粘土混じる（カマド袖）
 ピット 1～6
 34 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）多量 ロームブロック（1cm大）・炭化物微量
 35 黒褐色土 ローム粒子多量
 36 暗褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム多量に混入
 37 黒褐色土 ローム粒子（粗粒）・ロームブロック（1～2cm大）多量 炭化物微量
 38 暗褐色土 ローム粒子（粗粒）多量

第142図 第1号住居跡（2）

石神III遺跡



第143図 第1号住居跡出土遺物（1）



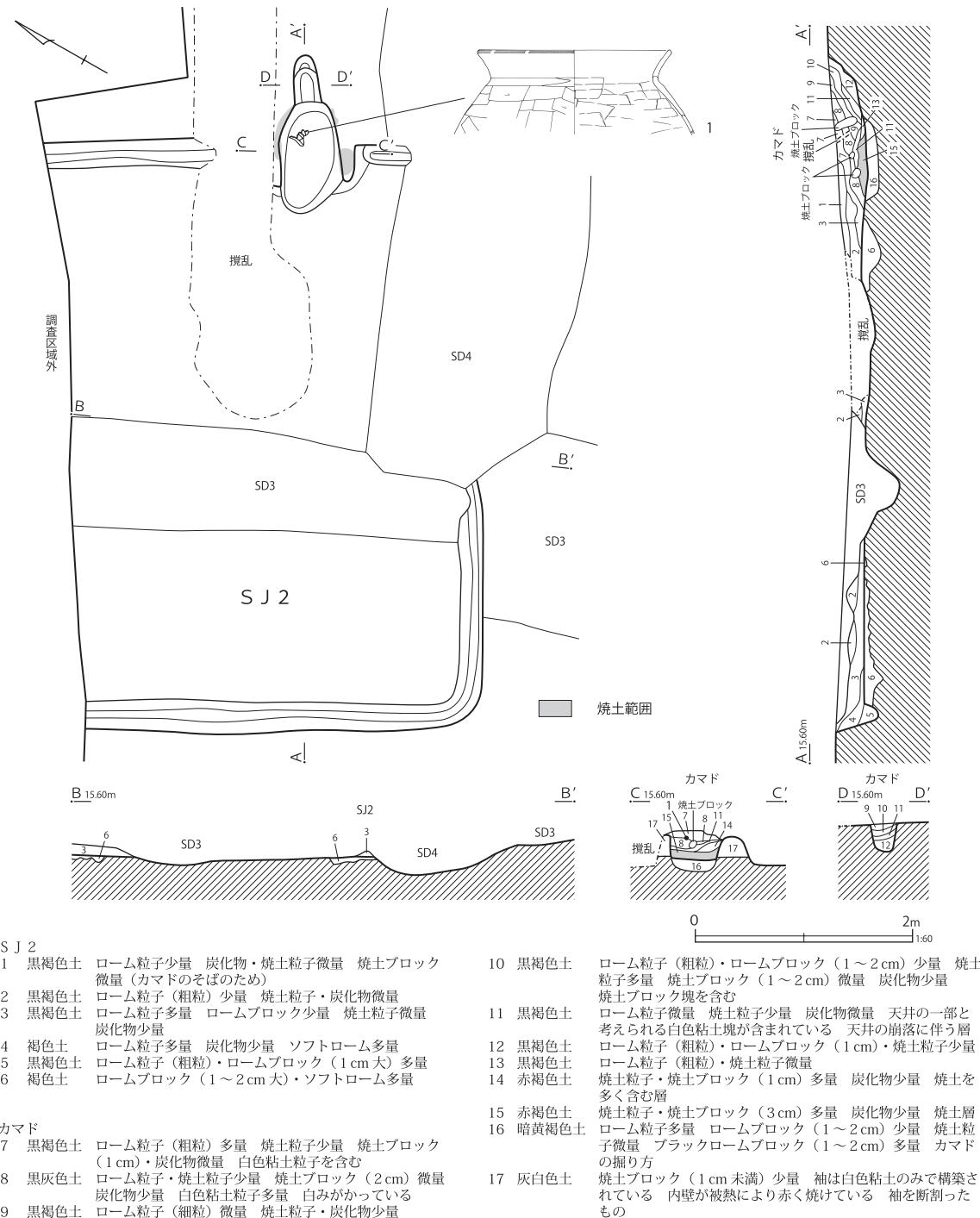
第144図 第1号住居跡出土遺物(2)

第42表 第1号住居跡出土遺物観察表(第143・144図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	壺	(13.9)	3.4	9.0	E H I K	60	良好	灰黄	No. 10 東金子産	63-1
2	須恵器	壺	(14.9)	3.1	(8.8)	E H I J K	40	良好	灰	No. 11 南比企産	63-2
3	須恵器	壺	13.7	3.7	8.2	A D E I J K	60	良好	緑灰	No. 7 南比企産	63-3
4	須恵器	壺	—	[3.2]	7.7	E I J K	60	良好	灰白	南比企産	63-4
5	須恵器	壺	—	[3.0]	7.4	C D E H I J	70	良好	灰	No. 6 南比企産	
6	須恵器	壺	—	[1.3]	8.0	A C D E I J	80	良好	灰	南比企産	
7	須恵器	壺	(14.4)	[3.5]	—	E H I J K	15	良好	灰	南比企産	
8	須恵器	壺	(15.4)	[3.1]	—	E H I J K	10	良好	灰白	南比企産	
9	須恵器	壺	—	[0.6]	(8.0)	E H I J K	20	良好	黄灰	南比企産	
10	須恵器	壺	(14.0)	[3.3]	—	C D H I K	20	良好	暗青灰	東金子産	
11	須恵器	甕	—	2.4	10.0	C D E I J	80	良好	灰	No. 8 南比企産 外面自然釉付着	
12	土師器	甕	(22.9)	[18.0]	—	C E H I K	25	普通	赤褐	No. 2・3・5 指頭痕あり	63-5
13	土師器	甕	20.0	[24.4]	—	C E H I K	70	普通	橙	No. 23・27・30・31 外面煤付着	63-6
14	土師器	甕	(22.0)	[18.5]	—	C D H I J K	80	普通	橙	No. 16・22・23・26・27・30 内外面煤付着	63-7
15	土師器	甕	—	[2.1]	(5.6)	C E I K	50	普通	橙		63-8
16	土師器	甕	(22.7)	23.4	8.0	C D H I K	99	普通	橙	No. 1・4・5・17・18・20・21 ・23～25・28～32 外面煤付着	64-1
17	土製品	支脚	高さ 21.5 幅 8.3			I	95	普通	にぶい黄橙	No. 33 カマド	64-2
18	土製品	支脚	高さ [9.9] 幅 7.1			H I	20	普通	にぶい黄橙	No. 1	64-3

がある。そのため、カマド燃焼部が複数の土壙が連続するような掘り方形状となったと想定できる。柱穴は6基検出された。住居の中央部で方形に並ぶピット1・2・4・5が主柱穴である。中央の

ピット3は副次的な柱穴と考えられる。南辺中央の壁際に位置するピット6は、出入口施設に伴うピットと考えられる。貯蔵穴は検出されなかった。遺物は須恵器壺・甕、土師器甕、土製支脚等が



第145図 第2号住居跡

出土した (第143・144図)。

1～10は須恵器の壺である。底部が残存しているものは全て回転糸切り離し後周辺回転ヘラケズリが施される。南比企産のものが主体を占めるが、東金子産 (1・10) も含まれる。

11は須恵器壺の底部である。回転糸切り離し後周辺回転ヘラケズリが施される。

12～16は土師器の甕である。12～14は武藏型甕で、口縁部が外反する。16は底部が突出し、底面に木葉痕が残される。やや肩が張り、胴部上半に最大径を持つ。器面の摩耗が激しく、調整は不明瞭で、器形にも歪みがある。

17・18は土製支脚である。摩耗が激しい。

須恵器壺の底部調整や甕の口縁部などから8世

紀中頃と考えられる。

第2号住居跡（第145図）

調査区の中央部、E・F-6グリッドに位置し、北側は調査区外へ続く。重複する第3・4号溝跡よりも古い。平面形態は、方形または長方形と推定され、カマドは東壁南側に位置する。住居跡の規模は主軸長5.45m、南北長3.78m以上、深さ0.25mを測り、主軸方位はN-60°-Eを指す。覆土は壁際から徐々に堆積していく状況が観察される。

カマドの平面形態は燃焼部が箱形に構築され、煙道部は燃焼部の奥壁中央から細く延びる。燃焼部の壁面は被熱により赤く焼けている。規模は全長1.47m、燃焼部最大幅0.65m、煙道部幅0.23mを測り、底面は燃焼部から煙道部までほぼ平坦に延び、奥壁は急に立ち上がる。土層は第11層が天井の崩落に伴う層と考えられる。

壁溝は全周するものと推定され、幅は0.20～0.30mを測る。柱穴・貯蔵穴は検出されなかった。

遺物はカマド内から出土した土師器甕片のみで、覆土中や床面からは出土しなかった。

第146図1は土師器甕である。頸部は「く」の字形を呈し胴部に最大径を持つ。

時期は遺物が少ないため断定できないが、燃焼部が壁を跨ぐカマドの構造から8世紀代と考えられる。

第3号住居跡（第147図）

調査区の南側、G・H-9グリッドに位置する。重複する第1号井戸跡と付随する溝跡によって大きく壊されている。平面形態は方形で北壁にカマドが設けられる。住居跡の規模は主軸長3.75m、東西長3.45m、深さ0.25mを測り、主軸方位はN-21°-Wを指す。

カマドは北西隅に、住居の対角線方向に取りつ

第43表 第2号住居跡出土遺物観察表（第146図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	土師器	甕	(23.2)	[10.4]	—	A C H I K	40	普通	明褐	カマドNo.1 内面おこげ付着	64-4

く。平面形態は鷄卵形を呈するが、焚き口側が狭まり、煙道部側が幅広である。壁面は被熱しておらず、袖は検出されなかった。カマドの主軸方位はN-43°-Wを指す。規模は全長1.20m、燃焼部最大径0.60m、煙道部径0.35mを測る。覆土には炭化物が多く含まれていたが、焼土層は確認されなかった。

周溝は北壁と西壁で検出され、本来は全周していたと想像される。幅は0.15mを測る。柱穴・貯蔵穴は確認されなかった。

遺物は須恵器壺・甕、土師器甕等が出土したが、床面付近からは少ない。

第148図1～4は須恵器の壺である。底部は回転糸切り離し後周辺回転ヘラケズリが施される。

5は須恵器の甕である。口縁部の縁の裏に降灰が確認される。

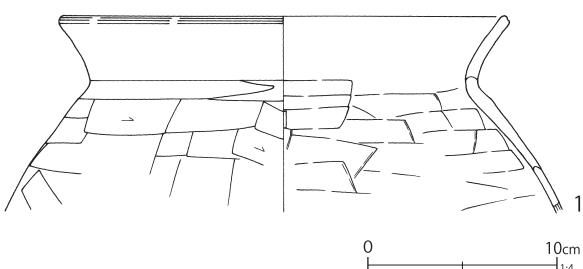
6・7は土師器の甕である。頸部は「く」の字状に外反し、胴部に最大径を持つ。

遺物の時期は須恵器の底部調整などから8世紀中頃と考えられる。

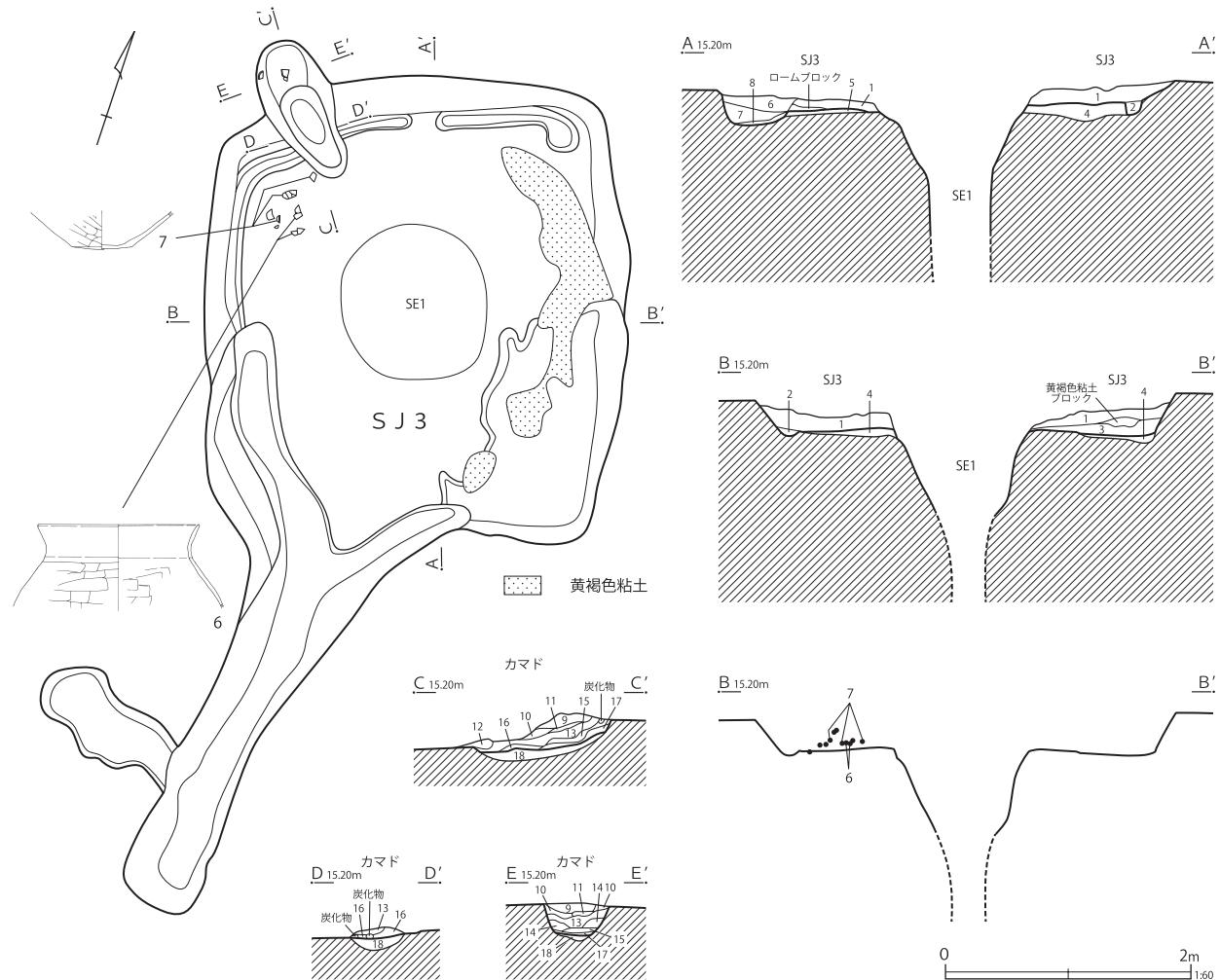
第4号住居跡（第149図）

調査区の中央部東寄り、E-7・8、F-8グリッドに位置する。長辺が短辺の2倍を超える長い長方形の住居跡で、カマドは東壁の中央南寄りに設けられる。

住居跡の規模は主軸長（短辺）2.25m、南北長（長辺）5.60m、深さ0.35mを測り、主軸方位はN



第146図 第2号住居跡出土遺物



S J 3
 1 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (1 cm 大)・焼土粒子微量
 炭化物少量
 2 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1 ~ 2 cm 大) 多量 部分的に残る壁周溝土層
 3 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
 4 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (1 ~ 3 cm 大) 少量 (掘り方)
 5 黒褐色土 ローム粒子多量 ソフトローム多量に混入 (掘り方)
 6 黒褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック少量
 7 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック少量 黒褐色土ブロック状に少量
 8 暗褐色土 ローム粒子多量
 9 6 ~ 8層は井戸周辺に掘られた溝など

カマド
 9 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒) 少量 ロームブロック (4 cm) 少量
 焼土粒子微量 炭化物微量 板状のロームブロックを含む

10 黒褐色土 ローム粒子 (細粒)・炭化物微量
 11 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒)・焼土粒子多量 炭化物少量
 12 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1 ~ 2 cm 大) 多量 炭化物少量
 13 黒褐色土 ローム粒子・焼土粒子少量 炭化物 (0.1 ~ 0.5 cm) 多量
 14 黒褐色土 ローム粒子・ロームブロック (1 ~ 5 cm)・焼土粒子多量
 炭化物少量
 15 黒色土 ローム粒子 (粗粒) 少量 焼土粒子微量 炭化物 (1 ~ 3 cm) 多量
 16 黒褐色土 ローム粒子少量 烧土粒子少量 炭化物多量 ソフトローム
 ブロック含む 炭化物がブロック状にまとまった状態で検出される
 17 黒褐色土 ローム粒子多量 (粗粒) ロームブロック少量 (2 cm) 烧土
 粒子微量 炭化物少量
 18 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (1 ~ 2 cm)・焼土粒子微量
 炭化物少量 (カマドの掘り方)

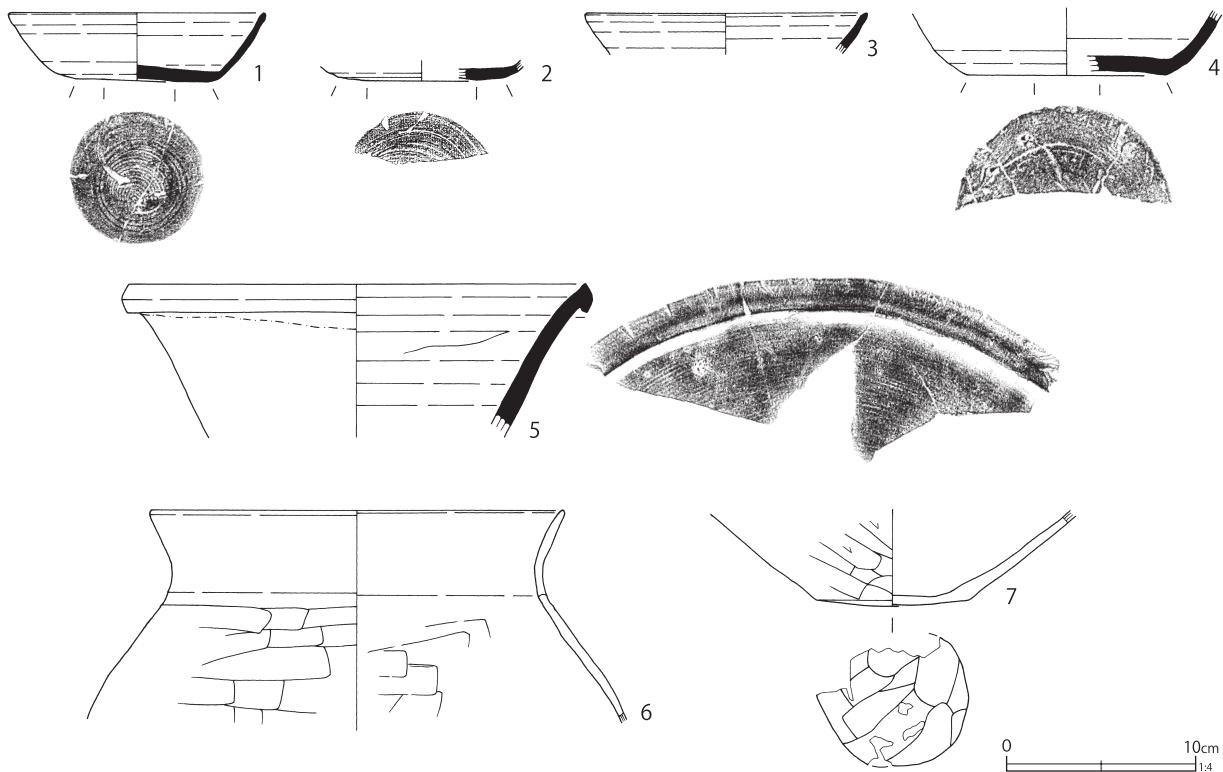
第 147 図 第 3 号住居跡

— 57° — E を指す。壁際から徐々に埋没した状況が観察された。

カマドの平面形態は方形の燃焼部に細長い煙道部が取り付く。造り付けの短い袖部の先端は壁溝内側のラインと合致し、燃焼部が壁外に張り出す。規模は全長 1.35m、燃焼部最大幅 0.85m、燃焼部長 0.90m、煙道部幅 0.30m、煙道部長 0.40m を測

る。燃焼部の底面は平坦で、燃焼部奥壁と煙道部は 0.15m 程の段差を持つ。

壁溝は全周し、幅は 0.25m を測る。浅いピットが南東隅で検出された。位置的には柱穴の可能性もあるが、対応する他のピットは見つかっていない。2 基のピットが重複することから住居の拡張も想定され、その結果、極端に長辺の長い住居



第148図 第3号住居跡出土遺物

第44表 第3号住居跡出土遺物観察表（第148図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	壺	13.4	3.6	7.1	C D E J K	50	普通	灰	南比企産	64-5
2	須恵器	壺	—	[1.0]	(8.8)	E I J K	30	良好	灰	南比企産	
3	須恵器	壺	(15.0)	[2.2]	—	H I J K	10	良好	灰白	南比企産	
4	須恵器	壺	—	[3.4]	(10.6)	C E I J K	50	良好	黄灰	南比企産	
5	須恵器	甕	(14.0)	[8.2]	—	C D H I K	40	良好	灰	東金子産か 外面自然釉付着	64-6
6	土師器	甕	(21.8)	[11.1]	—	C E H I K	20	良好	赤褐	No. 6・8	64-7
7	土師器	甕	—	[5.0]	8.0	C I K	45	普通	明赤褐	No. 4・5・9 外面・内面底部煤付着	

跡となつた可能性もある。その場合、カマドの位置も考慮すると、北側へ拡張したのであろう。

遺物は床面付近から須恵器甕、土師器壺・皿・甕等が出土した。遺物量は少ない。土師器の割合が高い（第150図）。

1は須恵器甕の胴部である。破損部を砥具として二次利用されている。

2～5は土師器の壺である。2は比企系の壺で、口縁部に沈線を持ち、内外面に赤彩が施される。

6・7は土師器の皿である。7は口縁部が大きく外反し、内面には部分的にミガキ状の痕跡が認められる。

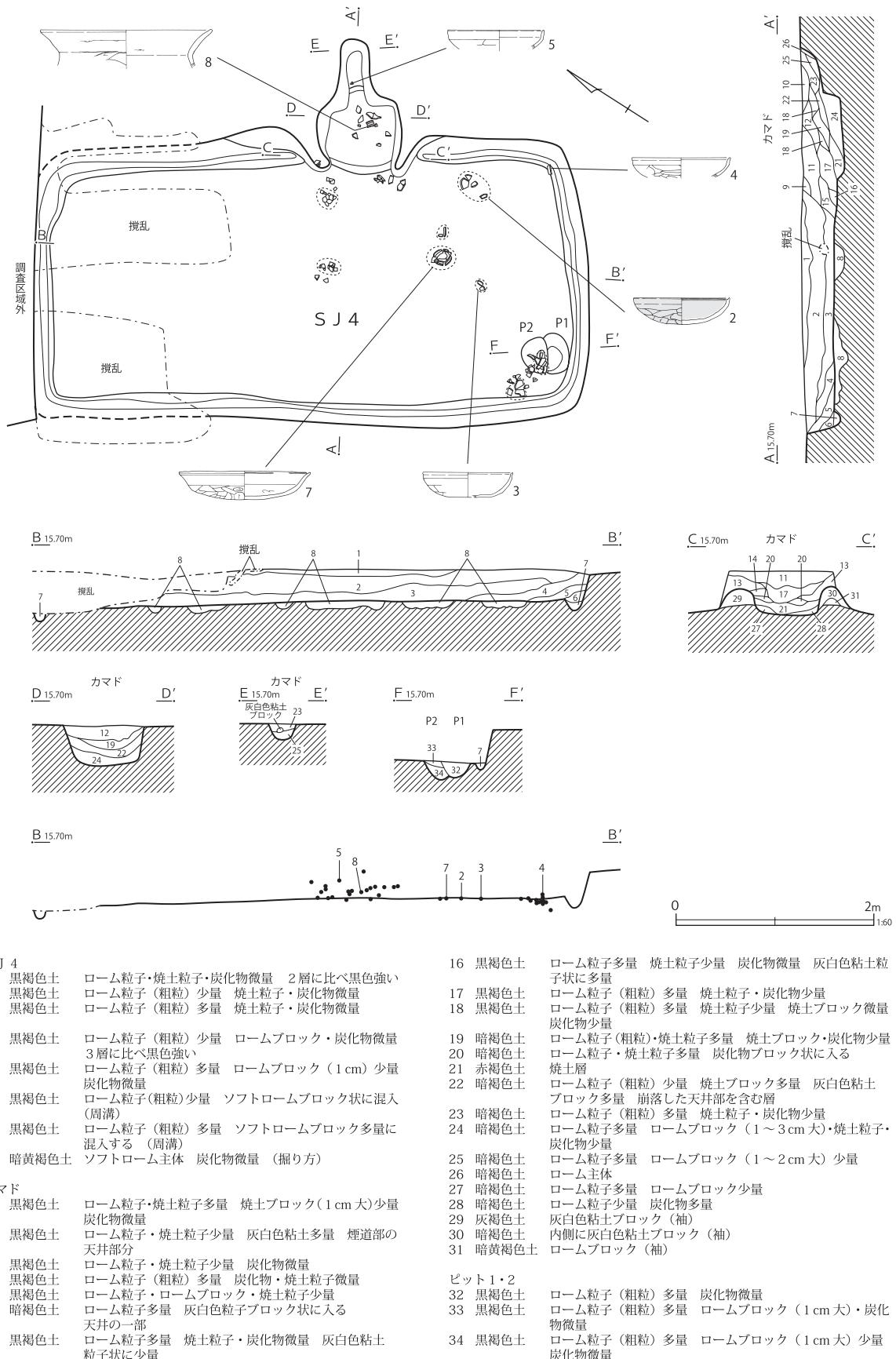
8は土師器の甕である。口縁部が「く」の字状に屈曲する。

遺物の時期は土師器壺・皿の特徴から8世紀前半と考えられる。

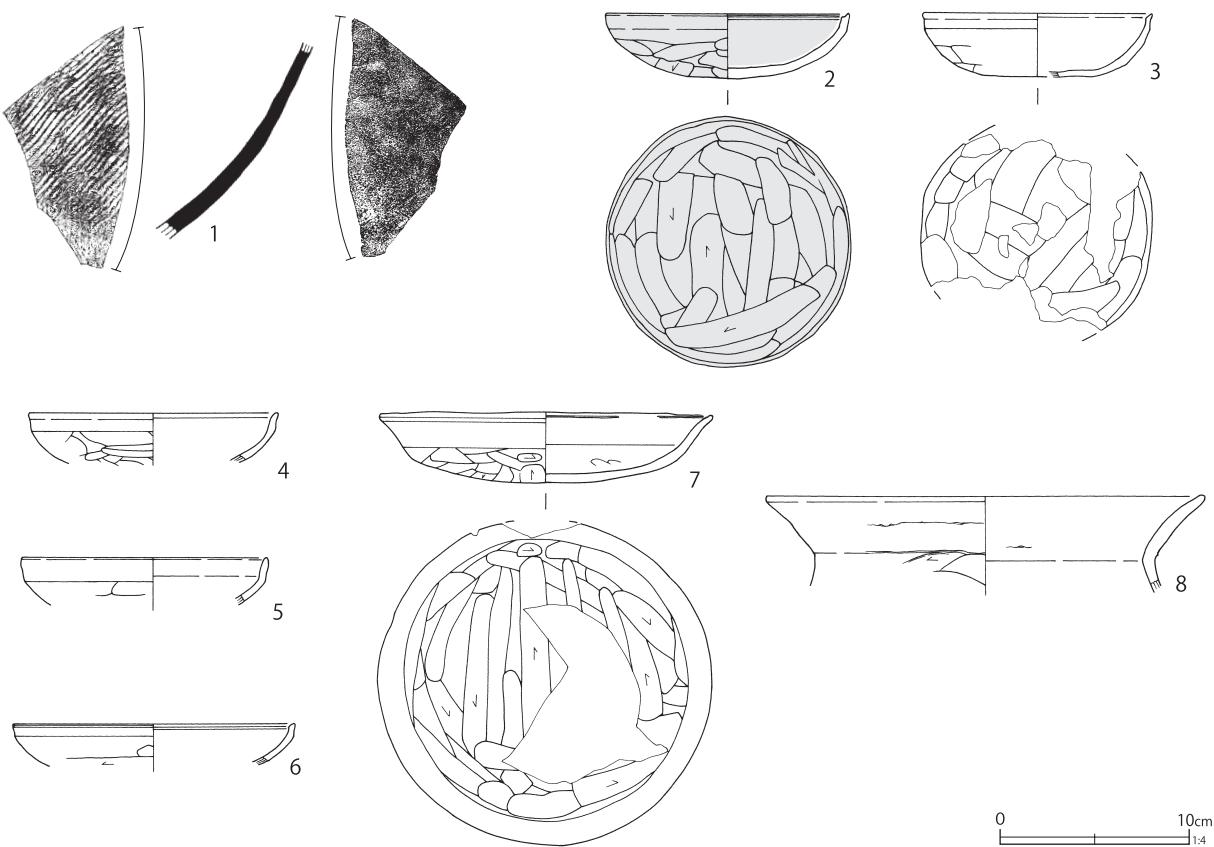
第5号住居跡（第151・152図）

調査区の北部、B・C-6グリッドに位置する。平面形態は南北に長軸を向ける方形で、カマドは東壁の南寄りに設けられる。住居跡の規模は主軸長5.90m、南北長7.50m、深さ0.42mを測る。奈良時代としては、大規模な住居跡である。主軸方位はN-70°-Eを指す。

カマドは燃焼部が方形に掘り込まれ、燃焼部奥



第 149 図 第 4 号住居跡



第 150 図 第 4 号住居跡出土遺物

第 45 表 第 4 号住居跡出土遺物観察表 (第 150 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	甕	—	[12.1]	—	A E H I K	5	良好	灰白	外面・内面下部に自然釉付着	
2	土師器	壺	12.8	3.5	—	E I J K	100	普通	にぶい赤褐	No.25 内外面赤彩	65-1
3	土師器	壺	12.1	3.3	—	E H I K	60	普通	にぶい赤褐	No.26	65-2
4	土師器	壺	(13.0)	[2.6]	—	H I J K	10	普通	にぶい橙	No.27	65-3
5	土師器	壺	(13.8)	[2.4]	—	E I K	10	普通	にぶい黄橙	No.7	
6	土師器	皿	(15.0)	[2.5]	—	C H I K	10	普通	赤褐		
7	土師器	皿	17.4	3.7	—	D H I J K	80	普通	橙	No.23	65-4
8	土師器	甕	(23.0)	[5.1]	—	C E H I K	10	普通	にぶい赤褐	No.4	

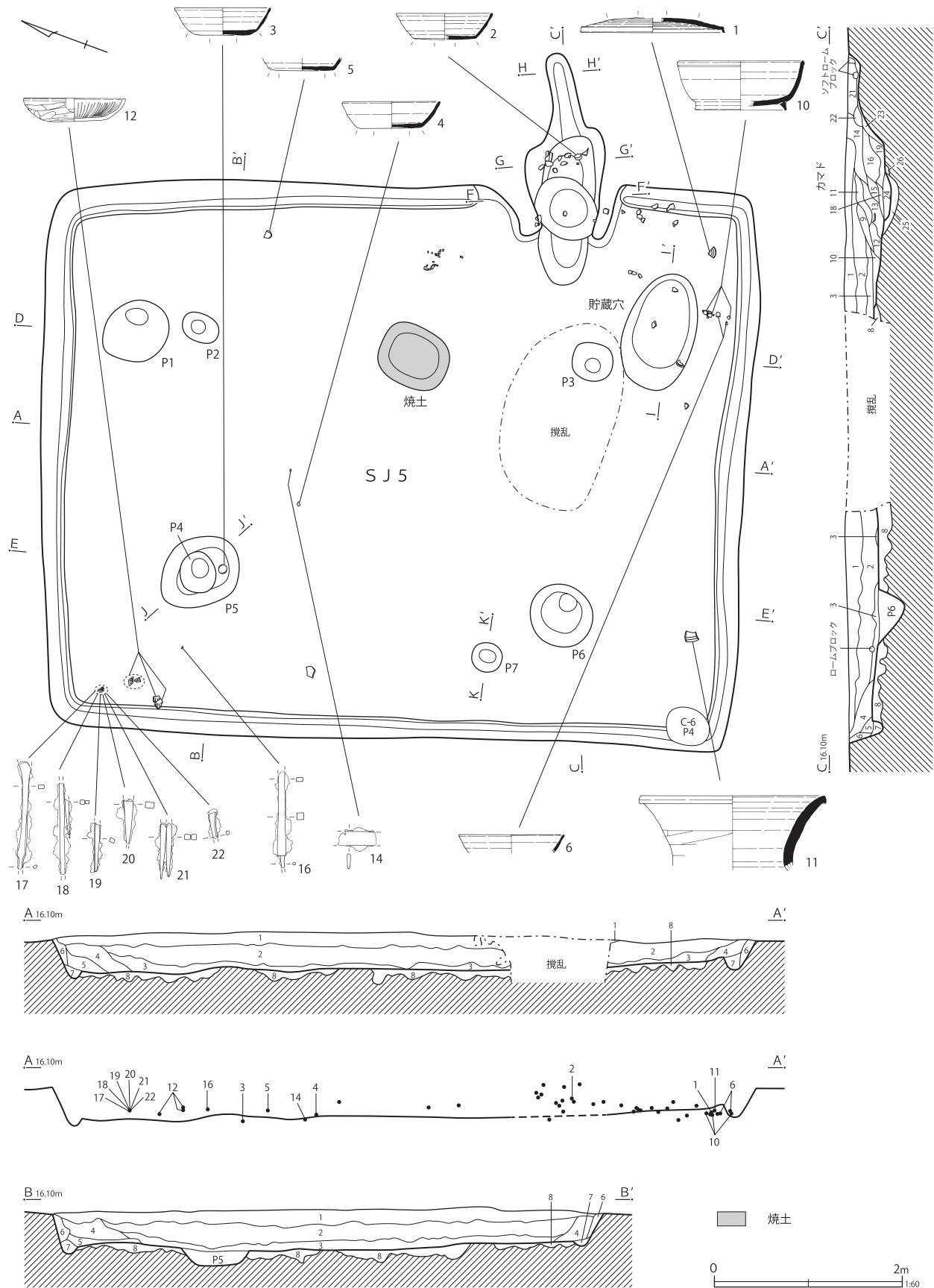
壁中央から幅の狭い煙道部が延びる。カマドの規模は全長 2.45m、燃焼部最大幅 0.85m、煙道部幅 0.25m を測る。カマドの主軸は N - 69° - E を指し、住居主軸とわずかに異なる。燃焼部の中央が円形に掘り込まれ、燃焼部奥壁では緩やかに立ち上がって煙道部へ続く。堆積状況では、住居の内外で断層が見られることから、内側は廃絶時に壊された可能性が高い。

壁溝は全周し、幅は 0.25 ~ 0.35m を測る。ピットは 6 基検出された。このうちピット 2・3・4・6 が柱穴と考えられる。ピット 2・3・4 は

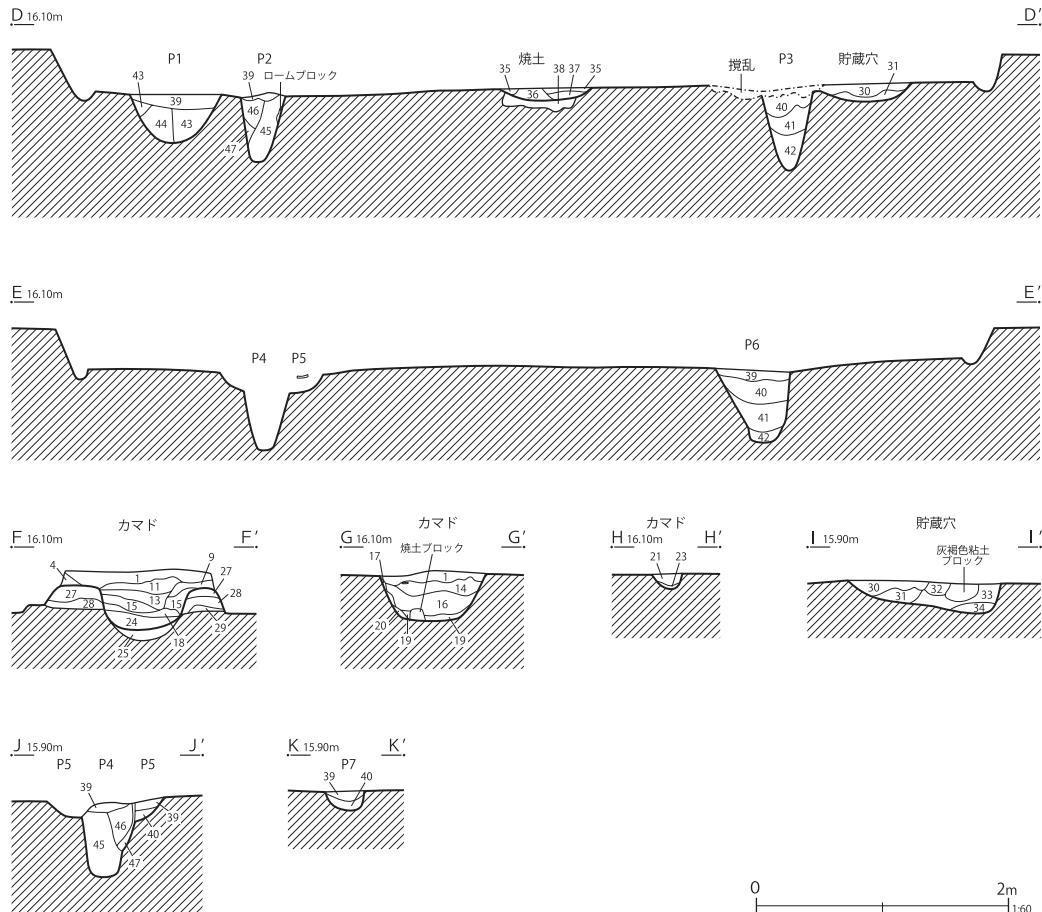
径 0.40m 程とやや小規模で、ピット 6 は径 0.70m と他より大きく掘り込まれている。柱穴の深さはいずれも深く、0.50 ~ 0.70m を測る。

ピット 2 と並んだピット 1、ピット 4 と重複するピット 5 も柱穴の可能性があり、住居跡の建て替えか拡張が想定できる。カマドに対面するピット 7 は出入口施設に伴う用途が予想される。

貯蔵穴はカマド右側の住居跡南東隅で検出された。平面形態は橢円形を呈し、長径 1.25m、短径 0.75m、深さ 0.25m を測る。住居の中央東寄りでは焼土が検出された。平面隅丸方形で長軸 0.75m、

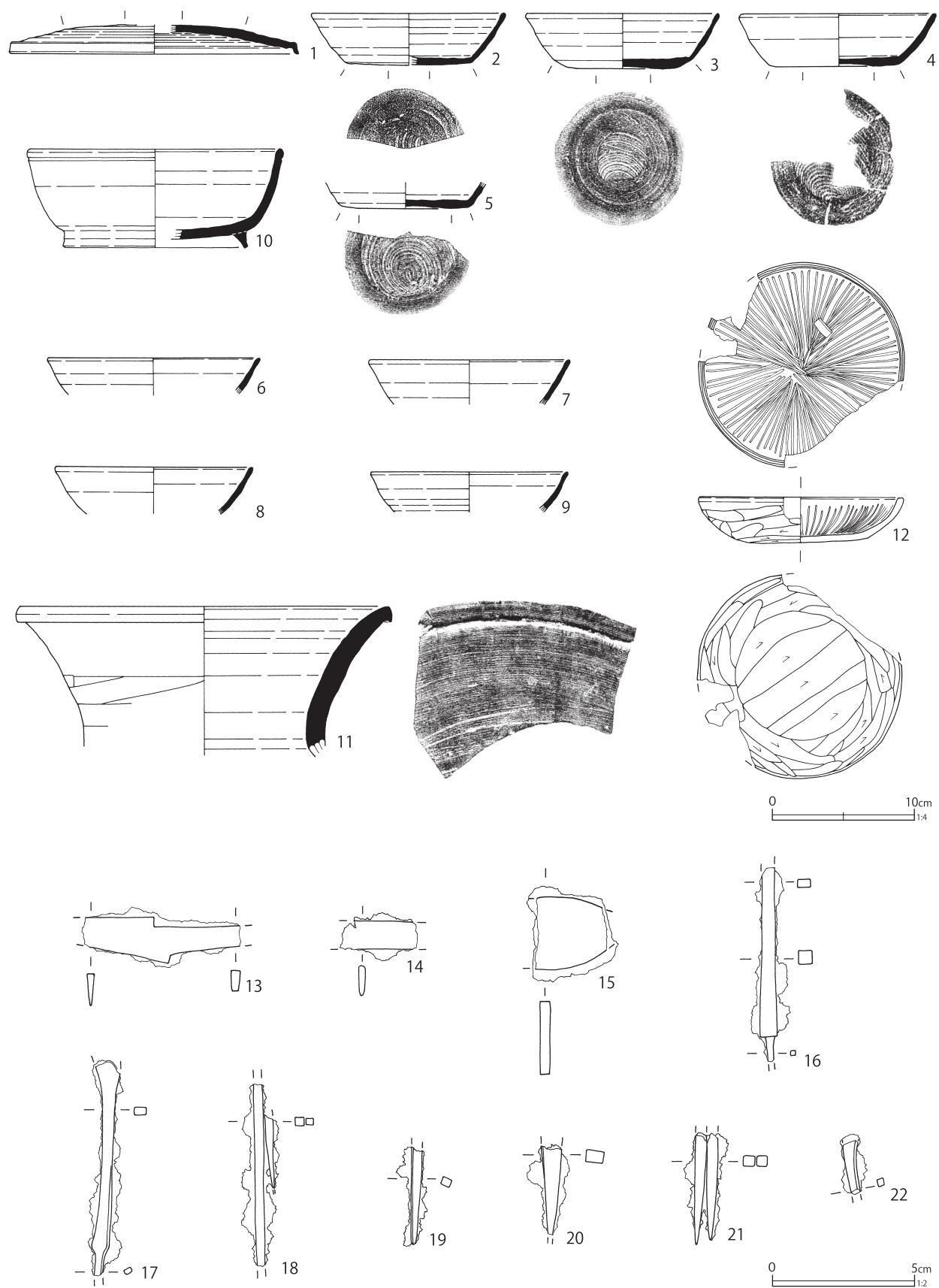


第151図 第5号住居跡（1）



S J 5	
1 黒褐色土	ローム粒子（粗粒）多量 炭化物微量 灰褐色粒子がごく微量混じる
2 黒褐色土	ローム粒子（粗粒）多量 炭化物少量
3 黒褐色土	ローム粒子多量 ロームブロック（1～2cm大）少量 ソフトロームがブロック状に多量に混入
4 暗褐色土	ローム粒子多量 ロームブロック（1cm大）・炭化物微量 ソフトローム多量に混入
5 暗褐色土	ローム粒子多量 ロームブロック（1cm大）少量 ソフトローム多量に混入
6 暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック（1cm大）多量 ソフトローム多量に混入
7 暗褐色土	ローム粒子多量 壁周溝埋土
8 黄褐色土	ソフトローム主体 貼り床か 黒褐色土がブロック状に混じる
カマド	
9 黒褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
10 暗褐色土	ローム粒子少量 焼土粒子（粗粒1～2mm大）多量 炭化物少量
11 暗褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
12 暗褐色土	ローム粒子少量 焼土粒子（粗粒1～2mm大）多量 炭化物少量 灰褐色粘土含む カマド構築材の一部
13 暗褐色土	ローム粒子・焼土粒子（粗粒）多量 焼土ブロック（1cm大）微量 炭化物少量
14 暗褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
15 暗褐色土	焼土粒子少量 焼土ブロック（1cm大）多量 炭化物少量 灰褐色粘土多量 天井の一部
16 灰褐色土	灰褐色ブロック主体 焼土ブロック（1cm大）多量 炭化物少量 天井崩落土部分的に底面部分が焼土ブロック化
17 暗褐色土	焼土粒子少量 炭化物微量
18 赤褐色土	焼土主体 焼土ブロック少量 炭化物微量
19 暗褐色土	焼土多量に混入
20 暗褐色土	焼土粒子少量 炭化物微量 灰褐色土少量（カマド材）
21 暗褐色土	ローム粒子多量 壁面であったと考えられ焼土化したブロック（1～2cm大）が多量に含まれる 炭化物少量
22 暗黄褐色土	ローム主体 下面は焼土化 煙道天井部の一部と考えられる
23 暗黄褐色土	ローム主体 焼土粒子・炭化物少量
24 赤褐色土	焼土層
25 暗褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量（掘り方）
26 暗褐色土	ローム粒子多量 炭化物・焼土粒子微量（掘り方）
27 暗褐色土	ローム粒子多量 灰白粘土ブロック状に少量 カマド側は被熱により赤い（袖）
28 暗褐色土	ローム粒子・灰白粘土ブロック多量（袖）
29 暗褐色土	ローム粒子・焼土粒子多量（袖）
貯藏穴	
30 暗褐色土	ローム粒子（粗粒）多量 烧土粒子微量 炭化物少量
31 暗褐色土	ローム粒子少量 炭化物微量
32 暗褐色土	ローム粒子少量 烧土粒子・炭化物微量
33 暗褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化物多量
34 暗褐色土	ローム粒子少量
焼土	
35 黒褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
36 褐色土	ローム粒子・焼土粒子多量 烧土ブロック少量
37 褐色土	ローム粒子・ソフトローム多量
38 赤褐色土	焼土層
ピット1～7	
39 黒褐色土	ローム粒子多量 ロームブロック・炭化物少量
40 褐色土	ソフトローム多量 ロームブロック少量 黑褐色土ブロック状に混入
41 褐色土	ソフトローム多量 ロームブロック微量
42 褐色土	ローム粒子・ロームブロック（1～2cm大）多量
43 暗褐色土	ローム粒子少量 炭化物微量
44 暗褐色土	ローム粒子少量 炭化物微量
45 暗褐色土	ローム粒子・炭化物少量
46 褐色土	ロームブロック（1～2cm大）多量 ソフトローム多量に混入
47 褐色土	ソフトローム主体
※40・41層	埋め戻されたと考えられる

第152図 第5号住居跡（2）



第153図 第5号住居跡出土遺物

第46表 第5号住居跡出土遺物観察表（第153図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	須恵器	蓋	(20.3)	[2.0]	—	E I J K	40	良好	灰	No. 42 南比企産 火だすき痕あり	65-8
2	須恵器	坏	(15.6)	3.6	(8.8)	C E H I J K	40	良好	灰白	No. 39 南比企産	65-5
3	須恵器	坏	(13.2)	3.9	7.6	E I J K	50	良好	黄灰	No. 6 南比企産 ヘラ記号あり	
4	須恵器	坏	(13.7)	3.7	9.1	E I J K	50	普通	灰	No. 7 南比企産	65-6
5	須恵器	坏	—	[1.8]	8.9	E I J K	50	良好	灰黄	No. 11 南比企産	
6	須恵器	坏	(14.8)	[2.6]	—	I J K	25	良好	灰	No. 48・49 南比企産	
7	須恵器	坏	(14.0)	[3.1]	—	E I J K	20	良好	灰	南比企産	
8	須恵器	坏	(14.0)	[3.2]	—	E H I J K	30	良好	灰	南比企産 外面火だすき痕あり	65-7
9	須恵器	坏	(14.0)	[2.8]	—	E I J K	20	良好	灰	南比企産 口唇部外縁の一部に 自然釉付着	
10	須恵器	高台付塊	(17.5)	6.9	(12.6)	I K	30	良好	灰白	No. 15・43・45・47 佐波理模倣塊	65-9
11	須恵器	甕	(26.0)	[10.5]	—	D J K	20	良好	灰白	No. 10	65-10
12	土師器	坏	14.2	3.2	9.3	C I K	80	普通	明赤褐	No. 3・4・19 暗文坏	66-1

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	備考	図版
13	鉄製品	刀子	[5.5]	1.5	0.3	7.3		66-4
14	鉄製品	のべ板状品	[2.7]	1.0	0.2	2.4	No. 8	66-4
15	鉄製品	のべ板状品	[2.5]	2.5	0.4	16.3		66-4
16	鉄製品	鉄鎌	[6.8]	0.5	0.5	6.9	No. 5	66-4
17	鉄製品	鉄鎌	[7.5]	0.45	0.3	5.6	No. 2	66-4
18	鉄製品	棒状品	[6.4]	0.3	0.3	5.6	No. 2	66-4
			[2.6]	0.25	0.25			
19	鉄製品	棒状品	[3.4]	0.35	0.3	1.4	No. 2	66-4
20	鉄製品	棒状品	[3.2]	0.6	0.5	2.8	No. 2	66-4
21	鉄製品	棒状品	[3.9]	0.4	0.4	3.4	No. 2	66-4
			[3.75]	0.4	0.4			
22	鉄製品	棒状品	[1.9]	0.25	0.25	1.3	No. 2	66-4

短軸 0.65m、深さ 0.15m の浅い土壙のような形状である。覆土には焼土が多く含まれ、底面は焼土層となっていた。用途は不明であるが、住居の拡張を仮定すると、拡張前のカマドの痕跡と捉えることも可能である。

遺物は床面付近から出土した。須恵器の蓋・坏・塊・甕、土師器の坏・甕、鉄製品等がある。特に鉄製品は多い（第153図）。

1～11は須恵器である。1は蓋で、復元径が大きい。2～9は坏である。底部が残るものは回転糸切り離し後周辺回転ヘラケズリが施されている。10は高台付塊である。口縁部に沈線が廻り、佐波理を模倣したものと思われる。色味が白く、胎土は砂質である。口径から、1と10が一対の蓋と塊となる可能性がある。11は須恵器甕の口縁部である。

12は土師器の暗文坏である。平底で内面に放

射状暗文が施文され、口縁端部に沈線が廻る。内面に残るヘラの当たり痕は、暗文の施文時に付いたものと思われる。

13～22は鉄製品である。17～22は住居跡の北西隅で並んだ状態で出土した。16・17は鉄鎌である。18～22も大きさや断面形状から鉄鎌の可能性が高い。

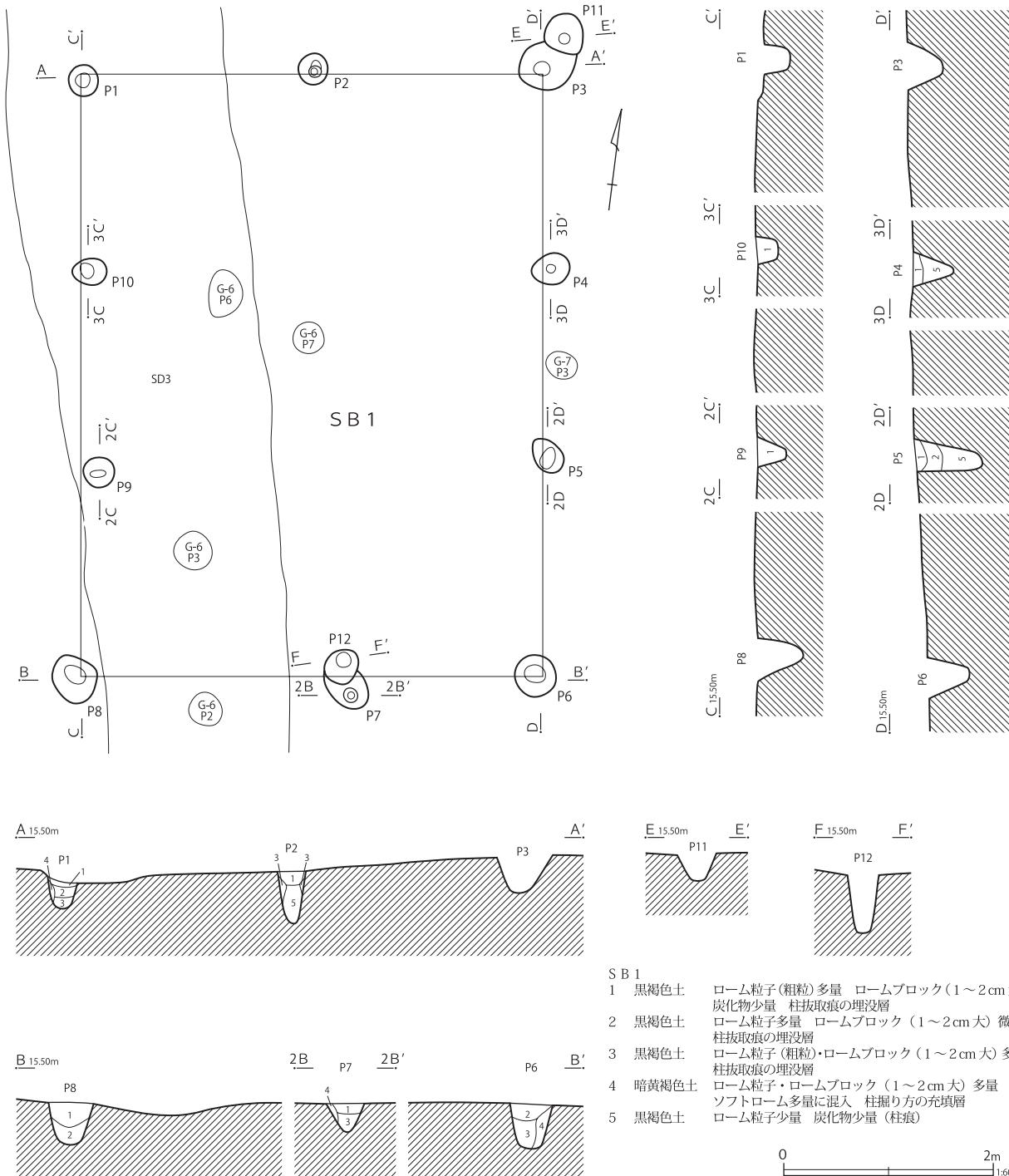
遺物の時期は須恵器坏の底部調整から8世紀中頃と考えられる。

（2）掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第154図）

G-6・7グリッドに位置する。長軸を南北に向け、桁行3間、梁行2間の側柱建物跡である。重複する第3号溝跡より古い。

規模は心々距離で桁行5.80m、梁行4.40m、柱間寸法は1.85～2.20mを測る。長軸方位はN

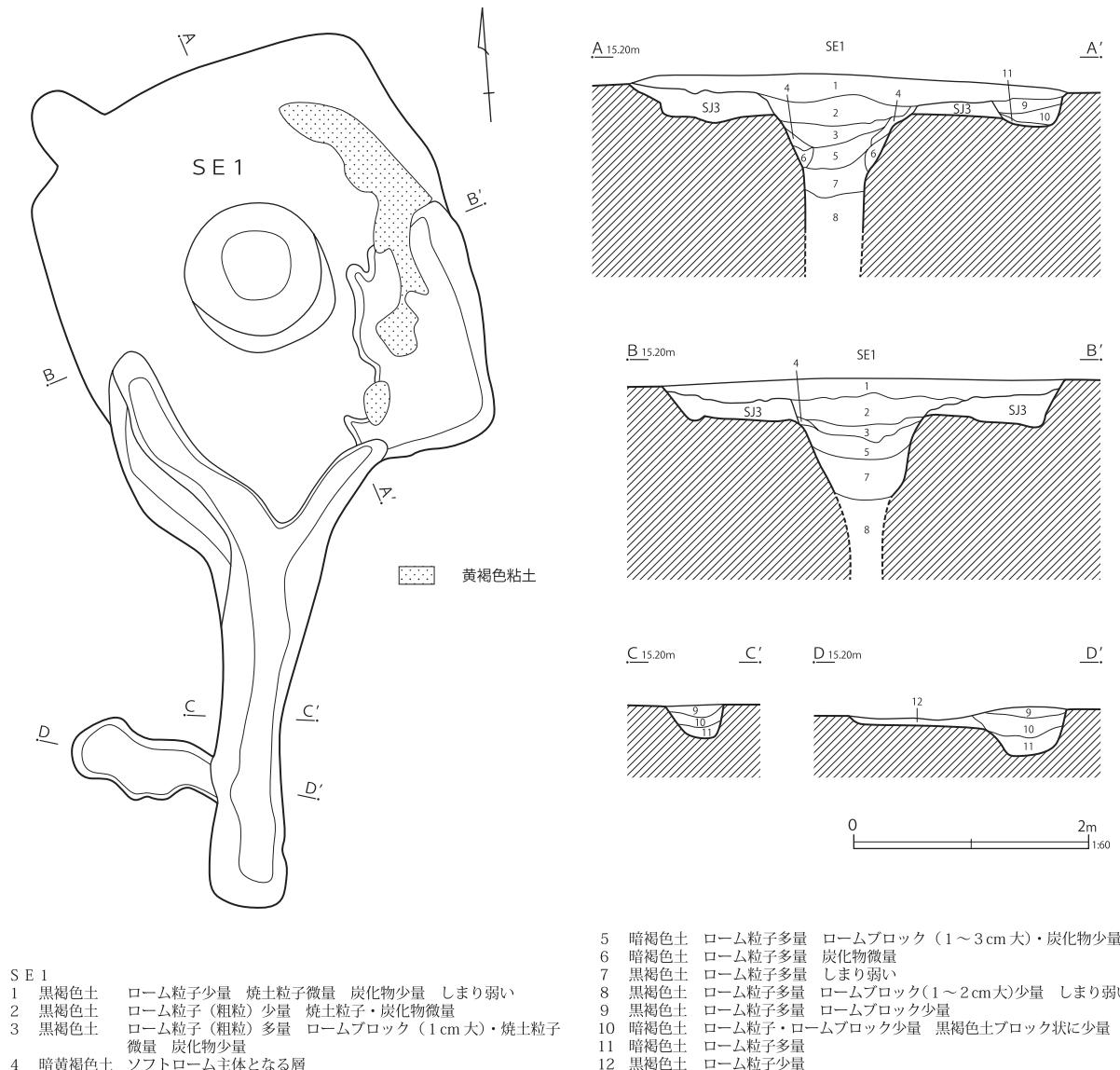


第154図 第1号掘立柱建物跡

—7°—Wを指す。柱穴は円形で、直径0.30～0.45m、深さ0.20～0.65mを測る。柱は基本的に抜き取られ、第1～4層が抜取痕の埋没層と推定される。ピット2・4・5で確認された第5層は柱痕で、柱の根が抜き取り切らずに残されたも

のであろう。

出土遺物はないが、西側に隣接する第1号住居跡と、建物の方向が揃うことから同時期の可能性が高い。柱穴の規模が小さく、掘り込みも浅いことから、簡易的な建物と思われる。



第 155 図 第 1 号井戸跡

(3) 井戸跡

第 1 号井戸跡 (第 155 図)

G・H-9 グリッドに位置する。第 3 号住居跡の埋没途中の窪みに掘り込まれている。規模は長径 1.25m、短径 1.17m を測る。

井戸跡の南側には「Y」字形に走行する溝が掘られている。溝の幅は 0.30 ~ 1.10m 程で、合流した溝は斜面の下方に向かって 3.3m 程延伸する。井戸跡に伴う排水施設が想定される。先端付近に

は別の東西方向の深い溝跡が合流する。井戸跡の東側には粘土が貼られているが、機能は明らかではない。これらの井戸跡・粘土貼付範囲・排水施設によって、水を必要とする作業空間が構成されていた可能性が高い。

出土遺物はないが、第 3 号住居跡の埋没途中に掘り込まれていることから、第 3 号住居跡より後出するが、年代差がなく、8 世紀後半頃と考えられる。

4. 中・近世の遺構と遺物

中・近世の遺構は溝跡 13 条、土壙 15 基が検出された。

(1) 溝跡

溝跡は縦横に走行し、土地を区画している。南北方向の第 3 号溝跡は浅く蛇行するが、最も幅が広く、区画の基準となっている可能性が高い。第 11 号溝跡も南北方向に走る。東西方向は薬研堀の第 4 号溝跡が最も規模が大きい。また、北側の第 10 号溝跡、南側の第 2 号溝跡と並走する第 12・13 号溝跡によって碁盤目状の区画が形成されている。

第 4 号溝跡に沿って第 5 号溝跡が走行し、南北溝の第 11 号溝跡の延長付近で、南方へ直角に屈曲する。さらに第 8・9 号溝跡、第 6・7 号溝跡、第 1 号溝跡が東西方向に走り、区画が細分されている。

各溝跡の詳細は第 47 表に示した。

第 3 号溝跡（第 156・157 図）

調査区の中央部を縦断する南北方向の溝跡である。重複する第 1・7・8・9・12 号溝跡より新しい。北側は調査区域外へと続く。他の溝と異

なり、蛇行しながら南北方向に延びる。数回掘り直されている。東西方向の溝が第 3 号溝跡基点としていることから、区画の基準となった溝跡と推定される。規模は長さ 61.20m、幅 0.40～2.60m、深さ 0.05～0.26m を測り、北側と南側では南が低く、高低差は 0.20m 程である。

遺物は 17 世紀前半頃の小皿が出土した（第 158 図 1）。図示し得ないかわらけの細片、瓦質焰烙等の 17 世紀前半に比定される遺物があり、17 世紀前半頃の溝跡と考えられる。

第 4 号溝跡（第 156・157 図）

調査区の中央部、現在の区割に沿った東西に延びる溝跡である。第 3 号溝跡を基点として直線的に延び、東側は調査区域外へと続く。また第 5 号溝跡と並走する。規模は長さ 32.4m、幅 1.80～2.30m、深さ 0.47～0.64m を測る。

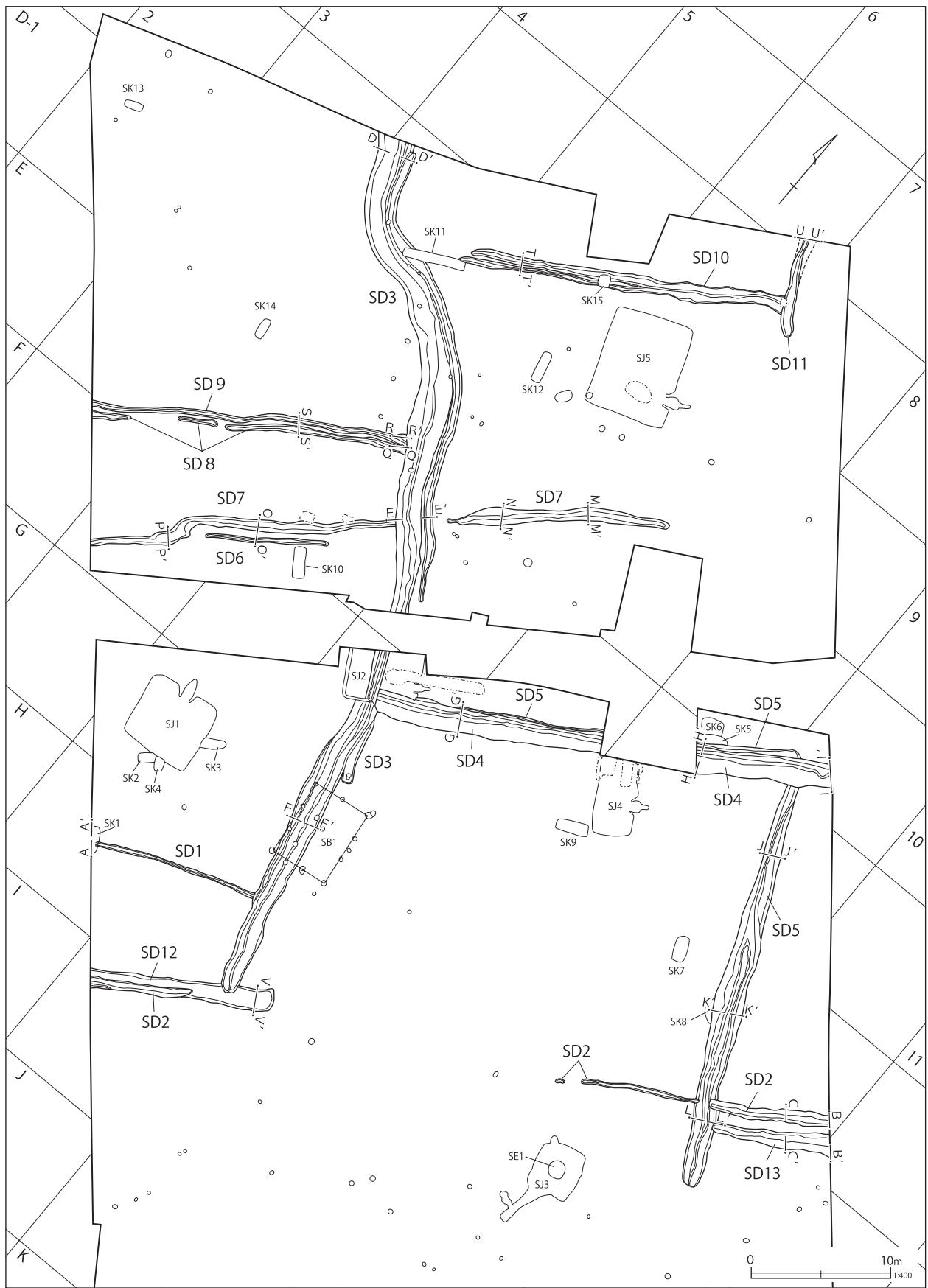
遺物は天目茶碗が出土し（第 158 図 2）、16 世紀前半頃に比定される。この他に 17 世紀前半頃の焰烙の破片がみられる。

第 5 号溝跡（第 156・157 図）

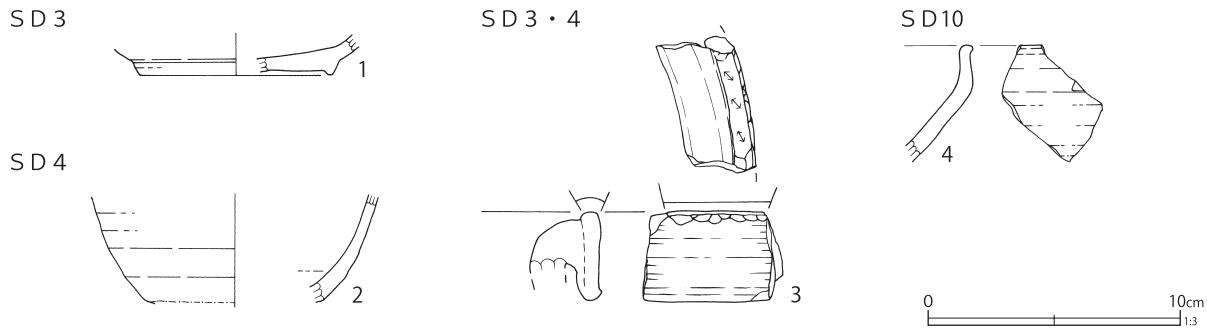
第 3 号溝跡を基点とし、調査区の中央部から東へ延び、調査区東壁の前で南へ直角に屈曲する溝

第 47 表 溝跡一覧表（第 157・158 図）

No.	グリッド	方位	方位	長さ	幅		深さ		重複遺構
					最大	最小	最大	最小	
1	H-5・6	N-71°-E		11.70	0.38	0.35	0.12	0.03	SK1・SD3 より古
2	F・G-10 H・I-6	N-60°-E		27.40	1.10	0.50	0.19	0.03	SD5 より古 SD12
3	C-3・4・5 D-4・5 E-5・6 F・G-6 H-6・7	N-13～ 78°-W		61.20	2.60	0.40	0.26	0.05	SJ2・SK11 より古 SD1・7・8・9・12 より新 SD4
4	D-8・9 E-7・8 F-6・7	N-59°-E		(2.20)	2.30	1.80	0.64	0.47	SJ2・SK5 より新 SD5 より古 SD3
5	D-8・9 E-7・8・9 F-6・7・9・10 G-10	N-23°-W	N-57°-E	54.70	2.10	1.30	0.26	0.12	SD2・4・13・SK5・8 より新
6	E-5 F-4・5	N-50°-E		9.00	0.40	0.30	0.08	0.04	
7	D-6・7 E-4・5・6 F-4・5	N-43°-E	N-50°-E	(1.80)	1.50	0.50	0.12	0.06	SD3 より古
8	D-5 E-3・4・5 F-3	N-58°-E		(22.70)	0.60	0.40	0.05	0.04	SD3 より古
9	D-5 E-3・4・5 F-3	N-58°-E		22.70	0.50	0.30	0.09	0.06	SD3 より古
10	B-5・6 C-4・5	N-58°-E		23.50	1.30	0.90	0.08	0.03	SK11・15・SD11 より古
11	A-6 B-6・7	N-31°-W		7.20	0.90	0.40	0.13	0.04	SD10 より新
12	H-6・7 I-6	N-51°-E		13.10	1.60	0.50	0.13	0.07	SD3 より古 SD2
13	F-10・11 G-10	N-56°-E		8.40	1.60	0.70	0.18	0.06	SD5 より古



第156図 溝跡（1）



第158図 溝跡出土遺物

第48表 溝跡出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	陶器	小皿	—	[1.6]	(3.8)	G	15	普通	にぶい黄褐	SD3 濑戸美濃系 内外面灰釉（黄瀬戸釉） 17C前	66-2
2	陶器	天目茶碗	—	[4.4]	—	K	5	良好	灰白	SD4 濑戸美濃系 内外面鉄釉 大窯1段階	66-2
3	陶器	甕	—	[3.5]	—	D E	5	良好	褐灰	SD3・4 7型式 14C前 転用砥具	66-3
4	陶器	天目茶碗	—	[4.5]	—	K	5	良好	灰白	SD10 濑戸美濃系 内外面鉄釉 大窯4段階	66-3

跡である。重複する第4号溝跡より新しい。規模は東西方向長さ25.0m、南北方向長さ29.7m、幅1.30～2.10m、深さ0.12～0.26mを測る。幅は方向によって異なり、東西方向は狭く、南北方向は広い。南北方向は数度に亘って掘り直されている。

出土遺物はないが、重複する第4号溝跡よりも新しい。17世紀以降と推定される。

第10号溝跡（第156・157図）

調査区の北端部に位置する東西方向の溝跡である。重複する第11号溝跡、第11・15号土壙より古い。規模は長さ23.5m、幅0.90～1.30m、深さ0.03～0.08mを測る。非常に浅い溝跡であるが、第4号溝跡と並走する。第3・4号溝跡とも区画を形成する溝跡と考えられる。

遺物は天目茶碗が出土した（第158図4）。この他に、細片であるが銅縁釉碗・菊皿があり、これらの遺物から18世紀前半頃と考えられる。

（2）土壙

土壙は15基検出された。分布状況は第1号住居跡の周囲に3基が集中するが、他は調査区全域に点在する。平面形態は長方形のものが多いが、

規模や方位に規則性は認められない。詳細は第49表にまとめた。

第1号土壙（第159図）

H-5グリッドに位置する。重複する第1号溝跡より古い。平面形態は長方形と推察され、規模は長軸1.38m、短軸は調査区域内で0.53m、深さ0.17mを測る。

遺物は出土しなかった。

第2号土壙（第159図）

G-5グリッドに位置する。重複する第4号土壙より古い。平面形態は長方形で、残存長は長軸1.33m、短軸0.61m、深さ0.24mを測る。

遺物は出土しなかった。

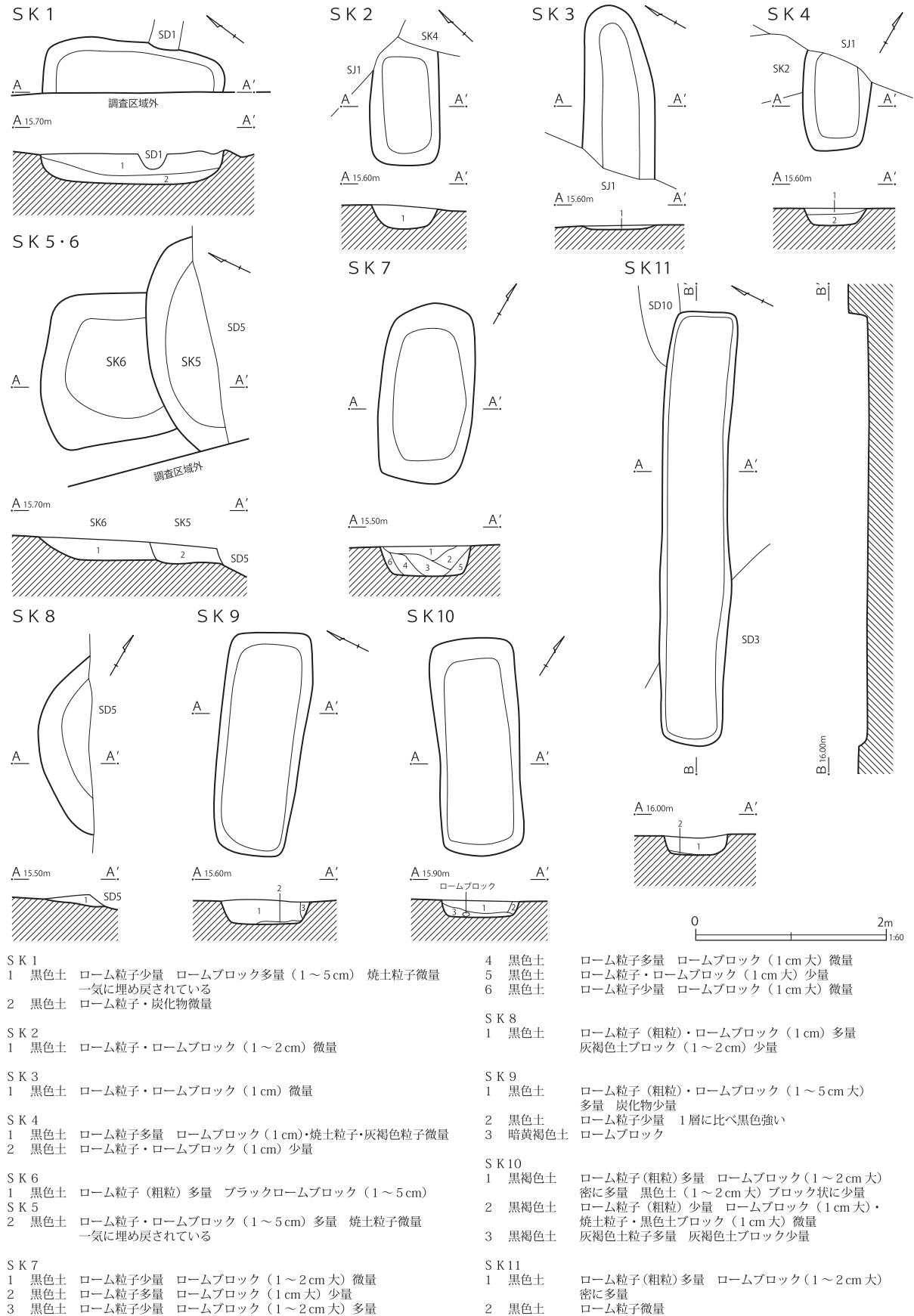
第3号土壙（第159図）

G-5グリッドに位置する。平面形態は橢円形を呈し、残存径は長軸1.68m、短軸0.74m、深さ0.04mを測る。

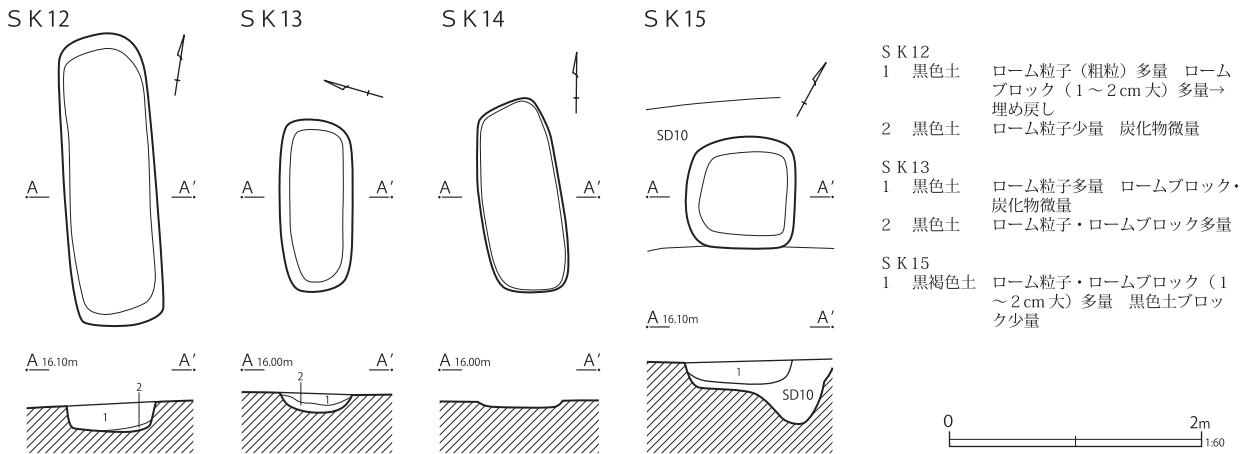
遺物は出土しなかった。

第4号土壙（第159図）

G-5グリッドに位置する。重複する第1号住居跡、第2号土壙より新しい。平面形態は長方形を呈し、残存長は長軸0.98m、短軸0.68m、深さ0.15mを測る。



第159図 土壌 (1)



第160図 土壌(2)

第49表 土壌一覧表(第159・160図)

No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構	No.	グリッド	平面形	長軸方向	長径	短径	深さ	重複遺構
1	H-5	隅丸長方形	N-35°-W	1.38	(0.53)	0.17	SD1より新	9	F-8	隅丸長方形	N-63°-E	2.32	0.90	0.25	
2	G-5	隅丸長方形	N-44°-E	(1.33)	0.61	0.24	SJ1より新	10	E・F-5	隅丸長方形	N-33°-W	2.27	0.83	0.17	
3	G-5	楕円形	N-53°-E	(1.68)	0.74	0.04	SJ1より新	11	C-4	隅丸長方形	N-64°-E	4.50	0.67	0.20	SD3・10より新
4	G-5	隅丸長方形	N-31°-W	(0.98)	0.68	0.15	SJ1より新	12	C-5	隅丸長方形	N-10°-W	2.30	0.70	0.22	
5	E-8	円形	—	(2.20)	(0.67)	0.20	SD4より古 SK6より新	13	D-2	隅丸長方形	N-71°-E	1.35	0.58	0.14	
6	D・E-8	隅丸長方形	N-58°-E	1.55	(1.15)	0.23	SK5より古	14	D-4	隅丸長方形	N-5°-W	1.51	0.65	0.05	
7	F-9	隅丸長方形	N-26°-W	1.38	0.98	0.34		15	B・C-5	隅丸正方形	N-28°-W	0.86	0.85	0.17	SD10より新
8	F-9	円形	—	(1.80)	(0.50)	0.12	SD5より古								

遺物はかわらけの細片が出土した。近世と考えられる。

第9号土壌(第159図)

F-8グリッドに位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸2.32m、短軸0.90m、深さ0.25mを測る。

遺物はかわらけの破片が出土し、煤の付着が認められる。15世紀頃に比定される。

第10号土壌(第159図)

E・F-4・5グリッドに位置する。平面形態は長方形で、長軸2.27m、短軸0.83m、深さ0.17mを測る。

遺物は出土しなかった。覆土にヤドロが含まれるため、近世以降と考えられる。

第11号土壌(第159図)

C-4グリッドに位置する。平面形態は東西に長い長方形を呈し、規模は長軸4.50m、短軸0.67m、深さ0.20mを測る。

遺物は焙烙の細片が出土した。

第12号土壌(第160図)

C-5グリッドに位置する。平面形態は南北に長い方形を呈し、規模は長軸2.30m、短軸0.70m、深さ0.22mを測る。

遺物は出土しなかった。

第13号土壌(第160図)

D-2グリッドに位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸1.35m、短軸0.58m、深さ0.14mを測る。覆土は壁際から徐々に堆積する状況が観察できる。

遺物は出土しなかった。

第15号土壌(第160図)

B・C-5グリッドに位置する。重複する第10号溝跡よりも新しい。平面形態は方形を呈し、長軸0.86m、短軸0.85m、深さ0.17mを測る。

遺物は出土しなかった。

IX 調査のまとめ

今回の調査では、楽上遺跡と楽上II遺跡から古墳時代前期の集落跡、薬師堂遺跡では中・近世の溝跡によって区画された区画地、石神遺跡と石神III遺跡からは奈良・平安時代の集落跡が検出された。

楽上遺跡

縄文時代の遺構は、調査区中央部から早期の炉穴が検出された。方形の掘り込みに、5基の炉床が設けられている。他に同時期の遺構は見つかっていない。しかし、近接する楽中遺跡などでも炉穴が検出されていることから、周辺に同時期の遺跡の存在が予想される。

古墳時代前期の遺構は、住居跡が5軒検出された。調査区の東約100mの地点は桶川市教育委員会によって昭和50・58年に古墳時代前期の集落跡が発掘されている。市教委の調査では、集落跡は西側の溝跡によって区画されていると考えられていた。しかし、今回調査された住居跡は同一集落に含まれ、集落跡が100m程西まで範囲が広がることが明らかになった。また調査区域内で集落跡の西端が確認された。遺物には頸部の括れが弱く口縁部に刻みが入る台付甕(第18図1)のように、弥生時代的な要素を残すものが含まれる。

楽上II遺跡

楽上II遺跡は楽上遺跡の北側に隣接する。古墳時代前期の住居跡が2軒検出され、楽上遺跡と同一集落の北西端部が確認された。第1号住居跡から甕の破片が埋設された炉が見つかった。近隣の楽上遺跡第2号住居跡でも同様の炉が検出されているが、桶川市周辺では他に例が無い。

調査区中央部から中・近世の火葬遺構が4基まとまって検出された。いずれも、張り出し部が西側に設けられている。出土遺物が無いため年代は特定できないが、中・近世には葬送の場として利用されていたと考えられる。

薬師堂遺跡

1軒検出された住居跡は遺物が無く詳細は不明だが、集落のあり方やカマドの構造から平安時代と思われる。

中・近世の遺構は、調査区全域で検出された。調査区の中央部には直角に屈曲する第1・22号溝跡が走行し、大きな区画が形成されている。第1号溝跡は15世紀代後半に掘削され、第22号溝跡は埋没途中の第1号溝跡の窪みを利用して17世紀前葉に改削されている。第1・22号溝跡の内側には第13号溝跡が並走する。両溝跡に挟まれた範囲には遺構がほとんど存在しないため、並走する2条が一組になって機能していたと考えられる。

区画の内側では、方向に統一性が見られない地下式坑や井戸跡・土壙・ピットなどが集中する。15世紀段階には、第1号溝跡に区画された井戸跡・地下式坑などが造られる。区画の内側は、井戸跡を伴う生活空間を備えた施設の可能性が高い。その後、地下式坑は16世紀頃まで、井戸跡は17世紀以降まで造られている。

地下式坑のうち、第1・2・4・5・6号地下式坑は、築瀬分類のB類無段(築瀬2006)に相当する。しかし、第3・7号地下式坑は該当するものがない。この地下式坑は出土遺物や重複関係から16世紀頃と推定され、他の地下式坑よりも新しい。第3号地下式坑は一度主室部が埋没した後に、堅坑部を再利用して別の主室部を造ったと考えられるが、このような例も他には認められない。複数の主室部がある地下式坑の例は、鴻巣市新屋敷遺跡で発見されている。地下式坑の用途は地下貯蔵庫と推定されるが、使用状況を示唆する遺物の出土が無く、明確ではない。

17世紀以降には、第22号溝跡に区画された区画内的一部分が座棺を埋葬した墓地として利用された。井戸跡の付近に墓地が位置することになるが、

円形土壙は覆土にヤドロを含むため新しい時期の遺構と考えられる。井戸跡が廃絶された後に、墓地として利用されたと考えられる。

区画の外側には、長方形の土壙が、第1・22号溝跡に沿って南北方向に並んでいる。溝跡から離れた土壙も近似した方向を指す。区画の外側には、土壙の他に若干の溝跡が存在するのみで、ピットも少ない。土壙からは15世紀と17世紀の遺物が出土し、土壙群は15世紀段階から存在していたと考えられる。形状や大きさから土壙墓の可能性があるが、埋葬された人骨や錢貨・かわらけなどの副葬品は見つかっていない。

このように、第1・22号溝跡によって15世紀代から17世紀代の長期間にわたって区画が存在していた。区画の内側と外側では遺構の種類や方向性が異なることから、別々の用途で利用された空間と捉えられる。

『新編武蔵風土記稿』によると、薬師堂遺跡の周辺には「東光寺」と「薬師堂」、「西光寺」の3つの寺が存在したと記されている。薬師堂と東光寺は遺跡の北東側に現存し、西光寺のみ廃寺となっている。西光寺は東光寺や薬師堂の西側にあつたとされ、調査区が両寺の西側に位置することから、薬師堂遺跡から検出された区画は、廃寺となつた西光寺と関連する遺構の可能性がある。しかし、今回の調査では建物跡は検出されなかつた。方形区画から、寺院跡や館跡等の存在が想定されるが、瓦の出土がなく、瓦葺の建物は推定できない。そのため区画の性格は明らかではないが、井戸跡や地下式坑の存在から、生活空間を備えた場と推測される。

石神遺跡

縄文時代の遺構は土壙が3基点在する。第1・109号土壙の時期は前期と考えられる。またグリッドからも纖維を含む黒浜式土器が検出され、周囲に同時期の遺跡の存在が予想される。

奈良・平安時代の遺構は、住居跡が6軒検出さ

れた。出土した須恵器坏を鳩山編年（渡辺1990）と対比すると、第3・6号住居跡は口径13cm前後の鳩山Ⅲ期の後半に相当し、8世紀後半の古い段階に位置付けられる。また、第1号住居跡は口径12cm台に収まり、底部が周辺部回転ヘラケズリ調整と、回転糸切り離し無調整のものが混在する鳩山Ⅳ期に相当し、8世紀後半から末頃のものと考えられる。第2号住居跡は口径11～12cmで底部回転糸切り無調整の鳩山Ⅴ期の古段階に相当し、甕頸部の形態も「コ」の字への過渡的な要素を持つものがあることから、8世紀末頃のものと考えられる。石神遺跡から検出された住居跡は、鳩山編年のⅢ期からⅤ期に相当し、概ね8世紀後半から末頃に営まれた集落と考えられる。

第1号住居跡からは、「物」や「(物)部坏」と判読できる墨書き土器が出土した。「物部坏」の墨書きは他に例がない。また「部」の文字が、部首の「丶」や「マ」の字のようにくずされていない点も通常の墨書き土器とは異なる。

「物部」の文字は古代氏族である「物部氏」を想起させる。氏族名が記された墨書き土器の類例として、兵庫県氷上郡春日町に所在する山垣遺跡から「春部」と書かれた土器が出土している。「春部」は「春日部」を略したものと考えられている。また、「坏」と書かれた墨書き土器も出土している。山垣遺跡は大型の掘立柱建物跡が発見され、区画施設と思われる濠からは多量の墨書き土器が出土し、官衙関係の遺構と考えられている。遺跡の性格は異なるが、石神遺跡の墨書き土器との共通点は多い。

石神遺跡が所在する上尾市は、古代において足立郡に属していた。8世紀後半は恵美押勝の征討で活躍した「丈部直不破麻呂」が、その功績を評価されて武蔵国造に就任した時期である。そのため丈部氏が足立郡の有力氏族であり、足立郡に物部氏の存在を伝える史料は存在しない。『続日本紀』神護景雲二年（768）七月条には、隣接する入間郡出身の「物部直広成」という人名が確認で

きる。不破麻呂と同じく恵美押勝の征討で活躍し、正六位上に叙されたと記され、8世紀後半頃の武藏国内に物部氏が存在していたことを示している。今回発見された墨書き器は、武藏国内の物部氏の動向を示す資料の可能性がある。

石神Ⅲ遺跡

石神Ⅲ遺跡は、石神遺跡より約300m大宮台地の内陸に位置する。奈良時代の住居跡が5軒検出され、カマドは北壁と東壁に設けられるものがあった。長辺7.5mの住居跡は、周辺の遺跡も含めて最大規模である。出土した金属器の佐波理を模倣した塊や多数の鉄製品は特筆される。

また周囲に溝が廻る特殊な井戸跡があり、岡部町（現：深谷市）に所在する熊野遺跡第7次調査で類似した井戸跡が検出されている（鳥羽1997）。時期や形状が大きく異なり、用途の相違も考えられるが、周囲に溝を持ち、溝の一部が外側に張り出す点は共通する。

住居跡の時期は、第4号住居跡が土師器皿の形状と須恵器が出土していないことなどから、8世紀前半のものと思われる。他の住居跡は出土した須恵器壺と、鳩山編年を対比すると、口径

が14cm前後で、底径が大きく底部に幅の広い周辺部回転ヘラケズリ調整が施されることから、鳩山編年Ⅲ期に相当すると考えられる。第4号住居跡は8世紀前半に遡るが、概ね8世紀中頃に営まれた集落と推測される。8世紀前半から中頃に位置付けられる領家・宮下遺跡の第Ⅳ期（小宮山2011）にあたる集落跡と考えられる。

石神Ⅲ遺跡では、長方形の住居跡や大規模な住居跡が存在するのに対し、石神遺跡や同時期の遺構が検出された北側の中井遺跡では小型で方形の住居跡が主体を占める。また石神Ⅲ遺跡は東壁にカマドを持つ住居跡が多いのに対し、石神遺跡や中井遺跡では基本的に北壁にカマドが設けられる。時期は石神Ⅲ遺跡が最も古く、中井遺跡、石神遺跡の順に営まれている。石神Ⅲ遺跡は台地内陸に形成された早い段階の集落である可能性があり、そのため特殊な形状の住居跡が多いと推測される。

三遺跡は少しづつ時期を変えて短期間で成立・廃絶する。この地域では長期間存続した領家・宮下遺跡が中心的な集落となり、周辺の台地内陸に小規模な集落が点々と営まれていた状況を捉えることができた。

引用・参考文献

赤熊浩一・福田聖 2011 『反町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第380集

加古千恵子他 1990 『山垣遺跡—「里長」関連遺構の調査—発掘調査報告書』兵庫県教育委員会

小宮山克己 2011 「Vまとめ」『領家・宮下遺跡—第1～3次調査—』上尾市教育委員会・上尾市遺跡調査会
<第3分冊>159-179頁

田中正夫他 1994 『新屋敷遺跡A区』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第140集

鳥羽政之 1997 『熊野遺跡発掘調査概要報告書』岡部町遺跡調査会

土田直鎮 1994 『古代の武藏を読む』吉川弘文館

橋本富夫他 1983 『昭和58年度 桶川市遺跡群発掘調査報告書』桶川市教育委員会

房総中近世考古学研究会・東国中世考古学研究会 2007 『全国地下式坑集成資料集』房総中世考古学研究会事務局

森田悌 2013 『武藏の古代史 国造・郡司と渡来人・祭祀と宗教』さいたま出版会

築瀬裕一 2006 「地下式坑の分類と編年試論—中馬場遺跡他の千葉県の事例をもとに—」『房総中近世考古』第2号 房総中近世考古学研究会 1-40頁

吉川國男他 1977 『砂ヶ谷戸I・II遺跡 楽上遺跡』桶川市教育委員会

渡辺一 1990 「第4章 成果と問題点」『鳩山窯跡群発掘調査報告書第2冊』鳩山町教育委員会・鳩山窯跡群遺跡調査会 395-445頁